令和4年度

仙台市
市民センター
事業概要

令和５年９月

仙台市教育委員会

目　次

Ⅰ　市民センターの概要

1　仙台市市民センター（公民館）の歴史 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
2　市民センター概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
3　令和５年度　市民センターの体制 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０
4　仙台市市民センターの施設理念と運営方針 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１
5　市民センター事業体系 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１９
6　新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１

Ⅱ　拠点館事業　令和４年度 市直営事業実績

1　地域づくり支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２２
2　広域規模の学習支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３６
3　人材育成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３８
4　ジュニアリーダー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４７
5　地域社会教育推進 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５０
6　学習情報提供 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５４
7　各区中央市民センター事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５５
8　仙台市公民館運営審議会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５８

Ⅲ　地区館事業　令和４年度 指定管理事業実績

青葉区

青葉区中央市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６３
柏木市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６５
北山市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６７
福沢市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６９
旭ケ丘市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７１
三本松市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７３
片平市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７５
水の森市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７７
貝ケ森市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７９
中山市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８１
折立市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８３
木町通市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８５
広瀬市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８７
宮城西市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８９
大沢市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９１
落合市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９３
吉成市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９５

宮城野区

宮城野区中央市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９７
生涯学習支援センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９９
高砂市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１００
岩切市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０２
鶴ケ谷市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０４
榴ケ岡市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０６
東部市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０８
幸町市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１０
田子市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１２
福室市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１４

若林区
若林区中央市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １１６
七郷市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １１８
荒町市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２０
六郷市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２２
若林市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２４
沖野市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２６
太白区
太白区中央市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２８
生出市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １３０
中田市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １３２
西多賀市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １３４
八本松市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １３６
八木山市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １３８
山田市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １４０
茂庭台市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １４２
東中田市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １４４
柳生市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １４６
富沢市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １４８
秋保市民センター・馬場市民センター・湯元市民センター・・・・・・・・・ １５０
泉区
泉区中央市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １５２
根白石市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １５４
南光台市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １５６
黒松市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １５８
将監市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １６０
加茂市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １６２
高森市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １６４
松陵市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １６６
寺岡市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １６８
長命ケ丘市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７０
松森市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７２
桂市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７４
南中山市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７６

Ⅳ　資料
１　市民センターの予算 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７８
２　令和４年度　市民センター職員数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７９
３　令和４年度　主催講座の事業別実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・ １８１
４　主催事業参加者数推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １８５
５　市民センター利用者数推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １８７
６　仙台市市民センター条例・施行規則 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １８９

令和４年度仙台市市民センター事業概要は
市民センターのホームページでもご覧いただけます

Ⅰ 市民センターの概要

１　仙台市市民センター（公民館）の歴史

昭和 21 年、在仙文化人有志により、宮城県医師会館内に「仙台公民館」が設立された後、昭和 24 年の社会教育法施行に合わせた「仙台市公民館条例」の制定により、仙台市公会堂(現市民会館)内に仙台市公民館が誕生した。

以後、館数を増やしながら、社会教育施設として、市民の学習意欲に応える種々の事業を実施するとともに、市民が自主的に学習活動を行う場の提供を行っている。

平成元年には、教育委員会所管の公民館と市民局所管の地区市民センターを相互に併設して名称を「市民センター・公民館」とし、政令指定都市移行に伴って各区に拠点館を置いた。さらに、翌平成 2 年度に、「仙台市市民センター条例」を新たに制定し、施設名称を「市民センター」に統一した。

平成 3 年度、財団法人仙台市地域振興公社に施設管理を委託し、平成 13 年度には、市民センターの業務再編により市職員を各区拠点館に集中配置して、地区館の生涯学習事業を財団法人仙台ひと・まち交流財団（平成 13 年度に地域振興公社から名称変更）に委託した。平成 16 年度からは、指定管理者制度導入に伴い、同財団（平成 23 年 4 月に公益財団法人化）を指定管理者とし、以降、指定を更新・継続して現在に至っている。

平成 23 年 5 月 1 日には、地域政策と教育行政の円滑な推進を図るため、教育局の第二種公所であった各区拠点館を区役所組織に移管し、各区の第二種公所として位置付けた。

平成 24 年 8 月 28 日に宮城野区中央市民センターが新設され、市民センターは、概ね中学校区毎に 60 館設置されている。

平成 26 年度から、中央市民センターの人材育成機能等を強化し、本市の生涯学習支援体制を充実するとともに、名称を生涯学習支援センターに変更した。

年　月	摘　　要	館数
昭和 21 年 10 月	在仙文化人有志により、宮城県医師会館内に「仙台公民館」設立	
昭和 24 年 6 月	「社会教育法」制定	
昭和 24 年 8 月	「仙台市公民館条例」の制定により、仙台市公会堂（現市民会館）内に「仙台市公民館」誕生	1 館
昭和 25 年 12 月	仙台市教育委員会発足 仙台市公民館運営審議会設置	
昭和 27 年 6 月	「仙台市社会教育委員の設置に関する条例」制定	
昭和 31 年 4 月	生出村が仙台市に合併したことに伴い、「生出村公民館」を「生出分館」に改称	1 館 1 分館
昭和 42 年 4 月	「生出分館」が移転し、「生出公民館」に名称を変更	2 館
昭和 42 年 10 月	「仙台市公民館条例」を新たに制定（旧条例は廃止）、貸室の有料化 「長町公民館」開館	3 館
昭和 43 年 11 月	「高砂公民館」開館	4 館
昭和 44 年 10 月	「中田公民館」開館	5 館

年 月	摘　　要	館数
昭和 46 年 8 月	公会堂解体・市民会館建設に伴い、「仙台市公民館」が東二番丁の「市民教養センター」に移転	
昭和 48 年 3 月	「仙台市公民館」を「中央公民館」に改称	
昭和 56 年 12 月	「岩切公民館」開館	6 館
昭和 58 年 3 月	「中央公民館」を現在地（仙台駅東口「パルシティ仙台」内）に新築移転し、宮城野通図書館（現・榴岡図書館）と共に開館	
昭和 58 年 4 月	「七郷公民館」開館	7 館
昭和 61 年 3 月	東二番丁小学校改築に伴う「市民教養センター」の廃止	
昭和 61 年 7 月	「中央公民館柏木分館」開館	7 館 1 分館
昭和 62 年 11 月	宮城町合併に伴い、公民館 9 館、分館 1 館となる （※）宮城・宮城西	9 館 1 分館
昭和 63 年 1 月	「中央公民館一番町分館」開館	9 館 2 分館
昭和 63 年 3 月	秋保町、泉市の合併に伴い、公民館 18 館、分館 2 館となる (※)泉・南光台・加茂・将監・根白石・秋保・馬場・湯元・八乙女	18 館 2 分館
平成元年 4 月	教育委員会所管の「公民館（18 館 2 分館)」と市民局所管の「地区市民センター（15 館)」が相互に併設され、新たに開館した 3 館を含めて施設の名称を「○○市民センター・公民館」の二枚看板とする 政令指定都市移行に伴い 5 区 38 館制をとり、各区に拠点館を設置 青 葉 区：「一番町公民館」 宮城野区：「中央公民館」 若 林 区：「七郷公民館」 太 白 区：「中田公民館」 泉　　区：「泉公民館」 ・名称変更：柏木・一番町（分館から公民館へ名称変更） ・新　　設：片平・東中田・高森 ・市民会館の一部として開館していたものに併設：榴ヶ岡 ・市民センターに併設 鶴ヶ谷・東部・北山・福沢・旭ヶ丘・三本松・荒町・ 南小泉・六郷・西多賀・八本松・八木山・山田・茂庭台	38 館
平成 2 年 3 月	「仙台市市民センター条例」を新たに制定。	
平成 2 年 4 月	名称を「市民センター」に統一し、施設を教育委員会が所管する公民館として位置づけ、施設の使用許可を区長に委任、施設管理の総括を市民局、維持管理を区長に補助執行させる 「松陵市民センター」開館	39 館
平成 2 年 5 月	「大沢市民センター」開館	40 館
平成 2 年 9 月	「水の森市民センター」開館	41 館

年 月	摘　　要	館数
平成 3 年 4 月	財団法人仙台市地域振興公社に施設管理を委託、「若林市民センター」「沖野市民センター」「寺岡市民センター」開館	44 館
平成 3 年 6 月	「宮城市民センター」の名称を変更し、広瀬文化センター内に「広瀬市民センター」が開館	
平成 5 年 4 月	「幸町市民センター」「貝ヶ森市民センター」「長命ヶ丘市民センター」開館	47 館
平成 5 年 9 月	「南小泉市民センター」の名称を変更し、若林区文化センター内に若林区の拠点館「若林区中央市民センター」として開館	
平成 6 年 4 月	「落合市民センター」開館	48 館
平成 6 年 11 月	「せんだいＬＬプラン 21　仙台市生涯学習基本構想」策定	
平成 7 年 4 月	「中山市民センター」開館	49 館
平成 7 年 5 月	「折立市民センター」開館	50 館
平成 8 年 4 月	「吉成市民センター」開館	51 館
平成 9 年 4 月	「柳生市民センター」開館	52 館
平成 11 年 6 月	「長町市民センター」の名称を変更し、太白区文化センター内に太白区の拠点館「太白区中央市民センター」として開館	52 館
平成 11 年 8 月	「田子市民センター」開館	53 館
平成 12 年 1 月	「松森市民センター」開館	54 館
平成 13 年 1 月	「仙台まなびの杜（仙台市教育ビジョン)」策定（平成 13 年～22 年）	
平成 13 年 4 月	市民センターの業務再編により、市職員を各区拠点館に集中配置、地区館の生涯学習事業を「仙台ひと・まち交流財団」に委託	
平成 13 年 9 月	「市民センター運営方針」を定める	
平成 13 年 11 月	「富沢市民センター」開館	55 館
平成 13 年 12 月	「桂市民センター」開館	56 館
平成 15 年 3 月	「福室市民センター」開館	57 館
平成 15 年 11 月	仙台市市民利用施設予約システムの導入 「南中山市民センター」開館	58 館
平成 16 年 4 月	指定管理者制度導入に伴い、財団法人仙台ひと・まち交流財団を指定管理者に指定（3 年間） 「木町通市民センター」開館	59 館
平成 19 年 4 月	非公募により引き続き、財団法人仙台ひと・まち交流財団を指定管理者に指定（2 年間）	
平成 19 年 10 月	仙台市公民館運営審議会より「市民センターの施設理念と運営方針の見直しについて」（答申）を受ける。	

年 月	摘　　要	館数
平成 20 年 12 月	「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」策定	
平成 21 年 4 月	非公募により引き続き、財団法人仙台ひと・まち交流財団を指定管理者に指定（2 年間）	
平成 23 年 4 月	非公募により引き続き、公益財団法人仙台ひと・まち交流財団を指定管理者に指定（2 年間） ※平成 23 年 4 月 1 日より「財団法人仙台ひと・まち交流財団」から「公益財団法人仙台ひと・まち交流財団」に変更	
平成 23 年 5 月	各区中央市民センターを教育局から各区役所区民部の公所として組織変更し、業務を各区長の補助執行とする。 宮城野区の拠点館機能を教育局中央市民センターから分離し、宮城野区中央市民センターが新設されるまでの間、宮城野区区民部に「市民センター事業推進室」を設置	
平成 24 年 8 月	「宮城野区中央市民センター」開館 宮城野区拠点館である「宮城野区市民センター事業推進室」の名称を「宮城野区中央市民センター」に変更 「榴ケ岡市民センター」を廃止 「榴ケ岡市民センター榴岡公園軽体育館」の名称を「榴ケ岡市民センター」に変更	60 館
平成 25 年 4 月	非公募により引き続き、公益財団法人仙台ひと・まち交流財団を指定管理者に指定（5 年間）	
平成 26 年 4 月	中央市民センターの人材育成機能等を強化し、生涯学習支援体制の充実を図るとともに、名称を生涯学習支援センターに変更 「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」を改定	
平成 30 年 4 月	非公募により引き続き、公益財団法人仙台ひと・まち交流財団を指定管理者に指定（5 年間）	
令和元年 10 月	「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」を改定	
令和 5 年 4 月	非公募により引き続き、公益財団法人仙台ひと・まち交流財団を指定管理者に指定（5 年間）	

２　市民センター概要

（令和５年８月１日現在）

（１）市民センターの概要

市民センターは概ね中学校区毎に設置されており、その総数は現在 60 館となっている。

市民センターの種類は次のとおりである。

①　生涯学習支援センター

本市の全域を主たる対象区域としてその事業を行うとともに、他の全ての市民センターを統括する市民センターで、1 館設置されている。なお、地区市民センター機能も併設されている。

②　区中央市民センター

その所在する区の区域内を主たる対象区域として事業を行うとともに、当該区域内に所在する地区市民センターを支援する市民センターで、各区に 1 館ずつ、計 5 館設置されている。なお、各区とも地区市民センター機能が併設されている。

③　地区市民センター

生涯学習支援センター及び区中央市民センター以外の市民センターで、54 館設置されている。

（２）市民センターの施設概要

①　生涯学習支援センター

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(㎡)	主要施設	併設施設
生涯学習支援	宮城野区榴岡四丁目 1 番 8 号	295-0403 295-0810	昭和 58 年 2 月 28 日	3,367.52 4,064.32	会議室、セミナー室(4)、和室、音楽室(2)、創作室(2)、体育館、トレーニング室、ミーティング室	図書館

②　区中央市民センター

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(㎡)	主要施設	併設施設
青葉区中央	青葉区一番町二丁目 1 番 4 号	223-2516 261-3251	昭和 62 年 12 月 15 日	7,148.85 2,311.55	ホール、小ホール(2)、会議室(5)、和室、調理実習室、音楽室、市民活動室	小学校
宮城野区中央	宮城野区五輪二丁目 12 番 70 号	791-7015 295-2337	平成 24 年 7 月 13 日	12,626.18 3,075.46	会議室(4)、和室(2)、調理実習室、音楽室、創作室、体育館、市民活動室、親子室、娯楽室、資料室	文化センター・児童館・図書館・情報センター
若林区中央	若林区南小泉一丁目 1 番 1 号	282-1173 282-1180	平成 5 年 3 月	11,842.43 515.21	会議室(2)、和室(3)、セミナー室(2)、市民活動室、サークル連絡室、プレイルーム	文化センター・図書館・情報センター
（若林区中央別棟）	若林区保春院前丁 3 番地の1		平成 29 年 6 月 30 日	3,291,14 1,507.98	会議室(2)、和室、調理実習室、創作室、ホール	児童館・子育てふれあいプラザ・社会福祉協議会若林事務所

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(㎡)	主要施設	併設施設
太白区 中央	太白区長町 五丁目 3 番 2 号	304-2741 304-2526	平成 11 年 3 月 31 日	9,684.57 2,311.68	会議室(5)、和室(2)、調理実習室、音楽室、創作室、体育館	文化センター・図書館・児童館・情報センター
泉区 中央	泉区市名坂 字東裏 53 番 地の 1	372-8101 372-2447	平成 15 年 11 月 14 日	3,035.78 2,138.54	会議室(3)、和室(2)、調理実習室、研修室、音楽室、創作室、親子室、娯楽室、市民活動室、ホール、泉・ふるさと生活ギャラリー	コミュニティ防災センター

③　地区市民センター

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(㎡)	主要施設	併設施設
柏木	青葉区柏木 三丁目 3 番 1 号	233-8066 233-8484	平成 10 年 4 月 1 日	2,822.73 1,315.20	会議室、和室(2)、ホール、市民活動室、資料室	コミュニティ防災センター
北山	青葉区新坂 町 8 番 4 号	272-1020 272-1036	平成 22 年 11 月 16 日	2,071.54 1,406.43	会議室(3)、和室(4)、調理実習室、娯楽室、トレーニング室、親子室、資料室、図書室	
福沢	青葉区福沢 町 9 番 9 号	223-9095 213-1647	昭和 59 年 6 月 9 日	3,205.75 1,998.46	会議室(3)、和室(3)、視聴覚室、調理実習室、遊戯室、図書室、娯楽室、体育館	コミュニティ防災センター
旭ケ丘	青葉区旭ケ丘 三丁目 25 番 15 号	271-4729 271-7984	昭和 60 年 6 月 15 日	3,128.66 2,044.91	展示ホール(2)、ホール(2)、会議室(3)	旭ケ丘バス乗継ターミナル
三本松	青葉区堤町 三丁目 23 番 1 号	274-3955 234-5355	昭和 62 年 3 月 31 日	4,861.02 1,499.07	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、体育館、遊戯室、図書室	コミュニティ防災センター
片平	青葉区米ケ袋 一丁目 1 番 35 号	227-5333 268-0234	平成元年 3 月 15 日	2,500.03 1,850.75	会議室(2)、会議室兼調理実習室、和室(3)、体育館、娯楽室、広瀬川自然展示コーナー	児童館・コミュニティ防災センター
水の森	青葉区水の 森四丁目 1 番 1 号	277-2711 277-8863	平成 2 年 8 月 30 日	11,317.60 1,651.23	会議室、会議室兼調理実習室、和室(3)、体育館、親子室	児童館・コミュニティ防災センター・温水プール
貝ケ森	青葉区貝ケ森 一丁目 4 番 6 号	279-6320 279-6704	平成 5 年 4 月 26 日	3,669.11 1,405,84	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、資料室、親子室、ホール	児童館
中山	青葉区中山 三丁目 13 番 1 号	279-9216 719-2150	平成 7 年 3 月 31 日	4,047.48 1,387.31	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、資料室、親子室、ホール、市民活動室	児童館・老人憩の家・コミュニティ防災センター
折立	青葉区折立 三丁目 20 番 1 号	226-1226 226-2660	平成 7 年 5 月 30 日	2,843.36 1,623.89	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、ホール、親子室、資料室	児童館・コミュニティ防災センター
木町通	青葉区木町 通一丁目 7 番 36 号	711-2561 212-4330	平成 16 年 2 月 27 日	10,480.00 2,892.34	会議室(2)、和室(2)、調理実習室、娯楽室、親子室、市民活動室、ホール	小学校・児童館・コミュニティ防災センター

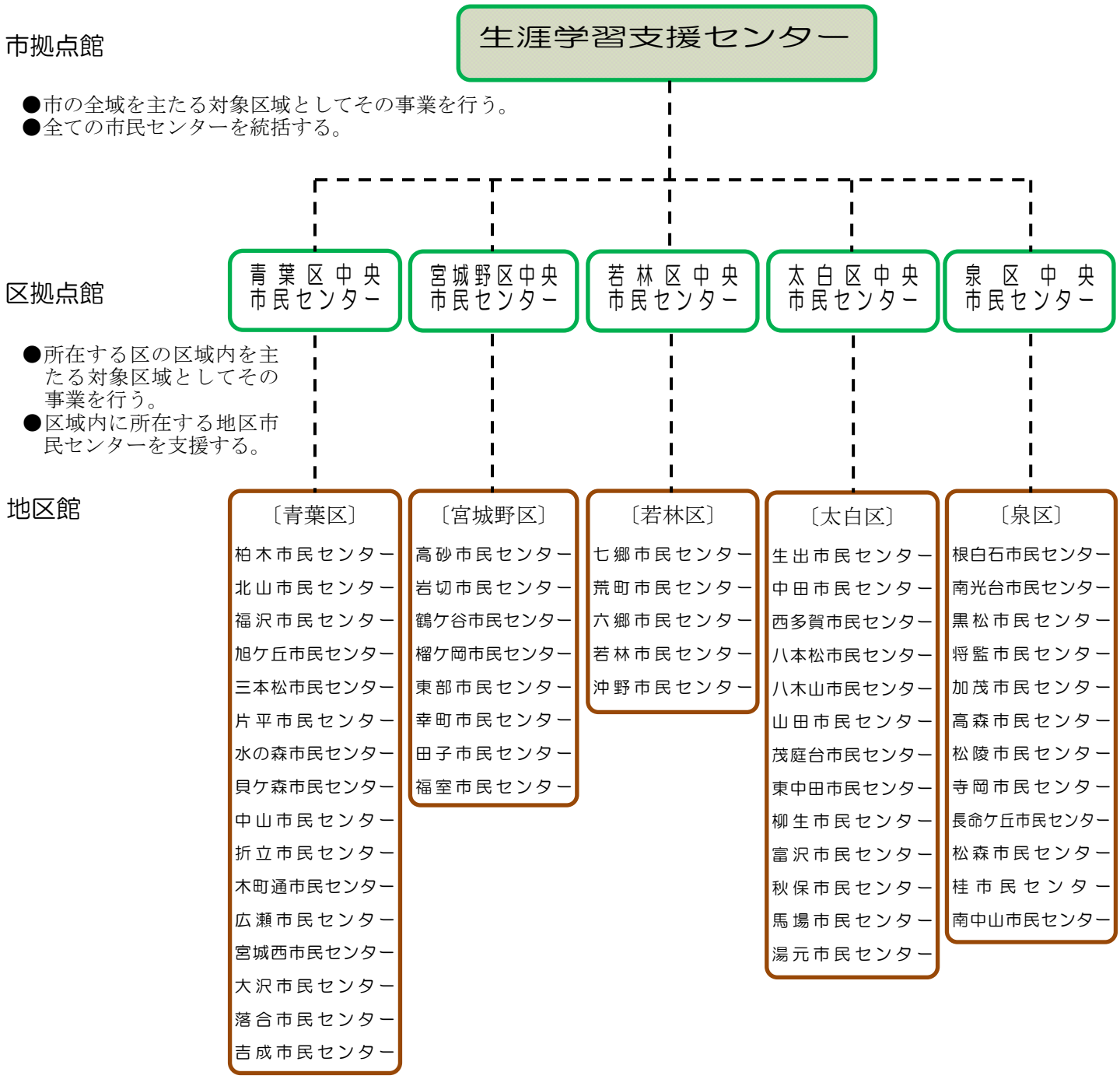
館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(㎡)	主要施設	併設施設
広瀬	青葉区下愛子字観音堂5番地	392-8405 392-8410	平成3年 3月31日	6,746.77 786.54	会議室、セミナー室(2)、和室(2)、創作室、サークル連絡室、プレイルーム	文化センター・図書館
宮城西	青葉区熊ヶ根字石積47番地	393-2829 393-2491	平成24年 5月18日	3,274.47 1,484.56	会議室(2)、和室(2)、調理実習室、ホール、市民活動室、親子室、娯楽室	
大沢	青葉区芋沢字要害65番地	394-6891 394-6439	平成2年 5月24日	6,318.73 1,124.14	会議室兼調理実習室、和室(2)、体育館	児童館・コミュニティ防災センター
落合	青葉区落合二丁目15番15号	392-7301 392-6737	平成6年 3月31日	4,078.96 1,248.45	会議室兼調理実習室、和室(2)、娯楽室、図書室、親子室、ホール	コミュニティ防災センター
吉成	青葉区国見ヶ丘二丁目2番地の1	279-2033 279-9431	平成8年 4月26日	3,300.76 1,412.34	会議室、会議室兼調理実習室、和室、親子室、ホール、資料室	児童館・コミュニティ防災センター
高砂	宮城野区高砂一丁目24番地の9	258-1010 259-7577	平成6年 3月30日	10,000.02 1,736.16	会議室(2)、和室(2)、調理実習室、親子室、ホール、資料室	児童館・コミュニティ防災センター・老人福祉センター・デイサービスセンター・保健センター
岩切	宮城野区岩切字三所南88番地の2	255-7728 255-2075	昭和56年 12月15日	4,789.09 2,060.91	講義室、研修室(2)、和室(2)、調理実習室、視聴覚室、創作室、体育館、図書室、交流室、親子室、資料室	保健センター・老人憩の家・コミュニティ防災センター・証明発行センター
鶴ケ谷	宮城野区鶴ケ谷二丁目1番地の7	251-1562 251-1564	平成28年 2月19日	3,291.14 1,763.95	会議室(3)、和室、調理実習室、ホール、娯楽室、親子室、市民活動室、図書室	コミュニティ防災センター
榴ケ岡	宮城野区五輪一丁目3番1号	299-5666 299-5690	平成元年 4月26日	963.40 1,005.33	和室(2)、ミーティングルーム(2)、休憩室、体育館	
東部	宮城野区平成一丁目3番27号	237-0092 235-7634	昭和58年 4月8日	1,795.57 1,269.64	会議室、和室(3)、調理実習室、娯楽室、体育館	児童館
幸町	宮城野区幸町三丁目13番13号	291-8651 291-8561	平成5年 3月31日	3,838.08 1,575.40	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、親子室、資料室、ホール	児童館・コミュニティ防災センター
田子	宮城野区田子二丁目4番25号	254-2721 254-2722	平成11年 8月5日	2,877.76 1,709.53	会議室(2)、和室(2)、調理実習室、ホール、娯楽室、親子室、市民活動室	児童館・コミュニティ防災センター
福室	宮城野区福室五丁目9番36号	786-3540 388-6320	平成15年 1月10日	4,747.25 1,956.70	ホール、会議室(2)、和室(2)、調理実習室、市民活動室、娯楽室、親子室	児童館・コミュニティ防災センター
七郷	若林区荒井三丁目7番地の2	288-8700 288-2340	昭和58年 3月7日	5,674.00 1,986.39	会議室、研修室(2)、和室(3)、調理実習室、視聴覚室、創作室、体育館、市民活動室	児童館・保健センター・コミュニティ防災センター・証明発行センター

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(㎡)	主要施設	併設施設
荒町	若林区荒町 86 番地の 2	266-3790 266-5436	平成 21 年 11 月 27 日	1,430.29 2,234.78	会議室(3)、和室(2)、調理実習室、ホール、娯楽室、親子室、市民活動室	児童館・コミュニティ防災センター
六郷	若林区今泉 一丁目 3 番 19 号	289-5127 289-6359	昭和 56 年 12 月 15 日	4,354.80 1,744.15	会議室(3)、和室(3)、調理実習室、娯楽室、市民活動室、体育館	児童館・保健センター・証明発行センター
若林	若林区若林 三丁目 15 番 20 号	282-4541 282-2637	平成 3 年 4 月 29 日	3,048.00 1,453.22	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、資料室、親子室、ホール	児童館・コミュニティ防災センター
沖野	若林区沖野 七丁目 34 番 43 号	282-4571 285-4681	平成 3 年 3 月 30 日	6,151.42 1,468.25	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、親子室、資料室、ホール	児童館・老人福祉センター・デイサービスセンター
生出	太白区茂庭 二丁目 8 番地 の 1	281-2040 281-4319	昭和 55 年 3 月 31 日	4,253.24 955.78	講義室(2)、和室、図書室、調理実習室、体育館	診療所・保健センター・証明発行センター
中田	太白区中田 四丁目 1 番 5 号	241-1459 242-2535	昭和 56 年 3 月 20 日	3,217.97 1,801.97	講義室、研修室(2)、和室(2)、調理実習室、視聴覚室、図書室、体育館	コミュニティ防災センター・証明発行センター・図書館サービススポット
西多賀	太白区西多 賀三丁目 6 番 8 号	244-6721 244-0524	平成 30 年 10 月 15 日	2,940.37 1,530.61	会議室(3)、会議室兼調理実習室、和室、ホール、市民活動室	児童館
八本松	太白区八本 松二丁目 4 番 20 号	246-2426 246-9023	昭和 60 年 5 月 12 日	3,606.73 1,495.44	会議室兼調理実習室、会議室、和室(2)、体育館、市民活動室	児童館・太白図書館分室・コミュニティ防災センター
八木山	太白区八木 山本町一丁 目 43 番地	228-1190 228-1689	昭和 62 年 2 月 10 日	4,005.53 2,599.94	会議室、会議室兼調理実習室、研修室(3)、和室(2)、体育館、遊戯室、娯楽室、図書室、市民活動室	コミュニティ防災センター・適応指導教室「杜のひろば・八木山」
山田	太白区山田 北前町 13 番 1 号	244-0213 244-1843	昭和 62 年 4 月 17 日	4,434.93 1,496.88	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、体育館、遊戯室、娯楽室、図書室	コミュニティ防災センター
茂庭台	太白区茂庭 台四丁目 1 番 10 号	281-3293 281-4349	昭和 63 年 3 月 31 日	9,803.90 1,346.59	会議室、和室(2)、会議室兼調理実習室、娯楽室、体育館	児童館・コミュニティ防災センター
東中田	太白区四郎 丸字吹上 51 番地	242-1185 242-7053	平成元年 3 月 5 日	5,516.21 1,429.19	会議室、和室(2)、娯楽室、体育館、会議室兼調理実習室	児童館・保健センター・コミュニティ防災センター
柳生	太白区柳生 七丁目 20 番 地の 7	306-6750 306-7081	平成 9 年 3 月 31 日	2,879.16 1,454.61	会議室、和室(2)、ホール、資料室、親子室、会議室兼調理実習室	児童館・コミュニティ防災センター
富沢	太白区富沢 南一丁目 18 番地の 10	244-3977 307-5101	平成 13 年 11 月 22 日	4,068.46 1,839.30	会議室(2)、和室(2)、ホール、調理実習室、娯楽室、親子室、図書室、市民活動室	コミュニティ防災センター
秋保		399-2316 399-2394	平成 25 年 3 月 29 日	5,281.64 1,643.03	研修室、図書室、和室(2)、会議室(2)、ホール、調理実習室、親子室、市民活動室、資料室	

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(㎡)	主要施設	併設施設
馬場	太白区秋保町馬場字竹林45番地の1	399-2745 -	昭和52年 3月31日	3,185.42 734.20	会議室、調理実習室、体育館、図書室兼談話室	
湯元	太白区秋保町湯向2番地の20	398-2720 398-2789	昭和54年 3月31日	1,846.47 844.98	集会室、会議室、視聴覚室、調理実習室、和室	
根白石	泉区根白石字杉下前24番地	379-2108 376-5769	昭和63年 3月31日	5,839.66 1,911.53	会議室(2)、ホール、工作室、和室、調理実習室	泉図書館分室、証明発行センター
南光台	泉区南光台七丁目1番30号	253-1023 253-1024	平成27年 2月13日	2,829.02 1,750.15	会議室(4)、和室、調理実習室、ホール、親子室、市民活動室	泉図書館分室、コミュニティ防災センター・証明発行センター
黒松	泉区黒松一丁目33番40号	234-5346 219-2038	平成4年 10月20日	5,264.63 1,491.48	ホール、研修室(2)、多目的室、和室、調理実習室	泉図書館分室
将監	泉区将監八丁目1番18号	372-0923 374-8704	令和4年 3月28日	4,859.12 1,648.41	和室、研修室(3)、調理実習室、ホール、市民活動室、市民交流スペース	老人憩の家、児童センター
加茂	泉区加茂四丁目2番地	378-2970 377-4565	昭和58年 4月1日	4,471.52 2,127.06	会議室、和室、研修室(2)、調理実習室、体育館、談話室、市民活動室	泉図書館分室
高森	泉区高森六丁目1番地の2	378-9950 378-9969	平成元年 3月20日	3,000.12 1,499.93	研修室(3)、和室、調理実習室、音楽室、工作室、ホール、市民活動室	泉図書館分室
松陵	泉区松陵五丁目20番地の2	375-8101 375-6101	平成2年 3月10日	2,806.93 1,498.49	研修室(3)、工作室、調理実習室、和室、託児室、ホール	泉図書館分室
寺岡	泉区寺岡二丁目14番地の4	378-4490 378-4534	平成3年 3月10日	2,665.42 1,481.22	研修室(3)、和室、調理実習室、トレーニング室、ホール、市民活動室	泉図書館分室
長命ケ丘	泉区長命ケ丘二丁目14番地の15	377-3504 377-3508	平成5年 4月27日	2,885.07 1,496.35	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、娯楽室、親子室、ホール	泉図書館分室
松森	泉区松森字城前9番地の2	776-9510 776-9512	平成11年 12月10日	4,000.50 1,870.33	会議室、和室(2)、調理実習室、工作室、ホール、娯楽室、図書室、親子室、市民活動室	コミュニティ防災センター
桂	泉区桂三丁目19番地の1	375-0550 771-5931	平成13年 12月4日	7,759.48 2,268.05	会議室(2)、和室(2)、創作室、調理実習室、娯楽室、親子室、市民活動室、ホール	児童センター・コミュニティ防災センター
南中山	泉区南中山二丁目24番地の12	379-4780 348-4340	平成15年 11月13日	5,718.56 1,579.66	会議室(2)、和室(3)、調理実習室、研修室、親子室、市民活動室、図書室、体育館	コミュニティ防災センター

３　令和５年度 市民センターの体制

（令和５年４月１日現在）



※仙台市内の市民センター　60 館（青葉区 17 館、宮城野区 10 館、若林区 6 館、太白区 14 館、泉区 13 館）

※市拠点館及び区拠点館については、地区館としての機能も有している。

※地区館の業務（生涯学習事業、施設の使用許可等）は、指定管理者（公益財団法人　仙台ひと・まち交流財団）が行っている。

４　仙台市市民センターの施設理念と運営方針

（令和元年 10 月改定）

は じ め に

仙台市公民館運営審議会からの答申を基に、平成 20 年 12 月に「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」を策定し、５年経過した平成 25 年度に見直しを行い、平成 23 年３月の東日本大震災、同年５月の社会教育施設としての役割を堅持した上での区中央市民センターの区役所移管、平成 26 年度の生涯学習支援センターとしての機能強化等を踏まえ、平成 26 年４月に改定を行ったところである。

改定以降、本市では、教育の振興に関する施策の大綱（平成 27 年 12 月）等が、そして、本市教育委員会では第２期仙台市教育振興基本計画（平成 29 年１月）等がそれぞれ策定されたところであり、市民センターにおいては、これら計画等を踏まえた事業の企画・実施等が行われているところである。

また、仙台市震災復興計画（平成 23～27 年度）の計画期間が終了する中、仙台市協働によるまちづくりの推進に関する条例（平成 27 年７月施行）、仙台市障害を理由とする差別をなくし障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例（平成 28 年４月施行）、仙台市いじめの防止等に関する条例（平成 31 年４月施行）等の制定、平成 31 年４月の区役所まちづくり推進部の新設など、市民センターをとりまく情勢が変化しているところである。

こうした中、改定後５年を目途とした見直しを行うため、平成 29 年 11 月に仙台市公民館運営審議会に「「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」の見直し（第二次）のあり方について」諮問を行った。

審議会においては、市拠点館である教育局生涯学習支援センターの「学びのまち・仙台市民カレッジ事業」及び「学びを支える人材育成推進事業」の事業評価を行い、答申検討の一助にしていただきながら、「拠点館の役割の再検討及び記載の明確化」、「『震災を踏まえた市民センターの役割と取組』及び『市民センターの施設管理の運営方針』の記載事項の内容・構成の再検討」を中心に協議いただいた。

事業視察も含め、合計 13 回、約１年半にわたる審議会の成果として、令和元年７月に「『仙台市市民センターの施設理念と運営方針』の見直し（第二次）のあり方について」の答申がまとめられ、見直しに係る意見やＳＤＧｓとのつながりを意識すること等の提言をいただいた。

上記答申における意見等を受け、併せてこの５年間の社会情勢、教育環境の変化を踏まえ、このたび、「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」を改定するものである。

※ＳＤＧｓ（2030 年に向けて世界が合意した 17 の「持続可能な開発目標」）のうち右記の３目標を表記した。



仙台市市民センターの施設理念



市民センターとは、次の３つの機能が一体となって運営される社会教育施設である。

１　市民の学びのプロセスに沿った学習支援のための諸機能を有し、あらゆるライフステージに応じた市民一人ひとりの学びを総合的に支援する、市民との協働による市民本位の生涯学習の支援拠点としての機能

２　子どもから高齢者までのあらゆる市民が集い交流し、多様な市民による様々な活動が主体的に行えるよう支援する場や機能を持った市民のための市民が主役の交流拠点としての機能

３　学びを通して地域の人と人とをつなぎ、住みよいまちづくりにつながる人づくりを行う地域づくりの拠点としての機能

仙台市市民センター事業の運営方針



１．市民センター事業の目的

１）市民センター全体の事業目的

市民センターは、それぞれの地域での市民ニーズに応じた多様な事業を実施することにより、市民一人ひとりの主体的な生涯学習活動が充実し、その活動をきっかけとして仲間が集い交流が生まれ、その相互の交流を通して住みよい地域づくりにつながる自治活動が活発になるなど、それぞれの地域社会のより良い形成に寄与する“人づくり”を目指す。

【重点方針】

・全ての市民センター事業は、この目的に向かって計画性を持って実施する。

・実際の事業の企画・実施にあたり、職員は「きっかけ」「仕掛け」「働きかけ」といった社会教育的関わりを常に意識し、市民の主体的な「学び」を支え、市民と協働して事業に取り組む。

・職員はこのような目的が達成されているかどうかを自己点検・評価するとともに、市民・地域住民による評価を受け、事業の改善に絶えず努める。

・東日本大震災での経験を踏まえるとともに、震災からの復興を見据え、地域課題の解決や地域づくりの担い手の育成に向けた取組の強化を図る。

２）拠点館事業の主要な目的

拠点館事業の主要な目的は、本市における、あらゆる市民のライフステージごとの学習ニーズに対応した、多様な生涯学習事業の計画的かつ体系的な推進である。さらには、指定管理者制度の下で事業を受注している地区館（地区市民センター）に対して、市拠点館（生涯学習支援センター）はその果たすべき業務の目的・目標を設定するとともに、区拠点館（区中央市民センター）は定期的に事業を評価し必要な助言を行うなど、発注者としての地区館事業へのマネジメントを行い社会教育施設としての質の確保を図ることである。

【重点方針】

・拠点館は、体系化された事業計画と社会教育の専門性を持って、市民センター事業全体の質を維持し高めるものとする。
・拠点館職員は常に専門性の維持・向上に努め、地域課題を踏まえた調査研究事業の充実と地区館支援のための環境整備に重点的に取り組むものとする。

３）地区館事業の主要な目的

地区館事業の主要な目的は、地域を基盤とし、地域づくりにつながる人づくりを行うことであり、市民一人ひとりが「出会い・ふれあい・学びあう」ことでつながり、さらには市民自ら地域課題に向き合い住み良いまちづくりに協働して取り組むことができるように支援することである。

【重点方針】

・地区館は“地域づくりの拠点”としての機能を果たすことを重点目標とし、地域のコーディネーターの役割を担うものとする。
・地域の連帯感を高め豊かな地域社会を創るために、地域における市民の主体的で多様な生涯学習活動を支援し、質・量ともに充実するものとする。

２　市民センターの役割

１）　市拠点館（生涯学習支援センター）の基本的な役割

⑴ 市民センターにおける生涯学習事業体系の策定と行動計画の立案、及び全市にわたる生涯学習事業の推進

本市における生涯学習に関わる機関・団体との役割分担を踏まえ、学校教育や関係局・区役所とも連携しながら、市民センターが担うべき生涯学習事業体系を策定し、事業目標を定めた行動計画にしたがって本市の生涯学習事業を着実に推進する。併せて、人材育成にかかる事業を中心とした生涯学習事業を総合的・体系的に実施する。

⑵ 生涯学習推進のための専門性の向上

少子高齢化・国際化・情報化、男女共同参画、多様性配慮などの現代的な課題、ＳＤＧｓや本市が抱える諸課題への先進的な取組み、及び市民のライフステージごとの多様な学習ニーズの把握と効果的なプログラムづくり等の調査・研究を推進するとともに、その成果を地区館等へ還元する。

また、東日本大震災を機に生じた地域社会のあり方、大規模自然災害の備え、エネ

ルギー問題等の社会的課題や社会からの要請に対応する取組についての調査･研究を推進する。

⑶ 市民一人ひとりのニーズに対応した生涯学習支援体制の充実

〔学習活動のネットワーク化とリーダー等の養成〕

市民相互の学習活動やそのネットワーク化を支援するとともに、学習リーダーや学習ボランティアを養成し、その活動を推進する。

〔生涯学習に関する関係機関等との連携・協力の推進〕

生涯学習について、小学校、中学校、高等学校、大学等、市民活動団体等関係機関・団体との連携・協力を推進する。

〔生涯学習情報の計画的体系的な収集と提供〕

計画的で体系的な生涯学習情報の収集と提供を行い、生涯学習相談事業の充実を図る。

⑷ 指定管理者制度下での指定管理業務のマネジメントの推進

市民センターの指定管理業務を統括する立場から、地区館業務の目的とそのための事業の目標及びその要求水準の考え方を明確にし、地区館ごとに事業を評価できる体制を構築する。

⑸ 職員の育成

〔職員研修の体系化と専門研修の充実〕

初任者・中堅者・館長などに対する経験や役割に応じた体系的な研修や、社会教育を担当する職員としての専門性を高める研修の充実を図る。

〔職員への助言及び支援体制づくり〕

事業が具体的な目標のもとに計画的に推進できるよう、事業を担当する職員への専門的な助言や支援のための体制づくりに努める。

２） 区拠点館（区中央市民センター）の基本的な役割

⑴ 区内の生涯学習事業の推進

〔区内の生涯学習事業の推進と地域リーダーの発掘・育成〕

地域の諸団体や学校等、区役所関係課、区内地区館などとの連携を図り地域課題に取り組むことで、区内の生涯学習事業を推進するとともに、区内の地域リーダーの発掘・育成に努める。

〔区内の市民の学習・グループ活動への支援〕

区内の生涯学習活動を幅広く支援するため、生涯学習情報の収集と提供及び相談事業を充実させるとともに、活動する市民・団体等のグループ化やネットワーク化への支援に努める。

⑵ 区内地区館事業への支援

〔関係諸団体との連携の推進〕

地域団体、ＮＰＯ・ボランティア団体等の民間諸団体や、区役所関係課等の行政機関、小学校、中学校、高等学校等の教育機関との連携によって地区館事業が活発に展開されるよう、地区館を積極的に支援する。

特に、地域課題の把握とその対応等に向け、区役所関係課と地区館とが連携して取り組み、市民協働による地域づくりが推進されるよう支援する。

〔家庭及び地域での教育力向上、ジュニアリーダーの育成支援〕

地域での子育て支援や子どもが育つ環境づくりのために、地域団体、民間諸団体、区役所関係課等、学校等、嘱託社会教育主事研究協議会支部等と連携し、地区館において、家庭及び地域社会の教育力の向上に資する取り組みとジュニアリーダーの育成支援が十分に行われるようともに取り組む。

〔地区館職員の育成〕

定期的な連絡会の開催や、区内地区館が連携して進める事業の支援など、地区館職員の育成が図られ、かつ効果的な事業が推進されるよう働きかけを行う。

⑶ 指定管理者制度下での区内地区館業務のマネジメントの推進

地区館業務の目的、各事業の目標及び要求水準をもとに、それぞれの地域ニーズを地区館職員と共有し、より効果的な事業の実施に向けた助言等を行うとともに、事業の結果について的確な評価を行うことで、地区館事業の質・量の充実が図られるよう支援に努める。

３） 地区館（地区市民センター）の基本的な役割

【取組指針】

社会教育施設としての地区館に求められる下記の機能は、相互に関連を持ちながら総合的に発揮されなければならない。それにより、これまで市民センターに関心のなかった人々が、地区館事業に様々な形で関わることができ、地区館が多くの市民の参画を得ながら地域づくりの拠点として活発に機能することになる。

また、地区館の職員は、区拠点館の支援を受けつつ、地域に積極的に出向きながら、これらの機能が総合的に発揮されるよう「きっかけ」をつくり、「仕掛け」「働きかけ」を行い、地域住民や地域の諸団体等と協働して事業を展開していくものとする。

⑴ 地域住民本位の生涯学習拠点機能

〔学習ニーズ・地域課題を踏まえた特色ある事業の実施〕

地域住民を対象にしたアンケート調査や事業運営懇話会、日々の地域情報の収集などを通して地域住民の学習ニーズと地域課題を把握し、目標を明確にした上で特色ある事業を実施する。

〔事業の魅力づくりと参加しやすい条件づくり〕

事業の企画にあたっては「学びを通じての人と人とのつながり」を基本方針とし、地域住民が楽しく参加したくなるような工夫（魅力づくり）や参加しやすい条件を整えるよう努める。

〔市民参画の推進と市民の活動の育成支援〕

市民自らが学ぶことで主体的な活動が地域で多様に展開できるよう、市民参画による事業を積極的に推進するとともに、地域を基盤としたサークル活動や市民活動、ボランティアやジュニアリーダーの育成支援に取り組む。

(2) 地域の交流・拠点機能

〔地域住民の交流の場、子どもたちの交流の場の確保〕

多様な地域住民が気軽に集い、楽しく交流のできる場と機会を設ける。

特に、地域の中で見守られ育まれるべき次代を担う子どもたちのための子育て支援と青少年の交流の場、地域住民と児童生徒との交流の場の確保に配慮する。

〔様々な地域ネットワークの拠点機能＝プラットフォームの確保〕

地域にある様々な団体、ＮＰＯ、ボランティア等が共通の地域課題のもとに集まれるネットワークの拠点としての機能を持つ、プラットフォームを確保するよう努める。

(3) 地域のコミュニティづくり機能

〔コミュニティ意識の醸成〕

地域住民と協働し、地域の歴史・自然・行事などの地域資源を活かした地域文化の継承と創造の事業に継続的に取り組むとともに、地域の魅力と課題の発見を通して、多くの地域住民が地域と関わることができるよう積極的に働きかけ、地域住民のコミュニティ意識の醸成を図る。

〔地域活動を担う人材の育成〕

地域課題を踏まえ、地域の諸団体や学校等と連携しながら、地域での多様な活動を担う人材の育成に努める。この場合において、青少年を含め幅広い世代の人材育成にも配慮しながら取り組む。

〔地区館事業に市民が主体的に関わる仕組みづくり〕

地域に根差した地区館事業を市民と協働で推進するために、地域住民が地区館事業に主体的に関わる仕組み（地域住民による地区館ごとの運営協議会等）を創り活かす。

(4) 地域のコーディネート機能

〔地域にある機関・団体等のネットワーク化の支援〕

町内会・ＰＴＡ・商店街等の地域団体、ＮＰＯ等の民間諸団体、学校等の教育機関や区役所等の行政機関等と連携し、地域住民とともに地域課題に取り組むためのネットワークが構築されるよう支援する。

〔地域と行政機関との仲介・調整〕

“地域の声”を施策や事業につなげるために、地域の諸団体等と行政機関等との仲介及び調整の窓口機能を担う。

(5) 地域の情報ステーション機能

〔地域の資源等の保管と公開〕

地域にある様々な資源（歴史、文化、自然、祭礼行事、施設、人材等）などに関する情報を多様な媒体に整理・保管し、地域住民が必要に応じて閲覧し活用できる仕組みを整える。

〔生涯学習情報・地域情報の収集と提供〕

地域内の学校や社会教育施設、区役所などの行政機関からのお知らせや催し情報のほか、地域団体や各種サークル、ＮＰＯなどからの活動情報や募集情報などを随時収集・整理し、適時、地域住民に提供する。

仙台市市民センターの施設管理の運営方針



１）市民サービスの向上

(1) 利用者の立場に立ったサービスを行う。

(2) 利用者の安全安心の確保に積極的に取り組む。

(3) 利用者のプライバシーを保護するよう十分配慮する。

２）市民交流スペースの確保とオープンスペースの活用

市民の誰もが気軽に立ち寄り、交流のできる場と機能を確保する。

地区館のオープンスペース等に関しては、地域住民にとって魅力ある場となるよう、地域住民の意向を十分に踏まえた各館独自のルール及び運営体制を設けるなど、その利用を促進する。

３）地域住民等との顔の見える関係づくり

地区館は、地域づくりの拠点としての機能を踏まえ、施設管理における日常の様々な場面において、地域住民や地域団体等との顔の見える関係をつくり、信頼され、信頼に応える運営を行う。

震災を踏まえた市民センターの役割と取組



未曽有の被害をもたらした平成 23 年３月の東日本大震災により、大きな被害を受け、建替えを余儀なくされた市民センターがあった一方で、地域住民の避難所となった市民センターも数多くあった。市民センターは、住民に身近な施設として住民の安全を守る役割などを担ったところである。

そして、これまで市民センターにおいては、この震災を踏まえ、震災復興や地域の防災・減災に資する事業、地域の絆を深める事業等に取り組んできたところである。

現在、地域においては、平時から地域団体や住民等が連携しながら、地域における防災体制を構築するなどの安全・安心な地域づくりが求められていることから、災害・防災等に関する知識を深め、防災・減災意識の向上を図るとともに、地域課題の解決や地域づくりの担い手の育成に向けた取組の強化を図ることが重要となっている。

１）災害時における役割

現行の仙台市地域防災計画において、市民センターは、必要に応じて開設される補助避難所に、高砂市民センターは指定避難所に位置づけられており、食料、飲料水等の物資が備蓄されている。

災害時において避難所となる市民センターは、地域防災計画等に基づき、住民等の安全を守るとともに、多様な視点に立ち、求められる配慮を適切に行いながら、避難所の運営に協力し支える役割を担うこととなる。住民に身近で信頼される施設として、災害対応力の向上に努め、災害時における役割を十分に果たしていくものとする。

２）地域の防災体制づくりへの支援

市民センターは、これまで培ってきた小学校、中学校、高等学校及び地域団体等とのネットワークを活かしながら、地域のコミュニティづくり機能やコーディネート機能等を十分に発揮し、防災訓練等も含め、地域の防災体制づくりに資する取組を行うとともに、地域主体の復興まちづくりにおいても、市民センターとしての役割を果たしていくものとする。

３）震災を踏まえた講座等の実施

地域の生涯学習の拠点として、地域の防災・減災に資する講座等を積極的に開催するとともに、震災の経験や教訓、地域の歴史や文化等を広く発信していく。この場合において、次世代への継承、担い手の育成に向け重点的に取り組むものとする。

（付記）

「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」は、改定から５年間を目途に見直しを行う。

５　市民センター事業体系

＜目的別分類＞

大分類	中分類	事業内容（例）
01 市民が様々な課題に応じて学べるようになる	01 市民がライフステージに応じた課題について学べるようになる	インリーダー研修会 職場体験学習・社会教育実習等の受入 若者と地域住民との交流を深める事業 家庭教育に関する講座 健康づくりに関する講座 老壮大学 自然・教養・文化に関する講座 地域資源を活用した講座
	02 市民が、時代に応じた新しい課題について学べるようになる	学び直しに関わる講座 国際化時代に対応した講座 情報化時代に対応した講座 防災・減災に関する講座 環境保全に関する講座 男女共同参画に関する講座 子育て支援に関する講座 高齢化社会に対応した講座 福祉に関する講座 ボランティア・奉仕活動に関する講座
02 市民が、学習に必要な情報を得ることで、主体的に学べるようになる	01 市民が、市民センターで学習相談・情報提供を受けられるようになる	学習（地域）情報の収集 学習（地域）情報の提供・相談 サークル活動支援
	02 市民が、市民センターの講座情報をいつでも得られるようになる	市民センターだより・講座レポートの発行 生涯学習情報誌の発行 ホームページによる学習情報の発信
03 市民が学んだ成果を地域に生かせるようになる	01 市民が、生涯学習ボランティアとして活動できるようになる	ジュニアリーダーの育成支援 ボランティア養成講座 ボランティア活動の支援
	02 市民が、自らの知識や経験を生涯学習事業に生かせるようになる	市民による地域情報の発信 市民が企画・運営する講座の実施 生涯学習事業の企画の公募
04 市民が、地域で学びの活動を広げるようになる	01 学校、地域、市民活動団体が、地域活動を通して、連携できるようになる	学校と連携した事業 学校支援地域本部と連携した事業 地域の団体と連携した事業 学びのコミュニティづくり推進事業
	02 市民が、自らの学習活動を生かして、地域づくり・人づくりに参加できるようになる	まちづくりに参加する事業 地域間交流事業
	03 市民が、地域の人やほかの団体と交流できるようになる	市民センターまつり 市民の学習発表会 市民交流事業
05 市民が、質の高い市民センター事業を受けられるようにする	01 市民の意見が市民センターの運営に反映できるようにする	事業運営懇話会等 市民ニーズ・地域課題の把握 地域の各種団体と行政・専門機関との仲介・調整

＜分野別区分＞

区　分	定　　義
家庭教育推進事業	子育て世代が育児や家庭生活について学び、親子のふれあいを深めることをねらいとする。 （例）子育て講座／食育講座／子育てサロン／おはなし会　など
青少年健全育成事業	青少年がさまざまな体験を通じて学ぶ力を身に付けることによって心身の健やかな成長を培い、仲間づくりや親子・異世代の交流を図ることをねらいとする。 （例）ジュニアリーダーと遊ぼう／インリーダー研修／体験講座　など
成人学習振興事業	幅広い教養を身に付け、さまざまな課題を学習する機会を提供するとともに、共通の課題や関心を持つ市民（受講者）相互の仲間づくりや交流を図ることをねらいとする。 （例）健康講座／市民企画講座　など
高齢者学習振興事業	長寿社会の中で、高齢者が学習を通した仲間づくりや交流によって、生きがいを持って社会生活を送ることができるようになることをねらいとする。 （例）老壮大学／高齢者の健康講座　など
地域社会教育推進事業	市民や地域の団体等がイベントや体験活動などを通して、地域住民との交流や地域活動の推進を図ることをねらいとする。 （例）市民センターまつり／事業運営懇話会／防犯／防災減災関連事業　など
民間指導者育成事業	自らの学習成果や経験を生涯学習ボランティアとして社会に生かす意欲のある人材を養成し、その活動を支援することをねらいとする。 （例）ジュニアリーダー育成支援／ボランティア養成　など
学習情報提供・相談事業	地域の資源（歴史、文化、自然、祭礼行事、施設、人材等）などの情報を収集し、地域住民の活動に活用できるようにするとともに、市民からの問い合わせに対し、サークル活動や学習情報、講師情報など、生涯学習に必要な情報を提供する。 （例）学習情報提供・相談／サークル活動支援／サークル体験／ 市民センターだより発行／学習・人材情報収集

６　新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応

新型コロナウイルス感染症は、令和元年 12 月末に発生の報告がなされて以降、瞬く間に世界中に蔓延した。国内でも感染が相次ぎ、令和 2 年 2 月下旬には不要不急の外出やスポーツ・文化イベントの自粛、学校の休校の要請等が行われ、4 月 7 日には 7 都府県を対象に緊急事態宣言がなされ、4 月 16 日には全都道府県に拡大された。(同宣言は 5 月 25 日までに全都道府県で解除。)

仙台市では、令和 2 年 2 月 27 日に「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う仙台市の事業及び施設等の取り扱いに係るガイドライン（暫定版)」(以下「ガイドライン」という。）が発出され、市民センターにおいても、主催事業を順次中止するとともに、施設使用につき、感染拡大防止を理由とする使用取りやめの場合に使用料を返還する取扱いを開始した。さらに、4 月 11 日から 5 月 31 日までは臨時休館となり、既予約団体に利用の自粛を要請するに至った。

その後、まん延防止等重点措置の適用により、再び令和 3 年 3 月 27 日から 5 月 11 日まで臨時休館。令和 3 年 8 月 20 日から 9 月 12 日までは 20:00 以降の利用を停止するといった状況が続き、以後の事業実施・施設運営は、ガイドラインに基づき、感染防止策を徹底した上で行ってきた。

令和 4 年度においても、市民の学習機会の確保のため、感染防止策を講じながら事業の実施を推進してきたが、令和 5 年 5 月 8 日より、感染症法での位置づけが 5 類に移行しガイドラインが廃止になった。以後、手洗いやこまめな換気、3 密を避けるなど感染予防対策を引き続き行いながら、コロナ以前の事業レベルに戻すべく取り組みを進めているところである。

◎新型コロナウイルス感染症への対応

【臨時休館等を要請した期間】

・令和 2 年 4 月 11 日から 5 月 31 日まで（臨時休館）
・令和 3 年 3 月 27 日から 5 月 11 日まで（臨時休館）
・令和 3 年 8 月 20 日から 9 月 12 日まで（20:00 以降の利用停止）

【基本的な感染防止策】

・３つの密（密閉・密集・密接）の回避
・人と人との間隔（ソーシャルディスタンス）の確保
・マスク着用、手指消毒の呼びかけ
・こまめな換気
・講座受講者の名簿作成、施設利用者の連絡先把握　等

【講座等実施の際の工夫例】

・受講者数の調整（受講者を 2 つの班に分け、従来の半分の人数で受講してもらう　等）
・(屋内より感染リスクが低い）屋外を会場とする事業への移行
・コロナ禍の状況に対応した企画（ステイホームに対応した在宅でできる体操の講座　等）
・インターネット動画や資料郵送による情報発信
・オンライン会議システムの活用（遠方の講師による講義　等）　等

Ⅱ　拠 点 館 事 業

令和４年度 市直営事業実績

１　地域づくり支援

市民自ら地域課題に向き合い、住み良いまちづくりにともに取り組むことができるよう、地域の身近な社会教育施設として、多様な学習の機会を創出するとともに、市民の主体的な学びを支援し、学びを通した人づくりに取り組んでいる。

（１）若者社会参画型学習推進事業

若者が地域づくり活動への参加や様々な人々との学び合いを通じて、身近な地域をより良くすることへの意識を高め、自発的・主体的に活動することを学ぶ事業である。

【各区中央市民センターにおける受講者数等一覧】

区	受講者数	受講者延人数	イベント参加者数	受講者内訳
青葉区	16	122	0	高校生・短大生・大学生
宮城野区	14	87	0	高校生
若林区	13	90	480	大学生・高校生
太白区	11	71	158	大学生・高校生
泉区	16	89	0	大学生

①　若者によるまちづくり実践塾

＜青葉区中央市民センター＞

若者自身が地域課題を発見し、その調査・分析を行い、自分たちの取り組みを発信することで、「若者がまちづくりに関わっていく」という事業のねらいを達成することができるように取り組んできた。

令和４年度は、テーマを「若者視点による青葉区の魅力発信」とし、フィールドワークやまち歩きを通して収集した地域情報をまとめたマップを制作した。受講者が、自ら訪問先を選定し様々な人々への取材を行ったり、活動を通して得られた地域資源などの情報を発信するためにまとめたりする過程で、身近な地域に対する興味・関心の高まりや、「まち歩き」という新たな視点の獲得や視野の広がりを、自己の成長として実感できる事業となった。参画の度合いとしては、マップの制作にも主体的に取り組むなど、「若者主導の活動」に近い段階で実施することができた。事業全体を通して、受講者の主体性の高まりや企画力・発信力の向上がうかがえる。

②　まいぷろ・Miyagino Young PROgram

＜宮城野区中央市民センター＞

令和４年度は、宮城野区内にある地域の魅力を取材し、Web 記事の制作・発表を通じて、①様々な人々と協働し、身近な地域をより良くすることへの関心を高めること、②社会・地域の一員として、自発的・主体的に行動できる人づくりを行うことを目標に取り組んだ。

若者が興味・関心を持った仙台すずめ踊り、仙台市歴史民俗資料館、いわきり子育てネットワーク、仙台アンパンマンこどもミュージアム＆モール、宮城野区のおすすめフード

の取材を自ら行い、住民参加型ニュースサイト「TOHOKU360」と連携し、Web 記事を作成した。また、次年度の募集につなげるため、まいぷろの活動をわかりやすく紹介したリーフレット制作にも取り組んだ。

これらの活動を通じて、自らの思いを表現する力やコミュニケーション力が養われたほか、地域の活動に触れることにより地域への理解が深まったことで、自分たちなりの地域貢献のあり方について考える機会となり、参加者の視野や関心に広がりが生まれた。

③ 仙白園プロジェクト・人

＜若林区中央市民センター＞

大学生を中心とした概ね 20 代の受講者が、地域のために何ができるかを考えながら、地域を活性化させる活動を行っている。

これまで地域の方々と続けてきた仙白園と名付けた畑での活動を発展させ、令和 4 年度は子ども参画型事業の参加者も栽培活動に加わった。若者の発案から、子どもたちに対して体験活動の場を提供できたこと、異年齢交流を促進させることができたことなどの成果があった。

また、住民参画・問題解決型事業との連携も行い、六郷東部地区で震災復興に関わる「わたしのふるさとプロジェクト」が主催する事業に、ボランティアとして参加した。

さらに、「若林区の広範囲で活動したい」「コロナ禍において行事等が減った子どもたちを笑顔にしたい」という若者の想いから、「大学生が考える荒町ゆうゆうフェスティバル in 荒町元気広場」を実施した。企画・広報・運営等を若者が担い、地域の小学校、おやじの会、商店街等の協力も得ながら、当日は 480 名の地域住民が集うイベントとなった。若者の企画力・行動力を磨く場、様々な地域住民をつなぐきっかけとなる場にすることができた。

④ 仙台学生ネットワーク事業「つながりんぐ」

＜太白区中央市民センター＞

地域や地区市民センターから「学生と連絡を取りたいがどうしたらいいかわからない」、また、学生からは「社会貢献したいが窓口がわからない」等の意見を受けて、本事業を平成 26 年に立ち上げ、活動する学生のネットワークを「つながりんぐ」と名付けて活動をスタートした。

令和 4 年度も「つながりんぐ」の主力メンバーである東北工業大学環境サークル「たんぽぽ」の学生を中心に活動した。①「自主企画プロジェクト」②FM たいはくラジオプロジェクト③交流フェスタ（市民センター祭り）プロジェクトの 3 つのプロジェクトを立ち上げ、長町エリアの活性化を目指して活動に取り組んだ。

NPO 法人「カワラバン」の菅原氏を講師に迎え、広瀬川の環境について定期的に学び、11 月にはその集大成となる、「ぼくらの広瀬川」というイベントを自主企画した。当日はたんぽぽ以外にも市内の学生が多数参加し、e ボート乗船体験や広瀬川の生物観察等を実施。学生同士の交流を促進しつつ、広瀬川の自然について学べる機会となった。

交流フェスタプロジェクトでは、環境サークルという「たんぽぽ」の特性を生かし、エ

コキャップ等を活用したリサイクル工作を通じて、来場した子どもたちとの交流を楽しんだ。また、学生のアイデアを引き出しながら、工作の内容を工夫できた。さらに、これら「自主企画プロジェクト」「交流フェスタプロジェクト」での体験を中心に、FM たいはくのラジオ番組を通じて、自分たちの感じたことや問題意識を発信することができた。

⑤ ICP　イズミ・コミュニティ・プロジェクト

＜泉区中央市民センター＞

泉区内に通学している大学生を中心とした受講生が地域の現状や課題について考え、学生の自由な発想で地域創造に向けて取り組みたいことを企画し、実施する事業を行った。

令和 4 年度は、前年度に設定した活動テーマ「地域を見つめ直して～Act and Grow～」を継続し、およそ月 1 回のペースで定例会を実施した。大学生向けに泉中央地区の情報を発信するマップ作成を計画し、マップ作成に向けて勉強会を企画したり、フィールドワークを実施したりした。8 月には石巻市を訪問し、まちづくりやフィールドワークについての研修を行った。研修で学んだ成果をその後のフィールドワークや新たな課題設定などの活動につなげることができた。また、広報活動においては、受講生が Instagram や Facebook を活用し、自分たちの活動に関する情報発信を行った。SNS の活用は新規参加者の獲得にもつながった。

受講生は、自分たちに足りない部分を補い、今後事業を展開していく上で必要となる知識を得るため、積極的に学ぼうとする姿勢が見られた。年度末に振り返りを行った際には、多角的な視点で地域課題を考え意見を交流させることに楽しさを感じ、今後もさらに地域と向き合っていきたいと考える受講生が多くいた。また身近な地域の課題について自分事として捉えるようになったと感じている受講生も多かった。

⑥ 「若者社会参画型学習推進事業」にかかる支援

＜生涯学習支援センター＞

(ア) 方向性を確認する会

(R4/4/14(木)15:30～17:15　参加者：各区中央市民センター事業担当者等 6 名)

生涯学習支援センター・各区中央市民センターの事業担当者を対象に、年度初めに際し、今年度の実施予定事業についての情報交換や、今後の事業展開の見通しについて意見交換を行った。

(イ) 若者事業参加者交流会

(R4/7/31(土)12:15～15:20　参加者：各区若者事業参加者、関連団体 8 名)

各区若者事業参加者に、㈱ユーメディアが運営する学生団体 COLORWeb 学生編集部の参加者も加え実施した。

震災遺構仙台市立荒浜小学校の見学、海辺の図書館庄司隆弘氏の講話、親水イベント「荒浜の夏、ふたたび海へ」での交流を行った。

（2）住民参画・問題解決型学習推進事業

各区中央市民センターのコーディネートのもと、住民と市民センターの協働により地域課題を発見し、その課題解決への取り組みを学び、実践する事業である。

平成 23 年度から実施しており、地区市民センターとも共催しながら事業を展開している。

【各区中央市民センターにおける受講者数等一覧】

区	受講者数	受講者延人数	イベント参加者数	受講者内訳
青葉区	116	589	3,295	宮城西 28、落合 12、 大沢 17、吉成 17、 折立 42
宮城野区	43	289	259	榴ケ岡 11、幸町 11、 岩切 21
若林区	40	235	841	六郷 12、若林 25 沖野 3
太白区	72	375	4,521	太白区中央 21、山田 21、 茂庭台 12、富沢 18
泉区	62	428	171	泉区中央 13、根白石 12、 南光台 5、松陵 9、桂 9、 南中山 14

① 地域元気クラブ

＜青葉区中央市民センター＞

受講生が講座を通じて得た学びやネットワークを生かして、地域の資源や人材を活用し、地域活性化のための企画を提案・実践していくことを通し、地域を元気にするノウハウについて学びを深めることができた。企画する事業への参加者が増えたり、学校をはじめとする地域の諸団体と連携する機会が増えたりするなど、地域づくりにつながるネットワークの構築が進んでいる。

大倉ダムの魅力発信事業「鯉のぼり×大倉ダム」（宮城西市民センター）は、令和 4 年 5 月 3 日から 5 日まで、大倉ダム下公園を会場に開催した。地元の漫画家に依頼して、これまでの印刷物を地域の伝説にまつわるデザインに変更した。ほのぼのとした温かいデザインが大変好評で、そのデザインを生かして、記念撮影用パネルの設置、来場記念しおりの制作・配付などを行った。また、キッチンカーを導入して賑わいの創出を図った。

ふるさと落合栗生地元塾（落合市民センター）では、史跡や JR 陸前落合駅前に建てた総合案内板の内容を盛り込んだ、今までの 6 年間の学習の総まとめとなる総合リーフレットを作成した。また、小学校や児童館、さらには地域団体を対象に、地域の歴史や史跡等をガイドする歴史案内ボランティアとしての活動も行った。

国見ケ丘・吉成・南吉成地域の魅力再発見（吉成市民センター）では、青陵の森の自然観察会やまち歩きなどを積極的に行った。地域の小学校の地域学習で、臨済院地内弁財天堂や芋沢街道を子どもたちに案内するなど、地域講師としても活躍した。

折立素敵物語「ライトアートin折立」（折立市民センター）では、折立小学校、折立幼

稚園、折立保育所の子ども達がペットボトルランタンに絵付し、中学生企画員 11 名は、来場する子ども達が楽しむ工夫としてクイズラリーを企画した。地域住民による運営委員のほか、折立小学校 PTA、大学生ボランティアなど総勢約 100 名のスタッフが関わり、回を重ねるごとに地域の盛り上がりが増している。

大沢・川前地域交流ネット「あがれ！天旗」（大沢市民センター）では、天旗作製キットの配付と、凧の作り方と凧あげの PR 動画の YouTube 配信を行った。また、新型コロナウイルス感染症拡大により中止していた児童館・市民センターでの凧作り講座も 3 年ぶりに実施した。令和 5 年 1 月 15 日に開催した「するめ天旗をあげよう！」には、実行委員含め計 157 名が参加した。

② 地域の魅力発信プロジェクト

＜宮城野区中央市民センター＞

榴ケ岡市民センター、幸町市民センター、岩切市民センターと連携しながら、住民がこれまで以上に地域づくりに関心を持ち、地域の課題や将来像を共有できるようにするためのワークショップやフィールドワーク等を展開する講座を行った。

「東口ゆうえんち」（榴ケ岡市民センター）は、子どもが安全安心に遊ぶことのできる機会や場を提供することを目的に、社会人や大学生のボランティアスタッフが集まって運営している事業である。令和 4 年度は、開催できたイベントは「真冬のおばけやしき」のみであったが、暗幕を張らない、台車をトロッコに見立てて会場を回るなど、コロナ禍での新たな方式を工夫した。参加した子どもたちを本気で怖がらせるアイデアでイベントは盛り上がり、企画員と子どもたち、また企画員同士での世代間交流が和やかに行われた。

「枡江の森 魅力発信プロジェクト」（幸町市民センター）は、企画員が森の達人を目指しながら、枡江の森の魅力を発信するため、森に関連したイベントの企画・運営・報告を行う事業である。令和 4 年度は、「森においでよ！森に親しむ・森で親しむ」をキャッチコピーにして、「五感を使った森の楽しみ方」を検討。野外イベントを実践している人材や団体を講師に迎え、「森の中で深呼吸＆ストレッチ」「秋の森あそびとかまどでたき火」などのイベントを開催した。また、インタープリター（その場所の自然や歴史文化などを伝え、より良い関わり方を促す役割）について学ぶ研修会を実施し、企画員の森の魅力を伝える知識を深めた。

「子どもの広場（居場所）づくりボランティア」（岩切市民センター）は、子どもの遊びや体験を支え、子どもを見守るネットワークづくりを目指す事業である。令和 4 年度は月 1 回を基本として「子どもの広場で遊ぼう！」を 7 回開催、延べ 180 名を超える子どもたちの来場があった。チーム名「岩切子どもの広場ボランティア」の入った揃いのスタッフビブスを着用して活動することで、ボランティア同士の横のつながり意識が高まり、一層の一体感を持って活動することができた。本事業を通してつながりのできたボランティアの方々は、今後、市民センターで実施する講座の中で講師やボランティアスタッフとして活動する予定で、地域の子どもたちを見守る貴重な人材としての役割も期待されている。

③ 地域の担い手育成「わかばやしふるさとプロジェクト」

＜若林区中央市民センター＞

各地区館と共催して、地域住民が課題と向き合い解決を目指す取り組みを支援した。

「わたしのふるさとプロジェクト」（六郷市民センター）では、東日本大震災以来、六郷東部地区の復興をテーマにコミュニティやにぎわいの再生に向けた活動に取り組んできた。令和 4 年度は、コロナ禍のため中止となった東六郷コミュニティ広場オープンを祝うイベントを、8 月に東六郷コミュニティ・センターにおいて実施した。1 月には、第 8 回目となる「ふるさとにつどう鎮魂の花火」を実施した。定例会を毎月開催し、企画員が話し合いながら当地域の「にぎわい再生」「交流」「再会」「復興の歩みや震災記憶の発信」について取り組んだ。

「若林ウィメンズオープンカフェ」（若林市民センター）では、人生の後半を迎える年代の女性を対象に、一人ひとりが生きがいをもって主体的に生きるとともに、地域における様々な活動において重要な担い手として活躍することができるような人材育成を目指し、講座を実施した。令和 4 年度は、「つなげようみんなの WA」のテーマにそって、メンバーがこれまで学んできた内容を生かして講座を企画開催し、地域と交流を図ることができた。

「集まれ！わんぱくキッズ～お父さん出番です～」（沖野市民センター）では、沖野東小学校、沖野小学校それぞれのおやじの会と市民センターが共催で、児童向け講座「スポーツ鬼ごっこ大会」「天体観望会」「ドッヂビー大会」などの企画・運営を行った。親子同士の交流の場を提供し、地域活性化に繋げることができた。おやじの会メンバーも沢山の経験を積み、子どもたちが喜ぶ事業を企画・運営する技術を高めた。

④ 太白おとなのチカラ

＜太白区中央市民センター＞

太白区中央市民センター（拠点館）の「太白おやじネットワーク事業」では、太白区内各小中学校に在籍する児童・生徒の保護者を中心に構成する通称「おやじの会」の活動を支援することにより、若い世代の地域づくり活動への参画機会の充実と地域づくり活動の活性化を図る取り組みを進めている。

令和 4 年度は、太白区内のおやじの会ネットワークと、太白区中央市民センターの共催事業として毎年取り組んでいる、主に小学生を対象としたスポーツイベント「長町秋のフェスティバル 2022～スポフェス縁日～」を開催した。ゼビオアリーナ仙台を会場に、ニュースポーツや縁日など、6 つのブースを設置して約 1,500 人の親子に楽しんでもらうことができた。そして、本イベントを開催するための会議や当日の運営などを通して、これまで築いてきた地域ネットワークの関係をさらに深めることができた。

また、区内地区館 3 館と共催し、地域課題解決につながる活動に取り組んできた。山田市民センターの「楽元の森プロジェクト」、茂庭台市民センターの「『みんなの広場』プロジェクト」、富沢市民センターの「パワフルとみざわネットワーク」は、これまで積み重ねてきた実績を基に、コロナ禍においても地域課題解決へ向けた工夫を凝らしながら引き続き事業を実施した。

⑤ 地域いきいきプロジェクト

＜泉区中央市民センター＞

区内地区館 6 館との共催により、区拠点館として事業の実施・運営に関する助言、事業成果の情報発信等を行い、地域特性に応じながら住民と各地区館職員が協働で地域課題を発見し解決につながる活動の実践を推進した。

泉区中央市民センター（地区館）の「いずみ探訪－地域案内人養成講座 地域いきいきプロジェクト」では、まち歩きによる住民へのインタビューや模擬案内、座学、グループワークの成果を生かし、マップを作成した。根白石市民センターの「かむりの里いきいきプロジェクト」では、「お寺で禅クラフト」や「節分だよ、KAMURI 豆つかみ王決定戦」などの企画講座を実施した。また、企画員による任意団体が設立され、自主企画イベント「IZUMI コメフェス」の開催に至った。南光台市民センターの「地域いきいきプロジェクト みせましょう！おやじの力」では、「沢のぼり泉ヶ岳」や「やってみよう！フットゴルフ」、「ちゃれんじ！昔遊び」などの企画講座を実施した。松陵市民センターの「松陵の丘つながるプロジェクト」では、令和 3 年度に作成したサロン紹介パンフレット等をもとに、参加者同士の情報交換が進んだ。令和 4 年度は新たに 3 団体を加えたパンフレットを作成した。桂市民センターの「かつら情報局」では、桂地区社会福祉協議会と共催し「ハンドクリームづくり」や「賢く使おうスマートフォン～買い物編～」といった企画講座を実施した。南中山市民センターの「地域いきいき いずみ中山ふれあいプロジェクト」では、地域を知るためのウオーキングマップを作成した。

⑥ 「住民参画・問題解決型学習推進事業」にかかる支援

＜生涯学習支援センター＞

各区中央市民センターで実施している本事業の担当者を対象とした研修会等を実施し、各区の事業推進を支援した。

(ア) 方向性を確認する会①

(R4/4/7(木)15:30～17:15　参加者：各区中央市民センター事業担当者等 19 名)

生涯学習支援センター・各区中央市民センターの事業担当者を対象に、年度初めに際し、今年度の実施予定事業についての情報交換や、今後の事業展開の見通しについて意見交換を行った。

(イ) 方向性を確認する会②

(R4/7/14(木)15:30～17:15　参加者：各区中央市民センター子ども事業担当者等 15 名)

生涯学習支援センター・各区中央市民センターにおける事業の取り組み状況の報告と今後の予定などの情報の共有化を図り、今後の事業展開の参考とするために実施した。

(ウ) パンフレットの発行

市民や関係機関に向け、住民参画・問題解決型学習推進事業の啓発のため、令和 5 年 3 月に発行した。1,500 部作成し、市民向けに市民センター等に配架するとともに、市内各小中学校にも配布した。

（3）子ども参画型社会創造支援事業

小学校中学年の児童から中学校・高等学校の生徒まで、子どもたちがそれぞれに地域社会の構成員としての意識を育みながら成長していくことを目指し、子どもたち自身が主体的に参画し、子どもならではの役割と可能性を自由に発揮できる事業である。

平成 23 年度から実施しており、各区中央市民センターを中心に、地区市民センターとも共催しながら事業展開を図っている。

【各区中央市民センターにおける受講者数等一覧】

区	受講者数	受講者延人数	イベント参加者数	受講者内訳
青葉区	51	306	363	幼児、小・中学生、高校生
宮城野区	84	633	247	小・中学生、※大学生
若林区	34	316	21	小・中学生
太白区	26	232	100	小学生・中学生
泉区	72	315	52	小・中学生

※宮城野区の大学生はアシスタントとして参加

① 地域盛り上げ隊

＜青葉区中央市民センター＞

4 つの地区館と共催で事業を実施している。

青葉区中央市民センター（地区館）では、合築する東二番丁小学校から参加者を募集し、「東二小やる気キッズ」を実施した。メンバーの興味・関心に基づき、「地域が元気になる活動」を考え、参加者自身が主体となって事業を展開している。活動を通して、参加者が様々なものの見方や考え方を学び、地域に対する思いを高めることを目指している。令和 4 年度は「ハロウィンスポーツパーティ」を企画・運営した。

木町通市民センターでは、木町通小学校、第二中学校の児童・生徒から企画員を募り、「北三番丁公園で遊ぼう！」を実施した。子供たちがのびのび遊べる場を作ることを目的に、地域資源である北三番丁公園を活用した謎解きイベント「北三クエスト」を企画・運営した。地域のボランティア団体と連携してイベントを実施することで、世代間交流を図るとともに、地域活動への興味・関心が高まった。

中山市民センターでは、仙台青陵中等教育学校の生徒から企画員を募り、地域の小学生を対象とした講座を企画・運営する「中山キッズ」を実施した。本事業は、令和 3 年度まで拠点館が行ってきた「青陵インパクト」を融合・発展させた事業である。地域の小学生を対象に、学校では経験することが難しい体験の場を提供することで、豊かな知識と健やかな育ちを支える一助とするとともに、地域に関心を持ち、地域を支える次世代の人材育成を目指している。

宮城西市民センターでは、上愛子小学校の児童を対象とした「ゆうゆうの森プロジェクト」を実施した。上愛子小学校に隣接する「ゆうゆうの森」での活動を通して、里山の利用と再生の仕組みを学びながら地域に関心を持ち、活躍する人材の育成を目指す事業である。令和 4 年度は、植生観察会やクラフト体験を実施した。

なお、拠点館では、自分の住む地域に愛着を持ち、地域活動に関心を持つきっかけづく

りとなることを目指し、区内の小・中学生を対象に「あなたのまちの『未来予想図』」絵画コンクールを実施した。令和 4 年度は 26 点が集まった。

② 宮城野区子ども参画プロジェクト

＜宮城野区中央市民センター＞

3 つの地区館と共催し、子どもたち目線で地域課題を考えたり、それぞれの地域を盛り上げる企画を提案したりした。子どもたちが地域の市民センターに自分たちの活動拠点を設け、イベント企画や情報収集・発信の活動によって地域とつながり、社会に参画していくきっかけづくりとなった。

宮城野区中央市民センター（地区館）では、原町小・宮城野小・東宮城野小児童を対象とした、「キッズもりあげ隊」を実施している。令和 4 年度は 16 人で活動し、地域を盛り上げるために何ができるかを子どもたちが考え、様々な取り組みを行った。原町商店街の方や、各小学校の先生方のサポートをいただきながら月 1 回ぐらいのペースで地域のために活動した。なお、若者同士のつながりや新たな活動の機会づくりのため、毎回、まちづくりや子どもたちの活動に関心のある大学生もスタッフとして参加し、子どもたちの活動支援を行っている。

鶴ケ谷市民センターでは、中学校の部活動顧問や学校支援地域本部のスーパーバイザーと連携し、鶴谷中学校美術部の生徒が企画の中心となり、「つるっこ画樹園！～実れ鶴心～」を実施した。中学生たちは、地域の魅力的なスポットを透明水彩画で表現し、「杜の美術フォース展」を企画・運営した。

田子市民センターでは、田子中生「福田町駅未来構想」を実施した。この事業は、中学生が JR 仙石線福田町駅の移設計画に合わせて地域課題を共有し、新しい福田町駅とその周辺環境に建設的な意見を提案するものである。中学生は、ワークショップ形式で地域課題を考え、その改善案をつくる活動を通して、地域への理解が深まった。

③ 若林区子ども参画・ボランティア事業

＜若林区中央市民センター＞

若林区中央市民センター（拠点館）では、チャイルドボランティア「チャボ！」を平成 23 年度より継続実施している。これは、子どもたちに地域でのボランティア活動の機会を作ったり、子ども自身が「地域のためにできること」を企画・実施する活動をしたりすることで、自分の存在の大切さを実感するとともに、将来、社会・地域にその一員として積極的に関わることができるようにしていく事業である。対象は当センター近隣の小学 4 年生から中学生。地域の団体や施設などの協力を得て、一年を通して月 1、2 回活動しており、令和 4 年度は、地域清掃、沿岸地域での育樹活動、高齢の方に届ける宅配弁当に添える手紙書きなどの活動を行った。「子どもたちにだってできることはある」を合言葉に、自分たちにできるボランティアを続けている。

六郷市民センターでは、「めざせ YouTuber～六郷のよさ発見隊～」を実施した。六郷地区の小学生が対象で、個々の興味対象を取材し、動画編集・情報発信するまでを目的としている。参加者の興味を尊重し、海の生き物や井土メダカ、地域の食について等、幅広い

内容について学んだ。また、地域住民との交流やふるさとの魅力を知る機会にもなった。動画の編集後は、関係者や保護者に向けた発表会を行った。ひと・まちチャンネル、市民センターチャンネルにアップロードをする予定である。

④ たいはくキッズリーダー育成事業

＜太白区中央市民センター＞

「にしたがキッズ情報局」は、西多賀市民センターとの共催により、近隣小学校3校から参加児童を募集して地域の魅力を取材し、シナリオを作成して、エフエムたいはくのラジオで発信するという事業内容である。令和4年度は地元にある「三神峯古墳」について地域の方にお話聞いたり、現地を取材したりしてラジオ収録するなど、全5回の活動を行った。エフエムたいはくのキッズアナウンサーとして、また、地域のキッズリーダーとして、市民センターを拠点に活動することにより、地域のさまざまな方と交流することができた。また、番組制作を通して、地域の良さを再発見することができ、自分たちの地域をもっと調べて発信したいという意欲につながった。

令和3年度より新たにスタートした「ぼくらの長町黄援隊！」は、主に長町エリアの小中学校7校から参加児童を募集し、仙台89ERSと協力して地元長町と仙台89ERSを元気に盛り上げる活動を行う事業内容である。令和4年度は、参加児童・生徒が仙台89ERSの選手や長町商店街の方にインタビューを実施。インタビューから分かったことや自分で調べたことを元に一人一人がオリジナルのクイズを作成し、ララガーデンやゼビオアリーナ仙台、カメイアリーナ仙台を会場に、長町や仙台89ERSに関する地域クイズの出題を通して来場者と交流した。最終回でのアンケートからは「周りの人とのコミュニケーション力が向上した」「人前で積極的に話せるようになった」「もっと長町商店街の方々との交流を深めたい」といった感想が述べられ、関わる力や伝える力、長町を一層盛り上げたいという意欲が高まった様子がうかがえた。

⑤ 子どもまちづくり企画室

＜泉区中央市民センター＞

南光台市民センター「元気なまちづくり応援団Ⅱ」と桂市民センター「子ども企画会議」を支援し、企画員の小・中学生への助言や物品の購入、企画イベント当日の運営補助などを行い、地域を舞台とした子ども参画型社会創造支援事業を推進した。

南光台市民センター「元気なまちづくり応援団Ⅱ」では、6月から南光台中生徒6人による企画員会議を行い、12月に「南光台FUNタイム～ニュースポーツに挑戦！」を開催した。また、2月には南光台東小学校5年生の総合的な学習の時間と連携した「地域スタンプラリー」を開催した。南光台地区を分析し、地域の発展と活性化につながる活動を子どもたちなりに企画し実施していくことで地域の未来を担う次世代を育成した。

桂市民センター「子ども企画会議」では、桂小学校児童4人が企画員となり、市民センターや児童館の他事業例を学びながら、1月に「桂でチャレンジお正月を楽しもう」を開催した。企画員として実践演習や企画会を重ね、集団遊びや体験を通じて人と交流する楽しさを知ってもらい、コミュニケーション能力や社会性が育つ機会となった。

⑥　「子ども参画型社会創造支援事業」にかかる支援

＜生涯学習支援センター＞

各区中央市民センターで実施している本事業の担当者を対象とした報告会等を実施し、各区の事業推進を支援した。

（ア）方向性を確認する会①

（R4/4/7(木)15:30～17:15　参加者：各区中央市民センター子ども事業担当者等 19 名）

生涯学習支援センター・各区中央市民センターの事業担当者を対象に、年度初めに際し、実施計画をもとに情報交換を行い、今年度の事業展開について見通しを持つことを目的として実施した。

（イ）方向性を確認する会②

（R4/6/9(木)15:30～17:15　参加者：各区中央市民センター子ども事業担当者等 18 名）

生涯学習支援センター・各区中央市民センターの事業担当者を対象に、情報交換と地区市民センターへの事業支援の在り方に関する検討を行うことにより、事業内容をブラッシュアップし、効果的な事業展開を推進することを目的として実施した。

（ウ）リーフレットの発行

地区市民センター及び仙台市内の小中学校に向けて、子ども参画型社会創造支援事業の啓発のため、令和５年３月に発行した。事業に参加している子どもの声を取り上げるなど、学校教職員など子どもと関わる方々の理解が得られるような内容として 1,900 部作成し、地区市民センター職員と市内小中学校、高等学校、中等教育学校、各小中学校の PTA に配付した。

（４）仙台市市民センター　子ども・若者・大人事業成果報告会

＜生涯学習支援センター＞

子ども・若者・大人事業についての理解を深め、自館の事業に生かす視点を育むこと、発表や交流を通じて事業参加者や市民センター職員の意欲の向上を図ること、市民センターにおける主体的な生涯学習活動に対する市民の関心を高めることの 3 点を目標として、生涯学習支援センターを会場に、各市民センターの特色ある取り組みのステージ発表や、ポスターを展示し紹介した。

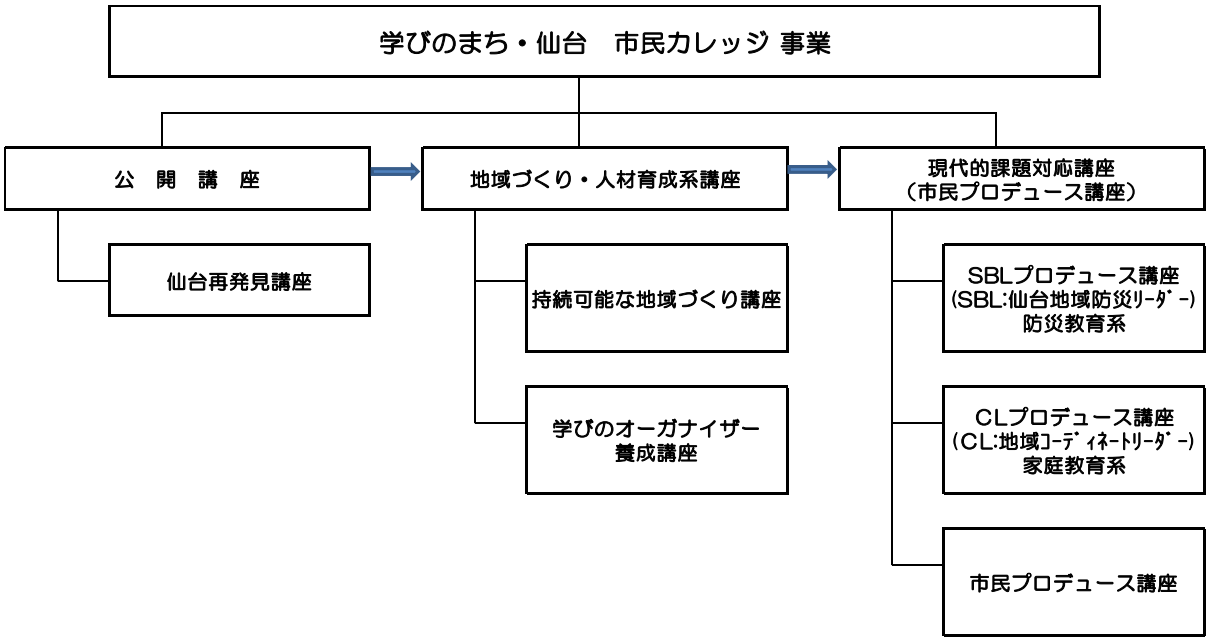
開催日：令和 5 年 1 月 22 日(日)

参加者：市民 77 名　市民センター職員 68 名　行政・教育関係職員 23 名

（5）学びのまち・仙台 市民カレッジ事業

＜生涯学習支援センター＞

本市における生涯学習の支援拠点として、全市域の市民を対象に、地域資源や地域課題、現代的課題等をテーマに、専門的で質の高い学習の機会を提供することで、地域づくりを牽引する人材の育成を目指すとともに、学習成果が地域や社会に還元されるような仕組みづくりを進める。



①　公開講座

仙台の従来気付かなかった側面を改めて見出すことを共通テーマに、歴史、文化、仙台の原風景等それぞれの専門家による講座を実施した。

【仙台再発見講座　３回連続講座】

回	開催日	概　　要	受講者
1	5/21(土) 14:00～16:00	講話「仙台・江戸学が伝える仙台の魅力」 仙台・江戸学実行委員会　代表　小野目　博昭 氏	57
2	6/4(土) 14:00～16:00	講話「仙台箪笥が今に伝える職人の粋」 仙台箪笥協同組合　副理事長　長谷部　嘉勝 氏	56
3	6/18(土) 14:00～16:00	講話「タウン誌で見る仙台・街の変遷」 株式会社プレスアート　地域メディア局長　川元　茂 氏	55

②　地域づくり・人材育成系講座

地域づくりに関する専門性を高める学習の場を提供することで、身近な地域をより良くするため主体的に行動するとともに、中核となって地域を支える人材の育成を図る。

（ア）持続可能な地域づくり講座

持続可能な地域づくりに関する学びを提供することで、受講者が、現代的な課題を受講者自身の事として捉えようとする意識を醸成することをねらいとして実施した。

回	開催日	概　　要	受講者
1	7/2(土) 14:00～16:00	講話「SDGs と市民活動～私たちにできる SDGs～」 尚絅学院大学　進路就職課　就職専門監　中村　節子　氏	35
2	7/16(土) 14:00～16:00	講話「聖火の燃料は「生ごみ」？～循環型社会とバイオガス～」 東北大学　農学研究科　准教授　多田　千佳　氏	26
3	7/30(土) 14:00～16:00	講話「食糧支援と生活相談をおこなうフードバンク仙台～困窮の原因と SDGs～」 フードバンク仙台　代表　小椋　亘　氏	26

（イ）学びのオーガナイザー養成講座

地域の活動に参加するために必要なスキルを身に付けるとともに、自分の良さや強みを知り、それらを生かしながら地域で主体的に活動しようとする人材を育成することをねらいとして実施した。

回	開催日	概　　要	受講者
1	11/2(水) 18:30～20:30	講話「知る～コピーライターってどんな仕事？～」 コピーライター　鎌田　高広　氏	34
2	11/9(水) 18:30～20:30	講話「創る～実際にコピーを書いてみよう～」 コピーライター　鎌田　高広　氏	31
3	11/16(水) 18:30～20:30	講話「伝える～たくさんの人たちに伝えるには～」 コピーライター　鎌田　高広　氏	28

③　現代的課題対応講座（市民プロデュース講座）

市民センターの講座等の受講生や市内で活動する団体等が、身近な地域をより良くするために、学びや専門性を生かして講座の企画やコーディネートを行い、他の市民とともに専門的な講話やワークショップから学ぶ。仙台市地域防災リーダー（SBL）、学校支援地域本部のスーパーバイザーやコーディネーター等の地域コーディネートリーダー（CL）、社会教育実習に参加した大学生有志の企画・運営による講座を実施した。

（ア）ＳＢＬプロデュース講座　「防災・減災講座」　５回連続講座

回	開催日	概　　要	受講者
1	10/22(土) 14:00～16:00	講話「自然と人間の関わりから考える防災・減災―グローカルな視点を養う」 宮城教育大学防災教育研修機構　小田　隆史　氏	26
2	10/29(土) 14:00～16:00	講話「そだてよう BOSAI の種！」 エフエム仙台防災・減災プロデューサー　板橋　恵子　氏	22
3	11/5(土) 14:00～16:00	講話「誰でも実践できるこころのケア」 岡山大学医学部保健学科　教授　原田　奈穂子　氏	34
4	11/19(土) 14:00～16:00	講話「地形から見た新しい地域防災のあり方とは」 東北福祉大学健康科学部　専任講師　水本　匡起　氏	24
5	12/10(土) 14:00～16:00	講話「ハザードマップの読み方」 元山形大学大学院　教授　村山　良之　氏	26

（イ）ＣＬプロデュース講座　「子どもの『こころ』のアレやコレ」　２回連続講座

回	開催日	概　　要	受講者
1	11/25(金) 10:00～12:00	講話「発達障害のある子どもの子育て～保育、教育、親支援と切れ目のない支援の実際」 宮城学院女子大学教育学部　教授　白石　雅一　氏	35
2	12/2(金) 10:00～12:00	講話「自分らしく生きる～体験や事例から発達障害の特性を考える」 認定 NPO 法人みやぎ発達障害サポートネット 代表理事　相馬　潤子　氏	32

（ウ）市民プロデュース講座　「街巡りフォトグラマーto 寺 cafe」

回	開催日	概　　要	受講者
1	12/11(日) 13:00～16:30	街巡りフォトグラマーto 寺 cafe	28

２　広域規模の学習支援

（１）高等学校開放講座

＜生涯学習支援センター＞

高等学校の持つ教育機能を生かし、市民の生活上・職業上の専門知識・技能及び一般教養の修得を図る。【昭和 51 年度開始　市立高校 5 校・5 講座、受講者 44 名、延 77 名】

学校名	講座名	内容	実施日	受講者
仙台青陵中等教育学校	自動で走るロボットを作ろう	レゴ®マインドストームを使って、自走するロボットを作る。	10/8(土) 10/15（土）	10
仙台大志高校	ハロウィンを体験しよう　クリスマスを体験しよう	ハロウィンとクリスマスの歴史を英語で学び、グッズを作る。	10/8(土)	5
仙台高校	環境にやさしい再生紙で作るおしゃれなかご雑貨	再生紙の紙バンドを使って、ワンハンドルのかごを作る。	7/30(土)～ 7/31(日)	7
仙台工業高校	夏休み親子ものづくり教室　自分だけのペーパーナイフをつくろう	刀をつくる製法である鍛造により、丸い鉄の棒からペーパーナイフを作る。	7/30(土)	6
仙台商業高校	表計算入門『エクセル基礎講座』	表計算ソフト「エクセル」の基礎から、表計算・表の作成・関数・グラフの作成等を学ぶ。	11/19(土)～ 11/20(日)	16

（2）若い青年教室

＜生涯学習支援センター＞

仙台市内に在住又は勤務している知的障害のある青年に対し、仲間づくりや生活上の基本的知識・技能の習得に役立つ活動を展開することを目的として、学習機会を提供する事業を行った。【昭和 45 年度開設、令和 4 年度末教室生 30 名】

主な活動内容	実施回数	延参加者
① 4/24(日)　開講式・映画鑑賞会 ② 6/12(日)　レクリエーション大会 ③ 7/3(日)　コース別活動①・七夕飾り作り ④ 10/23(日) 秋のハイキング ⑤ 11/20(日) コース別活動② ⑥ 12/18(日) クリスマス会 ⑦ 1/29(日)　節分フェスティバル ⑧ 2/19(日)　卒業式・閉校式／コース別活動発表会 ①～③、⑤～⑧は青葉区中央市民センターを会場に開催した。 ④は松島、日和山等にて館外活動を行った。	8	151

（3）仙台明治青年大学

＜生涯学習支援センター＞

地区市民センターの老壮大学やシルバーセンターのせんだい豊齢学園等を修了した 61 歳以上の高齢者が「生きがいと自己実現」を図ることを目的として活動している。

主な活動として、学習会では文化・歴史・健康・科学・防災など、幅広いテーマに基づき外部講師を招聘し実施している。また、同期会、クラブ活動、ボランティア活動も盛んに行われており、クラブ活動や個人の日頃の活動の成果を発表する場として、年１回大学祭を開催している。大学の運営や行事はホームページにて公開されており、広報活動も積極的に行っている。

本学は昭和 41 年に開設され、令和 5 年度に創立 57 周年を迎える。

（年度別在籍者数の推移）

年　度	H30	R 元	R2	R3	R4
新入生数	74	68	60	55	43
在籍者総数	821	824	807	800	708

（学習会開催状況）

年　度	H30	R 元	R2	R3	R4
実施回数	20	19	14	19	12
延参加者数	11,989	11,593	3,609	6,576	5,587

（4）仙台自主夜間中学

「仙台自主夜間中学」（主催：仙台自主夜間中学（「仙台に夜間中学をつくり育てる会」から令和 3 年 5 月に名称変更））を仙台市教育委員会との共催事業と位置付け、一部会場の提供、チラシ配布による広報支援等を行った。

第 1･3 水曜日　昼間部開講 23 回（会場:仙台市市民活動サポートセンター）
第 1･3 水曜日、第 2･4 金曜日　夜間部開講 44 回（会場：生涯学習支援センター）
参加者延数　1,972 人（生徒 824 人　スタッフ 1,030 人　見学等 118 人）
令和 5 年 3 月末実数　生徒 37 人　スタッフ 38 人

３　人材育成

（１）職員研修（学びを支える人材育成推進事業）

＜生涯学習支援センター＞

市民センター全 60 館ならびに 19 カ所の社会教育施設等の職員が、生涯学習事業の推進に必要な知識や考え方を深められるようにするとともに、社会の変化や市民ニーズに迅速かつ柔軟に対応しながら、積極的に市民や地域と連携を図ることができる専門性やスキルを身に付けられるようにする。

区分	受講対象	研修名と概要	受講者
基礎研修	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員（博物館、科学館、図書館、天文台、大倉ふるさとセンター、オーエンス泉岳自然ふれあい館、仙台ひと・まち交流財団、仙台市市民文化事業団、防災環境都市推進室 震災遺構荒浜小学校） ・関係課職員	**◇社会教育施設等新任職員研修【全１回】** 5/26（木）14:00～17:00 ◎講話「社会教育職員に求められるもの」 東北大学大学院　教育学研究科 准教授　松本　大　氏	46
		◇社会教育施設等職員資質向上研修【全３回】 **＜第１回＞**　7/8（金）14:00～17:00 ◎講話「学習支援者としてのあり方」 東北大学　高度教養教育・学生支援機構 准教授　佐藤　智子　氏 ◎グループワーク	25
		＜第２回＞　10/6（木）14:00～17:00 ◎講話「学びのオーガナイザーとしての役割」 文教大学　准教授　青山　鉄兵　氏 ◎グループワーク	16
		＜第３回＞　12/1（木）14:00～17:00 ◎講話「社会教育と評価の方法」 特定非営利活動法人 教育支援協会 代表理事　吉田　博彦　氏 ◎グループワーク	13
	・市民センター職員	**◇市民センター新任職員研修【全１回】** 4/21（木）14:00～17:00 ◎講話１　「市民センターの概要」 ◎講話２　「学校との連携について」 ◎講話３　「市民参画型事業について」 ◎講話４　「ジュニアリーダー育成支援について」 ◎講話５　「職員研修について」 以上、生涯学習支援センター職員 ◎講話６　「新任職員への期待」 東北学院大学　名誉教授　水谷　修　氏	30

区分	受講対象	研修名と概要	受講者
基礎研修	・市民センター館長	**◇市民センター館長研修【全１回】** 8/25（木）14:00～17:00 ◎講話「ひとと地域が活きるために・・市民センターの役割」 まちづくりアドバイザー　遠藤　智栄　氏	54
	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員 ・関係課職員	**◇現代的課題対応研修【全２回】** **＜第１回＞** 6/24（金）14:00～17:00 ◎講話「障害者の学びの場づくりをいかに進めるか」 神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 教授　津田　英二　氏 NPO 法人　エイブル・アート・ジャパン 伊藤　光栄　氏 ◎グループワーク **＜第２回＞** 2/2（木）14:00～17:00 （※対面式とオンライン形式とのハイブリッド開催） ◎講話「社会教育施設における ICT 活用の可能性について」 長崎北公民館　館長　出口　亮太　氏	27 43
応用研修	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員 ・関係課職員	**◇ファシリテーション研修（基礎編）【全３回】** **＜第１回＞** 8/19（金）14:00～17:00 ◎講話とワークショップ 「ファシリテーション入門」 地域社会デザイン・ラボ　代表　遠藤　智栄　氏 **＜第２回＞** 9/30（金）14:00～17:00 ◎講話とワークショップ 「ワークショップ体験とファシリテーション」 地域社会デザイン・ラボ　代表　遠藤　智栄　氏 **＜第３回＞** 11/2（火）14:00～17:00 ◎講話とワークショップ 「会議でのファシリテーション」 地域社会デザイン・ラボ　代表　遠藤　智栄　氏	12 18 18

区分	受講対象	研修名と概要	受講者
応用研修	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員 ・関係課職員	**◇ファシリテーション研修（応用編）【全２回】** **＜第１回＞** 12/22（木）14:00～17:00 ◎講話とワークショップ 「お悩み解決アイディアセッション（前編）」 地域社会デザイン・ラボ　代表　遠藤　智栄　氏 **＜第２回＞** 2/10（金）14:00～17:00 ◎講話とワークショップ 「お悩み解決アイディアセッション（後編）」 地域社会デザイン・ラボ　代表　遠藤　智栄　氏	6 4
応用研修	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員 ・関係課職員	**◇講座企画研修（基礎）【全１回】** 6/10（金）14:00～17:00 ◎講話とワークショップ 尚絅学院大学　教授　松田　道雄　氏	11
	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員 ・関係課職員	**◇講座企画研修（応用）【全２回】** **＜第１回＞** 9/9（金）14:00～17:00 ◎講話とワークショップ 尚絅学院大学　教授　松田　道雄　氏 **＜第２回＞** 11/9（水）14:00～17:00 ◎講話とワークショップ 尚絅学院大学　教授　松田　道雄　氏	11 10
	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員 ・関係課職員	**◇広報企画研修【全１回】** 9/22（木）14:00～17:00 ◎講話とグループワーク 「効果的な情報発信と広報戦略について」 仙台市市民活動サポートセンター 副センター長　松村　翔子　氏	8
社会教育研修	・生涯学習支援センター、各区中央市民センター等に所属する社会教育主事等教育局職員	**◇社会教育推進研修【全１回】** 6/16（木）14:15～17:15 ◎講話「社会教育主事のキャリアは社会デザインに寄与するか？」 放送大学 教授　岩崎　久美子　氏 ◎グループワーク	19

区分	受講対象	研修名と概要	受講者
社会教育研修	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員 ・地域連携担当教員 ・嘱託社会教育主事 ・関係課職員 ・関係教員	**◇学校との連携・協働研修【全１回】** 10/21（金）14:00～16:45 ◎講話「コミュニティ・スクールの可能性 ～コミュニティ・スクール導入後の変化を中心に～」 栃木市地域政策課社会教育指導員 鈴木　廣志　氏 ◎グループワーク	122
	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員 ・関係課職員 ・希望する市民	**◇学びの還元（ボランティア）研修【全１回】** 11/26（土）14:00～17:00 「スポーツボランティアの活動を知る！」 ◎講話「【せんだいスポーツボランティアステーション】の取り組みと施設案内ボランティアの誕生まで」 スポーツコミッションせんだい 亀井　博行　氏 「市民スポーツボランティア SV2004 について」 市民スポーツボランティア SV2004 佐藤　司　氏 「施設ガイドボランティアの活動について」 カメイアリーナ仙台　施設ガイドボランティア 細川　昭　氏 ◎体験学習　「カメイアリーナ仙台　施設見学」 ◎グループワーク	11

（２）学びの還元（ボランティア）研修　（再掲）

＜生涯学習支援センター＞

「学びのまち・仙台」を支える基盤の充実を目指し、より多くの市民や団体等が、学びの活動に参画できるよう、市民や行政といった立場の違いを越えて理念の共有を図るとともに、ネットワークの構築を進めることを目的として実施した。

※職員研修・発展研修としても位置付ける。

（3）地域コーディネートリーダー研修

＜生涯学習支援センター＞

子どもを育む地域力を高める視点に立ち、地域内のコミュニケーションやネットワークの活性化を目指し、地域で核となる人材を育成する事業。実際に地域で活躍している市民（企画員）との協働により研修内容を企画・実施した。

受講対象	概　要	受講者
・学校支援地域本部事業、放課後子ども教室事業、図書室等開放事業、社会学級、学コミ事業の関係者 ・PTA 関係者、学校教員、児童館職員 ・市民センター職員 ・その他	**◇第１回「地域コーディネートリーダー研修会」** 11/18（金）13:30～16:30 ◎事例発表 発表①「加茂中学校区コミュニティ・スクールについて」 仙台市立加茂中学校　校長　伊藤　勝　氏 加茂中学校区運営協議会　会長 寺島　信弘　氏 発表②「愛子小学校コミュニティ・スクール運営協議会の歩み」 愛子小学校学校運営協議会　会長 千田　初男　氏 愛子小学校地域支援本部 スーパーバイザー　安藤　直美　氏 ◎グループワーク ◎助言 国立大学法人 宮城教育大学 学長付教育支援コーディネーター　野澤　令照　氏	88 75
	◇第２回「地域コーディネートリーダー研修会」 2/18（土）13:30～16:30 ◎パネルディスカッション コーディネーター： 国立大学法人 宮城教育大学 学長付教育支援コーディネーター　野澤　令照　氏 パネリスト： 仙台市立生出小学校 地域学校協働活動推進員 太田　孝　氏 仙台市立高森小学校 学校支援地域本部 スーパーバイザー　横山　倫子　氏 仙台市立新田小学校 おやじの会　会長 大曽根　学　氏 仙台市立桂小学校 父母教師会　会長 吉田　雅之　氏 ◎助言 国立大学法人 宮城教育大学 学長付教育支援コーディネーター　野澤　令照　氏	

	※地域コーディネートリーダー研修会企画員会 研修会の方向性や内容の検討(全 6 回　延参加者 53 名) ①5/19（木）13:30～15:30 ②7/15（金）13:30～15:30 ③8/26（金）13:30～15:00（オンライン開催） ④10/27(木）13:00～15:00 ⑤12/8（木）13:30～15:30 ⑥3/9　（木）13:30～15:30	

（4）ボランティア養成等人材育成事業

① 託児ボランティア養成・活動支援

＜生涯学習支援センター＞

子育て中の保護者が安心して学習できるよう、市民センターでは託児付きの講座を設けている（令和４年度実績：９事業）。

託児は、ボランティアグループによる主体的な運営を基本としている。そのため、託児ボランティアグループの活動を支援するとともに、新たな託児ボランティアの養成のための講座を実施している。

事業名	開催日	内　容	延受講者
託児ボランティア連絡会	5/12(木) 11/17(木) 3/2(木)	市民センターで活動する託児ボランティアグループの代表者等と意見交換を行うため、連絡会を開催した。	25
託児ボランティア養成講座	8/25(木) 9/8（木） 9/22(木) 9/29(木) 10:00～ 11:30	託児ボランティアとしての活動に必要な知識や技術を学ぶ講座（全４回）を実施した。 ①オリエンテーション「託児ボランティアとは」 ②講話「子どもを取り巻く環境①」 高砂保育所　保育士　鈴木　貴和　氏 ③講話「子どもの病気とけが」 宮城総合支所保健福祉課 保健師　髙橋　咲都　氏 ④話し合い・実技等「これからの活動に向けて」 ※ 9/14(木)に保育所見学を予定していたが、保育所の要請により、開催を中止した。	28
託児ボランティアフォローアップ研修	11/17(木) 9：30～ 11:00	より質の高い託児室運営のため、託児ボランティアの資質や技術向上に役立つ研修を実施した。 講話「発達障害等があるお子さんへの対応」 北部発達支援センター乳幼児支援係 畠山　美加　氏	25

【託児ボランティアグループ一覧】（令和５年３月現在）

グループ名	設立年月	主な活動区域（区域以外での活動有り）	会員数
にんじん	S59.7	宮城野区	9
たんぽぽ	H3	太白区	9
アリスの会	H5.7	若林区	3
託児ボランティアグループてっての会	H6.4	青葉区、泉区	7
クリップ	H9.4	若林区	6
ひまわり	H9.8	青葉区、泉区	7
でんでんむし	H12.3	太白区	9
さくらんぼ	H14.5	青葉区、若林区、泉区	5
ハイジ	H22.4	若林区	3
合計　9グループ　/　会員数　58名			

② 図書ボランティア活動支援

＜生涯学習支援センター＞

30 館の市民センターでは、市民センター併設の図書室等において市民ボランティアの協力により図書の貸し出しや選書等の運営を行っている。

【図書ボランティア一覧】（令和 5 年 3 月現在）

	グループ名	活動館	会員数
1	まったりお茶の間文庫	青葉区中央市民センター	4
2	さくらさくら	北山市民センター	11
3	カンナの会	福沢市民センター	10
4	ぽけっと	三本松市民センター	6
5	片平市民センター・児童館図書ボランティア	片平市民センター	5
6	（グループ名なし）	水の森市民センター	14
7	図書ボランティア「ひまわり」	貝ケ森市民センター	8
8	（グループ名なし）	中山市民センター	4
9	図書ボランティアコスモス文庫	大沢市民センター	12
10	栞の会	落合市民センター	12
11	たんぽぽ	吉成市民センター	10
12	かすみそう	高砂市民センター	4
13	しおりの会	岩切市民センター	12
14	もくれんの会	鶴ケ谷市民センター	10
15	ターンぽっぽ	東部市民センター	5
16	ひまわり	幸町市民センター	6
17	（個人）	田子市民センター	1
18	わかば	荒町市民センター	6
19	（グループ名なし）	生出市民センター	5
20	ブックスフレンド中田	中田市民センター	13
21	（グループ名なし）	西多賀市民センター	3
22	八木山図書ボランティア委員会	八木山市民センター	27
23	図書ボランティア縄文	山田市民センター	11
24	茂庭台図書ボランティア	茂庭台市民センター	10
25	（グループ名なし）	東中田市民センター	5
26	ブックポケット	柳生市民センター	14
27	（グループ名なし）	松森市民センター	6
28	富沢市民センター図書室ボランティアの会	富沢市民センター	17
29	図書ボランティア「虹」	南中山市民センター	8
30	木町通児童館図書ボランティア	木町通市民センター	10
ボランティア数計 269 名			

（5）実習受入

① 社会教育実習生

東北学院大学、宮城教育大学からの依頼を受け、各大学の社会教育主事資格取得を目指す学生を社会教育実習生として生涯学習支援センター及び各区中央市民センターで受け入れ、公民館（市民センター）の概要や講座の企画立案・実践について指導した。

a. 施設実習　令和 4 年 8 月 31 日（水）～9 月 3 日（土）

b. 講座実習　令和 4 年 9 月上旬～12 月中旬

実習生　東北学院大学 15 名(a. b)、宮城教育大学 9 名(a)

② 大学生施設見学（生涯学習支援センター）

大学の授業の一環として施設見学を受け入れ、市民センター業務について学ぶ機会を提供した。

聖和学園短期大学……35 名

③ 児童・生徒の職場体験実習

小学生、中学生、特別支援学校の職場体験実習を受け入れ、市民センター業務について学ぶ機会を提供している。

≪生涯学習支援センターの受入実績≫

小学校（1 校 2 名）中学校・中等教育学校（2 校 8 名）特別支援学校高等部（1 校 2 名）

【小学校】

仙台市立榴岡小学校（第 4 学年総合的な学習の時間「弟子入り留学」）……2 名

【中学校・中等教育学校】

仙台市立七郷中学校……4 名

仙台市立仙台青陵中等教育学校……4 名

【特別支援学校高等部】

仙台市立鶴谷特別支援学校高等部……2 名

※各区中央市民センター（拠点館）においても、同様に児童・生徒の職場体験実習を受け入れている。

4　ジュニアリーダー

ジュニアリーダー育成・支援

ジュニアリーダーとは、青少年ボランティア活動の一環として、地域の市民センターを拠点とするサークルに所属し活動する中学生・高校生のことであり、地域の子ども会活動のお手伝いや様々なボランティア活動に積極的に取り組んでおり、自身の人格形成にも生かされている。

ジュニアリーダー育成支援は、社会教育における“青少年の健全育成”、また、“学びを通した人づくり”の一環として位置づけられる重要な事業である。仙台市生涯学習支援センターおよび各区中央市民センターでは、ジュニアリーダーを育成するために、下図の通り段階的に研修会を開き、ジュニアリーダー活動に必要な知識や技能を習得する場を提供している。また、活動拠点となる地区市民センターでは、ジュニアリーダーが幅広い視野や責任を持って地域での活動を行えるよう支援を行っている。

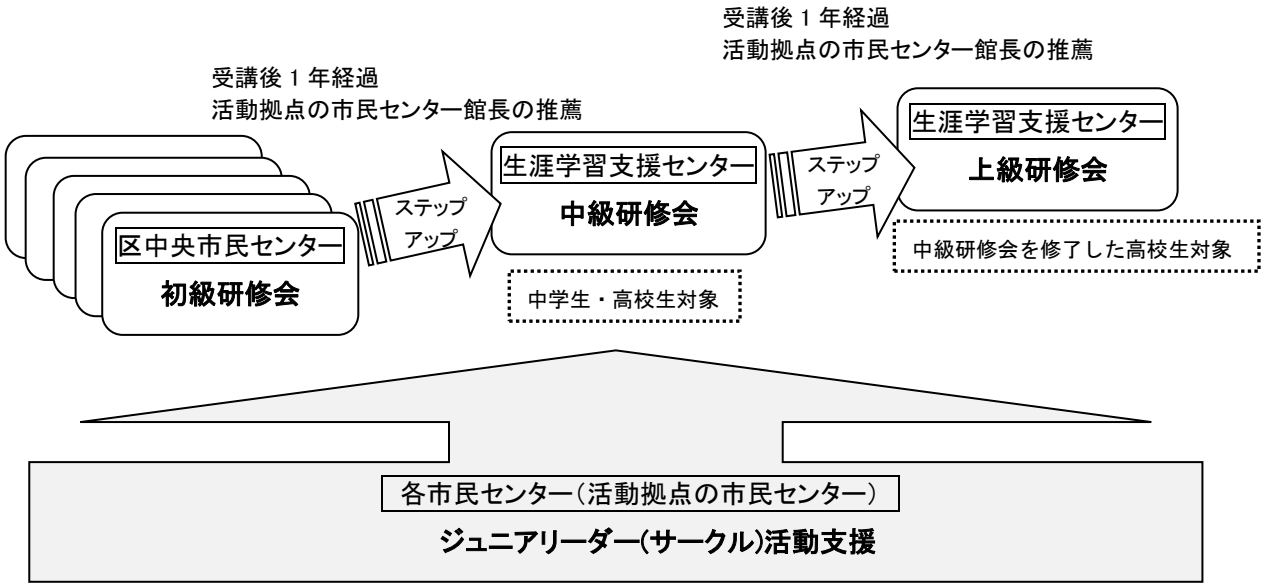
【ジュニアリーダーサークルの主な活動】

○自主企画(ジュニアと遊ぼう、交流会など)、定例研修会及び連絡会、各種研修会の実施

○子ども会、市民センター、その他の機関からの要請による活動

・子ども会行事の実施及び企画の補助　　・区民まつりへの参加

・市民センター事業への補助　　・児童館行事のスタッフ　　等



①　ジュニアリーダー初級研修会

＜区中央市民センター＞（共催：仙台市嘱託社会教育主事研究協議会支部）

ジュニアリーダー活動の理念に触れ、興味・関心を高めるとともに、現ジュニアリーダーとの親睦を図り、今後の活動への意欲を持たせることを中心にした内容の研修を各区で実施した。対象者は、「新たにジュニアリーダーを志す中学生・高校生」とした。

研修内容：ジュニアリーダーの活動について、子ども会について、

安全に活動するために　等

【令和 4 年度実績】

主催館名	開催日	受講者
青葉区中央市民センター	7 月 2 日（土）	13
宮城野区中央市民センター	12 月 10 日（土）	16
若林区中央市民センター	12 月 11 日（日）	18
太白区中央市民センター	8 月 3 日（水）	17
泉区中央市民センター	11 月 19 日（土）	15

② ジュニアリーダー中級研修会

＜生涯学習支援センター＞（共催：仙台市嘱託社会教育主事研究協議会）

活動の中心となるジュニアリーダーとして、より専門的な知識と高度な技術の習得を中心とした内容の研修を実施した。対象者は、「初級研修会を受講し、ジュニアリーダーとして活動を行っている中高校生」で、かつ、「子ども対象の要請または定例会やサークル活動に 5 回以上参加し、活動拠点となる市民センターの館長の推薦を受けた者」とした。

○50 名受講　8 月 4 日（木）、5 日（金）　会場：仙台市生涯学習支援センター

研修内容：今、ジュニアリーダーに必要なものとは？、リーダーとして要請の場で必要な力、子どもを引き付けるコツとは？、要請のプログラムを作成しよう、要請のプログラムを実践しよう　等

③ ジュニアリーダー上級研修会

＜生涯学習支援センター＞（共催：仙台市嘱託社会教育主事研究協議会）

青少年のボランティア活動と地域の子ども会活動の一層の振興を図るために、仙台市ジュニアリーダー全体をまとめ、リードする立場にある高校生ジュニアリーダーの資質向上と技能の研鑽のための研修を行った。

対象者は、「中級研修会を修了し、引き続きジュニアリーダーとして活動している高校生または高校生の年齢に相当する者」、かつ、「活動実績・資質ともに上級リーダーとして適格であり、活動拠点となる市民センターの推薦を受けた者」とした。

本研修会は、ジュニアリーダー活動のスキルアップを中心とした内容で実施した。

○25 名受講　7 月 23 日（土）～24 日（日）　会場：オーエンス泉岳自然ふれあい館

研修内容：上級ジュニアリーダーとしての役割と心構え、子ども会と野外活動について、助言と援助の在り方について、集団運営の在り方について　等

④ ジュニアリーダー実践研修会

＜生涯学習支援センター＞（共催：仙台市嘱託社会教育主事研究協議会）

上級研修会を受講したジュニアリーダーが講師となり、ジュニアリーダーとしてのスキルを伝達する研修会を実施した。併せて、5 区のジュニアリーダーが交流を深め、幅広い視野や責任感を持って地域で活動できるリーダーとしての資質向上・技術向上を図る場とした。対象者は、「仙台市ジュニアリーダー全登録者」である。

○48 名受講　12 月 4 日（日）　会場：仙台市生涯学習支援センター

研修内容：コミュニケーション研修、自分らしい表現をできるようになろう　等

※例年はオーエンス泉岳自然ふれあい館を会場に１泊２日で実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、会場を変更し、１日開催とした。

【ジュニアリーダーサークル及び活動拠点館一覧】（令和５年３月現在）

区内連絡会	No	サークル名	登録数	活動拠点館名
青葉区（94名） 連絡会『**星のすなどけい**』 （青葉区中央市民センター）	1	MRVC くまっこ	28	広瀬市民センター
	2	かめ吉	16	福沢市民センター
	3	朝実巣あかよばく	9	北山市民センター
	4	Colors	3	旭ケ丘市民センター
	5	SKY	19	中山市民センター
	6	みずの森ーダー’S	2	水の森市民センター
	7	Blue Leaf Spirits	17	青葉区中央市民センター
宮城野区（47名） 連絡会『**Lovers**』 （宮城野区中央市民センター）	1	高砂フレンズクラブ	4	高砂市民センター
	2	岩切ガンキリーズ	11	岩切市民センター
	3	鶴ケ谷 Yourself	2	鶴ケ谷市民センター
	4	幸町 Fortune	6	幸町市民センター
	5	With Us 宮城野	24	宮城野区中央市民センター
若林区（50名） 連絡会『**田んぼっ区**』 （若林区中央市民センター）	1	郷郷七郷	4	七郷市民センター
	2	六郷村	0	六郷市民センター
	3	ピ野沖ヲ	2	沖野市民センター
	4	JARO	21	若林区中央市民センター
	5	ワンマイル荒町	15	荒町市民センター
	6	若林にゃくりん	8	若林市民センター
太白区（44名） 連絡会『**ANON**』 （太白区中央市民センター）	1	なかだかな	6	中田市民センター
	2	おいでもん	2	生出市民センター
	3	ジュニアリーダーサークル Green Powers	0	秋保市民センター
	4	にしたがっつまん	22	西多賀市民センター
	5	ながまっくる	11	太白区中央市民センター
	6	moni-s	3	茂庭台市民センター
泉区（108名） 連絡会『**ざわざわ森**』 （泉区中央市民センター）	1	七北田 JL サークルありす	31	泉区中央市民センター
	2	黒松ファミリー	3	黒松市民センター
	3	南光台アドバルーン	14	南光台市民センター
	4	もみの木カリヨン	0	根白石市民センター
	5	向陽台ぱぴぷぺパレット	0	松陵市民センター
	6	将監くれよん	4	桂市民センター
	7	南中山巣子っぷ	14	南中山市民センター
	8	高森流星サークル	3	高森市民センター
	9	寺岡流星サークル	1	寺岡市民センター
	10	みちのく松陵	8	松陵市民センター
	11	加茂プレゼント	10	加茂市民センター
	12	パズル鶴が丘	2	松森市民センター
	13	根住ｓ	7	根白石市民センター
	14	AMYY	11	長命ケ丘市民センター
市全体（343名／38サークル）　仙台市連絡会『ずんだ』（生涯学習支援センター）				

５　地域社会教育推進

（１）学びのコミュニティづくり推進事業

＜生涯学習支援センター＞

子どもの健やかな育ちを支援するつながりを地域に育てることを目的として、平成 13 年度に事業を開始。

区　　分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
委託団体数（うち新規委託団体数）	5(3)	5(1)	2(0)	1(0)	3(3)

《令和 4 年度の委託団体》3 団体

団体名	区	学校区	ねらい・概要	委託状況
芦口学コミ推進委員会	太白	芦口小	子どもの健やかな育ちを支援するために、地域の様々な団体が連携し、児童、保護者、住民などを対象とした子供と大人の交流や自然体験などを実施している。	1年目
国見小学校学びのコミュニティ小萩	青葉	国見小	国見小学校支援地域本部さぽーと小萩を中心とした地域の様々な団体が「子どもの笑顔のために」目的意識を共有し、多世代の交流により地域全体で子どもたちを見守り育む環境を目指している。	1年目
新田 SPOT	宮城野	新田小	新田学区を面白くしたい、新たな人と出会いたい、多様な人ともっとつながりたい、という前向きな気持ちをもとに地域全体で学びのコミュニティを形成し、子供たちの健やかな育ちを支援している。	1年目

（２）学びのコミュニティづくり推進事業支援等

「学びのコミュニティづくり推進事業」の委託団体及び、3 年間の委託期間終了後も自主的に事業を実施している団体に対して活動支援を行った。

〇実施団体研修会

＜生涯学習支援センター・各区中央市民センター＞

委託期間が終了した後も自立した活動を行っている 29 団体を含めた、事業実施団体連絡会による研修会を開催し、団体相互の情報共有を図った。

開催日	内　　容	受講者
2/18（土） 13:30～16:30	◎パネルディスカッション テーマ「んだっちゃだれぇ！子どもが真ん中だべ！！」 コーディネーター： 国立大学法人 宮城教育大学 学長付教育支援コーディネーター　野澤　令照　氏 パネリスト： 仙台市立生出小学校 地域学校協働活動推進員　太田　孝　氏 仙台市立高森小学校 学校支援地域本部 スーパーバイザー　横山　倫子　氏 仙台市立新田小学校 おやじの会会長　大曽根　学　氏 仙台市立桂小学校 父母教師会会長　吉田　雅之　氏 ◎グループワーク ◎助言　国立大学法人 宮城教育大学 学長付教育支援コーディネーター　野澤　令照　氏	75

【委託終了後の事業に対する継続的支援等】

館名・事業名		概　　要	実施回数	延参加者
青葉区中央市民センター				
	かみすぎねっと（№6）	上杉山通小学校区の学校関係団体・地域団体等との連携により、子どもの健やかな育ちに資する事業を実施した。 ・7月25日　第1回幹事会 ・7月22日～23日　学校へ泊まろう	1 1	31 27
宮城野区中央市民センター				
	榴岡かいわい学びのコミュニティづくり推進事業（№2）	仙台駅東口かいわいの幼児、小学生を対象として遊びの広場を提供した。また、地域の住民や中学生、ボランティア等の参加も促し、異世代間の交流を図る。 ・12月17日第15回つつじがおかワイワイ冬まつり	7	340
若林区中央市民センター				
	区内小学校合宿等支援	学びのコミュニティづくり推進事業から続く「通学合宿！連坊！」など区内小学校の合宿等の事業を支援する。令和4年度はコロナウイルス対策の観点から、規模を縮小して実施。 ・実行委員会（7月、9月、12月） ・通学合宿（10月）	3 1	50 50
	若林小あそび場支援	若林小学校を中心に放課後の児童に遊びの場をつくる「若林小あそび場」の活動（概ね月1回開催）を、関係団体、若林児童館、若林市民センター、ボランティアとともに支援する。※令和4年度は中止	0	0

太白区中央市民センター				
	ながまち学びネット （№3）	長町中学校区の児童･生徒や保護者､地域住民とともに、子どもたちの健全育成を目的とした参加体験型の活動を行うことを通して、地域のコミュニティ形成と連携した地域づくりを目指す。 令和４年８月 23 日（火）コアメンバー会議 令和４年 11 月 23 日（水）森の響き　たき火と星編（地底の森ミュージアムにおける小中学生を対象とした星空観察イベント）	1 1	6 18
	がんばれ秋保っ子 （№17）	秋保中学校区の各団体と協力して事業を実施することで､地域全体で子どもを育てていくきっかけをつくることを目的とし、事業開催に向けて話し合いを行う。※令和４年度は中止としたが､オンラインカルタができるように秋保市民センターが動画を作成して仙台市市民センターチャンネルに投稿した。	0	0
	おいで里ネット （№19）	おいで里ネット推進委員会（おいでわいわいサミット）の意向で、小中学生の有志による企画員会議を開催し、企画案を実現させる形でイベントを実施した。 イベント名を「冬のほっこり・わくわくふれあいパーティー」として、スポーツやテレビゲーム、花火などを楽しむ企画を行った。 【市民企画会議「おいで里ネット委員会」全５回】 令和４年７月１日、９月 30 日、11 月 18 日、 11 月 26 日 令和５年３月３日	5	19
泉区中央市民センター				
	区内学コミ連絡会	区内で活動している各学コミ団体と情報を共有し、学コミの活動の促進ならびに拡大を図っている。 令和３年度からは各団体代表者に電話やメールで近況を確認し泉区 HP での情報共有を行っている。	適宜	
	ふれあい学びネットい･ず･み推進委員会 （№4）	七北田中学校区内の諸団体が連携し、青少年健全育成事業の展開を図るとともに、子どもの居場所づくり事業について協議、企画、実施している。 ・役員会、推進委員会（通年） ・あそびの天国 2023（令和５年２月 26 日）	11 1	118 146

（3）地域情報発信サポーター養成・活動支援

○地域情報発信サポーター養成講座

＜生涯学習支援センター＞

地域情報発信サポーターを養成するための講座を行った。

開催日	内　　容	受講者
2/11(土) 10:00～12:00	「その情報、どうやって届ける？効果的な発信方法の選び方」 講師：株式会社ユーメディア　澤田　朱里　氏	32

○地域情報発信サポーター活動支援

今年度は市民の方と社会教育施設等職員とが共に参加できる養成講座を実施した。講座では、参加者が情報交換等を行いながら、地域の情報発信について考えた。

６　学習情報提供

（１） 学習情報レファレンスシステム・市民センターホームページの運営等

＜生涯学習支援センター＞

学習情報レファレンスシステムは、市民の学習意欲に応え、的確な情報提供サービスを展開することで、効果的に市民の学習活動を支援するため、生涯学習支援センターと市民センターとをネットワークで結び、生涯学習に関するより新しい情報を提供するとともに、市民の学習相談に応じることを目的に運営している。

平成 26 年 11 月にシステム更新を行い、「市民センターホームページ」と「学習情報データベース」の運用を開始して、生涯学習情報の発信と蓄積を一体的に行うほか、新たなホームページでは、各市民センターの情報を集約・統合して発信する等、市民にとってより検索しやすく、分かりやすいページ構成とした。また、スマートフォン・タブレット等でも閲覧可能なホームページとなっている。

令和 2 年 2 月からは、動画が公開できるよう YouTube 上に「仙台市市民センターチャンネル」を開設し、市民センターホームページに設けたリンクからアクセスして、講座や事業の様子を紹介する動画等を閲覧できるようにした。令和 5 年 3 月末現在、96 本の動画を公開している。

【令和 4 年度　市民センターホームページアクセス件数】

アクセス件数	866,238	一日あたりの閲覧数	2,373
閲覧者数	680,015	一日あたりの訪問者数	1,863

【市民センターホームページＵＲＬ　https://www.sendai-shimincenter.jp/】

2 次元コード

（２）市民センター事業ガイド

＜各区中央市民センター・生涯学習支援センター＞

講座等参加者の募集中、募集予定がある事業について、区ごとにまとめ、毎月 1 回発行して、市民への情報提供を行った。市民センターホームページでも公開している。

（3）「学都仙台サテライトキャンパス」支援等

＜生涯学習支援センター＞

大学等の高等教育機関の連携組織である「学都仙台コンソーシアム」（平成 18 年設立）のうち「サテライトキャンパス部会」で実施する公開講座「学都仙台サテライトキャンパス」や部会構成校が独自に実施する市民向け公開講座について、市民が円滑に講座を受講できるよう、広報及び情報提供等の支援を行った。

7　各区中央市民センター事業

（1）嘱託社会教育主事研究協議会区部会との共催事業

嘱託社会教育主事（社会教育主事資格を持ち学校に在籍している教員）研究協議会の各区部会と各区中央市民センターの共催による事業を通して、子ども達の健全育成や地域コミュニティの活性化を図り、地域で子どもを育てる環境づくりを推進した。

館名	内容	実施回数	参加者
青葉区中央市民センター	6月22日　青葉区社会教育推進研修会 7月2日　ジュニアリーダー初級研修会 10月22日　「青葉チャレンジキッズin大倉」 1月21日～2月18日　インリーダー研修会11会場	14	451
宮城野区中央市民センター	5月～2月　宮城野区社会教育推進連絡会・事業検討会（4回） 6月22日　宮城野区社会教育推進連絡会研修会 8月　インリーダー研修会9会場 10月15日　体験活動事業「貞山堀でハゼゲットだぜ！」 12月10日　宮城野区ジュニアリーダー初級研修会	16	368
若林区中央市民センター	8月2日　若林区地域学校連携推進会議 10月22日　親子でチャレンジ！若林デイキャンプ 12月11日　ジュニアリーダー初級研修会 2月4・11・18・23日　インリーダー研修会（6館）	9	403
太白区中央市民センター	6月24日　第1回地域連携ネットワーク会議 6月～1月　太白区内地域連携ネットワーク事業（各中学校区で事業実施） 8月3日　ジュニアリーダー初級研修会 12月10日　インリーダー研修会事前打合せ会 1月～2月　インリーダー研修会 1月24日　第2回地域連携ネットワーク会議	31	670
泉区中央市民センター	5月～2月　泉区の社会教育を考える会 6月24日　泉区の地域と学校をつなぐ研修会 11月19日　泉区ジュニアリーダー初級研修会 7月～2月　インリーダー研修会 12月10日　第２回みんなでジャンプ！２	23	704

（2）インリーダー研修会

子ども会活動の充実を図るため、子ども会のリーダーとして活躍する児童及び世話人を対象に、子ども会活動についての知識やレクリエーションなどの実技を学習するための研修会を実施している。

【令和 4 年度実績】

区	開催状況
青葉区	11 回開催　286 名参加
宮城野区	9 回開催　206 名参加
若林区	6 回開催　250 名参加
太白区	11 回開催　442 名参加
泉区	16 回開催　491 名参加

（3）生涯学習研究事業

◎事業例　泉区の社会教育を考える会

＜泉区中央市民センター＞（事業検討 4 回、延参加者：46 名）

区内の社会教育について、嘱託社会教育主事研究協議会泉区部会と協働で、既存の事業の見直しや、新たな事業の企画を行った。また、それら事業を実施検証し、泉区の社会教育事業の新たな展開の可能性を探り、活性化につなげた。

（4）その他の主な事業

館名	事業名	内容	開催回数	参加者
青葉区中央市民センター	子どものための日本語講座	日本語を母語としない小学生、中学生に日本語を学習する機会を提供し、充実した学校生活が送れるように支援している。	34	458
	せんだい日本語講座	在仙の外国人等に、日常生活に必要な日本語習得の機会を提供するとともに、日本の伝統文化に触れ交流する場を設定することで、国際交流や多文化理解を促進している。	666	5,312
宮城野区中央市民センター	青空ミーティング事業	宮城野区中央市民センターと宮城野区役所、JR 陸前原ノ町駅に囲まれた芝生スペースを活用し、学びや交流、活動の場を広げることで、市民センター事業の見える化を図る事業である。地域活動団体によるモルック、宮城野カルタ、おもちゃなどで遊ぶイベントを開催し、団体相互のつながりを築くとともに、地域の新たな人材育成の場としている。	3	340
	町の未来をえがこうプロジェクト	小学生が町づくりのアイデアを考えて提案し、市民センターや関係団体の協力により企画を実現させる事業である。宮城野小、原町小、榴岡小、鶴谷小で実施された。	4	398

若林区 中央市民 センター	まなびごっこ	若林区内で活動する生涯学習指導者ボランティアグループ「まなびごっこ」がこれまでに培った知識や技術を生かして、当センターと共催で誰でも参加しやすい内容の講座・教室（映画上映会、歴史講座など８種類）を開催した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、感染拡大期を除いた開催となった。	70	1,669
太白区 中央市民 センター	長町・あすと長町 地域活性化事業	地域振興団体が主催するイベント「長町秋のフェスティバル」の企画運営等の支援を行った。「スポーツ」や「縁日」をテーマに、主に子どもを対象とした様々な市民参加型の事業を実施した。	4	1,500

８　仙台市公民館運営審議会

社会教育法第29条、仙台市市民センター条例第13条に基づき、市民センターにおける各種の事業の企画実施につき調査審議を行う、本市が設置するすべての市民センターに共通の公民館運営審議会として設置している。

現委員は13人で、任期は令和3年11月1日から令和5年10月31日までの2年間となっている。

【委員名簿】　〔令和5年3月31日現在〕

氏　　名	職業または所属団体
○　相 澤　雅 子	仙台市立南小泉中学校学校支援地域本部スーパーバイザー
市 瀬　智 紀	宮城教育大学教育学部　教授
伊 藤　美由紀	東北工業大学ライフデザイン学部　准教授
大 内　幸 子	せんだい女性防災リーダーネットワーク　代表
幾世橋 広 子	仙台市社会学級研究会　顧問
熊 谷　敬 子	仙台市立岡田小学校　校長
佐 藤　正 実	有限会社イーピー風の時編集部
菅 原　正 和	仙台市議会　議員
鈴 木　京 子	公募委員
福 士　定 男	仙台市連合町内会長会　庶務理事
牧　　靖 子	マイスクール川平　コーディネーター
◎　松 田　道 雄	尚絅学院大学人文社会学類　教授
三 浦　和 美	東北福祉大学教育学部　教授

◎：会長　○：副会長　敬称略・50 音順

【近年の審議内容(平成15年度～令和4年度)】

提出日	種別	テーマ(題名)	主な内容
平成 15 年 10 月 7 日	提言	市民センターにおける子どもの事業のあり方について	1　審議会における検討の過程 2　子どもの事業に取り組む課題と視点 3　ジュニアリーダーの育成と活動支援 4　学社連携・融合事業について 5　学校週 5 日制に対応した事業について
平成 17 年 9 月 12 日	提言	市民センターにおける市民参加と市民協働の推進について	1　市民参加と市民協働の課題 2　市民センター運営における市民参加について 3　市民企画委員によるプログラムづくりについて 4　市民参加を広げる事業活動をめざして
平成 19 年 10 月 30 日	答申	市民センターの施設理念と運営方針の見直しについて	1　見直しの背景 2　見直しにあたっての考え方 3　市民センターの施設理念と運営方針
平成 21 年 10 月 13 日	報告	審議の経過報告	1　今期審議会のテーマ設定と議論の経緯について 2　経過報告のまとめについて ＜これまでの審議内容(各委員の意見)の概要＞ 1　市民センターの区への移管について 2　連携事業の調査からみえてきたもの <市民センターが大切にしてきた社会教育の価値とは>(梨本雄太郎委員) ＜区行政との「融合」をめぐって＞(石井山竜平委員)
平成 22 年 3 月 16 日	意見	「次期行財政改革計画(素案)」に対する意見書	区役所への移管については課題や懸念があることから、それらを解決・解消した上で判断するべきと考える。
平成 22 年 8 月 31 日	提案	市民センターを拠点とした新しいまちづくりの提案ー仙台プランー	＜市民センターを拠点とした新しいまちづくり＞ 1　意識を変える 2　人材発掘・育成とネットワーク化 3　市民の活動の場を生み出し支援する ＜新しいまちづくりに向けた市民センターの新たな一歩 /今後の取り組み[提案] / 仙台プラン対応事業案＞ 1　住民参画・問題解決型学習事業 2　子ども参画型社会創造事業 3　学社連携・既存の事業範囲枠を超えた公共施設の連携事業
平成 23 年 1 月 25 日	意見	「市民センターを生かした地域づくりの推進」に関する意見	1　検討の進め方について 2　組織見直しをめぐる課題について
平成 25 年 5 月 31 日	答申	仙台市市民センター事業の評価のあり方について	1　これまでの経緯 2　評価の現状と基本的な考え方 3　本審議会が実施する外部評価 4　本審議会以外が実施する外部評価 5　まとめ

提出日	種別	テーマ(題名)	主な内容
平成 25 年 10 月 26 日	報告	平成 24 年度仙台市市民センター事業評価報告書	1　評価の目的 2　評価の実施 3　評価の結果 4　まとめ
平成 25 年 10 月 26 日	意見	仙台市市民センターの施設理念と運営方針の見直しに関する意見について	1　「仙台市市民センターの施設理念」について 2　「仙台市市民センター事業の運営方針」について 3　「仙台市市民センターの施設管理の運営方針」について 4　東日本大震災を踏まえた内容の見直しについて 5　その他
平成 26 年 7 月 31 日	報告	平成 25 年度仙台市市民センター事業評価報告書	1　評価の目的 2　評価の実施 3　評価の結果 4　まとめ
平成 27 年 8 月 25 日	報告	平成 26 年度仙台市市民センター事業評価報告書	1　評価の目的 2　評価の実施 3　評価の結果 4　まとめ
平成 27 年 10 月 17 日	意見	震災を踏まえた今後の市民センター事業のあり方等について	1　震災後の取り組みの成果と課題 2　今後の市民センター事業に関する委員の意見
平成 29 年 3 月 23 日	報告	仙台市市民センター事業評価報告書	1　評価の目的 2　評価の実施 3　評価の結果
平成 29 年 10 月 23 日	意見	仙台市市民センター事業評価に関する意見について	1　事業評価について 2　事業運営懇話会等について
平成 30 年 11 月 8 日	報告	仙台市市民センター事業評価報告	1　評価の目的 2　評価の実施 3　評価の結果

提出日	種別	テーマ(題名)	主な内容
令和元年 7月4日	答申	「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」の見直し（第二次）のあり方について	＜見直しのあり方に関する意見＞ 1　拠点館の役割の再検討及び記載の明確化について 2　「震災を踏まえた市民センターの役割と取組」の記載事項の内容・構成の再検討 3　「仙台市市民センターの施設管理の運営方針」の記載事項の内容・構成の再検討 4　全体、他の項目への意見等
令和2年 11月5日	意見	今後の市民センター事業に関する意見について	＜新型コロナウイルス感染症との共生時代の市民センター事業に関する意見＞ 1　オンラインと対面（リアル）のバランスについて 2　子どもの育ち・交流・実体験の場となることについて 3　記録を残すことについて 4　グループ討議を踏まえた意見など
令和3年 10月28日	報告	仙台市市民センター事業（子ども参画型社会創造支援事業）調査研究報告書	Ⅰ　調査研究について Ⅱ　対象事業について Ⅲ　調査研究の進め方について Ⅳ　事業評価について Ⅴ　まとめ

【審議経過】

開催日	会議種別	協議議題
令和４年 5月19日(木)	定例会	協議： 住民参画・問題解決型学習推進事業について ○事業の成果と課題について ○事例１：中野ふるさと学校（高砂市民センター） ○事例２：かつら情報局（桂市民センター）
令和４年 7月7日(木)	定例会	協議： 若者社会参画型学習推進事業について ○事業の成果と課題について ○事例１：「若者によるまちづくり実践塾」 （青葉区中央市民センター） ○事例２：「仙白園プロジェクト・人」 （若林区中央市民センター）
令和４年 9月18日（日）	視察	視察 住民参画・問題解決型学習推進事業 「市民企画会議　かむりの里いきいきプロジェクト」 会場：見松寺（泉区西田中字朴ノ木山４）
令和４年 10月9日（日）	視察	視察 子ども参画型社会創造支援事業「中山キッズ」 会場：中山市民センター
令和４年 10月22日(土)	視察	視察 若者社会参画型学習推進事業 「まいぷろ（Miyagino Young PROgram)」 会場：宮城野区中央市民センター
令和４年 11月10日(木)	定例会	協議： (1)住民参画型学習事業の視察について（報告） (2)今後の進め方について
令和５年 1月26日(木)	定例会	協議： (1)諮問「住民参画型学習事業の成果の確認と今後の展開について」に係る答申作成について (2)今後の審議会スケジュールについて
令和５年 3月16日(木)	定例会	協議： (1)諮問「住民参画型学習事業の成果の確認と今後の展開について」に係る答申作成について

Ⅲ　地区館事業

令和４年度 指定管理事業実績

青葉区中央市民センター

〔沿　革〕

青葉区中央市民センターは、昭和 40 年 4 月、市立東二番丁小学校に「仙台市市民教養センター」として開設され、昭和 61 年、小学校の全面改築に伴い廃止され、昭和 63 年 1 月に「仙台市中央公民館一番町分館」として開館した。平成 13 年 4 月、隣接の「アスピア一番町（勤労青少年ホーム）」を統合し、現在の「青葉区中央市民センター」としてスタートした。

市の中心部で交通の便が良いため、若い世代から高齢者まで昼夜を問わず利用率が高い。また、仙台市の日本語講座が継続的に行われていることから来館する外国人も多く、国際交流の場としても一翼を担っている。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	★小学生の防災減災講座		
参加者	東二番丁小学校児童	延参加者	29 人
開催日	令和 4 年 9 月 2 日（金）		
協力者・協力団体	仙台市立東二番丁小学校、河北新報社		
ねらい	災害とは予測が困難であり、命を守り、安全を確保するためには、日頃の備えが大切である。そこで、当市民センターと隣接している東二番丁小学校児童を対象に防災学習の機会を提供する。また、東二番丁小学校と連携し防災を学ぶことで、小学校と児童、市民センターが防災意識の共有を図り、いざという時の備えとなるよう努める。		
概要・成果	仙台市立東二番丁小学校 4 学年児童を対象に開催した。「東日本大震災を経験していない世代が伝えられる震災のこと」をテーマにした内容ができるよう学校側から依頼があり、それを実現する形となった。震災について報道を続けてきた新聞社を講師に、新聞の読み方や伝達の仕方、表現方法などの理解を深め、被災者に寄り添うことやこの先も伝え続けていく意味などを学んだ。また同世代の児童へ防災について伝えるということも目的の一つとしてあったため、実際に千葉県の児童へ情報発信する際に使用する予定のプレゼン資料の改善等も提案することができた。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
みんなの子育て広場	乳児対象（2 回）に「ふれあい遊び」と「食育講座」を行い、幼児対象（2 回）に「リトミック」と「読み聞かせ」を行った。乳幼児対象（1 回）では「人形劇」を鑑賞した。	6 月 23 日～10 月 18 日	5	30
仙台市子ども会インリーダー研修会	児童は行事プログラムの組み方やレクリエーションゲームの進め方を学び、世話人は子ども会活動での役割についての講話と情報交換を行なった。合同の研修会では児童が進行係となりゲームを進めた。	1 月 28 日	1	24
えほんをつくろう！	小学生以上の子どもと保護者が物語をつくり、図書ボランティアが事前に手作りで準備をしてくれた何も描かれていない「白い絵本」に、絵と文章をかいて絵本を作った。	7 月 30 日	1	24
ハロウィン・スポーツパーティー	子ども参画型社会創造支援事業「東二小やる気キッズ」企画会議を経て行った事業。東二番丁小学校児童と保護者を対象に、ペットボトルボウリングと段ボール的入れゲームを行った。	10 月 29 日	1	56

子ども参画型社会創造支援事業　東二小やる気キッズ企画会議	東二番丁小学校児童を対象に企画員を募集し、月1～2 回程度の企画会議を行った。企画講座「ハロウィン・スポーツパーティー」の運営を実施。	7 月 1 日～ 11 月 11 日	8	79
一番町地域学習	地域の人々と児童が交流をしながら 3 つの神社について学び、地域、企業、商店街と連携することで地域とのつながりをより強くした。地域の昔の様子を学び、理解を深めた。	4 月 27 日～ 1 月 31 日	5	167
まちなか散歩～映画のロケ地を巡ろう～	仙台が舞台となった映画についての講話、映画のロケ地として使用された仙台駅周辺のまちあるきを行った。	10 月 1 日 10 月 22 日	2	14
防災減災講座	地域の方を対象に地震や大雨といった災害だけでなく、火山活動・噴火などについて学習した。また、「普通救命講習会」を実施し、AED の使い方等適切な処置法について学んだ。	11 月 17 日 11 月 19 日 11 月 26 日	3	23
あおばカレッジ	高齢者を対象に歴史・文学・健康・環境講座や軽運動・音楽鑑賞の学習の機会を提供した。班活動や班会議を行い受講生同士が交流出来る機会を設けた。	6 月 17 日～ 2 月 17 日	8	337
社会学級連携講座	社会学級と企画会を行い、絵本の魅力を伝える「大人のための絵本の時間」講座を開催した。	6 月 7 日 7 月 6 日 11 月 9 日 12 月 7 日	4	44
学ぶ・知る！せんだいの魅力	市民企画会議「仙台歳時記」で提案された講座を実施し、仙台伝統の正月、小正月行事の由来や歴史等を学び、「青葉山公園整備事業」について新しい仙台の魅力を知る機会とした。	12 月 1 日 12 月 8 日 1 月 27 日	3	24
みんなのはっぴょうかい	五橋中吹奏楽部コンサート、JL ジャグリングの披露・体験会、活動支援団体「あおちゅう放送委員会」作成の五橋中吹奏楽部コンサート記録動画発表会を実施した。	5 月 28 日 12 月 3 日 2 月 19 日 2 月 28 日	4	159
一番町ミュージックタイム	誰でも気軽に参加できるようコーラス、吹奏楽、ギター演奏、琉球太鼓のコンサートを行った。	5 月 21 日 10 月 15 日 12 月 17 日 2 月 5 日	4	159
市民センターまつり	利用団体および幼稚園・小中高等学校・児童館の作品展示「みんなの作品展」、ジュニアリーダーによる「作ってみよう～バルーンアート」を実施した。	9 月 23 日 9 月 24 日 9 月 25 日	1	169
青葉区中央市民センター地域懇話会	1 回目は地域の小中学校、団体、公所の代表者参加による意見交換会、2 回目は地域内 3 校との連携を構築するため学校支援地域本部との会議を実施した。	6 月 15 日 11 月 2 日	2	14
市民企画会議　仙台歳時記	古き良き時代の仙台の魅力、新しい仙台の魅力について企画会議及び打合せ等を実施。「学ぶ・知る！せんだいの魅力」を企画立案開催した。	6 月 16 日～ 2 月 7 日	5	12

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

学校と地域団体等とのコーディネート

地域イベント「CO2 削減省エネ in サンモール」を主催するサンモール一番町商店街振興組合に、五橋中学校合唱部に加えて、上杉山通小学校合唱部を新たに紹介し、オープニングイベントへの出演をコーディネートした。小中学生の保護者をはじめ合唱部の関係者や通行人も足を止め、17 時 30 分に点灯したペットボトルのクリスマスツリーの明かりのもとに響くハーモニーを楽しんでいただけた。

柏木市民センター

〔沿　革〕

柏木市民センターは、昭和 61 年 7 月に旧仙台高等学校(後に仙台女子高等学校)の校舎を改修し、中央公民館柏木分館として開館した。平成元年の政令指定都市移行とともに、「柏木公民館・市民センター」として独立、そして平成 2 年には名称を「柏木市民センター」とした。その後、施設の老朽化のため平成 7 年 4 月から一時休館して改修工事を行い、平成 10 年 4 月にコミュニティ防災センターを併設した複合施設として新たに開館した。施設の特徴としては、収納式のステージをもつホール、会議室、和室等に加え、広いロビーがあり、地域住民の学習・スポーツ・交流の場として活用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	● 仙台伝統ものづくり塾実行委員会共催事業 「仙台の瓦の歴史と魅力」、「藍で染める」型染め体験		
参加者	高校生以上・成人	**延参加者**	75 人
開催日	全 5 回　　令和 4 年 11 月 12 日（土）～12 月 2 日（金）		
協力者・協力団体	仙台伝統ものづくり塾実行委員会（いきいき青葉区推進協議会）		
ねらい	仙台は歴史資源が多く、藩政時代から職人が多く住んでいたことから、普段目にすることの少ない職人の技やその地域に受け継がれてきた伝統の意義を学び、身近な生活に活かしながら、地域への理解を深める。		
概要・成果	平成 27 年度から継続している仙台伝統ものづくり塾実行委員会（いきいき青葉区推進協議会）との共催で、かつて柏木界隈において瓦産業がさかんだったことから、仙台の瓦をテーマとしてミニ鬼瓦の製作体験、講話、まち歩きの３回連続講座と、藍で染める型染め体験講座を開催。瓦講座では地域の瓦産業の痕跡を探し、型染め体験では体験を通じて歴史ある染め物文化を学び、地域の伝統文化への興味関心を広げることにつながった。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
●柏木ワンダーランド	小学生対象に 1、2 回目は環境問題に関連するエネルギー等の科学実験、3 回目は親子で八幡地域のまち歩き、4 回目は玉虫塗の職人体験を実施。日常では難しい特別な学びの場を幅広いテーマで提供した。	8 月 21 日 9 月 10 日 11 月 5 日 1 月 29 日	4	38
インリーダー研修会	子供会活動の充実と活性化を目的に、次期リーダーとなる児童を対象とした講話、情報交換などを行い、子ども会活動の意義や運営方法について学ぶ場を提供した。	1 月 21 日	1	41
親子でチャレンジ in 柏木～みんなでニュースポーツ～	「八幡・通町の地域団体との企画会」において企画したニュースポーツ体験会を開催し、シャッフルボードやラダーゲッター、カローリングといったニュースポーツの体験を行った。	12 月 3 日	1	16
柏梁学院	高齢者が共に学び合い交流する場の提供を目的に、歴史・音楽・体操やニュースポーツ等様々な分野をテーマに学習した。また感染対策を講じて館外学習を実施。運営委員会やクラブ等の自主活動を促進した。	4 月 20 日～ 3 月 1 日	11	498

地域防災講座	通町地区町内会連合会、通町小学校、並びに避難所運営担当課の教育局学事課と連携し、小学生と地域住民が防災について共に学ぶ機会を設け、地域の災害課題に向き合うきっかけづくりとした。また、自助・共助に関する講座を実施し、今後の災害に対する意識の向上を図った。	6月25日 11月22日 12月16日 2月2日	4	455
交流広場「ギャラリー☆かしわへようこそ」	ギャラリー仕様となっているロビーを活用して地域団体の作品展示やワークショップ、コンサートを開催。気軽に集い、交流する場を提供した。	7月26日～ 3月31日	8	574
●地域の魅力発信講座	北山市民センター共催のまち歩きや青葉区家庭健康課共催とのまち歩きを通した健康づくり講座を実施。また通町小学校への出前授業を実施し、幅広い世代に歴史資源や地形などの地域の魅力を発信した。	9月22日 10月8日 10月27日 12月16日	4	87
●てらまちフェスタ2022ーあそびでつながるまちづくりー	新型コロナウイルス感染症により中止となっていた地域のまつりを3年ぶりに開催。実行委員とともに感染対策について協議を重ね、飲食を除き、遊びのコーナーを中心とした子供から大人まで楽しめる内容を実施した。	10月12日	1	246
柏木展示発表会	「柏木ふれあいまつり」の代替事業として市民センター主催で開催。市民センター利用サークル・地域団体・近隣の小中高校の児童生徒の作品展示や活動動画の上映などを行った。	9月30日 10月1日 10月2日	1	225
柏木地域懇話会	連合町内会をはじめ地域諸団体との新型コロナウイルス感染症収束後の連携についての情報収集に努めるとともに、得た情報を今後の事業の企画に生かす機会とした。	10月28日 2月17日	2	18
八幡・通町の地域団体との企画会	八幡小・通町小のおやじの会と学校支援地域本部のメンバーが企画員となり、地域の子供から大人まで楽しむことができるイベントを企画し、12月にニュースポーツ体験を実施した。	6月17日～ 3月3日	6	17

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

地域団体会議の事務局運営と関係団体のコーディネート

市民センターでは地域の15団体で構成する「ご近所会議」の事務局と会議参加団体が中心となって開催する地域イベント「てらまちフェスタ」の事務局を担っており、関係団体である通町小学校、通町児童館、通町地区町内会連合会、近隣保育園等との連絡調整や実行委員会運営を行っている。新型コロナウイルスの感染が続く中、小学校を会場に多くの子供たちが参加することに対して様々な意見が出されたが、感染防止に留意した新たな開催案について協議を重ねた。こまめに参加団体の意向を確認・共有することで、前向きに協議することが出来、3年ぶりのイベントを無事開催することができた。

また、コロナ禍において地域活動が減少し、他団体との交流機会が少なくなっていた中で各団体の活動現状やコロナに対応した工夫などについて情報交換する機会ともなった。

北山市民センター

〔沿　革〕

北山市民センターは､昭和49年7月に北山福祉会館として設置され(所管は仙台市社会福祉協議会)、平成元年の政令指定都市移行に伴い「北山市民センター・公民館」となり、平成2年には「北山市民センター」と名称を改めた。地域の生涯学習の拠点としての機能を果たしてきたが、施設の老朽化に伴う改築後、平成23年1月に再開した。

地域内には、青葉神社、大崎八幡宮、北山五山などの神社仏閣があり、歴史的・文化的資源や緑に恵まれている。また、東北福祉大学や東北大学国際交流会館の立地により、若者や外国人の居住者が多い。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	市民参画講座「北山わいわいR4」		
参加者	企画：仙台市立国見小学校支援地域本部さぽーと小萩、地域の大学生 参加：小学生と保護者	延参加者	70人
開催日	5月13日～10月2日		
協力者・協力団体	仙台市立国見小学校支援地域本部さぽーと小萩		
ねらい	北山地域の学生が中心となり、地域の団体等と共催し、小中学生が楽しみながら学べるイベントの企画実施を行う。イベントの企画実施を通して、学生と地域住民との交流を図り、地域活性化につなげる。		
概要・成果	地域の大学生が企画員となり、国見小学校支援地域本部さぽーと小萩と共催で小学生親子を対象に、謎解きをしながら地域を歩くウォークラリー形式のイベントを企画・実施した。企画員の大学生は「三条中学校」が地域の指定避難所となっていることが導き出されるよう謎解きの問題を作成し、ウォークラリーのコースを策定した。 さらに、イメージキャラクターを考案してステッカーを作成し、ゴールした参加者へ修了証とともに配布するなど、参加者が楽しみながら防災意識を高めることができるよう工夫を凝らした。参加者は、親子で防災について話し合い、地形の特性の面からも防災について学習する機会となった。また、大学生と親子が一緒に地域を歩き、コミュニケーションを取りながら謎解きをすることで、学生と地域住民による世代を超えた交流が図られた。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
ルンルン子育てサロン2022	子育て世代が気軽に参加し相談や交流ができる場として、託児付きの講座を開催した。新型コロナウイルスの感染状況により、11回の実施予定を9回に変更して実施した。	4月19日～2月4日	9	82
通町小学校連携講座「わたしのまちの歴史探検」	通町小学校5年生を対象に、地域の歴史的資源や価値を学ぶことで児童の地域に対する関心を高めることを目的として北山五山を歩く現地学習と学習成果の発表会を実施した。	7月7日 12月9日	2	124
インリーダー研修会	子ども会活動の充実と活性化を図るため、子ども会に所属する児童と次年度の世話人を対象に子ども会について学ぶ講話やゲームの実技、情報交換を行う研修会を実施した。	1月21日	1	41

健康講座～心もからだも健やかに	成人を対象に、新型コロナウイルス対応の新しい生活様式や健康管理方法を学ぶため、健康体操と脳トレ、健康ウォーキング、クリスタルボウル演奏会、ニュースポーツなどを行った。	9月7日～11月16日	5	40
【中止】 北山市民医学講座	健康な地域づくりに寄与するべく、大学病院の医師による医学講座の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止とした。	―	―	―
北山シルバースクール2022	高齢者の社会参加や交流の場を作るため、文学や歴史についての講話、日舞健康体操、二胡コンサート、ミニ屏風作成講座を実施した。また、交流まつりへの展示や運営委員会発行による文集を作成した。	5月27日～2月17日	9	220
●北山地域防災講座	北山地域住民の防災意識向上(自助・共助・公助)に向け、大学や小学校社会学級等と連携し「地形を知って命を守る」講話やまち歩き、地域防災訓練や「北山交流まつり」で展示を行った。	5月15日～10月16日	6	378
第15回北山交流まつり	町内会、近隣小中学校、地域活動団体・サークルの活動成果発表と、地域住民の交流の場作りを目的に展示、活動紹介動画上映、地域団体のサークル体験、ジュニアリーダーのコーナーを実施した。	10月15日 10月16日	2	330
地域懇話会	地域の町内会や教育・保育関係団体と市民センター事業への理解促進を図り、地域情報の共通認識の把握に努めた。	6月15日 11月19日	2	21
地域の魅力発信～北山地区歴史ガイドボランティア次世代養成講座	次世代の人材育成を目標に、座学と実地研修からなる全5回の講座を実施した。また、柏木市民センターと共催でまち歩きと講話の講座を実施した。まち歩きではメンバーが講師を務めた。	4月13日～3月8日	17	254

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「北山ガイドボランティア」の活動支援

「北山ガイドボランティア」は、平成 20 年度開催の主催講座「北山歴史ガイドボランティア養成講座」の修了者 15 人で活動を始めたが、最近はメンバーの高齢化と新入会員が少ないのが課題となっていた。そこで再度、センター主催のガイドボランティア養成講座を開催し新規会員の加入につなげた。また、通町小学校5年生対象の「わたしのまちの歴史探検」や柏木市民センターと共催の「地域の魅力発信紀行」で、ガイドボランティアに講師を務めてもらい、新規会員の研修の場になるよう支援した。

さらに、北山交流まつりのサークル体験会への参加を勧め内容をアドバイスし、ガイドボランティアを知らなかった多くの来館者に活動の様子を伝えることができた。

福沢市民センター

〔沿　革〕

福沢市民センターは、昭和 59 年 6 月 9 日、コミュニティ防災センターを併設して開館。平成 20 年 6 月より大規模改修工事を行い平成 21 年 1 月 14 日に再開した。

当市民センターの地域内は、東照宮の門前町として栄えた宮町を含め、歴史を感じる雰囲気を今にとどめており、下町情緒に溢れている。現在では仙台市中心部から近いこともあり、マンションが建ち並ぶ新旧住民が混在した地域である。ここ数年地域の総人口は増加に転じているが高齢化が著しく進む地域でもあり、災害等に備えた地域コミュニティの形成がより重要となりつつある。

当センターでは、地域コミュニティ形成のために様々な方法で取り組みを工夫し実施している。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	★災害にそなえよう！		
参加者	小学生及び中学生親子、地域住民	延参加者	47 人
開催日	全 3 回　　令和 4 年 7 月 28 日（木）、10 月 25 日（火）、令和 5 年 2 月 23 日（木）		
協力者・協力団体	仙台市消防局、青葉区女性防火クラブ、宮町消防団、おてんきぼうさい☆ラボ		
ねらい	災害に備えて地域住民を対象に AED 講習を含めた救急救命講座、消火訓練を含めた防火講座、気象災害のけが予防、避難所の使い方などの防災講座を行う。		
概要・成果	東日本大震災から 12 年が過ぎ、災害への備えに対する意識が薄れ始めている。さらに近年は豪雨による洪水や土砂崩れなど、管轄地区ではこれまで経験のなかった災害の危険が防災マップに記載されるなどして分かってきた。以上を踏まえて、令和 4 年度も救急救命、防火訓練、気象災害への備えについて講座を実施した。 2 月に実施した講座では、管区内小学校 6 年生の「地域の未来を考える」という総合の授業において、「親子で災害について学ぶ講座を市民センターで実施してほしい」という発表がなされたことを踏まえ、気象災害の備えを学ぶことと、続いて避難所で役立つ防災用品（ペットボトルランタン）を工作する教室を実施した。講座実施にあたって、発表をした小学生児童もスタッフとして加わり、地域の防災へ主体的に関わるという機会を提供することができた。今後も地域の要望を取り入れながら一緒に活動できるような講座を工夫して行っていきたい。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
ママのためのリフレッシュタイム♪	乳幼児親子を対象に、ミニ仙台七夕飾り作り、親子ビクス、リトミック、絵本の選び方や読み聞かせのコツ、手あそびなどを行い、参加者同士の交流を楽しんだ。	7 月 13 日 9 月 28 日 11 月 29 日 1 月 18 日	4	52
仙台市子ども会インリーダー研修会	管内にある三小学校区の子ども会を対象に子ども会リーダを育成するための研修会を開催した。	1 月 21 日	1	31
エンジョイ！こどもひろば	近隣の児童館と連携し、小学生を対象に、体育館と和室での運動遊び、クリスマス会、及び親子対象の星空観察会を行った。	8 月 4 日～ 3 月 30 日	6	297
先人の知恵に学ぶ	地域住民を対象に、地域の歴史を学ぶ講座、地域の理解を深めるためのまち歩き、さらに伝統的な技術を学ぶ実技講座を実施した。	4 月 9 日～ 3 月 21 日	6	199

≪青葉区≫

福沢シニア大学	高齢者を対象に仲間づくりや交流を目的として、尺八コンサート、気象や健康等にかかる講話、ダーツやちぎり絵の実技、落語等を行った。	5月19日～ 2月16日	9	379
福沢レディース交流サロン	地域にお住いの女性を対象に、心身の健康を維持し高齢化社会を明るく生き抜くことを目的として、美容、ヨガ、お茶、リース作りの講話と実技を行った。	9月9日 9月16日 10月21日 11月25日	4	32
楽しく学ぼう　SDGｓ	SDGｓについて正しく学び、日常生活の中で実践的に出来ることを考えることを目的に、緑のカーテンづくり実技、家庭ごみのリサイクルと分別についての講話、段ボールコンポストの作成を行った。	6月11日 6月24日 12月9日	3	20
～むかしの写真で、まちを再発見する～ ここダネ！	地域への愛着を深めつつ、世代間交流を図ることとを目的に、地域の昭和時代と現在を比べる写真を1階ロビーに展示した。その上で、地域住民を対象に「写真を比較して楽しむ方法」についての講話を実施した。	2月1日～ 3月25日	2	906
第33回福沢市民センターまつり2022	地域の活性化を目的に、サークル見学・体験会、展示発表、ステージ発表、ちびっこあそび場、リサイクル本の展示等、利用団体や住民等の学習成果を発表するセンターまつりを開催した。	10月9日～ 10月13日	2	813
体いきいき健康づくり講座	運動習慣を身につけることを目的として、成人を対象に、一人でも隙間時間でも楽しくできる筋トレ・脳トレの実技、コロナ禍や加齢による体調変化の管理のコツについて学んだ。	10月27日 11月8日	2	32
市民企画講座「音楽交流会」	地域住民が企画員となり、住民の交流を目的に、ヴィーハープ、尺八、オカリナのコンサートや、エイサーの演舞を実施した。	9月9日 10月8日 11月19日 1月7日	4	120
福沢懇話会	第1回は地域住民（町内会長、民生児童委員、利用者代表等）から市民センター運営の理解と意見をいただき、第2回目は地域の児童館長らと令和5年度の連携について協議した。	6月18日 1月27日	2	23
市民企画会議「音楽交流会を考えよう」	地域活動に取り組む人材を育てることを目的に、当センター周辺の地域住民が企画員となり、参加型の「音楽交流会」を企画・実施した。	6月7日～ 1月7日	7	35

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「福沢ちえ袋の会」の活動支援

福沢ちえ袋の会は、平成 19 年度から福沢市民センターで節句のお飾り作りやその作り方の指導をしている。また、昔遊び(お手玉・割りばし鉄砲・紙とんぼ)の紹介や道具の制作、仕組みの学習等の体験活動を地域の保育所、児童館、小学校に出向き行っている。市民センターでは、ちえ袋の活動を地域の学校や施設に広報して、各地で実施できるようコーディネートし、支援している。令和 4 年度は市民センターまつりで例年通り昔遊びのコーナーを担当してもらい、地元の子どもたちやその保護者の方々が多数参加して楽しんでいた。これにより、若年層にセンターを身近に感じてもらうよい機会となった。さらに、毎年制作協力を依頼し、ロビーへ展示している七夕飾りは、来館者の目を喜ばせており、福沢ちえ袋の会の活躍の場のひとつとなっている。近年、会員の高齢化と減少が進んでいるものの、無理のないように配慮して活動を後押ししている。

旭ケ丘市民センター

〔沿　革〕

旭ケ丘市民センターは、地下鉄南北線建設事業の一環として昭和 60 年 6 月に開館した。地下鉄・バスの利便性が非常に良い立地にあり、また近隣は日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）、スリーエム仙台市科学館、仙台文学館等の学術文化ゾーンとなっている。さらに西側には市民から親しまれている台原森林公園が広がり自然環境にも恵まれている。当市民センターは、旭ケ丘ターミナルビルにある立地を生かし、多様なニーズに対応する生涯学習の場を提供するとともに、地域資源・人材を活用した事業展開を推進しながら、地域コミュニティ活性化支援の役割も担っている。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	台原森林公園をまるごと楽しもう		
参加者	成人	**延参加者**	118 人
開催日	全 10 回　　令和 4 年 5 月 20 日（金）～令和 5 年 2 月 10 日（金）		
協力者・協力団体	なし		
ねらい	年間を通して台原森林公園の自然について学ぶことで、地域資源である台原森林公園の魅力を掘り起こし、自然環境へ目を向ける機会を提供することを目的に開催する。将来的には、受講生が学びの成果を還元できるボランティアへの興味も育てていく。		
概要・成果	旭ケ丘地区には豊かな自然を有する台原森林公園があり、四季を通じて様々な草花や、鳥、昆虫が見られるが体系的に学ぶ場がない。そこで、台原森林公園の自然について学びながら魅力を掘り起こし、受講生が自然環境へ目を向けるきっかけ作りを目指した事業を開催した。 地域資源である台原森林公園をテーマに、自然観察やクラフト作り、自然保護といった多様な視点から講座を行うことで、地域の魅力について発掘することができた。また市民センターまつりに受講生が撮影した写真を成果物として展示し、講座での活動を広く地域住民に周知した。最終回は、受講生一人ひとりが学びの成果を全員の前で発表し、お互いの思いを共有することに繋がり、地域が持つ魅力について知識を深める機会となった。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子どものためのクラシックコンサート	グランドピアノがあるホールで未就学児親子が楽しむクラシックコンサートを開催。ピアノとバイオリンの演奏、楽器の紹介、手拍子による全員参加の演奏、曲あてクイズ、朗読と演奏等を実施した。	12 月 10 日	1	44
あつまれ！旭ケ丘キッズ	小学生向けに「ニュースポーツ」、「日立システムズホール仙台施設見学」、「天体観望会」を開催した。8 月 19 日に予定していた手芸は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。	7 月 28 日 1 月 6 日 2 月 17 日	3	45

仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会のリーダーとなる児童及び世話人向けに研修を開催。児童は、子ども会についての講話や JL からゲームを教わり、世話人は、その役割についての講話を聞き、他子ども会との情報交換を実施。	1 月 28 日	1	39
旭ケ丘老壮大学	高齢者向けに月に 1 回、歴史、健康、防犯・避難訓練、動物園、笑いについて等、講話や実技、コンサートを全 7 回で開催した。	5 月 13 日～ 12 月 2 日	7	382
ホタル調査隊	「ホタルとメダカの里」についての講演会、カワニナ（ホタルの幼虫のえさ）へのエサやり、ホタル観賞会（人数を減らし 3 回実施）、ホタルの発光について学ぶ科学実験の全 6 回開催した。	5 月 25 日～ 1 月 21 日	6	55
●災害につよいまちづくり	指定避難所での避難所運営について考える地域防災会議を事前会議を含めて 3 回実施。町内会と共催の防災講座を 2 回、児童館と共催の子育て世代向け対象に 1 回の計 3 回の防災講座を開催した。	7 月 2 日～ 2 月 4 日	6	74
旭ケ丘の魅力	市民企画員がこれまで学んだ旭ケ丘地区の魅力を題材に「あさひが丘の魅力～再発見クイズ～」を完成させた。公開講座として「ホタルとメダカの里　はじまり物語」(5 月)、「森林公園の地層を知ろう」(11 月)を実施した。	4 月 14 日～ 3 月 9 日	13	76
旭ケ丘市民センターまつり	実行委員会で検討し、新型コロナウイルス感染予防のため展示中心に開催。オープニングセレモニーに台原中学校合唱部のミニコンサート、2 日目には東北労災病院の講話を実施した。	10 月 22 日 10 月 23 日	2	600
旭ケ丘地域懇話会	地域団体等を対象として 2 回、サークル対象に 1 回の懇話会を実施し、お互いの活動状況の情報交換と地域課題等を共有した。	5 月 25 日 11 月 17 日 12 月 7 日	3	45

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

学校と地域団体活動とのコーディネート

台原中学校合唱部が発表の場を求めていると聞き、市民センターまつりオープニングセレモニーへの出演を依頼した。まつり当日は、歌やダンス、楽器演奏とのコラボレーションに大いに盛り上がった。センターまつり出演が活動の場を広げるきっかけの一つとなった。

また、東北学院中学校・高等学校科学部（以下科学部）の顧問教諭から相談を受け、「仙台旭ヶ丘ホタルとメダカの会」、「旭ヶ丘のホタルを育む会」と科学部とが繋がることができるよう仲介を行った。そこから 3 者協働による活動が始まり、ホタルの幼虫のエサとなるカワニナの研究や、小川の新設などホタルの生息域を広げるための活動へと繋った。協働することでそれぞれの活動が広がり、次世代へホタルを繋ぐための活動を続けている。

三本松市民センター

〔沿　革〕

三本松市民センターは、北仙台駅から近く、閑静な住宅街である堤町の中に位置し、西側には野鳥や山野草に恵まれた三本松緑地公園が隣接している。堤町は、現在は窯の火は消えてしまったものの、古くから「堤焼き」と「堤人形」の町として知られた歴史のある地域である。

当市民センターは、昭和 62 年 4 月 1 日、泉ヶ岳を眺望できる高台に建設された。駐車場(35 台)、舞台付で約 50 畳の和室と広い体育館(バスケットボールコート 1 面、バレーボールコート 2 面、卓球台 9 台)があり、地域住民の生涯学習の場として広く利用されている。平成 27 年度に大規模修繕を実施し、平成 28 年 4 月に再開した。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画講座　落ち葉を活用して堆肥作りをしよう！		
参加者	地域住民	**延参加者**	41 人
開催日	全 4 回　　10 月 29 日（土）、11 月 26 日（土）、12 月 24 日（土）、1 月 21 日（土）		
協力者・協力団体	三本松町内会、三本松緑地公園愛護協力会		
ねらい	毎年大量の落ち葉で悩まされている地域住民の課題を解決する為、町内会等の地域団体に協力を仰ぎ、落ち葉の収集と堆肥作りの講座を実施した。		
概要・成果	地域住民の方の意見と要請に応え、市民センターがリーダーシップを取る形で、地域の方々に働きかけ、三本松緑地から出る大量の落ち葉を活用した堆肥作り講座を実施した。この講座の開催により、毎年地域で悩まされている大量の落ち葉の問題を解決することはもちろん、堆肥作りの過程で三本松町内会や三本松緑地公園愛護協力会の方々と共同作業をすることで、地域住民の交流が自然な形で促され、地域の活性化にも繋げることができた。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
インリーダー研修会	次期子ども会のリーダーとなる児童・世話人を対象に子ども会活動活性化の一助とするため、子ども会の役割等を学んだり、レクリエーションゲームを行ったりする学習の場を提供した。	1 月 28 日	1	39
三本松寺子屋	コロナ禍における小学生の健全育成に寄与するため、おこと体験教室・ボッチャ教室・ミニコンサート・キンボール体験を実施。スポーツ・伝統文化等多様な学びの場を提供した。	7 月 21 日～ 3 月 12 日	6	108
堤町彩発見	堤町の歴史の造形や文化的背景を学ぶために、堤人形の絵付け体験と、堤町界隈のまち歩きをそれぞれ複数回実施した。	4 月 14 日 10 月 13 日 10 月 20 日 11 月 10 日	4	48
防災講座	地域住民を対象として、防災意識を高める事を目的に、救急救命講習（AED）と、VR を活用した防災・減災講習を開催した。	11 月 12 日 3 月 11 日	2	31
三本松老壮大学	老壮大学生を対象に、高齢者の生きがいづくりを目的として、ツボ押しのお話、臨床美術、宮城県庁の見学、認知症についての講話、健康体操など、様々なジャンルの講座を開催した。	5 月 11 日～ 3 月 8 日	10	294

三本松市民センターがやってくる！	地域住民を対象に集会所などに出向き、市民センターを身近に感じてもらいながら様々な学びを提供するために、ペーパークラフト・スローエアロビック・近隣保育施設での幼児対象防災講座を行った。	7月12日 9月15日 11月29日 1月20日	4	77
三本松市民センターまつり	令和4年9月の段階でまだコロナ禍にあったため、一ヶ月ほどの期間を設け、途中入替えを行いながらロビーにて作品の展示と川柳の入選作の展示を行った。	10月9日～ 11月5日	2	202
三本松地域懇話会	地域団体、市民センター利用者を対象に意見交換の場を設け市民センター事業、運営について意見を収集し、得られたニーズや地域課題を市民センター事業に反映させた。	8月27日 11月26日	2	20
「よむ」楽しみをみつけよう！	コロナ禍での新しい生活様式にあった自己研鑽のため、市民を対象に、川柳作品の募集などを実施した。また、図書ボランティアを対象に、本の修理体験講座を開催し、スキルアップを図った。	6月3日～ 3月4日	6	104
三本松から音楽の風を！	市民を対象に音楽の風ボランティアと共に「元気」「癒し」「活力」などを提供するために、高等学校音楽科の器楽と歌・フルート＆ギターアンサンブル・ビッグバンドのジャズ演奏を行った。	9月3日 11月5日 2月25日	3	184
市民企画会議 「井戸端会議 in 三本松」	市民センターの認知度を高め地域交流の場として活用してもらうため、地域住民を対象に市民企画員が意見を出し合い企画立案や講座に向けた準備を行い、落ち葉を活用しての堆肥作り講座を実施した。	5月24日～ 1月21日	6	22

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

図書ボランティア“ぽけっと”の活動支援

コロナ禍で、センターの図書室利用も伸び悩むなか、図書室の活性化や図書ボランティアサークル“ぽけっと”の活動支援のため、市民センターでは様々な働きかけを行った。

特に、令和 4 年度事業「『よむ』楽しみをみつけよう！」の中で実施した「ブックトークに関する講座」と「本の修理体験講座」は、ボランティアメンバーのスキルアップと活動の幅を広げることに繋がり、図書ボランティアの活躍の場をいっそう増やすことができた。

片平市民センター

〔沿　革〕

片平市民センターは平成元年、児童館とコミュニティ防災センターを併設して、東北大学農学研究所跡地に開館した。市内中心部に位置し、交通が便利なことから町内会など地域の団体ばかりでなく、全市的な市民活動の場として盛んに利用されている。

また市民センターが立地する地区は、市街地にありながら広瀬川がつくりだす独特な地形と、仙台城や経ヶ峯の豊かな自然に囲まれたところである。さらには歴史的な資源に恵まれ、大学の研究機関などが隣接する。

こうした地域の資源を活かした生涯学習プログラムの提供や、市民の自主的な活動の支援、併設する児童館との共催事業の提供を通して、地域に貢献している。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	かたひら元気クラブ		
参加者	地域住民	延参加者	44 人
開催日	全 3 回　　令和 4 年 9 月 30 日（金）　10 月 7 日（金）　10 月 28 日（金）		
協力者・協力団体	五橋地域包括支援センター		
ねらい	コロナ禍で外出の機会が減り、人との交流も減少している。心身の健康を維持するために、体を動かすことと人との交流やゆるやかなつながりづくりは大切である。そこで高齢者が安心して集い、体を動かすことのできる運動教室を開催し、地域に住む高齢者の健康維持及び交流促進の一助とする。		
概要・成果	地域に住む高齢者の健康維持及び交流促進を目的に 1 回目にヨガ、2 回目に脳の健康づくりの講話と軽体操、3 回目にリズム体操を行った。運動のきっかけづくり、それを継続した習慣とするために 3 回連続講座とした。最終回には、連続講座で顔見知りとなった参加者同士が声を掛け合い、自発的に運動サークルを立ち上げることとなり、講座のねらいとする結果に繋がった。当該サークルは、現在月 2 回程活動を継続している。運動の楽しさや仲間と一緒に活動する機会を提供することで、活動意欲向上や健康維持、交流促進のきっかけづくりとなった。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
インリーダー研修会	子ども会活動を充実させるため、小学 5 年児童と子ども会世話人を対象に実施。世話人は「子ども会活動の心構え」を、児童はゲームを自分たちで考え、考えたゲームを世話人も含めた「レクリエーション研修」で実際に行った。	1 月 28 日	1	24
かたひらきっずらんど	5 月は天文台と共催で「ベガ号で天体観察をしよう」、6 月は片平公園お花の会を講師に「お花をうえよう」、7 月は博物館と共催で「体験！プレイミュージアム」、2 月は県工業高等学校との連携で「県工でものづくりをしよう！」を開催した。	5 月 20 日 6 月 11 日 7 月 2 日 2 月 4 日	4	66
広瀬川界隈ぶらり散歩	地域資源である史跡や広瀬川などの自然を活用し、片平地区の魅力を周知するために「広瀬川をゆっくり歩く会」の案内で片平地区を中心に 4 回散策した。また、ボランティアのスキルアップを兼ねて仙台市博物館の出前講座を開催した。	4 月 16 日～ 2 月 8 日	11	226

片平シニア麟経大学	高齢者を対象に、定期的な学習機会を持つことで、生き甲斐ある生活と受講生の交流を図った。歴史や生物多様性、仙台の魅力などの講話、ディスコンや歌の体験、コンサート、館外学習を実施した。	5月12日～ 2月9日	10	471
地域の宝みんなの片平公園	地域住民を対象として、5月と11月に片平公園の花壇づくり、9月に公園で育てた藍の生葉の藍染体験、11月に落ち葉の腐葉土作り学習会と公園資源を使いクリスマスリースづくりを開催した。	5月28日 9月10日 11月12日 11月26日	4	36
楽しく学ぼう　地域防災	11月に高齢者を対象とした「住宅火災から命を守ろう！」、2月に小学校低学年親子対象とした「親子で防災&科学実験」を開催した。7月に予定していた「マイ・タイムラインを作ろう！」は、大雨のため中止とした。	11月17日 2月18日	2	19
かたひらwaiwai広場	地域住民の交流の場と地域の活性化のために開催し、ステージ発表、展示、お茶席・健康相談、隣接する公園でのグラウンドゴルフを行った。近隣の小中高等学校や地域団体・センター利用サークルの発表を行い、参加者も多くにぎわった。	10月22日	1	600
Tanabata Night手作り灯篭ワークショップ	7月に紙パックを使った灯篭づくりのワークショップを開催し、そのワークショップで作った灯篭のライトアップを8月に開催した。ライトアップ時には、市民センター敷地内竹林で作品の展示、短冊記入コーナーを設置した。	7月23日 8月4日	2	93
片平市民センター懇話会	センターの当年度事業計画の周知と協力要請、関係団体の課題や要望等の情報交換を目的に1回目を開催した。第2回は、各分科会の報告と福祉の視点で地域防災に関わることや今後のまちづくりの検討事項について話し合った。	6月24日 11月23日	2	23
【中止】 「片平のひびき～臥竜梅コンサート	市民センター利用団体の他、片平丁小学校・五橋中学校の吹奏楽部にも出演を依頼し、より一層地域に密着したコンサートを目指したが、開催直前に感染が拡大し、やむなく中止とした。	―	―	―
盛り上げよう！地域のイベント	地域イベントの核となって活動できる人材育成とイベントの盛り上げに貢献することを目的に、夏まつりの盆踊り、3回連続で折り紙、タッピングタッチ練習を行った。	7月30日 ～1月11日	5	42
市民企画会「片平のひびき～臥竜梅コンサート」	1回目は顔合わせとコンサートの方向性を話し合い、出演者の選定をした。2回目は出演依頼の進捗確認やコンサートの構成についての話合い、3回目はチラシの考案と開催に向けた最終確認を行った。	5月26日 6月23日 9月28日	3	8

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「片平公園お花の会」の活動支援

平成28年度に実施した地域力創造支援事業「地域の宝みんなの片平公園」終了後、平成29年度に「片平公園お花の会」が結成され、令和元年度には自主的な活動を展開するまでに至っている。

市民センターの講座「地域の宝みんなの片平公園」では、公園の花壇作りや自然植物を使ったリース作りを行った。また新たな試みとして、会員が公園で育てた藍の生葉を用いて藍染の講座を行い、参加者から好評を得るなど、会員を地域講師とし、活躍の場を年間通して提供することができた。

公園の草刈、ゴミ拾い、落ち葉掃きなども定期的に行い、公園の美化活動として地域住民に参加を促しながら活動している。その際のチラシづくりや地域への広報支援を行うことで、会と地域を繋げ、会の活動を地域住民へPRすることができた。

水の森市民センター

〔沿　革〕

水の森市民センターは、市民の憩いの場として広く親しまれている自然豊かな水の森公園の南側入口に立地している。管内は昭和 30 年代半ばから宅地開発が進んだ水の森、東勝山、桜ケ丘、川平等の閑静な住宅地を擁する地域である。

当市民センターは、児童館・温水プール・コミュニティ防災センターを併設する複合施設として平成 2 年 9 月に開館。令和 2 年 11 月から大規模改修を行い、令和 3 年 11 月に再開した。斬新な外観の施設は地域のランドマークとして親しまれ、一年を通して多くの利用者が訪れる。2 階の広いロビーは、地域住民の情報交換や憩いの場として高齢者から幼児まで常に賑わいをみせている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	集まれマザーズ		
参加者	未就学児と保護者	**延参加者**	18 人
開催日	全 4 回　　令和 4 年 5 月 27 日（金）～7 月 1 日（金）		
協力者・協力団体	水の森児童館		
ねらい	子育て中の母親が一人で悩みや負担を抱え孤立することなく、地域で安心して育児ができる環境づくりを目指し、子どもを預けて自分のための時間を楽しむ機会を提供する。また併設児童館との連携により、講座終了後も児童館を母親同士の交流の場として活用を促し充実した支援を行う。		
概要・成果	育児中の母親が、自分のための時間を楽しむことが良い息抜きとなり、心にゆとりをもって子育てできるよう、託児付き講座を毎年継続して実施している。母親の居場所づくりや交流につながる内容で託児付きの講座として定着しており、口コミでの参加も多いことから回数を増やし実施した。また、新型コロナウイルス感染防止のため、少人数の託児にしてボランティアの配置を厚くし、時間を短縮する等の対応をとりながら行った。コロナ禍で託児付き講座が減少する中、継続して託児付き講座を実施することで、託児ボランティアの活動や子育て中の母親が自分のための時間を持つ場を提供できた意義は大きかった。また児童館との連携もあり母親同士のネットワークも広がっている。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
水の森自遊クラブ【MJC】	市民センターの利用が少ない中高生を対象に毎月第 4 土曜日午後の体育館を開放し、スポーツを楽しむ機会を提供した。またニュースポーツ体験やジュニアリーダー企画講座を実施した。	4 月 23 日～3 月 25 日	13	86
インリーダー研修会	子ども会代表児童と世話人が、子ども会活動についての知識やレクリエーションゲームを学び、ジュニアリーダーとともにゲーム進行などを実践した。	2 月 18 日	1	30
市民企画会議「子どもの育ちを支えよう！」	管轄地域で子どもの育成支援に関わる方を企画員とし、課題や情報を共有しながら話し合いを重ね、地域の大人と子どもの交流の機会となる講座の企画・運営を行った。	6 月 7 日～11 月 16 日	5	20

水の森シニア学園	地域の高齢者が定期的に市民センターに集い、歴史や音楽、健康など様々なことをともに学び、交流する機会を提供した。	5月19日～ 2月16日	9	352
みんなのつながりがチカラになる防災講座 －学ぶ・体験する－	複数年事業の5年目となった令和4年度は地域の防災組織と連携し、令和3年度に完成した「北仙台地域防災マップ」を活用し地域住民に向けた学習会や小中学校への出前講座を実施した。	6月19日 ～2月8日	7	552
荒巻地区・桜ヶ丘地区出前講座	高齢化や交通手段がなく、市民センターから遠い地域の方を対象に、各地域に出向いて出前講座を実施した。講座の内容は各連合町内会と話し合いニーズを汲み取り決定し実施した。	12月7日 2月1日	2	62
水の森地域まつり	コロナ禍の中、全体的に規模を縮小しての開催となったが、作品展示に加えてステージ発表やチャリティバザー、抽選会、産直販売を行い、地域住民の交流の場となった。	11月19日 11月20日	2	600
水の森懇話会	地域の諸団体やセンター利用サークル利用者と広く意見交換の場を持つことにより、水の森市民センターへの事業運営に理解を深めてもらうとともに、地域課題や利用者ニーズを把握し、施設運営の向上を目指して実施した。	6月30日 7月7日 2月15日	3	35
市民企画講座 ダンボールで「ひみつきち」をつくろう	小学生を対象に、地域の大人やジュニアリーダーがサポートに入り、ダンボールやペットボトルを再利用した避難所スペースやランタン作りなど、コロナ禍に対応した避難所運営体験を実施した。	10月29日	1	30

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

地域団体の学習支援事業におけるコーディネート

近隣の社会福祉法人から小学生向けの学習支援事業について、市民センターのWi-Fiを活用し公募による講座を計画したいとの相談を受けた。併設する水の森児童館の夏休み中を利用し、児童クラブの児童を対象とした事業を提案し、地域の社会福祉法人と宮城学院女子大学の学生ボランティア、水の森児童館をつなぎ運営面でのコーディネートを行った。地域の各団体をつなげることで、事業運営に広がりを持つことができ、交流を深める活動の支援につながった。

貝ケ森市民センター

〔沿　革〕

“貝”をモチーフにしたデザインが館内随所に配された貝ケ森市民センターは、貝ケ森地区に平成 5 年 4 月、児童館を併設して開館した。閑静な住宅街の中にあって、その瀟洒な建物は、隣接する貝ケ森中央公園とともに地域のシンボルとして親しまれている。

風光明媚な貝ケ森地区は自然の風物に富み、さらに高等教育機関や文化施設などに恵まれており、国際交流の盛んな場所でもある。

当市民センターは、可動式の舞台を持つ多目的ホール、会議室、調理台付き小会議室、水屋付き和室等があり、地域住民の学習・スポーツの場として、また、憩いの場として活用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	歩いて学ぶ　大人のまち探検		
参加者	成人	延参加者	26 人
開催日	全 2 回　　令和 4 年 6 月 30 日（木）、9 月 29 日（木）		
協力者・協力団体	令和 3 年度 男の企画会議「歩いて学ぶ郷土の歴史」企画員		
ねらい	貝ヶ森地域では住民の高齢化が進んでおり、コロナ禍の影響もあって、運動不足の訴えや外出のきっかけを求める声が多く聞かれるようになった。そこで屋外で対人距離を取り、地域の史跡等をたどる「まち歩き」を行うことで、楽しみながら地域への理解を深めてもらうとともに、受講生の交流と運動不足の解消を図る。		
概要・成果	1 回目は、貝ヶ森から北山方面、2 回目は、北山から北仙台方面のまち歩きを実施した。わざわざ遠出をせずとも、普段何気なく歩いている身近な場所にたくさんの痕跡や歴史があるということを実感することができた。また、受講生同士で自身の思い出や、昔の土地の様子を話し、交流する様子が見られた。講座開催にあたっては、令和 3 年度男の企画会議「歩いて学ぶ郷土の歴史」の企画員 4 人が、地域のサポートスタッフとして参加し、地域人材の活躍の場とすることができた。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
ちびっこひろば	乳幼児親子を対象に、子育てに関わる 11 の地域団体と連携し、参加型のショーや工作、わなげ等のコーナー遊びを行った。	10 月 7 日	1	55
貝ケ森てらこや	地域の小学生親子を対象に、ポップアートカードづくりやどんぐり工作、地域をテーマにしたまち探検を行った。	8 月 5 日 9 月 25 日 11 月 5 日	3	20
親子deペタンクチャレンジ！	地域の小学生親子を対象に、ペタンクの体験会と実際に対戦して競技を楽しむ交流会を行った。	6 月 4 日 6 月 18 日 9 月 10 日 9 月 17 日	4	44
中学生のハローワーク	中学１年生を対象に、職業や将来について広く考える機会として、7 業種の社会人講師から実際の仕事に関する話を聞いた。	11 月 25 日	1	203
●防災リーダー養成講座	地域の小・中学生を対象とした防災ゲーム、高校生を対象とした防災講話、貝ケ森市民センター補助避難所運営委員会と連携し、避難所運営訓練を行った。	7 月 7 日～ 10 月 12 日	5	364

インリーダー研修会	子ども会のリーダーとして活躍する児童および世話人を対象に、子ども会活動についての知識やレクリエーションなどの実技を学習した。	2月11日	1	41
おうちで楽しむ和の文化～あなたも書家に～	コロナ禍により自宅で過ごす時間が増えた成人を対象に、団扇カラーマーブリング、葉書、表具づくりを通して書道を楽しんだ。	7月15日 7月22日 7月29日	3	30
市民企画講座「ノルディックウォーキングｉｎ貝ケ森」	成人を対象に、ノルディックウォーキングの体験会を行い、紅葉の地域の中を歩いた。	11月12日	1	11
貝ケ森シニア学園	シニア世代を対象に、文化教養、歴史、健康、防犯等、様々なテーマを講話や実技で学習をした。	5月25日～ 3月8日	9	234
もっと知りたい！スマートフォン	スマートフォン初心者のシニア世代を対象に、スマートフォンの基本的な操作を学んだ。オンライン講演会などの新たな学習方法や情報収集、情報発信の支援につながった。	8月10日 8月17日 8月24日	3	30
もっと素敵に！貝ケ森　講座企画会	地域在住の方を対象に、地域の現状や課題を主体的に考え、地域ニーズに沿った講座の企画会議を行い、「ノルディックウォーキングin貝ケ森」と森を遊ぼう～カンタン！楽しい！巣箱をつくろう～」の２つの講座を企画・実施した。	5月12日 5月26日 6月9日 12月15日	4	14
市民企画講座「森を遊ぼう～カンタン！楽しい！巣箱をつくろう～」	地域の小学生親子から成人まで幅広い世代の地域住民を対象に、身近に見られる鳥について学び、自宅でも長く楽しめる巣箱を木工工作した。	12月4日	1	23
貝ケ森交流サロン	地域の高齢者や成人を対象に、まち歩き、コンサート、ものづくり、太極拳体験、健康測定を行った。	6月1日～ 2月22日	6	95
豆まき会	地域の幼児から高齢者まで世代間交流の場を提供し、太鼓の演奏、ダンス「鬼のパンツ」、コーナー遊び、豆まきを行った。	1月28日	1	89
貝ケ森地区文化祭	地域住民を対象に、地域団体、学校、サークルが展示発表、ステージ発表、お茶席、科学体験、園芸相談、健康相談などの各種イベント等を行った。	10月22日 10月23日	2	990
地域懇話会	連合町内会や小学校から大学までの各学校、及び地域諸団体や市民センター併設児童館の支援団体を対象に、市民センター事業の報告と地域の情報交換を行った。	10月6日 2月17日	2	32

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「貝ケ森太極拳サークル」の支援

主催事業「貝ヶ森交流サロン」の５回目として開催した「初めての太極拳」講座の受講生から、「講座終了後も太極拳を続けたい」との相談があった。そこで、他の受講生に声掛けして希望者を募り、自主グループとして活動していくための話し合いの場を設けた。話し合いをファシリテートした結果、サークルを立ち上げることになったため、代表者を中心に運営することや活動場所の提供、使用料の減免等、講座終了後６カ月以内にできる支援について説明した上で、受講生と講師をつなぎ、自主グループとしての活動へスムーズに移行できるように支援した。

中山市民センター

〔沿　革〕

中山市民センターは、旧中山コミュニティセンターを増改築し、平成７年４月に児童館を併設して開館した。近隣には月急山公園、うどう沼公園があり、街路のケヤキや桜並木に囲まれ緑豊かな自然にあふれている。地域では、街道市や七夕祭り、スノーマン祭り、とびの子祭り、学区民運動会、老人クラブ演芸大会、町内会夏祭り等地域団体が主催する行事が活発である。

当市民センターが受け持つ中山・川平地区は、戸建て・集合住宅のほか、近年は大型マンションが増え、新しい町並みを形成している。また、近くに「せんだんの杜」、「せんだんの里」等の介護や福祉関係の施設があり、福祉に関する住民意識と学習意欲の高い地域である。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	子ども参画型社会創造支援事業　中山キッズ		
参加者	仙台青陵中等教育学校生徒、小学生親子	延参加者	97 人
開催日	全 11 回　　令和４年５月 31 日（火）～令和５年１月 22 日（日）		
協力者・ 協力団体	まちづくり推進部青葉区中央市民センター 仙台市仙台青陵中等教育学校		
ねらい	中山市民センター管轄内には中山小学校・川平小学校がある。他に、中山中学校や中高一貫校、高校、大学と教育施設が点在している。小学生の健やかな育ちを地域全体で支えるため、その施設とのつながりを持つことが望まれる。そこで、仙台青陵中等教育学校の生徒が小学生に向けた講座の企画・運営を行い、学校では経験できない体験の場を提供し、豊かな知識と健やかな育ちを支える一助とする。		
概要・成果	地域の小学生と親子を対象に、学校では経験できない体験の場を提供することを目的として、仙台青陵中等教育学校の生徒と「キンボールであそぼう」「ペーパーアートをたのしもう」を運営した。仙台青陵中等教育学校の生徒たちは企画の他にも当日の講師として活動することで、地域で活動する意味を知るきっかけとなり、生徒たちの自信にもつながった。企画講座に参加した小学生や小学生の親子にとっては、学校では体験できない経験となり、地域で活躍する青陵中等教育学校の生徒の姿は憧れにもつながった。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
エンジョイファミリー育児講座	未就学児の親子を対象に、育児に活用できる学びの場を提供することを目的として、「親子遊び、手遊び、絵本の読み聞かせ」「軽体操」「ウォールハウス制作」をした。また、毎回、身長体重測定を実施し、子どもの成長を記録する機会とした。	10 月 22 日 11 月 19 日 12 月 17 日	3	21
インリーダー研修会	子ども会のリーダーとなる小学校５年生及び、世話人を対象に、子供会活動の活性化を目的とした、講話やレクリエーションゲーム、プログラムの立て方などの研修を行った	2 月 11 日	1	41
せんだいアラカルト	成人対象講座として、仙台の魅力や文化に親しみ、普遍的な仙台を知ることを目的に文学館や瑞鳳殿の施設見学と伊達藩の家紋のもんきり遊びを実施した。	10 月 28 日 11 月 25 日 12 月 23 日	3	25
中山銀鈴倶楽部	高齢者に学習機会を提供することを目的に、コンサートや体操、館外学習、終末期についての講話や歴史講話など幅広い講座を実施した。	5 月 20 日～ 12 月 16 日	12	241

〈市民企画会議〉中山ぶらり発見	地域住民を対象として、中山地域への関心を高め、魅力を地域に伝えることを目的に、「中山の魅力を伝える講座」として、中山街道のまち歩き講座を企画し、運営を行った。	7月8日～ 12月13日	5	19
なかやまスマイルコンサート	地域住民を対象に、気軽に音楽に親しむ機会を提供することを目的として、「親子で楽しむ音楽会　おばけにドキドキアイスでにこにこ」「中山ニュータウンのあゆみを音楽で辿る　春待ちコンサート」を開催した。	8月7日 3月4日	2	48
懇話会	地域住民、地域団体、利用団体、学校などを対象に、コロナ禍によるこれまでとは違った様々な課題や地域が抱えている新たな課題やニーズを把握することを目的に懇話会を実施した。	7月20日 3月2日	2	21
中山市民センターまつり	地域諸団体、学校、市民センターを拠点に活動しているサークル等の学習成果の発表と地域住民の交流の場を提供することを目的にステージ発表や展示発表、ジュニアリーダーコーナーの3部門で実施した。	9月10日	1	302
防災講座	地域住民が火災予防の意識を高め地域の防災、減災についての知識を深める場を提供することを目的に火災報知器の使用方法や消防署職員による講話を行った。	1月31日 2月21日	2	65
落ち葉でエコタウン	地域住民が環境問題や自然との共生の意識を高めることを目的に、落ち葉堆肥作りの実践や家庭菜園で活用できる自然に優しい農業の講話を行った。	11月12日 12月10日 1月21日 1月28日	4	34
中山ぶらり再発見～中山街道を歩こう～	地域住民を対象に、中山地域の魅力を見つめ直し、住民が地域への関心を高めることを目的として、まち歩きの講座を実施した。	11月1日	1	10

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「仙台市中山小学校運動会」への支援

生き生き中山っ子教室（放課後子ども教室）から、すずめ踊りを運動会で披露したいので、人材を紹介してほしいと相談を受けた。

市民センターでは、教える学年や期間などを丁寧に聞き取った上で、条件に合う地域人材を紹介し、地域と学校との橋渡し役を果たした。

折立市民センター

〔沿　革〕

折立市民センターは、平成7年5月30日に市内50番目の市民センターとして、折立児童館・コミュニティ防災センターを併設して開館した。

当市民センターは仙台市中心部から西方約5㎞の地点に位置している。東側には青葉山丘陵、南側には里山蕃山があり、北側には広瀬川が流れ、西側にはその広瀬川によって形成された河岸段丘が開けており、遠くには奥羽山系を眺望できるという自然環境に恵まれた場所に立地している。

施設には可動式のステージが備わった多目的ホール、照明付の舞台を備えた 49 畳の和室、調理用機器を完備した会議室兼調理実習室等があり、地域住民の生涯学習・スポーツ・コミュニティづくりの場として、広く利用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画会議「おりちゅう地域もりあげ隊」		
参加者	折立中学校生徒	**延参加者**	144人
開催日	全14回　　令和4年6月28日（火）～令和5年3月24日（金）		
協力者・協力団体	折立中学校・折立ふれあいまつり実行委員会・ライトアートin折立運営委員会		
ねらい	折立中学校の生徒を対象に市民企画員を募り、地域の若者による新たな視点から地域活性化や世代間交流に繋がるような講座の企画運営を行う。活動を通して、企画員が地域活動に関心を持ち、地域に愛着を持つきっかけ作りの場とする。		
概要・成果	企画会議には15名の中学生が参加し、学年の枠を超えて活発に意見を出し合い、4回の企画講座を開催した。 「折立ふれあいまつり」では、企画講座の工作ワークショップの運営と併行して、ステージ発表の司会、受付補助、会場の後片付けなど、まつり全体のボランティアとして大いに活躍し、まつり実行委員会など地域住民から感謝の言葉が寄せられた。12月の「ライトアートin折立」内で開催したクイズラリーには、多くの親子連れが参加し、企画員との交流が図られた。また、8月と3月には市民センターを会場に小学生向けのイベントを開催。どの学年でも楽しめるような内容やルールを検討したほか、参加者全員に手作りの景品を準備するなど、工夫を凝らした講座を実施できた。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
親子たいけん隊	座禅や物づくりなど、学校や家庭では体験できないことを親子が一緒に経験することにより、コミュニケーションを深める機会を提供することができた。	7月30日 9月11日 11月12日 2月18日	4	80
わらすこたいむ	昔遊びボランティアグループわらすこが昔遊びや外遊び等を児童に教え体験することで、異世代間交流と地域で顔の見える関係づくりができた。折立小の出前授業で児童との交流があった。	6月29日～ 2月8日	7	209
子ども会インリーダー研修会	子ども会のリーダーとして活躍する児童及び世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーション等の学習を行った。3年ぶりの対面開催となり、参加者同士が直接交流することができた。	2月11日	1	25
小学生の防災教室	小学生が自然災害の脅威やその対応について防災ゲームなどを通して学び、災害発生時の自分が取るべき行動を考えることができた。	11月29日	1	70

中学生の防災教室～僕たち私たちの力～	地域の高齢化が進む中、災害時における活躍が期待される中学生を対象に自らが実践的な防災訓練を地域の防災組織のメンバーと一緒に学び、顔の見える関係づくりを行うことができた。	5月31日	1	69
市民企画講座「おりちゅう地域もりあげ隊」プロジェクト	市民企画会議にて企画した、小学生向けのイベントや、「折立ふれあいまつり」・「ライトアート in 折立」内において子ども向けコーナーを実施し、企画員と子どもたちが楽しみながら交流することができた。	8月2日 10月22日 12月3日 3月24日	4	290
折立老壮大学	運営委員と学習内容を検討し、気持ちが前向きになるよう、初笑い漫談やクリスマスコンサート、また健康にまつわる講話・実技など生活密着の内容を行った。	5月19日～ 2月16日	10	197
ライトアートin折立	折立公園を会場とした光のイベントを開催。会場に飾るランタンを、地域の子どもたちが制作した。地域住民や中学生から大学生のボランティアなど100名以上が運営に携わり、当日は多くの家族連れが来場し交流が図られた。	6月25日～ 12月17日	11	1,922
折立地域交流会	折立地区社会福祉協議会との共催でイベントを2回開催。落語会や城南高校吹奏楽部のコンサートなど多様な内容で幅広い世代の地域住民が訪れた。	8月20日 3月18日	2	246
折立風のメロディーコンサート	発表を通して各団体の技術の向上と活性化を目指し、地域の音楽サークルが企画・運営をするコンサートを開催した。幅広い年齢層が楽しめるようコーラス、ギター演奏などを盛込み地域交流が図られる場となった。	4月21日～ 7月2日	5	126
折立ふれあいまつり	新型コロナウイルス感染症対策を施しながら3年ぶりに開催した。地域住民や若い世代のボランティアが協力し新たな交流が図られた。コロナ前より時間や規模を縮小しながらも内容を充実させたことにより多くの来場があった。	10月22日	1	1,667
折立市民センター懇話会	地域課題の解決に向け、地域住民や諸団体等が意見や課題を共有し相互理解を図ることができた。特に教育機関が日頃の課題を把握できる場となった。	5月24日 1月26日	2	25

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「折立折り紙ボランティアサークル」の活動支援

「折立折り紙ボランティアサークル」は、令和2年度・3年度の主催事業「折り紙ボランティア養成講座「すてきな折り紙の世界」」の受講者を中心に、令和4年3月に結成された。市民センターは、サークルの立ち上げに伴い必要な手続きのサポートを行ったほか、会員募集チラシの作成や、制作した作品を市民センターのロビーに展示するなど必要に応じた支援や助言を行っている。

また、コロナ禍のため市民センター以外での活動が難しかったが、地域内のコミュニティカフェから折り紙のボランティア指導の要請を受け、市民センターがコーディネートして新たな活動へと繋がり、メンバーのモチベーションも向上した。

木町通市民センター

〔沿　革〕

木町通市民センターは、木町通小学校の改築に伴い、平成 16 年 4 月に小学校と児童館、コミュニティ防災センターとの複合施設として開館した。市民センター施設は、5・6 階に位置し全館バリアフリー対応になっている。また、屋上緑化を施し、一部は児童館の遊び場として利用している。

木町通地区は市の中心部に位置し、官公庁・学校・病院・商業施設・マンションが建ち並び、従来からの一戸建ての住宅は減少している。近年、市民センター斜め向かいに大型マンションが２棟完成し、市の平均を上回る人口増、世帯増が見られる。

当市民センターはこうした環境の下、複合施設の利点を生かし、地域との連携を図りながら学びの場を提供することを目指している。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	木町通クリエイターズ		
参加者	地域住民	**延参加者**	166 人
開催日	全 15 回　　令和 4 年 6 月 9 日(木)～令和 5 年 3 月 23 日(木)		
協力者・協力団体	―		
ねらい	令和 2 年度、3 年度のまち歩きを通して、参加者の地域への理解と興味・関心は深まりを見せている。複数年事業の最終年となる令和 4 年度は、新たな参加者も交えながら地域についての理解をさらに深め、変容していく地域において実際に何ができるかを模索しながら活動を継続していくことを目的として開催する。		
概要・成果	木町通クリエイターズは、複数年事業として 4 年間のものづくりやまち歩きなど、歩いて、見て、体験してきた講座である。令和 4 年度は、地域の変遷を確認し 3～5 名のグループで街中探訪、聴き取り調査を行った。地元の方々からは、「二日町ダイコクヤについて」、「堀江式冷蔵庫と春日町のくらし」、「戸板家の人々」、「仙台空襲について」の話を伺った。また、木町通地域の古い写真を現在のまちの様子と関わるための入口として同じ場所を探し出して撮影し、古い写真と今の写真を並べた「ここダネ！」パネル展をロビーで開催した。その他に「まちの風景と物語をさがす」と題したシンポジウムを開催し、パネリストの方々からは、「商店街の変遷について」、「今昔写真で知る街の物語について」、「人と人とのつながりの中でまちを見る」などのテーマで発表し、話し合いを持った。年度末にはまとめとして 90 ページを超える「活動の記録」を編纂した。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
●子育て ENJOY 広場	乳幼児親子を対象に、安心して子育てをするために必要な情報を提供し、親同士の交流と仲間づくりの場を目的に幼児食、親子ビクス、ベビーサインを実施した。	9 月 30 日 10 月 7 日 10 月 28 日	3	50
●わくわくキッズ	小学生や小学生親子を対象に、体を動かす活動 2 回、科学実験、リース・土人形づくりの創作活動、星空観望会、小学校との連携事業等を行い、家庭では体験しがたい学びの場を設けた。	5 月 14 日～ 1 月 21 日	7	227
仙台市子ども会インリーダー研修会	現 5 年生または 4 年生と次年度の世話人を対象に良いリーダーとなるためにどのような姿勢で臨むべきか学び、まとまりのある子ども会にすることを目的として行事プログラムの作り方やゲームの進め方を学んだ。	1 月 28 日	1	24

子ども参画型社会創造支援事業　北三番丁公園で遊ぼう！	小中学生の企画員が地域の資源である北三番丁公園を活用した遊びを企画し、クイズやゲームを織り交ぜた謎解きクエスト（「北三クエスト」）をストーリーを変えて 5 月と 11 月に実施した。	4 月 9 日～ 11 月 19 日	15	123
アウトドアにチャレンジ！ まずは第一歩・初心者さんも大歓迎	木町通小学校おやじの会と連携し、おやじの会の会員と新規受講生との交流や、地域における仲間づくりを促進させ、地域や地域活動への参加の輪を広げていくための講座を実施した。	9 月 10 日 11 月 5 日	2	21
みんなで学ぼう！オンラインのノウハウ	コロナ禍において、新たなコミュニケーションツールの一つ、オンラインによる「会議」等に対応するため、そのノウハウを学び、アフターコロナでの新しい生活様式の一助とした。	11 月 15 日 11 月 22 日 11 月 29 日 12 月 20 日	4	22
木町通老壮大学	60 歳以上の高齢者を対象に、歴史・文化・軽体操・音楽・文学等様々な分野の学びを深めることで生きがいづくりや受講生同士の交流の一助とした。	5 月 18 日～ 2 月 8 日	16	678
木町通学区の防災講座	人工呼吸法、AED 使用法の実習とシミュレーションを行う「救命講座」と、近年地域で建設が進むマンションの住民を対象とした「マンションにおける防災・減災について」の講座を開催した。	10 月 18 日 11 月 25 日	2	25
木町通市民センターまつり	コロナ禍のため、市民センターまつりの通常開催は見送りとし、代替えとして「KIMACHI 展～まつりウィーク～」を開催し、動画上映、展示発表、フォトコンテスト、地域内商店協賛によるくじ引き等を行った。	10 月 1 日～ 10 月 10 日	1	300
木町通市民センター運営懇話会	地域関係諸団体の代表の方に、市民センター事業や施設運営についての意見および助言をいただいた。二回目はより多くの意見や感想が出やすいように 6～7 人ずつ 3 グループに分けて懇話会を実施した。	5 月 26 日 1 月 25 日	2	37
木町通小学校社会学級連携　市民企画会	木町通小学校社会学級の企画員と共に、地域住民対象に「地元の食材を知ろう part2～仙台みその魅力～」という講座を企画・運営した。仙台みそについての講話とみそ作りの体験を行い、参加した住民同士の交流につながった。	7 月 22 日～ 11 月 17 日	6	32

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「こよなく北三番丁公園を愛する会」への活動支援

「こよなく北三番丁公園を愛する会」は、「地域コミュニティが希薄になっている地域の中で、近くの公園で住民が集まれる機会がつくれないか」という地域課題を解決することを目的に立ち上がったボランティア団体である。年間を通した活動内容は、令和 4 年度で通算 2,000 回を超えた毎朝の「ラジオ体操」とその後に行う「公園の美化」、また、「季節ごとの花植え」は児童クラブの児童も年に 4 回活動に参加させてもらった。団体の活動は、仙台市天文台ベガ号による北三番丁公園での「星空観望会」や木町通小学校 3 年生の総合学習の支援として「北三番丁公園学習(歴史と木や花の名前)」、北三番丁公園内の約 90 本の樹木に一年間取り付ける「樹名板の作成」、市民センターとの連携事業の「写真撮影会＆フォトコンテスト」の実施など、多岐にわたっている。

市民センターでは、団体が行う各行事の広報や学校との連絡調整、活動内での見守りなど、活動が円滑に進められるよう支援した。特に「写真撮影会＆フォトコンテスト」では、KIMACHI 展おいて応募いただいた「北三番丁公園の四季」をテーマとした写真を展示し、団体の活動を広く市民に知ってもらう機会とすることができた。

広瀬市民センター

〔沿　革〕

広瀬市民センターは、広瀬川の中流域に位置し、周辺にはサイカチ沼や月山池、蕃山などの豊かな自然と、子愛観音をはじめとする数多くの旧跡が残る。また、近年は住宅の造成や商業地域の開発が進み、人口が著しく増加している地域で、平成 31 年 4 月には、錦ケ丘中学校が開校した。

当市民センターの歴史は古く、昭和 24 年大沢・広瀬両村に村立公民館が建設されたことに始まる。昭和 62 年仙台市との合併により仙台市宮城公民館となり、条例改正により仙台市宮城市民センターと改称、平成 3 年 6 月に名称を広瀬市民センターと改めて現在の場所に移転した。

施設は広瀬文化センター・広瀬図書館との複合施設で、地域住民の交流と生涯学習活動の拠点として広く親しまれ利用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	ジュニアリーダー「くまっこ」と遊ぼう！		
参加者	地域の未就学児・小中学生と付き添い保護者	**延参加者**	47 人
開催日	全 1 回　令和 4 年 9 月 11 日(日)		
協力者・協力団体	なし		
ねらい	広瀬市民センターを拠点として活動するジュニアリーダーMRVC くまっこの存在は、この地域の子どもたちを繋ぐ重要な役割を担っている。大勢の子どもたちが集うイベント「くまっこまつり」を開催し、学区を超えた子どもたちの交流を促すとともに、ジュニアリーダー活動への関心を高める。また、ジュニアリーダーが自主的な活動を通して成長する機会とする。		
概要・成果	「ジュニアリーダー『くまっこ』と遊ぼう！（くまっこまつり）」はジュニアリーダーが主体となって企画・運営し、平成 17 年から継続されている子どもたち向けのイベントである。令和 4 年度はコロナ禍のため 50 人という定員を設けた上で開催し、工作コーナー（びゅんびゅんごま、ぷくぷくおばけ）、ゲームコーナー（ペットボトルボーリング、もぐらたたきゲーム）、バルーンアートなどのアトラクションを行った。 参加者からは「どれもすごく楽しかった。」、付き添い保護者からは「中高生の皆さんが子どもたちを楽しませてくれるとても良いイベントだと思った。」などの感想が寄せられた。2 か月近くに及ぶ準備期間を通してジュニアリーダー自身がイベントの運営について経験を積むことができ、充足感を得られる講座とすることができた。また、多くの参加者が懸命に取り組むジュニアリーダーの姿を見ることにより、ジュニアリーダー活動に興味を持ってもらう機会となった。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
地域で伝える「平和学習」	戦災復興写真パネルの展示会と管内の小学校への出前授業を行った。出前授業では、仙台空襲等の講話、地域の語り手へインタビュー、実際に使用された物品の展示など多角的な学びを提供した。	12 月 21 日～1 月 31 日	8	172
インリーダー研修会	子ども会の核となるリーダーと世話人を対象に、子ども会に関する知識やレクリエーションゲームを学ぶ機会として実施した。	1 月 21 日	1	22
広瀬子ども体験講座	小学生が体験学習を通して歴史や科学、語学や芸術など様々な分野に触れ、学習意欲を高められた。また、親子対象の講座はもの作りを通じ家族で時間を共有できたと好評だった。	7 月 30 日～2 月 11 日	6	135

ひろせ　ゆるっと運動クラブ	コロナ禍で出かける機会や運動する機会が減りつつあったため、気軽に体を動かせるダンスや民謡に合わせた軽体操等、健康を維持するための様々なプログラムを提供した。	5月18日 5月25日 7月15日 7月22日	4	38
広瀬老壮大学	高齢者の心身の健康を保つため、ピアノ演奏、美術体験、仙台弁漫才のステージ、健康講話等バラエティーに富んだ内容の講座を提供した。	5月26日～ 1月26日	9	228
ひろせ地域防災講座	改めて自身の防災対策について見直す機会を提供し、地域の防災対応力向上を目指すため、ハザードマップ、キキクルの活用方法について学んだ。	5月28日	1	13
みんなと歩けば♪♪♪	気軽に楽しめる地域のスポットに出かけるおさんぽ会を実施し、住民同士の交流を深める機会を提供した。身近な歴史遺構を散策したり仙台高専見学を行った。	6月14日 6月21日 11月16日	3	22
ひろせサマーナイトコンサート2022＆民俗芸能フェスティバル	地域サークルや民族芸能団体のステージ発表と、町内会と連携した子ども向けブースを出店し、学習成果の発表の場を提供すると共に、様々な年代の住民同士の交流を活性化させる一助とした。	8月6日	1	500
ひろせ懇話会	町内会、学校、地域団体の代表者、サークル等が地域課題や情報を共有し意見交換をしながら市民センター事業への理解を深めてもらうために懇話会を開催した。	6月30日 2月14日	2	30
第32回広瀬市民センターまつり	日頃の学習成果を発表する機会を提供することでサークル・団体が活動意欲を高めるとともに、地域住民の生涯学習への理解を深めるため、「作品展示会」「ステージ発表」を別日程で開催した。	10月21日～ 10月23日 11月3日	2	850
市民企画講座「心にビタミン！コンサート」	音楽によって地域住民の方々へ心の健康と活力を届けたいという目的で、地域の音楽家によるギターアンサンブル、声楽家、篠笛など様々な分野の音楽の演奏会を開催した。	12月4日	1	60
ひろせ魅力工房	令和3年度「ひろせ魅力工房」の受講生がサポーターとして講座に参加し、様々な羊毛フェルト作品作りとセンターまつりでの作品展示会を通じて交流を深めた。またこの講座の開催により、地域人材を育てるとともに、活躍の場を提供することにつながった。	9月7日～ 10月19日	7	21
市民企画会議「ステキなコンサートを企画してみませんかPart2」	地域住民に元気と喜びを届けられるイベントを開催する目的で、地域で音楽活動に携わっている住民を企画員とし会議を重ねコンサートの企画し、12月に「心にビタミン！コンサート」を開催した。	7月27日 8月26日 9月29日 11月25日	4	12

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダー「くまっこ」の活動支援

ジュニアリーダー「くまっこ」は、40年以上続いている歴史あるサークルで28人が登録している。市民センターは、ジュニアリーダーの自主性や考えを尊重し、活動が先輩から後輩へスムーズに引き継がれるようにサポートしている。令和4年度はコロナ禍だったが地域からの要請も増え、ジュニアリーダー自身が企画運営する講座「ジュニアリーダー『くまっこ』と遊ぼう！（くまっこまつり）」も感染対策や人数制限を設け実施したことで、これからの活動への意欲を高めることができた。また、定例会では引き続きジュニアリーダーとしての技術維持にも力を入れた。

その他にも、自主企画「クリスマス会」「三年生を送る会」などを通してメンバー同士の交流を図ることができた。

宮城西市民センター

〔沿　革〕

宮城西市民センターは、昭和 51 年 4 月に宮城町西部地区公民館として開館した。その後、昭和 62 年 11 月 1 日宮城町が仙台市と合併して仙台市宮城西公民館となり、平成 2 年 4 月 1 日から仙台市宮城西市民センターと改称した。その後、施設の老朽化に伴い平成 22 年 8 月から一時休館して改築工事を行い、平成 24 年 7 月に新たに開館した。

当市民センターは、宮城地区西部の自然環境に恵まれた緑豊かな山間地に位置している。近年過疎化が進み、少子・高齢化の現状にあるが、地域の活性化を図るため町内会・老人クラブ等の各種団体と連携を密にして社会情勢の変化に伴う学習要望に応え、地域住民と共に歩む生涯学習を推進している。また、地域住民の自主活動の場、交流の場として広く利用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	出前講座		
参加者	地域住民	延参加者	86 人
開催日	全 6 回　　平成 4 年 6 月 23 日（木）～令和 5 年 2 月 21 日（火）		
協力者・協力団体	宮城西部地区管内町内会		
ねらい	各町内会の集会所を会場に出前講座を開催することで、普段市民センターを利用しない地域住民へ学ぶ機会を提供する。また、町内会と連携し声掛けすることで、コロナ禍で引き籠もりがちな高齢者が外に出るきっかけになり、市民センター事業の認知にもつながる。		
概要・成果	地域住民を対象に、市民センターが集会所等へ出向き、ニーズに合わせた様々な出前講座（防犯講座、手作り講座、健康講座等）を開催した。各町内会と話し合い、状況に合わせながら感染防止策を講じ実施した。町内会と連携し声掛けしていただき、コロナ禍で引き籠もりがちな高齢者が外に出るきっかけ作りになった。市民センターまで足を運べない地域住民に学習の場を提供し、町内会活動活性化にもつながった。		

〔令和 4 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子ふれあい教室	小学生と保護者を対象に、鎌倉山探索、豆沢川探検、伝統文化体験、小正月行事体験等を行い、郷土に伝わる歴史・文化・自然などについての体験学習をした。	4 月 23 日 6 月 18 日 12 月 17 日 1 月 7 日	4	89
インリーダー研修会	子ども会リーダーの児童および世話人を対象に、ジュニアリーダーの存在と役割についての講話や実技等を行い、子ども会活動についての知識と技術を学ぶ研修をした。	1 月 21 日	1	22
中学生のハローワーク	中学生を対象に、2 人の社会人講師が職業に就いた経緯、仕事の内容、アドバイス、質疑応答等、職業についての講話を行った。	8 月 19 日	1	28
ゆうゆうの森プロジェクト	上愛子小学校児童を対象に、隣接する “ゆうゆうの森” を活用した様々な体験学習をし、先人達が実践してきた里山の利用と再生の仕組みを学んだ。	5 月 11 日～ 10 月 26 日	6	193
自然体験教室	里山散策、植物観察等を行うことで、地域の豊かな自然等に触れ新たな地域の魅力を認識し、自然保護の大切さ、里山と生活の関わり方の大切さを学んだ。	4 月 22 日 9 月 30 日 10 月 28 日	3	34

暮らしいきいき！なでしこクラブ	地域の女性を対象に、健康講座、暮らしの講座、手芸の講座等を行うことで集い学び合う場を提供し、心身共に健康で豊かな暮らしと意欲的な学びを支援した。	6月22日～ 2月15日	6	74
●大倉ダムの魅力発信事業「大倉ダムフェスティバル　～鯉のぼり×大倉ダム～」	地域の小中学生が描いた鯉のぼりと地域から寄せられた鯉のぼりを大倉ダムに吊るし、国内唯一のダブルアーチ式ダムである大倉ダムとその周辺の魅力を広く発信した。少子高齢化によって人口減少の続く本地域への交流人口拡大と地域活性化を促進した。	4月12日～ 1月18日	11	1,404
●宮城西部地区今昔物語	昨年発行した「大倉・定義いまむかし」が好評で、増刷の要望が多く寄せられたため、「大倉・定義いまむかし」の増補改訂版に向けて編集委員会を設け、初版の訂正と新たに聞き取りをした内容を追加し作成した。	1月24日～ 3月14日	8	55
老壮学級	高齢者がいきいきと暮らすために様々な内容を学習し生きがい作りの一助とした。交通安全、歴史講座、健康講座、コンサート等、楽しみながら学ぶことで交流が深まった。	6月16日～ 1月19日	9	280
自主防災活動を推進するための「防災･減災学び塾」	地域の関係する諸団体と協働で防災･減災の知識の習得や避難所運営委員会立ち上げまでの手順を確認した。コロナ禍での新たな訓練方法も検討・実施した。	5月18日 10月2日 10月16日	3	107
宮城西市民まつり	宮城西部地区住民が一堂に会し、自らの運営で市民まつりを開催し、演芸発表、作品展示、フリーマーケット、農産物即売会、キッチンカー、子どものコーナー、お楽しみ景品当選発表等を行った。	11月22日 11月23日	2	1,348
宮城西地域懇話会	地域課題、地域ニーズを把握し、今後の市民センター事業や施設運営に役立てるため、管内団体との懇話会を開催した。	2月19日	1	15

〔令和4年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

大倉ダムの魅力発信実行委員会への活動支援

平成29年度に市民企画会議として立ち上がった「大倉ダムの魅力発信」は、令和元年度に「鯉のぼり×大倉ダム」を企画・実施し、大倉ダムの魅力を広く発信する新たなイベントを誕生させた。

イベントを実施するに当たっては、官公庁への許認可手続が大変多く且つ複雑で、また、平日の対応を余儀なくされるため、許認可書類の作成や申請の手続をサポートした。その結果、イベントの準備段階から実施に至るまで、何らトラブルもなくスムーズな運営を行うことができた。

また、地域の魅力を発信する手段の一つとして、ダムの下流にある岩峰群の「天狗岩」を紹介する看板の原稿作成とデザインもお手伝いすると共に、イベント来場者にしおりを作成し発信した。

現在、大倉ダムは、(公社) 土木学会選奨土木遺産登録を目指し申請中であり、市民センターではさらなる魅力発信のため活動を支援する取り組みを行っている。

大沢市民センター

〔沿　革〕

大沢市民センターは、平成２年５月、青葉区の西北部、田園地帯や緑多い丘陵地帯など豊かな自然環境の中に、児童館・コミュニティ防災センターを併設して開館した。平成 30 年度には大規模修繕を実施し、平成 31 年４月に再開した。

古い史跡が点在する歴史ある地域としても知られ、古くからの村落と成熟化が進行する団地、開発が進む新興団地が混在する中、若い世帯の増加が著しく更に発展が見込まれる。こうした地域状況を背景に市民センターとしての機能を活かし、地域住民の活動・交流の拠点として、社会変化に伴う市民のニーズに対応する生涯学習事業を展開している。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	大沢・川前地域交流ネット　あがれ！天旗		
参加者	地域住民	延参加者	241 人
開催日	全 15 回　　令和４年 11 月 25 日（金）～令和５年３月 12 日（日）		
協力者・協力団体	大沢・川前地域交流ネット　あがれ！天旗実行委員会、 まちづくり推進部青葉区中央市民センター		
ねらい	大沢地域と川前地域は地理的な関係もあり、日頃住民同士の交流が少ない。そこで、誰でも気軽に参加できる凧づくり、凧あげの行事を実施し、両地域間の交流と世代間交流を図り、活気ある地域づくりの一助とする。		
概要・成果	伝統的な「するめ天旗」を題材に、「大沢・川前地域交流ネットあがれ！天旗実行委員」が中心となって、凧作製キットの配布や、凧の作り方動画の YouTube 配信、凧づくり講座、凧あげを実施した。多くの地域住民が参加し、地域交流、世代間交流の促進を図ることができた。また、実行委員が積み重ねてきた凧づくりのノウハウを若い世代に引き継いでもらうため、「大人のための凧づくり講座」を開催し、次世代とのつながりを深める活動に取り組み、新たな人材参画への足掛かりにすることができた。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子どもお楽しみ体験講座	家や学校ではできない体験の場を提供するため、「割りばし構造物ワークショップ」「じどうかんまつり」「クリスマスコンサート」を実施した。7 月に予定していた「モンゴルのゲル体験」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。	10 月 21 日 11 月 19 日 12 月 23 日	3	104
インリーダー研修会	開催日当日、参加者が全員欠席になったため、インリーダー研修会担当講師２名とジュニアリーダー4 名との情報交換、及びレクリエーションゲームの実技などを行った。	２月４日	1	－
大沢農学校	専門家を講師に迎え、年間を通して、土づくり・播種・管理・畑の整備を講話と実技で学んだ。また、児童館の講座の講師として、学びの還元をした。	４月 23 日～ ３月 10 日	13	177
大沢地域の魅力発掘	地域の窯での陶芸体験や地域の歴史愛好家の案内による芋沢地域探訪、家紋基礎講座を開催し、地域の魅力発掘を図った。6 月に予定していた「地域の里山散策」は、雨天のため中止とした。	８月 20 日 10 月 15 日 ３月８日	3	47
市民企画講座「思いたったらだれでもすぐできる！簡単リフレッシュ体操」	運動初心者でも気軽に始められる健康体操を実施した。地域住民が講師となり、市民企画員が講師のサポートを行った。講座終了後、参加者の運動継続の意欲が高まり、自主サークル「リフレッシュ体操」が立ち上がった。	９月７日 ９月 21 日 10 月５日 10 月 26 日	4	56

大沢朗々学園	地域の高齢者を対象に、①開講式と講話：写真で見て語る、あの頃の仙台、②講話：私が子供だった頃、③館外学習、④歌謡曲で踊りましょう、⑤認知症介護体験談、⑥講話：東日本大震災後の支援活動を通して見えてきた地域のこと、⑦グラウンドゴルフ体験、⑧コンサート・閉講式を開催した。運営委員会を開き、参加者の意見を取り入れながら企画し実施した。	5月19日～ 3月2日	8	322
大沢市民まつり	新型コロナウイルスの感染拡大により大沢市民まつりは中止とし、代替として「大沢・川前地域小中学校合同発表会」を実施した。大沢中学校・大沢小学校・川前小学校の児童生徒の作品展示や学校紹介などの映像上映を行い、地域住民が子ども達の日頃の成果に触れる機会とした。	1月28日 1月29日	2	164
スポーツで地域交流「大沢・川前グラウンドゴルフ交流会」	大沢・川前地域住民を対象に、大沢・川前両学区民体育振興会と共催して川前小学校校庭でグラウンドゴルフ交流会を開催した。	9月4日	1	46
大沢地域出前講座	コンサートや小物作り、歌に親しむ講座、軽運動等、地域のニーズに合わせた講座を、各地域の集会所に出向き開催した。	4月24日 5月25日 6月22日 7月14日	4	84
大沢地域防災講座	第１回は防災・減災についての知識を学ぶ「ぼうさい駅伝」ゲームを行った。第２回は「せんだい災害VR でリアルに防災学習」を開催し、大雨・洪水時のマイタイムラインの作成方法や、ハザードマップの見方などを学習した。	12月4日 1月21日	2	25
大沢地域懇話会	１回目地域の幼稚園、保育園、小・中学校、町内会などの代表が参加し、各地域団体の活動状況、地域の課題、地域ニーズなどについて情報を共有した。２回目は大沢朗々学園運営委員・読み聞かせボランティアなどのメンバーから、市民センター事業運営についての要望や意見などを聞く機会とした。	5月31日 3月16日	2	27
市民企画会議「講座を企画しよう」	コロナ禍の影響による様々な地域の課題や、健康問題について意見交換し、課題解決につながる「運動」をテーマにした講座「思いたったらだれでもすぐできる！簡単リフレッシュ体操」を企画・実施した。	5月26日～ 11月2日	5	20

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「サークル活動支援」

センターを利用している音楽サークルの活動成果発表の場として、「大沢音楽サロン」を 7 月と 3 月に開催した。音楽サークル同士や、ゲスト演奏者、音楽愛好家との交流が図られたとともに、地域住民からは、コンサート開催継続の要望が多く寄せられた。サロン開催により音楽サークルのもっと上手に演奏したいという活動へのモチベーションの維持につなげることができた。

また、令和４年度大沢市民センターの市民企画講座「思いたったら誰でもすぐできる！簡単リフレッシュ体操」をきっかけに、運動継続希望の受講生有志による「リフレッシュ体操」サークルが立ち上がった。市民センターでは、サークル活動を始めるにあたり、施設の利用方法やサークル運営に関するさまざまなことについてアドバイスをする等、スムーズに活動を続けることができるよう支援をした。この後、参加者が自発的に役割を担い、サークル発足まで円滑に進むことができた。現在はメンバーの人数も増え、参加者同士の輪が広がっている。

落合市民センター

〔沿　革〕

平成６年に開館した落合市民センターは、広瀬川、齊勝川、蕃山などの自然環境と、仙山線（陸前落合駅）、国道 48 号線仙台西バイパス、作並街道という交通環境に恵まれた地域にある。また、宮城県立こども病院をはじめとする医療機関、栗生小学校、宮城県宮城広瀬高等学校などの教育機関、宮城消防署などの公共施設があり、国道沿いには大規模な商業施設も多い。地区外からの転居により人口も増加した比較的若い世代が居住している地域である。一方薄れつつではあるが、西館跡をはじめとした遺跡や神社など地域の歴史や風習など伝統も残っている地域である。

こうした地域環境の中で、当市民センターは開館以来、施設利用および生涯学習講座等を通じて、地域コミュニケーション活性化、まちづくり推進の拠点として広く地域住民の方々から愛され、利用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	ふるさと落合栗生地元塾		
参加者	地域住民	**延参加者**	94 人
開催日	全９回　　令和４年５月 28 日（土）～令和５年３月５日（日）		
協力者・協力団体	まちづくり推進部青葉区中央市民センター		
ねらい	歴史めぐり総合案内板及び各史跡に設置してきた案内板を地域内外に周知し、落合栗生地区の歴史を次世代に継承していくため、案内リーフレットを作成する。合わせて、歴史案内ボランティアの育成も進め活用していくことにより、更なる地域の魅力発信と活性化を図る。		
概要・成果	平成 29 年度から地域探訪を行い、落合栗生の歴史や史跡の理解を深め、学びを通して「落合栗生地区歴史めぐり」運営委員会の立ち上げにつながった。 令和４年度は、複数年事業の５年目となり、今までの学習内容や史跡等に設置してきた案内板の総括として A3 サイズの総合リーフレットを作成した。また、本事業から発足した「落合栗生地区歴史めぐり」運営委員会に歴史案内ボランティアの依頼があり、栗生児童館・子育て支援クラブ「歴史たんけん隊」での現地案内を 11 月に実施し、栗生小学校３年生への総合学習として五郎八姫に関する講話（12 月に実施）と現地案内（翌１月に実施）を行った。このように、小学生を対象に講話や現地案内をすることで地元の歴史や魅力を継承することができ、地域貢献と地域活性化につながった。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●わくわく子育てひろば	前半は宮城総合支所や保育所による子育て相談を実施した。参加者企画会も行い、保護者同士で話し合う機会を設けた。後半はリトミックやキッズフォト講座等を取り入れ親子でふれあう時間を提供した。	６月９日～12 月 13 日	6	66
親子であ・そ・ぼ！	近隣の児童館と共催でドライフラワーのガーランド作りやキンボール、紙ヒコーキ教室を実施した。親子で会話をしながら、学び楽しむ時間を提供した。	７月９日 11 月 26 日 ２月４日	3	79
インリーダー研修会	児童を対象に子ども会でのリーダーの役割について、世話人を対象に子ども会活動の具体的内容について講話やグループワークを行った。最後に児童が学んだゲームを全体で披露し、リーダーシップについて体験した。	１月 28 日	1	16

宮城広瀬高等学校連携事業「いってみよう！やってみよう！広高タイム」	小学生を対象に、高校生が講師となり卓球とバドミントン講座を開催した。当日は、参加した小学生と講師役の高校生の双方が競技を通し楽しく交流する様子が見受けられた。2月にはロビーにて生徒作品展を開催。高校生作品の展示により地域住民との交流を促した。	7月29日 1月21日 2月8日～ 2月22日	3	49
来たれ！男のまなび舎	地質に関する講話や運動、館外学習など多様な学びを通して男性の興味関心を高めつつ、仲間づくりを進めた。また男性の主体性を養い、地域活動への繋がりを作った。	8月27日～ 12月10日	5	56
めざせ健康！ 元気あっぷチャレンジ	心身共に元気な生活を送るため健康講話や様々な運動を体験した。当センターで活動するサークルを講師に招き、サークル活性化にも繋がった。多種多様な運動を楽しみ、交流する姿もみられ、仲間づくりにも繋がっている。	8月26日～ 1月27日	6	115
落合栗生実年学級	地域の高齢者を対象に歴史や音楽、日舞を取り入れた軽運動など様々な分野の内容を提供した。受講生の興味・関心を引き出し、交流を促した。	5月19日～ 2月16日	9	298
地域防災講座	地域の町内会と連携し防災講座を実施。VR体験も盛り込み家庭や地域での防災減災の重要性を再認識することができた。予定していた「親子で挑戦！消防士体験」は新型コロナウイルス感染拡大により消防署と協議のうえ中止とした。	9月18日	1	66
落合・栗生地区まつり	3年ぶりの開催に近隣より多くの方が来場し、にぎやかで活気あふれるまつりとなった。。サークル団体の日頃の成果が披露され、古本市や今年初の「スポーツ広場」も賑わい、家族や友人と楽しみ交流する姿が見られた。	10月16日	1	1300
地域懇話会	地域の町内会や教育機関、各種団体の代表者が集い、情報交換や意見交換をし、地域のニーズを把握することができた。それを市民センターの事業企画に反映し、地域課題の解決を図った。	12月7日 1月15日	2	24
市民企画会議「おらがまちのいいとこ発見！」	地域住民を募り自身の住むまちの魅力について話し合った。回を重ねるごとに、個々の企画員の地域への愛着や主体性が育まれた。11月末には、まちの魅力を再発見し活用する講座「たからのやま蕃山」を企画、実施した。	5月17日～ 12月6日	8	38
市民企画講座「たからのやま蕃山」	市民企画会議を経て企画した、地域資源である蕃山やその周辺の自然に関する講話を実施し、地域住民が参加した。講座の準備、設営、司会も全て企画員が担うことで、彼らの思いを実現した。	11月23日	1	15

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「落合栗生地区歴史めぐり」運営委員会への活動支援

「落合栗生地区歴史めぐり」運営委員会は、令和2年度に講座「ふるさと落合栗生地元塾」から立ち上がり、これまで6カ所に案内板を設置した。令和4年度には総合リーフレットを作成し、それらを活用した歴史案内ボランティア活動も併せて行い、地域の歴史的資産・魅力の発信に大いに貢献している。市民センターでは、社協サロンからの講話依頼や地域の小学校や児童館などからの郊外学習ボランティア等、地域からの多くの要請依頼を委員会に繋ぎ、調整を図ることで、委員会の積極的な活動を後押ししている。

吉成市民センター

〔沿　革〕

吉成市民センターは、仙台市北西部の吉成と南吉成の小学校区中間位置に、市内 51 番目の市民センターとして平成８年４月に、児童館及びコミュニティ防災センターを併設しオープンした。当該地区は住宅地と商店街が共存し、市内北部と西部を結ぶ交通の要衝となっている。

当市民センターは、吉成小学校区と南吉成小学校区の２連合町内会を対象地域としている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	みんなのコンサート		
参加者	地域にお住まいの方ならどなたでも	**延参加者**	101 人（2 日間）
開催日	全２回　　令和５年１月 21 日（土）、１月 22 日（日）		
協力者・協力団体	仙台青陵中等教育学校、吉成中学校、南吉成中学校、吉成小学校、東北福祉大学		
ねらい	管轄内の学校の吹奏楽部が一堂に会する演奏会は、地域の結びつきの強化や住民の交流の一助となる。また、小中学校・高校との連携は、参加する小中学生のスキルアップにつながり、学校同士の交流も深まる。市民センターが、充実した学びの環境づくりを促進する。		
概要・成果	コロナ禍以前のような各校が集まり一緒に演奏するコンサートの開催はまだ難しいと判断したが、事前に収録した吹奏楽部の演奏 DVD の上映に加えて、令和４年度は少人数での生演奏を披露する形で開催した。地域の方々には生の演奏を３年ぶりに聞いてもらう機会となり、各学校の吹奏楽部が頑張っている姿に感動し元気を貰い明るい気持ちになったという声が多かった。幼児から高齢者まで幅広い世代が集まる場をつくることが出来た。また、活動や発表の場が制限されていた学校側へも活動を発表する機会を提供することができた。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
がんばれ子育て！みんなでリフレッシュ！	子育て中の親たちが集い、共に気持ちをリフレッシュするために親子体操、親子遊びを行った。	６月 15 日	1	23
吉成チャイルドスクール	小学生向け体験学習講座として、水生生物観察、虫の声を楽しむ会、自然観察会、けん玉講座、仙台青陵中等教育学校ロボット研究部を講師とした自立型ロボット作りを開催した。	７月 24 日～１月 26 日	5	94
インリーダー研修会	子ども会活動の充実のため、次期リーダーとなる児童・世話人を対象として、子ども会活動についての知識やレクリエーションなどを学習する機会を提供した。	２月４日	1	17
吉成減災対策講座	災害時の自助力を高めることを目的に、吉成地区婦人防火防災クラブと共催して、大雨に伴う災害への備え講座を実施した。	７月 26 日 ９月６日 11 月 23 日	3	24
きらめきスクール	吉成地域の学習意欲の高い高齢者を対象に、健康で心豊かな生活の一助となるよう、様々な分野の学習機会の場を提供した。	５月 13 日～１月 13 日	8	426

吉成出前講座	地域団体と共にサマーコンサート、新春箏曲コンサート、講演会を企画・開催し、地域住民に学習意欲に応える。	7月18日 1月17日 2月10日	4	119
吉成市民センターまつり	市民センターを利用している各種サークルや地域で活動している団体の日頃の活動の成果を発表した。	10月14日 15日	2	770
ニュースポーツ交流会	誰でも参加できるさまざまな種目のニュースポーツの体験会を通して、吉成・南吉成学区の学区間交流を促進した。	4月16日 6月18日 9月3日 11月19日	4	141
地域懇話会	管内の町内会、小中学校や市民センター利用者等の代表が会し、市民センターの活動紹介を行い、各団体からの情報提供・要望を共有した。	10月26日 2月7日	2	27
「音楽でつなぐみんなの輪」	第一部として出演団体による交流会を行い、第二部では各出演団体の発表の後、出演者・来場者が一緒に合奏する参加型のコンサートを開催した。会場全体に一体感が生まれ、音楽を通じた地域間・世代間交流のきっかけとなった。	11月30日	2	40
市民企画会議 「よしなり活性化プロジェクト」	地域住民が主体となって、吉成地域の特徴や課題を洗い出し話し合いを重ね「音楽でつなぐみんなの輪」講座を開催した。	6月4日～ 12月17日	7	21
複数年事業企画「国見ケ丘・吉成・南吉成の魅力再発見」	くよみ郷土研究会と連携し、青陵の森に関わる団体での情報交換会や観察会を行うほか、他センターや小学校の地域学習で講師をコーディネートすることで、地域の魅力を広く伝えた。	7月15日～ 3月28日	6	102

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「くよみ郷土研究会」の活動支援

「くよみ郷土研究会」は、当市民センターの講座から立ち上がったサークルである。

仙台青陵中等教育学校の学校林「青陵の森」の整備や観察、地域の歴史資源の調査を自ら計画して行っている。

令和４年度は、芋沢街道について各地点の標高や周辺の歴史・見どころなどをまとめたリーフレット「芋澤街道通行心得」を作成し地域で配布した。また、名前に「センダイ」と付く植物を集めて「センダイ冠植物園」と称し、市民センターロビーで展示した。全国都市緑化仙台フェアや仙台野草園でも展示する予定である。

市民センターでは、これらの活動への支援、会の運営に関するアドバイスや、他市民センター主催の講座や小学校での地域の歴史の講師としてコーディネートを行った。今後もさらに活動を続けていき、自らの学びを地域に還元していけるよう支援を続けていく。

宮城野区中央市民センター

〔沿　革〕

宮城野区中央市民センターは、平成 24 年 8 月、宮城野区役所やＪＲ陸前原ノ町駅に隣接する複合施設内に、市内 60 番目の市民センターとして開館した。同施設には、文化センター、図書館、児童館、情報センターが併設されており、交通の利便性も良く多くの市民に利用されている。

当センターの周辺は、古くから歌枕の地と知られる歴史をきざみ、近隣には原町商店街や陸上自衛隊仙台駐屯地などを擁しており、旧来の地元住民に加え転出入者も多い地域である。市民センターとしての歴史は浅いが充実した施設を活用して、様々な学びの機会を提供するとともに、地域情報の収集・提供に努め、地域の活動を担う人材の育成や交流拠点としての事業展開を図っている。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	★●みやぎの防災・減災ひろば		
参加者	地域住民	延参加者	140 人
開催日	全 7 回　　令和 4 年 6 月 15 日（水）～令和 4 年 12 月 17 日（土）		
協力者・協力団体	宮城野区まちづくり推進課、仙台大志高校、せんだい女性防災リーダーネットワーク宮城野、わしん倶楽部		
ねらい	東日本大震災から 11 年が経過し震災の記憶が薄れてきている中、台風や異常気象による大雨など災害も多様化している。加えて昨今は With コロナを踏まえた対応や備えも必要となっている。そこで地域に密着し積極的に活動を続けている地域の団体と連携し、災害から身を守るために役立つ知識や対応を学び、地域住民の防災意識と防災力の向上を目指す。		
概要・成果	災害時に重要な食事とトイレ問題について、スーパー防災食である乾物親子クッキング、バケツでトイレを流す方法など実践的な要素を取り入れ展開した。また、地域の高校では昼間と夜間の時間帯に防災ゲームクロスロードを地元町内会の住民と学生とが一緒に行った。 クロスロードを学生と地域住民が一緒に体験することで、意見を言い合い周囲の意見も受け入れながら異世代交流が図られ、地域の防災についての意識が高まった。講座をきっかけに町内会と高校が合同で防災訓練を行う方向に進んでいる。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●ウェルカムひろば	乳幼児親子を対象に、コロナ禍での孤立やコミュニケーション不足の解消を目的として、地域の子育て支援団体と連携して遊びの場や子育て情報の提供と育児相談を行った。	6 月 14 日 11 月 1 日	2	144
みやちゅうジュニアスクール	地域の小学生を対象に、高校生によるプログラミング教室、「ジュニアリーダーとあそぼう！」、仙台市博物館と共催の親子工作教室を実施した。	7 月 9 日～ 2 月 4 日	5	218
インリーダー研修会	子ども会の中心となる小学校高学年と世話人を対象に、講話やゲーム体験を通して子ども会の意義や行事の運営の仕方を学んだ。	8 月 9 日	1	18
子ども参画型社会創造支援事業「キッズもりあげ隊」	地域の小学生を対象に企画員を募り、地域を盛り上げるためにできることを考えて活動を行った。自主企画として水遊びや謎解きイベント、全国 6 カ所の公民館とのオンライン交流会に参加した。	6 月 12 日～ 3 月 12 日	12	238

はらのまち・みやぎの Fun time	土曜日や夜の時間帯など、地域の方が参加しやすいよう開催日時を工夫しながら仙台市博物館巡回講座、ガーデンコンサート、アイビーのリース作り、アロママッサージヨガ講座を実施した。また、市民センターから遠い地域の方を対象に町内会や民児協等と共催で出前講座を実施した。	7月14日～11月25日	7	161
仙台市史講座 蒲生の移り変わり～近世から近代へ～	藩政時代に七北田川の河口の付け替えと水路の新設により栄えた蒲生の町の移り変わりについて運輸や交通の側面から考察した。	2月18日	1	47
みやぎの大学 総合コース	地域の高齢者が心身共に健康な生活を送れるようシルバー川柳や館外学習、レク体操や仙台市博物館巡回講座「伊達政宗」などを学習した。	5月29日～2月7日	10	350
みやぎの大学 せんだい見聞コース	せんだいの文化資源をテーマにした館外での学習機会として、仙台市博物館巡回講座の聴講、佐大ギャラリー、青葉神社、四ッ谷用水、一番町まち歩きなどを実施した。	5月17日～1月13日	9	220
原町本通りに仙台伝統七夕を飾ろう	原町本通りに飾る七夕飾りを作成した他、地域の施設にも吹き流しを作って飾った。また町内会の高齢者サロンへの出前講座、地域に向けて折り鶴収集など、住民が参加できる働きかけを行った。	5月19日～7月7日	10	121
●Miyachu ギャラリー	館内展示スペースを使った展示とワークショップを通して、展示する側・見る側双方に学びが生まれる講座として実施した。健康・美術・町づくり等、それぞれの活動団体と連携して、誰もが自由に学べる場の提供を行った。	6月4日～3月19日	13	3,207
宮城野区中央市民センターまつり M フェス	利用団体やサークル、管内の学校によるステージ発表、出店・子どものコーナー等により、地域の交流と親睦、活性化の推進を図った。	10月29日	1	1,800
宮城野区中央市民センター地域懇話会	町内会や地域団体、市民センター利用団体代表者より、市民センターの事業への要望や情報交換を行った。	11月26日 2月15日	2	40

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「すずむしの里づくり実行委員会」「宮城野原案内人の会」への活動支援

「すずむしの里づくり実行委員会」は仙台市の虫である「スズムシ」の継承に長年取り組んでいるが活動の広がりにともない実行委員が不足している。そこで、夏に開催したスズムシの配布交換会に来場されたスズムシの生育に興味のある方々に案内状を送り、事務局である岩切市民センターと連携し交流会を行った。その結果、数名が実行委員の仲間入りとなり即戦力として活動するにいたった。

「宮城野原案内人の会」は、地域ガイドボランティアとしてまち歩きを開催し、参加者も多く好評を得ている。反面、会員不足の悩みを抱えており、新規会員の獲得に苦慮している。そこで、まち歩き会終了後に懇親会を設けて会員増へと結びつくように交流を図ったところ、１名の新規加入があった。また、活動支援をきっかけに、会の活動紹介や交流会を自主的に企画するなど活動の幅が広がった。

生涯学習支援センター

〔沿革〕

仙台市の公民館は、昭和 21 年に在仙文化人有志による民間団体が主体となって設置されたのが始まりで、昭和 24 年に仙台市公民館条例が制定され、行政機関としての「仙台市公民館」が発足した。その後、各地域の公民館設置とともに、昭和 48 年には「仙台市公民館」を「中央公民館」と改称。昭和 58 年には榴岡図書館とともに現在地に開館し、平成元年には「中央市民センター・公民館」となり、翌年には「中央市民センター」と改称した。さらに平成 26 年 4 月より「生涯学習支援センター」と改称し、仙台市の生涯学習支援体制の充実・強化を図った。

当センターが位置する仙台駅東口周辺は、高い利便性を生かした企業や学校、マンションが混在するとともに、古い歴史ある地域としての顔も併せ持っている。こうした立地条件から、市内各方面からの利用者や夜間の利用頻度も高く、多様な学習活動、市民活動が活発な状況となっている。

なお、施設機能の見直しに伴い、当センターにおける地区館事業は、平成 26 年度より近接する榴ケ岡市民センターの出前講座として実施している。

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

展示スペースの提供･サークル体験会の開催

1 階の展示スペースを、サークル・個人の活動成果発表の場として例年提供している。令和 4 年度は、ホームページやチラシ等で出展者を募り、多くの方に参加してもらった。また、当センターを拠点とするサークルの活動紹介を行ったところ、見学希望者が多くあり、サークル体験会を実施して新規メンバーの獲得やサークル内の活性化につなげることができた。

高砂市民センター

〔沿　革〕

高砂市民センターは昭和 43 年、高砂小学校校舎を改築し高砂公民館として発足した。昭和 53 年宮城県沖地震で建物が大破し隣接する前高砂小学校給食センターを改築、昭和 54 年に移転した。平成元年「高砂市民センター・公民館」、翌年「高砂市民センター」と改称、その後平成 6 年高砂地区の中心部に複合施設として新たに開館した。

この地区は、七北田川、貞山運河、蒲生干潟、そして南部には広い田園地帯が広がっている自然に恵まれた地域である。また、東北の海の玄関口、物流の拠点である仙台港を配し、背後地には大型商業施設等の進出も相次ぎ、急激な都市化が進んできたが、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災により、沿岸部が津波で甚大な被害を受け、中野地区は仙台市災害危険区域条例に基づき災害危険区域に指定され移転対象地区となった。地区内の 4 町内会は解散し、多くは田子、上岡田、南福室に移転した。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	★仙台蒲生日和山山開き登山プロジェクト		
参加者	地域住民、高砂中生・OB を含む一般登山者	延参加者	259 人
開催日	全 9 回　　令和 4 年 4 月 27 日（水）～7 月 15 日（金）		
協力者・協力団体	連携：高砂中学校・PTA・同校卒業生、なかの伝承の丘保存会、中野ふるさと YAMA 学校		
ねらい	仙台蒲生日和山は、「日本一低い山」として、広く知られ「登頂証明書」を求め地域住民のみならず全国から登山者が多数訪れている。平成 26 年から地域団体や住民により山開き登山が企画・開催され、震災で失われた地域の文化と被災体験を広く伝え防災・減災に役立てるとともに、移転を余儀なくされた地域住民の再開・交流の場、新たに日和山に興味を持った人たちとの交流の場として笑顔が行き交うまちになるよう願いを込め、山開き登山を開催して新たな海辺のふるさとづくりを目指す。		
概要・成果	令和 4 年度もコロナ禍のため、市民センターだよりと市民センターホームページでの広報のみとしたが、山開き登山を楽しみにしている旧住民や関係者 130 名の登山者が集い、交流を深めた。山開き登山のオープニングでは、中野小太鼓を受け継いだ中野中学校の生徒・OB による演奏を 3 年ぶりに披露することができ、活気を取り戻すことができた。 山開き登山の実施後、徐々にコロナ禍の制限も緩和されたことや登山に訪れた方々が SNS 上に紹介記事・写真を掲載したことなどから、全国（海外）から登山者が訪れ、令和 4 年度は、これまで最も登頂証明書の発行が多かった令和元年度の 904 名をはるかに上回る 2012 名の登山者に登頂証明書を発行することとなり、海辺のふるさとづくりに貢献できた。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
たかさごKids スクエア	小学生を対象に、世代間交流と社会性を育むことを目的として、「押し花体験」「星空観察会」「お正月飾りづくり」「畳コースターづくり」を開催した。なお、当初予定していた「茶道体験」は感染予防のため物づくり講座に変更した。	8 月 6 日 12 月 16 日 12 月 27 日 2 月 8 日	4	74
★ハマヒルガオプロジェクト～花咲く海辺づくり～	岡田新浜の海辺に奇跡的に残された海浜植物の保護と環境再生を目標に、岡田小学校の児童を対象として、「海浜植物観察会」「植え替え」「植栽」「種まき」を地域住民と交流しつつ実施した。	5 月 19 日 6 月 16 日 10 月 20 日 11 月 17 日	4	205
★ふるさとの自然を学ぶ ～蒲生干潟の植物と生き物～	鶴巻小学校児童を対象に、蒲生干潟を通してふるさとの魅力を知り、ふるさとを愛する心を育むことを目的として「蒲生干潟の植物と生き物に関する事前学習会」、「蒲生干潟観察会」を実施した。	9 月 16 日 9 月 22 日	2	143

宮城野区インリーダー研修会	子ども会のリーダーとして活躍する児童と世話人を対象に、子ども会活動の意義や児童・世話人の役割、ゲームの進め方等を学習する機会を提供した。	8月9日	1	17
高砂オープンカレッジ	地域での人材発掘と交流の促進を目指して、館内編では「消しゴムはんこ作り」「かえりびな作り」「キャンドルナイトづくり」「キャンドルナイトコンサート」を行い、出前編では「押し花作り」「軽体操」を開催した。	6月26日～2月23日	7	98
高砂老壮大学	学習を通じて、高齢者の生きがいづくりや交流の促進を目指して、「アンサンブル」、「介護」、「動物園」、「終活」、「脳トレ」、「軽体操」、「食」、「歴史」、「ピアノ」をテーマにした講演会を実施した。	5月18日～2月15日	9	466
★地域で考える「みんなのBOSAI」	災害発生時の初動に資するため、学習会「女性の視点で考える避難所運営」、大津波警報発令における住民主体による指定避難所運営訓練(企画会含む）及びマップ等作成の検討会を行った。	6月8日～3月12日	6	66
★中野ふるさと学校	震災によって失われた歴史や文化の継承と地域の絆を育む目的で、毎月で企画会議を開催し、清掃活動、旧中野小に伝わる紙漉き、勉強会「思い出を語る蒲生、中野、日和山」、まち歩きを実施した。	4月22日～3月17日	15	177
高砂市民センター懇話会	地域づくりに寄与するとともに、時代に即した地域に寄り添った市民センターへの改善を目指し、市民センターの取組目標等を紹介するとともに、地域に関する課題や地域情報の把握に努めた。	5月20日 2月22日	2	34
高砂市民センターまつり	住民の絆を深め、地域交流の活性化を目指して、実行委員会により運営方法、新型コロナ感染対策などを検討し3年ぶりに開催した。11月以降は利用団体が作成した作品を展示するアート展を開催した。	10月23日（アート展） 11月1日～12月22日	1	900
高砂地域交流事業～ウィンターフェス～	「新たな高砂の魅力づくり」をテーマに、誰もが気軽に集い交流できる場を提供することを目指し、市民主役の企画会議を重ね「ウィンターフェス」を開催した。	5月12日～12月21日	5	214

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

高砂市民センター指定避難所運営委員会（以下運営委員会）の活動支援

令和4年5月に宮城県が発表した大津波による最大浸水地域に、高砂市民センターを含む高砂地域が含まれたことから、施設管理者として避難所担当職員と連携し施設入館のための開錠要領、避難者の収容要領を検討して「大津波警報発表時の緊急避難対応（暫定版)」を作成し運営委員会を構成する町内会に配布した。配布後、運営委員会や避難所担当職員と共催により津波避難訓練を実施して暫定版の周知・徹底をはかった。

中野ふるさとYAMA学校の活動支援及び民間ボランティア団体とのコーディネート

YAMA学校主催講座の実現に向け助言や提案を行った。また、震災の語り部活動や活動資金の獲得のため、関係NPO団体とコーディネートを行い、自主活動を展開できるように支援した。

岩切市民センター

〔沿　革〕

岩切市民センターは昭和 56 年に開館した「岩切公民館」を前身とし、平成 2 年「仙台市市民センター条例」により「仙台市岩切市民センター」と改称された。平成 18 年 6 月から 12 月まで大規模改修が行われ現在に至っている。建物内部には市民センターのほかに、保健センター、老人憩の家、コミュニティ防災センター資機材倉庫が併設されており、さらに平成 22 年 3 月より岩切証明発行センターが併設された。

当地区は宮城野区の北東部に位置し、美しい田園風景が広がる。古からの歴史と文化を伝える神社、仏閣、遺跡が点在している。近年は岩切駅前地区の再開発により若い世代の人口増加が著しい。人々の学習意欲は高く、自主サークル活動が盛んに行われてきた地域である。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	すずむしリンリン講座		
参加者	出前授業：岩切小学校 4 年生・長町南小学校・東長町小学校・小松島小学校 配布会：どなたでも 実験放虫：実行委員	延参加者	967 人
開催日	全 6 回　　令和 4 年 6 月 24 日～令和 4 年 10 月 30 日		
協力者・協力団体	すずむしの里づくり実行委員会、岩切小学校、まちづくり推進部宮城野区中央市民センター、岩切地区町内会連合会		
ねらい	都市化が進むことで失われつつある自然環境の中、仙台市の虫・スズムシを飼育し、自生させる活動を通して、多くの市民が自然に興味を持ち、人とスズムシが共存できる潤いのあるまちづくりを目指す。		
概要・成果	令和 4 年度は岩切小学校 4 年生（6 クラス 186 名）に加え、新たに長町南小学校、東長町小学校、小松島小学校において、実行委員が講師となりスズムシの生態や飼育方法などについての出前講座を行った。子ども達はスズムシが仙台市の虫であることやスズムシの体のつくり、音の出し方や意味などへの興味関心を持ち、学習を深める契機となった。配布交換会には 168 名の来場者があった。さらに、仙台の虫「スズムシ」の広報活動のため岩切市民まつりに参加し、すずむしの里づくり実行委員会の活動内容を紹介した。令和 4 年度もコロナ禍で活動自体が制限された中ではあったが、仙台市の虫「スズムシ」を理解し、環境への関心を高めることに寄与できた。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
家庭教育地域交流会	岩切地区で子どもの教育に関係する 6 団体が互いに関与しながら、子どもたちを見守り、地域の活性化と親睦・融和を深めるために、情報交換と講座を企画・開催・運営した。「コンサート管弦楽の調べ」「わくわく防災キャンプ」を企画実施した。	6 月 7 日 1 月 20 日	7	179
●岩切子育て応援事業	いわきいり子育てネットワークと共催しいわきり親子でわいわい広場や IKoNet の作成、子育て講座の開催など連帯と協働のもと子育てに関する共有課題の解決に向け岩切地域の子育て支援に取り組んだ。	4 月 13 日～ 2 月 9 日	17	434
インリーダー研修会	岩切地域の子ども会のリーダーと世話人を対象に子ども会活動の活性化を図る様々な学びを提供した。またジュニアリーダーを活用し、活動支援と次世代ジュニアリーダーの育成に寄与した。	8 月 4 日	1	8

ジュニアリーダーとあそぼう！	地域の小学生を対象に魚釣りゲームやもぐらたたきゲームを通じた遊びの提供と世代間交流を行った。また、小学生同士の交流を築く場の提供や次世代ジュニアリーダー育成に繋げた。	10月30日 2月23日	2	219
岩切小学校地元学連携講座	岩切地区に古くから自生するカラムシを題材に、小学生が歴史や活用法を地域講師から学び、地域への興味と関心を高めた。	7月19日 8月30日 8月31日	3	386
岩切老壮大学	高齢者を対象に、フレイル予防、音楽鑑賞、ダーツ、演芸鑑賞などの講座を開催し、生きがいづくりや地域活性化の一助とした。また講座への参加を通して受講生同士の交流や親睦を深めた。	4月20日～ 2月15日	10	531
学びの広場　岩切アカデミー	高齢者福祉・工作・地域資源・文化活動といった地域住民が気軽に参加できるあらゆる分野の講座を開催し、学びを通じた地域の活性化や生涯学習の推進・振興に寄与し地域づくりに繋げた。	10月13日～ 2月21日	5	187
岩切市民まつり	地域住民が学習成果を発表する舞台、展示発表、特設の町内会コーナーでの野菜販売、模擬店、小学生の絵画展示中学生の吹奏楽発表など。	10月29日 10月30日	2	1672
岩切市民センター懇談会	岩切市民センターの事業運営や施設管理についての意見取得や岩切地区の地域課題と情報共有、関係公所・団体等の令和5年度事業予定の情報共有を行った。	12月1日 2月22日	2	19
考えよう！岩切の防災	大雨災害時の避難行動とマイタイムライン講座や補助避難所運営訓練、普通救急救命講習（AED含む）を行い地域の防災力向上に努めた。	7月24日 11月18日 12月10日	3	102
岩切いろいろ見てみ隊	土地区画事業などにより変貌しつつある岩切地区のかつての地域の歴史を学び実際に歩き、自分たちが住む地域への関心、理解と愛着を深めていくために講話と歴史ウォークを実施した。	5月14日 5月21日 5月28日 6月4日	4	90
子どもの広場（居場所）づくりボランティアの養成	月に1回体育館を「子どもの広場」として開放し、子ども達の遊びを見守るボランティアの養成へと導く講座を7回開催した。また、ボランティア会議を2回（遊びの練習会1回も含む）実施した。	5月27日～ 2月23日	9	128
読み聞かせボランティア養成講座	発音の基礎や絵本・紙芝居・おはなし会について学び、弊センター図書室や地域で活躍する読み聞かせボランティアの人材発掘と育成に取組んだ。	8月5日 8月26日 9月2日 9月14日	4	58

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「図書ボランティアしおりの会」への活動支援

岩切市民センター図書室を拠点に活動する図書ボランティア「しおりの会」は、令和4年度に1名の新規加入があり現在 15 名で活動している。図書の貸出ボランティア活動支援の他に、月に一度定例会を開催し、情報交換や図書室環境整備・図書選定など様々な活動の支援を行っている。令和4年度は「図書室壁面改装プロジェクト」として、折り紙サークル「はぎ」とジュニアリーダー「岩切ガンキリーズ」と共に図書室受付カウンター壁面の改装に取り組んだ。また、主催事業「学びの広場岩切アカデミー」では「オリジナルしおりづくりにレッツトライ」と題した講座にて、講師役を務めてもらうとともに図書ボランティア活動の活性化にもつなげることができた。さらに、センターだよりに『しおり通信～図書室だより～』という掲載コーナーを設けることで、図書室利用促進や日頃の活動の情報を発信するための支援にも努めた。

鶴ケ谷市民センター

〔沿　革〕

鶴ケ谷地区は、仙台市が大型モデル団地として開発し、昭和 43 年から入居を開始した住宅団地である。

鶴ケ谷市民センターは昭和 47 年 5 月 22 日、団地の完成とともに RC3 階建、温水プールを併設する施設として開館した。その後、地域住民から生涯学習への要望が高まり、昭和 59 年から岩切公民館の協力を得て、各種の講座を開始したが、本格的に生涯学習が展開されたのは、平成元年に市民センター・公民館として発足してからのことである。平成 4 年 4 月には児童館が併設され、地域の生涯学習・児童福祉・コミュニティづくりの拠点となった。

平成 23 年 3 月の東日本大震災により鶴ケ谷市民センターが被災し使用不能となったことから、平成 24 年 3 月から近傍に仮事務所を設け生涯学習事業を行ってきた。平成 28 年 4 月 2 日からは、第一市営住宅団地再整備地内に市民センター(単独館)を移転・新築して開館し、地域の生涯学習・交流・コミュニティづくりの拠点として多くの人々に利用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	子ども参画型社会創造支援事業　「つるっこ画樹園！～実れ鶴心～」		
参加者	鶴谷中学校・地域団体・一般市民	**延参加者**	498 人
開催日	全 17 回　　令和 4 年 5 月 13 日（金）～11 月 18 日（土）		
協力団体	鶴谷中学校・鶴谷中学校支援地域本部・地元学「まるっとつるがや」・鶴ヶ谷地域包括支援センター		
ねらい	中学生を起点に鶴ケ谷の魅力を地域へ発信する「杜の美術展Ⅳ」を企画・運営することで、地域における幅広い年代層が交流するきっかけづくりと、中学生の達成感による自己肯定感を育む。		
概要・成果	「つるっこ画樹園！～実れ鶴心～」については、鶴谷中学校・鶴谷中学校支援地域本部との連携に加えて、地域で活動する団体や仙台三高、鶴谷小との地域連携を新たに創出することができた。中学生企画による「杜の美術展Ⅳ」については、鶴ケ谷地域の方々を中心に 140 名の参加をいただき、地域の魅力を幅広い年代層へ発信するとともに、地域における交流のきっかけづくりが実施できた。 子ども参画型社会創造支援事業も 4 年目を迎えたなか、仙台三高、鶴谷小や地域で活動する団体との新たな連携が生まれたことは大きな収穫であり、令和 4 年度に創出したものを一過性のものとせず、次年度もさらに地域団体との連携を深め、さらなる市民主体による支え育む街づくりを目指す。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子ではっぴい講座	幼児親子を対象にベビーマッサージ、ファミリーコンサート、親子ビクス講座を開催した。母親の情報交換も実施し、子供の健やかな育ちを支援し、同世代の子育て仲間づくりに繋げた。	10 月 27 日 3 月 11 日 3 月 21 日	3	87
●鶴・燕・西 子育て支援ネットワーク事業「子育て応援ひろば」	地域の児童館・市民センター、宮城野区中央市民センター、家庭健康課を中心に同年代でふれあえる幼児向け催しを企画し子育て世代を支援した。	11 月 30 日	1	50
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会活性化に向けた研修会を実施。児童はリーダーの役割・心構えやジュニアリーダーから実技指導を受け、世話人は子ども会での立ち位置や役割等を学んだ。	8 月 17 日	1	30

鶴ケ谷キッズステーション	小学生を対象に様々な体験を通して、世代間交流や社会性を育むことを目的に「ひょうたん沼探検」「科学のふしぎ体験」「ダブルダッチにチャレンジ」「手芸品づくり」「ドローンプログラミング教室」を開催した。	5月28日～ 3月4日	5	68
君もプチレスキュー	1 年生対象は、自分の住んでいるところの災害をハザードマップから考え、マイタイムラインを作成。2・3年生対象は、災害時に備えるための判断力を養うクロスロードゲームを実施した。	9月6日 10月4日 11月8日	3	221
市民企画会議「鶴ケ谷いきいき倶楽部」	市民企画員を募り、地域での活動をさらに活発化するための講座を企画し、サークルの見学・体験会と、地域団体との共催による体験型講座を実施・運営した。	5月26日 6月17日 7月16日 10月8日	4	67
市民企画講座「鶴ケ谷いきいき倶楽部」	サークルの見学・体験会、地域包括支援センター共催でのフレイル予防講座、宮城県障害者福祉センター共催でのフラワーアレンジメントやネイルの体験講座を市民企画員の企画・運営によって開催し、地域住民が楽しみを見つけ交流できる機会を創出した。	9月1日～ 9月28日	18	176
鶴ケ谷ことぶき大学	高齢者の孤立防止や健康増進のため、定期的に集い学習する機会を提供した。また、世話人会企画による講座やイベントを復活し、受講生が主体的に活動に関わることを支援した。	5月18日～ 1月18日	8	304
つながれ　すずむしの里	仙台市の虫「スズムシ」の生態や飼育を通じて自然環境や命の大切さを学ぶことを目的として、小学生対象に「鶴谷小学校出前講座」「虫の声を楽しむ会」「鶴谷東小学校出前講座」地域住民対象に「スズムシ配布会」を開催した。	7月12日 7月30日 8月27日 8月31日	4	311
鶴ケ谷市民センターまつり	感染対策を徹底のうえ、規模を縮小して、ステージ発表、展示コーナー、模擬店（その場で飲食しない物販売）を開催した。3年ぶりの開催により、800人の来場者で賑わった。	10月22日	1	800
鶴ケ谷市民センター懇話会	町内会、地域諸団体、市民センター利用団体、地域の小中学校を対象に、事業への取組状況等の共有を図り、地域課題（地域情報）や市民センターへの意見・要望の把握に努めた。	6月28日 2月16日	2	14
お話しの部屋	読み聞かせボランティア共催「おはなしの部屋」を開催。幼児親子や小学生向けに季節感がある講座で、地域の子供達の情操教育アップやボランティアのスキルアップに繋がり、センター図書室の認知を広めた。	8月20日 10月12日 12月22日	3	41

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダーの育成支援

鶴ケ谷地域におけるジュニアリーダー組織である「鶴ケ谷 Yourself」は、令和3年度以降、メンバー不在となっていた。鶴ケ谷地域における子ども会活動の活性化や、イベントの企画や実施、ボランティア活動を通じた青少年育成を推進するために、年度当初から地域の中学校と連携してジュニアリーダーの募集活動を行った。その結果、12月に2名の応募があり、活動を再開するに至った。初級研修会参加のサポートや毎月の定例会を開催とともに、3 月には小学生対象講座のサポート役として初のボランティア活動を経験することができた。

令和5年度もジュニアリーダーとしての活動機会や研修参加を支援しながら、新人ジュニアリーダーのスキル向上と青少年育成を推進していきたい。

榴ケ岡市民センター

〔沿　革〕

榴ケ岡市民センターは、日本住宅公団の高層共同住宅の建設に伴い、一階・地階部分の一部を市民会館の分館として位置付け、昭和 48 年 6 月に開館した。平成元年 4 月には公民館が併設され、翌年 4 月に「榴ケ岡市民センター」に改称された。平成 24 年 7 月 31 日にはそれまでの本館を閉館し、同年 8 月 28 日に榴岡公園軽体育館の名称を「榴ケ岡市民センター」へ変更して現在に至っている。

当市民センターは、市民の憩いの場である榴岡公園に隣接し自然環境に恵まれ、近くには仙台市歴史民俗資料館、国の合同庁舎、楽天生命パーク宮城などがある。中心市街地として都市基盤整備が進み古くからの街並みが日々変化している中、新旧地元住民の交流の場として、また各種会合や生涯学習活動の場として多くの人々に利用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	榴ケ岡寺子屋		
参加者	地域住民	延参加者	244 人
開催日	全 13 回　　令和 4 年 4 月 20 日（金）　～　令和 5 年 3 月 17 日（金）		
協力者・協力団体	榴岡地区エキサイティング事業実行委員会		
ねらい	榴岡地区は、土地区画整理事業の後、マンション建設などにより人口流入が続いており、新旧住民の交流や融和を推し進めることが課題となっている。そこで、防災、歴史、福祉の 3 つのテーマを柱とした公開講座を通して、学びを通した交流の場を提供するだけではなく、社会学級や地域団体、地域の公共施設など、地域に根差した幅広い分野の人材が一堂に会する企画会議を開催することによって、新旧住民相互の理解を深め、交流を促進する。		
概要･成果	平成 28 年度に地域力創造支援事業「榴岡地区エキサイティング事業」として始まったこの事業は令和元年度から「榴ケ岡寺子屋」へ変更して継続開催している。令和 4 年度は昨年度に引き続き、榴岡地区エキサイティング事業実行委員会の企画会議と、企画会議を経て実施する公開講座「榴ケ岡寺子屋」を実施した。 町内会や地区社会福祉協議会などの地域団体のほか、学校支援地域本部、PTA などの学校関連団体や、図書館、地域包括支援センターなど地域の公共施設が実行委員会に参加し、公開講座「榴ケ岡寺子屋」の内容について意見交換を行った。様々な分野の実行委員が集う企画会議を経ることにより、参加団体の交流と相互理解が深まっただけではなく、それぞれの分野から多角的に講座の内容を検討することができた。その結果、福祉編「認知症と介護」、歴史編「地名からたどる榴ケ岡かいわいの歴史」「伊達政宗と仙台」、防災編「防災マップづくり」「災害図上訓練（DIG）」など、地域の意見を取り入れ、新旧どちらの住民にも共通する関心事をテーマとする講座を開催することができた。特に防災編「災害図上訓練」では、参加者相互が防災減災について意見を交換する場を提供し、学びを通した交流の場を提供することができた。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
インリーダー研修会	榴岡小学校の児童が属する、子ども会の核となるリーダーと世話人を対象に、子ども会に関する知識を習得し、レクリエーションやゲームの運営・技術を学んだ。	8 月 4 日	1	38
東口ゆうえんち	異学年の子どもたちが、ボランティアスタッフとの異世代間交流を図りながら、3 年ぶりに「真冬のおばけやしき」を開催した。また、7 月に予定していた「榴岡公園クエスト」は、荒天により中止とした。	2 月 19 日	1	30

東口ますます元気教室	軽体操、音楽療法、フレイルチェック、ストレッチ、リズム体操などを通して高齢者の心身の健康維持と脳トレを行った。また、参加者の交流の機会を提供し、介護予防の一助となる講座を実施した。	6月15日～12月21日	5	81
榴ケ岡老壮大学	開講式での演芸笑（ショー）に始まり、宮城の工芸品、チョコレートの世界へ、時代劇の見方、せんだい3.11メモリアル交流館見学、腰痛予防、ミニ門松作り、トーンチャイムコンサートを行った。	5月19日～3月2日	10	383
つなげよう　平和のバトン	榴岡公園や地域にある戦争遺跡などから平和を学ぶ機会として、榴岡小学校5年生の授業での講話と成人を対象に講話やまち歩きを実施した。	6月30日 3月4日 3月11日	3	203
榴ケ岡市民センターまつり	センターを拠点として活動している地域団体が、日頃の学習成果や活動の成果を発表した。また、地域専門学校や地域授産施設による出店、動物ふれあいコーナーなど多彩なイベントを行った。	10月1日	1	600
榴ケ岡市民センター懇談会	１回目はセンターの利用サークル、2回目は町内会の等地域団体を対象として懇談会を開催し、地域課題や地域づくり、市民センターの施設利用などについて意見をうかがった。	6月18日 10月21日	2	20
つなげよう　つつじのめぐみ ～HarvestPark Project～	榴岡公園内の多種の桜について学んだほか、榴岡明寿会の植樹活動も紹介した後、桜の花の漬け込み、陰干し、パッキング保存要領を学んだ。	4月23日 4月26日 4月29日	3	33
私にもできるSDGｓ	第1回はSDGｓについて学び、第2・3回は、廃棄チラシを使ってロビーに飾る七夕飾りを作った。最終回は、キリバス共和国の温暖化による危機的状況について話を聞いた。	7月2日 7月9日 7月23日 7月30日	4	46
工業デザイン発祥の地をのぞいてみよう	１回目は、昭和3年日本初の国立工芸指導所が仙台に誕生した意義を学び、跡地を実際に歩いた。2回目はこの工芸所から誕生した玉虫塗について、3回目は具体的にどんなものを作っていたのかを学んだ。	11月12日 11月26日 12月3日	3	39
東口ガイドボランティア「宮城野さんぽみち」ガイド養成講座・公開講座	公開講座では二十人町のジオラマ見ながらその変遷を学んだ。また、養成講座では、東口の都市開発の経緯、ガイドボランティア講師による晩翠と藤村、榴岡地区の地政学上の位置づけを学んだ。	1月28日 2月4日 2月11日 2月18日	4	69
東口ゆうえんち企画会	学生や社会人スタッフが企画会を通して協力しながら主体性を持って活動した。さらに令和4年度は成果報告会の発表、リーフレット作成など自分たちの活動を発信する機会にもなった。	5月7日～2月18日	10	62

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

東口ガイドボランティア「宮城野さんぽみち」の活動支援

地域の小中学校より授業の一環で行う地域学習の実施にあたり、地域を知るガイドとの仲介をしてほしいとの要望を受け、東口ガイドボランティア「宮城野さんぽみち」と学校とが円滑に協働できるよう、コーディネートを行った。対象の年代に合わせて地域情報を発信する機会は貴重であり、ガイドボランティアのスキルアップにつながった。

また、ボランティアメンバーの高齢化などの理由により、人数が減少しているとの相談があったため、『東口ガイドボランティア「宮城野さんぽみち」ガイド養成講座・公開講座』を全4回実施し、活動の活性化を図った。講座を実施したことにより、ボランティア活動に関心のある人材とボランティアとをつなぐことができた。さらに、ガイドイベントについて、市民センターが主に情報発信の支援を行っていたが、ボランティアが自らイベント情報を発信できるよう、スマートフォンのアプリを使用した発信方法について相談にのるなどの支援を行った。

東部市民センター

〔沿　革〕

東部市民センターは、昭和 47 年 5 月に旧保健所庁舎の一部を改装し開館した「東部市民福祉会館」を前身としている。昭和 58 年 4 月に改築され、平成に入り「東部市民センター」に改称、平成 5 年 4 月には「東部児童館」が併設されている。当市民センターの中学校区は東仙台中学校、小学校区は東仙台小学校・新田小学校が管轄である。

周辺には、JR 苦竹駅・陸前原ノ町駅・小鶴新田駅・東仙台駅があり、仙石線、東北本線、貨物線、新幹線等が通る鉄道景観が見事に交錯する街並である。

さらに、当センターは宮城野区役所から北東へ約 0.7km の地点に位置し、南に国道 45 号線と北に利府街道、その中間を跨ぎ繋ぐ形で、通称「中原地区」といわれる住宅地にある。また、付近には、東仙台・苦竹・原町・自衛隊仙台駐屯地など、それぞれに歴史を持つ住宅地や商業地が広がっている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	TOSEN　COMMUNITY～地域とともに活動しよう～		
参加者	作品展示　249 人 防災講座　　3 人	延参加者	252 人
開催日	全 3 回　　令和 4 年 9 月 13 日（火）～12 月 27 日（火）、10 月 18 日（火）～2 月 28 日（火）、12 月 3 日（土）		
協力者・協力団体	東仙台中学校		
ねらい	作品展示会の開催や、中学生を講師として防災講座を実施するなど、中学生に地域で活躍する場を提供する。それにより、地域住民に東仙台地区の中学生の活動を理解してもらう一助とする。		
概要・成果	地域住民に中学生の活動や学習成果を理解してもらうことを目的とし、様々な分野の作品展示会、中学生が講師となった防災講座を実施した。 作品展示会では、美術、国語、理科、特別支援など、様々な分野の作品の展示会を長期的に実施した。地域の方々が自由に入れる市民センターを会場に 6 カ月に渡って掲示することで、コロナ禍の影響により学校に足を運ぶことができない父兄や地域の方々に中学生の学習成果を見ていただくことができた。 防災講座では、ボランティアの中学生たちが防災について勉強した上で講師となり、小学生たちに目線を合わせて工夫し、防災クイズや実験、防災グッズづくりを通して想いを伝えた。中学生からは「次は違う実験もやってみたい」、「中学校の紹介もしてみたい」、「部活で忙しいがボランティアも頑張りたい」といった次の機会を見据えた意欲的な声が挙がるなど、講座を通して地域やボランティアへの関心を高めてもらうことができた。 これらの講座を実施することで、中学生たちに地域で活躍する機会と場所を提供することができた。その結果、地域住民に中学生たちが取り組んでいる学習や活動を理解してもらうことができた。今後も引き続き、学校や地域とのつながりを大切にしたい。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子おうえん！子育てひろば	乳幼児親子が参加しやすく、楽しみながら情報交換ができる場となるよう、音遊び、人形劇、ペープサート劇、工作、情報交換会などを実施した。	10 月 4 日 11 月 22 日 2 月 8 日	3	40
出前講座　新田へ GO！	新田地域の未就園児親子や小学生を対象に、「ニュースポーツで遊ぼう」「小学生親子対象木の貯金箱作り」「クリスマスカード作成と贈呈式」「乳幼児親子対象 3B 体操」を実施し、地域での健やかな成長の機会を提供した。	8 月 4 日 11 月 12 日 12 月 13 日 2 月 10 日	4	124

地域とつながるプロジェクト	様々な世代との交流により、地域の子どもたちの社会性を育むことを目的として､｢暑中見舞いはがきを作ろう！｣､｢ネイチャークラフトをつくろう！｣､｢感謝のメッセージを贈ろう｣､｢ジュニアリーダーとあそぼう｣ を実施した。	7 月 9 日 7 月 30 日 10 月 28 日 2 月 18 日	4	29
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会活動を支援するため、小学生と世話人対象に子ども会の知識や実技を学ぶための研修会を実施した。またジュニアリーダーの活動を周知する機会とした。	8 月 19 日	1	36
老壮大学 東部いきいきスクール	高齢者を対象に定期的な多様な内容の学習の場を提供するため、歴史、軽体操、犯罪防止、実技、オカリナコンサート、講談などを実施した。また、食育講座は、運営委員会による企画案をのもと、1 月に実施した。	5 月 18 日～ 3 月 8 日	10	41
はつらつ健康ライフ	地域に住む 60 歳以上を対象に､高齢者の孤立防止と介護予防を目的とした、脳トレやニュースポーツ、ストレッチを取り入れたダンスの紹介など、気軽に参加できる運動講座を実施した。	8 月 3 日 8 月 17 日	2	13
市民企画講座 フレイルチェックをしてみませんか？	地域の高齢者を対象に､市民企画会で決定した｢フレイル予防｣ を目的として開催した。体力テストや転倒防止のストレッチ、リズムダンスに挑戦するなど、様々な運動を体験しながら参加者同士で楽しく交流した。	12 月 15 日～ 1 月 26 日	5	24
東部ふれあいまつり	地域住民の交流・親睦を深め、地域の活性化を図ることを目的に「展示」「舞台」「出店」の 3 部門による「東部ふれあいまつり」を開催した。	10 月 2 日	1	200
東部ふれあいコンサート	子どもから高齢者まで誰でも気軽にセンターへ足を運ぶことのできるコンサートを開催した。クラシックと読み聞かせの「絵本の森の音楽会」､｢大友憧山一尺八の世界｣｢仙台ケルティック楽団コンサート」を実施した。	9 月 17 日 11 月 9 日 11 月 26 日	3	95
日常に考える非常時の備え ～いつもの生活をもしものときも～	乳幼児親子や小学生などの地域住民を対象に、いつ起こるか分からない災害についての備えを見直すことを目的として開催した。非常持出袋の中身の確認やハザードマップの見方、フェーズフリーについて紹介した。	8 月 24 日 9 月 14 日 12 月 16 日 2 月 8 日	4	33
東部市民センター 地域懇話会	地域の連合町内会・小中学校・関係機関との連携により地域が一堂に介した情報交換・共有の場をつくり、地域住民によるコミュニティづくりや地域課題について意見交換をした。	7 月 15 日 2 月 22 日	2	28
市民企画会議 地域で伸ばそう！ 健康寿命	健康に関心のある地域住民を対象に、地域の健康寿命向上を目的とした企画会を開催。5 名の企画員が「フレイル予防」をテーマに企画員自身が講師を依頼。受付や司会を担当するなど、積極的に活動した。	8 月 3 日～ 2 日 9 日	6	5

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

地域在住の方の作品展示

市民センター１階ロビー掲示板や階段踊り場掲示板にて、模造紙大の大きさの折り紙作品など、地域住民の方の作品を展示する支援を継続に行ったことで、その場所が市民センター内における「憩いの場」となり、また製作者に対しては「発表の場」の提供となった。さらに、市民センターだよりにも掲載するなど広報支援を行った。年間を通じて、季節に応じた作品を提供していただき、来館者の目を楽しませることができた。

幸町市民センター

〔沿　革〕

幸町市民センターは、平成 5 年 4 月 20 日、幸町児童館及び幸町コミュニティ防災センターを併設した複合施設として開館した。令和元年度には大規模修繕を実施し、令和 2 年 4 月に再開した。

当市民センターがある幸町中学校区は、大型商業店舗の進出、民間マンションの建設などで町並みの変容著しい幸町・大梶地区と、与兵衛沼、枡江の森などの緑豊かな自然に恵まれた枡江地区からなる。仙台市ガス局や県・市障害者福祉センターなどの公共施設や、きぼう園、いずみ授産所などの福祉施設と共に、国、県、市の公営住宅があり、民間も含めて集合住宅が多い地域でもある。また、平成 26 年度には災害公営住宅も完成した。高齢化が進む中、子育て中の世代や若年層の住民の増加もみられ、ここ数十年で地域の環境は大きく変化した。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	幸町でつなぐ和の伝統～しめ縄づくりサポーター養成講座～		
参加者	地域住民	**延参加者**	10 人
開催日	全 1 回　　令和 4 年 12 月 6 日（火）		
協力者・協力団体	幸町小学校、枡江小学校、幸町南小学校、各学校支援地域本部		
ねらい	主催事業「さいわいどんぐりクラブ」において、小学生が和の伝統を体感することができる「しめ縄づくり講座」を毎年継続して実施できるよう、高齢となった講師と共に活動できる人材をサポーターとして養成する。		
概要・成果	令和 2 年度まで、小学校との連携事業として 5 年生を対象に地域講師を招いてしめ縄づくりを行ってきた。かつては田んぼが広がっていたこの地域について知ることができ、家庭では体験できないしめ縄づくりは、小学生が伝統行事を体験する良い機会となり、好評を得ていた。 コロナ禍を経て、2 年ぶりに開催するにあたり、高齢となる講師の負担を軽減するため、各学校支援地域本部や地域住民に協力を募ることとした。そして和の伝統行事の意味や地域の風習など、継続的に次世代につなぐことができるサポーター養成講座を企画した。 講師から教わった知識やしめ縄作りをサポーターが継承し、小学校に教えにいく機会を通して、地域の大人と小学生など、人と人とをつなげ、世代間交流を図ることができた。今後地域の活性化につながることが期待できる。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
●子育て応援リフレッシュ講座	乳幼児親子を対象に、親同士が情報交換をしながら楽しい時間を持てるように、手作り楽器作り、食育講座、ファミリーコンサートを行った。	8 月 31 日 9 月 22 日 10 月 22 日	3	68
さいわいどんぐりクラブ	小学生を対象に、親子で楽しむテーブルゲームや創造性を育むポーセリンアート作品作りを行った。また、小学 5 年生が和の伝統文化に触れる「しめ縄作り」を出前講座として 3 小学校で行った。	7 月 23 日～ 3 月 18 日	7	205
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会活動がより充実したものとなるよう、高学年児童と世話人がリーダーや世話人の心構えと役割、レクリエーションの具体などを学んだ。また活発に情報交換も行った。	8 月 4 日	1	21

さんさんさいわい健康クラブ	コロナ禍で体を動かすことが減っている中、ダーツ、呼吸法を意識した鍵盤ハーモニカ演奏、ニュースポーツ、卓球バレー、ヒップホップダンスを行い、仲間づくりと運動する機会を提供した。	1月13日～ 2月17日	6	59
出かけよう！自然観察で再発見	枡江地区の与兵衛沼や枡江の森など豊かな自然を生かした植物や野鳥の観察会や天体観測会を行い、地域や自然への理解や愛着を深めた。身近な地域を再発見する機会とした。	6月8日 8月19日 10月7日 11月30日	4	86
幸町生涯大学	高齢者の学びと交流の場として、チェロコンサート、ヒップホップダンス、アート作品作りの体験、口腔ケア、年中行事や防災の講話、日本舞踊、講談、館外学習を行った。	5月19日～ 2月16日	9	248
幸せ奏でるコンサート	コロナ禍で音楽での癒しの時間となるよう「ハワイアンバンドコンサート」「尺八＆ピアノコンサート」「陸上自衛隊第6音楽隊コンサート」「春を待つバイオリンとピアノのコンサート」を開催した。	7月16日 10月29日 1月21日 2月25日	4	266
枡江の森魅力発信プロジェクト 森においでよ！森に親しむ・森で楽しむ	枡江の森の魅力は森の中で実感してもらおうとの考えに基づき，「森の中で深呼吸＆ストレッチ」、小学生対象「秋の森あそびとかまどでたき火」、「春を探す散策会」を行い、森の楽しみ方を提案した。	6月4日 11月19日 3月19日	3	48
災害への備えー安心して暮らせる街へ	小学生を対象に地震や豪雨などの災害時、避難所に限らず、おうち避難、垂直避難の重要性を確認した。また乳幼児保護者を対象に震災の体験談から子供のための防災、減災のアイディアを学んだ。	8月2日 3月8日	2	21
幸町市民センターふれあいまつり	コロナ禍で感染対策を取り、サークルや地域団体等の参加で展示、ステージ発表、動画発表、体験コーナー、販売などを行った。管内の３つの連合町内会が集う催しとなっており、地域の交流、活性化の一助となった。	11月19日 11月20日	1	306
幸町市民センター地域懇談会	市民センター事業、運営への理解と協力を頂き、地域住民や地域団体、利用団体、学校等の声を反映させるために開催した。地域の課題や情報も共有することができた。	6月22日 2月22日	2	30
図書ボランティア養成講座	改修工事、新型コロナウイルスの感染防止のため、休止していた図書ボランティアの活動と円滑な図書室運営のために、ブックカバーのかけ方、本の修理、ブックトークを学び、他館の図書室見学で意欲を高めた。	6月1日 9月27日 10月5日 11月2日	4	32
市民企画会議 枡江の森魅力発信プロジェクト	枡江小学校に隣接する「枡江の森」を小学生や地域の方々がより身近で愛着を持てるように「森においでよ！森に親しむ・森で楽しむ」事業の企画と運営を担った。	4月9日～ 3月4日	10	66

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

市民センターで活動しているサークルへの活動支援

市民センター図書室で、図書ボランティアメンバーが月４回貸出の準備や本の整理、貸出・返却業務等を意欲的に進めている。月１回開催される定例会では、市民センター・児童館職員も参加し、図書室の運営について必要に応じて助言を行い、自主的な活動ができるよう支援している。

地域包括支援センターが行っている認知症カフェに市民センターが出演団体の音楽ボランティアサークルと、市民企画の枡江の森メンバーをコーディネートし、コンサートと講話を実施した。認知症カフェの参加者には音楽を楽しみ、地域の情報について知っていただくことができた。また、サークルや市民企画員からは活動の場を提供してもらい、学んだこと等を地域に還元することができたと喜ばれた。さらに枡江の森メンバーを枡江小５年生の総合的な学習のゲストティーチャーとしてコーディネートし、地域住民が地域課題に取り組む姿を子どもたちに知ってもらう機会となった。

田子市民センター

〔沿　革〕

田子市民センターは、平成 11 年 8 月、仙台市で 53 番目の市民センターとして開館し、児童館とコミュニティ防災センターを併設し、多目的ホール、会議室 2 室、和室 2 室、調理実習室、児童館図書室などを備えている。

当市民センターの位置する田子地域は仙台市東部に位置し、市中心部と直結する JR 仙石線（最寄駅:福田町駅）や国道 45 号線等に近い交通の利便性のよさから開発が進み、人口が増加している。半面、平成 27 年頃から 65 歳以上の高齢化率が緩やかに上昇してきている。幼稚園や小中学校、高校等の教育施設にも恵まれ、地域リーダーとして活躍する人材が豊かで、地域づくりに関する住民意識も高く、地域防災訓練等の特色ある活動が活発に行なわれている。当市民センターは、これらの立地条件を活かしながら、地域団体や学校との連携に努め、事業を展開している。

こうした中、平成 26 年度には田子西復興公営住宅に 160 世帯余りが入居し、田子西町内会が設立された。平成 27 年度は、田子西第二復興公営住宅への入居と集団移転用地への移住が開始され、平成 28 年 4 月、田子西こだま町内会、田子西中央町内会、田子西三丁目町内会が設立された。田子市民センターの管轄エリアは田子小学区 10 町内会、高砂小学区 4 町内会となった。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	子ども参画社会創造性支援事業　田子中生「福田町駅未来構想」		
参加者	田子中学校第一学年生徒	延参加者	144 人
開催日	全 11 回　　令和 4 年 10 月 28 日（金）～令和 5 年 1 月 22 日（日）		
協力者・協力団体	共催：まちづくり推進部宮城野区中央市民センター　連携：仙台市立田子中学校 協力：高砂地区町内会連合会・福田町駅整備促進協議会		
ねらい	JR 仙石線福田町駅は、現在の駅舎の老朽化とバリアフリーの観点から、移設・駅周辺整備計画が決定した。どのような駅舎ができるかを中学生が考え、新しい福田町駅建設計画に提案し参画をすることで、地域と地域課題を共有し、自分たちの地域の課題に気づき、社会・地域の一員として行動する視点を持てる機会とする。令和 4 年度は、田子中学校と連携し、『新しくできる駅舎が「福田町・田子地域の情報発信の場やシンボルとなるように」中学生の皆さんの意見を聞かせてください。』の呼びかけに集まってくれた田子中 1 年生の有志 20 人が、田子の地域のことを考え、新しくなる福田町駅を通して、未来に向かって希望を発信する。		
概要・成果	ワークショップをとおして、中学生が地域の将来を見据え、中学生らしい意見がたくさん出され、地域について考えることができた。発表できたことで、情報が精査され、自分たちの住む地域を考え、更に興味関心を持つきっかけになった。また、福田町駅整備促進協議会会長に意見書を届けたことや、仙台市の「子ども参画社会創造性支援事業成果報告会」での発表を通し、自分たちの想いが取り上げられたという達成感と、中学生の立場ならではの社会の構成員としての認識を持つことができた。また、田子市民センターホームページやたごっ子まつりでの講座レポートの掲示などで、地域の方々に活動を知ってもらう機会となった。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
みんなニコニコ♪子育て広場	育児の不安やストレスを和らげたり解消したりすることを目的に、親子ビクス、ベビーマッサージ、写真の撮り方、スクラップブッキングの講座を実施した。	7 月 22 日 7 月 29 日 9 月 27 日 10 月 28 日	4	43
チャレンジ！キッズタイム	地域の小学生を対象に、ドローン、ボルダリング、ニュースポーツ、書き初めにチャレンジする講座を各回で実施し、他校の児童や異学年と幅広く交流しながら、体験・学習する場を提供した。	7 月 30 日 8 月 20 日 9 月 24 日 12 月 24 日	4	35

田子小・中学校連携事業「田子のお宝を発見しよう」	小中学校と連携して地域についての講話やまち歩きなどの地域学習を行った。児童生徒が地域の大人と関わりながら、自分たちの住む町について考える機会とした。	7月5日～12月21日	6	558
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会が充実した活動ができるように、リーダーとなる児童と世話人を対象に、子ども会活動やレクリエーションゲームについて学ぶ機会を提供した。	8月19日	1	23
いきいき健康づくり	地域住民が気軽に参加できる健康講座を開催し、参加者の健康増進と住民同士の交流促進を図った。	6月3日 6月10日 6月17日 6月24日	4	27
田子老壮大学	高齢者を対象に、健康や歴史など、様々なテーマについて学ぶ場を提供し、多様な学びを通して同年代の方々と交流を深めるとともに、生きがいを見つけ充実した生活が送れるよう支援した。	5月11日～12月14日	7	158
田子の魅力発信広報部の企画「七北田川自然観察と神社散策」	6月と1月にまち歩き「七北田川自然観察と地域の神社散策（初夏編・冬編）」、12月に基調講演「江戸時代の田子村と福室村　七北田川鮭留紛争について」を実施した。	6月23日 12月15日 1月19日	3	12
★田子の歴史 田子西地区の成り立ちを記憶する	田子西地区移転10年を前に、移転から現在に至る想いを収集・記録することを目的として、田子西地区3町内会連携で実施。企画会を経て、寄稿をセンターだよりやホームページに掲載した。	4月15日～3月23日	14	19
みんなで学ぶ地域防災	防災・減災についての講話や、田子地区一斉の地域防災訓練を実施し、地域住民が防災・減災についての認識を深め、避難時の「自助」「共助」の大切さについて考える機会になった。	10月18日 11月13日 12月16日	3	29
たごの音楽会	転入者が多い田子地域で、誰もが気軽に参加できるコンサートを開催。新しい住民に市民センターを身近に感じてもらうとともに住民同士の交流を図る機会とし、明るい地域づくりの一助とした。	5月29日 7月10日 10月30日 1月22日	4	128
たごっ子まつり	地域活性化を図ることを目的として、実行委員や参加者が協力し合い3年ぶりに開催。ステージ発表、作品展示、催事、模擬店、田子小・中ジョイントコンサート等を実施した。	2月18日	1	900
田子市民センター懇話会	地域団体や利用者、近隣の小・中・高校との懇談を通して、地域課題の把握や地域情報の共有を図れた。また、市民センター運営上での市民参画を促進する機会につながった。	6月30日 12月17日	2	26
田子の魅力発信広報部	講座企画会、「まち歩き」、歴史講座を企画会・実施した。また、地域学習のための研修会を行った。また、随時、地域資料の分類整理と作成を行っている。地域小中学生対象に地域学習の講師も行った。	4月24日～3月16日	13	74

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

避難所運営マニュアル見直しに関するコーディネート

田子地区では、災害発生時の避難所運営のマニュアル等が、平成28年度以来見直されていなかった。仙台市の指針「新たな津波想定と命を守るための行動について」が提示されたことを受け、仙台市危機管理局、避難所運営担当部局、学校、地域町内会が一堂に会してマニュアルの見直しを検討する機会を持てるように、市民センターが連絡・調整を行った。

福室市民センター

〔沿　革〕

福室地区は西に七北田川、北は多賀城市に接し、南は仙台港背後地に囲まれた地域で、かつては豊かな田園地帯であった。昭和 30 年～40 年代にかけて住宅地や市営住宅が造成され、住環境が急速に整備された。国道 45 号線、JR 仙石線の沿線という利便性から、最近では仙台港背後地の開発や商業施設の増加に伴い、高層住宅、集合住宅が増え、人口は増加傾向にある。旧来の農地は激減したが、今も七北田川周辺の豊かな自然は健在である。

同地区に位置する福室市民センターは、中野中学校区を対象地域として平成 15 年 3 月に開館し、児童館、コミュニティ防災センターを併設している。年々利用者も増加し、地域住民の生涯学習の拠点として、広く親しまれ利用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	地域で育む学びの芽		
参加者	地域住民・中野栄小 3 年生、福室小 3 年生	延参加者	227 名
開催日	全 4 回　令和 4 年 10 月 4 日（火）、11 月 11 日（金）、12 月 10 日（土）、令和 5 年 1 月 29 日（日）		
協力者・協力団体	仙台市立福室小学校・仙台市立中野栄小学校・仙台市市民文化事業団		
ねらい	地域の小学校と市民センターが連携し、小学校の授業の中で子どもたちが住む地域の歴史を学ぶ機会を提供するとともに、講師に地域人材を活用することで、地域住民の生きがいづくりと地域の活性化を促す機会とする。また、スポーツイベント等を通して、地域の小学生が学校や学年を超えて交流する機会を提供する。		
概要・成果	福室小学校と中野栄小学校の 3 年生を対象に、地域の歴史を学ぶ機会として「福室歴史ウォーク」「中野栄歴史ウォーク」を実施した。児童は、地域探訪サークル「高砂おたから探訪の会」の会員の方から歴史遺構について丁寧に教えてもらいながら、サークルの方とコミュニケーションをとる場面もあり、世代間の交流にも繋げることができた。また、「高砂おたから探訪の会」の方にとっては、日頃の学習活動の成果を発揮する機会の提供に繋がった。 「みんなでエンジョイ！スポーツ」では、子どもたちがいろいろな道具を使いながら、様々な動きをゲームに取り入れて楽しく体を動かし、学年を問わずにスポーツに親しむ活動を行うことができた。 「仙台ジュニアオーケストラアンサンブルによるウインターコンサート」では、地域の小中学校に、同世代の子どもたちからなるオーケストラの生演奏を聴く機会を提供した。楽器の紹介を行ったり、演奏形態の工夫をしたりすることで、多くの地域住民との交流を図ることができた。演奏したジュニアオーケストラの方にとっては、コロナ禍における貴重な発表の場の提供ともなった。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
インリーダー研修会	子ども会の児童や世話人を対象として、児童主体の子ども会活動推進のために、今後の活動に生かせる知識やレクリエーション等を学んだ。	8 月 3 日	1	15
福室ミュージックスクール	地域出身のフルート奏者を講師に招き、地元中学校の吹奏楽部員との交流をはかるとともに、フルートの魅力を伝える講座を開催した。また、クラシック音楽を気軽に楽しむ方法を知る講座を開催した。	2 月 4 日 3 月 4 日	2	54

仙台市博物館巡回講座　～これであなたも仙台通～	仙台市博物館との共催で、江戸時代の仙台の文化や歴史を学び、昔遊びを体験する講座を実施した。博物館に興味のある住民が集まることで、新たなつながりが生まれた。	5月21日 7月9日 9月24日 11月19日	4	96
福室老壮大学	地域の高齢者に、心身共に健康で充実した生活を送れるよう、交通安全、健康、地元の歴史、コンサートなど様々な学習機会を提供した。感染対策として受講者を２班に分け、同内容で開催した。	5月25日～ 2月22日	8	432
だれでもサロン”まざらいん”	地域住民同士の交流促進と地域活性化を目指し、「蓄音機で楽しむレコード鑑賞会」「ディスコンを楽しみましょう！」「福室縁芸場」「扇座プロジェクト公演」を開催した。	9月2日 10月7日 1月21日 2月19日	4	177
第16回福室市民センターまつり	感染対策を徹底して3年ぶりに開催した。市民センター利用団体やサークル及び地域の方々、近隣の小・中・高校等に日頃の学習成果を発表する機会を設け、地域住民や団体との交流の場となった。	11月5日	1	450
地域懇談会	福室地区、栄地区の町内会長や民児協代表、学校関係者を対象に、市民センター・児童館の事業計画説明・実施報告を、情報交換を通して地域の協力関係を強化した。	5月27日 2月7日 2月15日	3	29
ふくむろ防災塾2022	東日本大震災の教訓を生かし、町内会・地域団体・市民センターが連携して、避難所運営や防災スタッフの育成のために開催した。	6月11日 7月2日	2	62
みんなで支え合う地域づくり　～ふくむろ健康長寿ねっと～	高齢者を対象に、地域包括支援センターとの共催事業「地域で元気に暮らすために」を実施し、地域包括ケアシステム等についての講話と自宅でできる軽体操を学んだ。また、体幹を鍛える健康体操教室や栄養・運動・口腔ケアの重要性について学ぶ健活セミナーを実施した。	8月26日 9月29日 12月15日	3	54
市民企画会講座「福室100景再発見！」	市民企画会が企画した、「地域の産直野菜販売店の方から地元の野菜を学ぶ講座」や「学校給食センターの方から現在の給食事情や給食センターの役割を学ぶ講座」、「野草園元園長から地域にも生えている山菜を楽しむ講座」を開催した。	12月1日 1月28日 2月25日	3	48
市民企画会～地域の魅力発見～	月1回の定例会を開催し、冊子「福室100景いいトコガイド」の補完の観点から、「福室100景再発見！」と題する講座を3つ企画・実施した。また、公開の学習会を1回開催した。	5月12日～ 3月2日	15	91

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

だれでもサロン”まざらいん”における「扇座プロジェクト」への活動支援

「だれでもサロン“まざらいん”」講座のねらいは、世代を問わず誰でも自由に参加し、楽しみながら情報交換ができるサロンを設け、地域住民同士の交流促進と地域活性化を目指すというものである。

地域の劇団：扇座プロジェクトが活動拠点としている高砂市民センターが、新型コロナウイルスワクチン接種会場となっているために土日の利用できず、劇団活動再開にあたり練習や公演会場の確保に苦慮していた。そこで、「だれでもサロン“まざらいん”」講座の１コマとして「扇座プロジェクト公演」を共催で行うこととし、公演実施に向けての練習会場確保やスケジュール調整、会場設営や観客・スタッフ等への対応等を市民センターが行い、扇座プロジェクトの活動を支援した。

この支援によって、扇座プロジェクトは4年ぶりの第11回公演を開催・実施することができた。高砂地区町内会連合会・高砂第2民児協の方々は地域住民として出演に関わり、演劇工房10―BOXは技術支援として協力し活動の場を提供することができた。地域をあげて4年ぶりにこの公演に関わることで、お互いの交流活動を途絶えさせることなく、第12回公演という、未来につなぐことができた。

若林区中央市民センター

〔沿　革〕

若林区中央市民センターは、昭和 53 年、当時の養種園の改築に伴い、養種園の複合施設として「南小泉市民福祉会館」の名称で開館し、その後、条例改正により「南小泉市民センター」と名称を変え、平成 5 年 9 月 28 日、若林区文化センターの新設に伴い移転して、現在の「若林区中央市民センター」となった。また平成 29 年には、若林区中央市民センター別棟が、南小泉児童館、社会福祉協議会、子育てふれあいプラザとの複合施設として移転・新築された。当市民センターを含む若林区文化センターは図書館・市政情報センターも併設されている複合施設である。こうした立地の下、当市民センターは地域の生涯学習活動の拠点として多くの区民に活用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある（地区館）事業〕

事業名	若中防災・減災講座		
参加者	小学生	**延参加者**	204 人
開催日	全 4 回　　8 月 24 日（水）、10 月 15 日（土）、10 月 25 日（火）、12 月 12 日（月）		
協力者・協力団体	共催：若林区まちづくり推進部若林区中央市民センター 連携：仙台市立南材木町小学校・大和小学校、仙台市大和児童館・南小泉児童館		
ねらい	周辺地域は洪水浸水想定区域であり水害の危険が免れない。その為、児童を対象に防災学習を継続し学校や地域、家庭での理解を深めていく。災害の発生時には正しい避難行動ができるように、命を守る力を身に付ける学習を提供する。 また、地域の防災活動支援団体である「地域夢つなぐ実行委員会Wakka」が講義を行い、学校・児童館と共催することで、周辺地域の災害に対する情報共有と備えにつなげていく。		
概要・成果	防災教育用カードゲーム「ぼうさい Duck～自分の身は自分で守ろう～」を活用し、身近な災害に備えるための防災学習や、胸骨圧迫トレーニング「あっぱくんライト」の体験、身近にあるものを使った災害時に役立つ防災グッズ作り、気象の変化から防災を考える講話など、学校や児童館の要望に合わせたメニューを提供した。 防災学習を楽しく学ぶことで、災害の怖さと同時に災害に遭遇した際に備えておく準備について学習することができた。またハザードマップを活用し、水害の具体的な想定を知ることで防災意識の向上につながり、家庭で防災を話題にするきっかけとなった。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子で楽しむクラフトタイム「ジオラックソープをつくろう！」	小学生親子を対象に、1 家族で 1 つ宝石のような石鹸を色や香りを相談しながら共同で作製した。	7 月 31 日	1	17
ジュニアリーダーとあそぼう	小学生を対象に、レクリエーションゲームを通して異年齢間の交流や集団遊びの体験の中から他者との良好な関わりを学ぶ機会を提供した。中高生のジュニアリーダーがゲーム運営を行った。	8 月 27 日	1	16
仙台市こども会インリーダー研修会	令和 5 年度の子ども会リーダーと世話人を対象に、子ども会活動についての知識やレクリエーションなどの実技を学習する研修会を実施し、子ども会活動の充実を図った。	2 月 18 日	1	39
市民企画講座「雑がみ飛行機を飛ばそう」	小学生が実技指導等を受けながら雑がみで折った紙飛行機に、自ら考えて良く飛ぶように工夫を凝らすことを学び、ホールで飛行時間や飛行距離を計測した。	11 月 5 日	1	14

≪若林区≫

地域をつなぐ伝統行事	地域住民を対象に、季節行事等の学びを通して地域交流を図るため、「七夕編」では講話と七夕飾り吹き流し作りを、また「ひなまつり編」では、布製うさぎのひな飾りを作る講座を行った。	6月25日～1月31日	6	64
南小泉老壮大学　教養コース	高齢者を対象に、教養を高め心身ともに健康で豊かな人生を送るため、食や歴史についての講話、SDGｓの取組等の学習、またギター演奏やシルバー川柳などの鑑賞を行い、学びを提供した。	6月8日～2月8日	8	407
南小泉老壮大学　健康コース	高齢者を対象に、心身共に健康で豊かな人生を送ることが出来るようギター演奏や英語落語鑑賞、昭和の写真映像鑑賞、フレイル予防や筋力アップ運動、食を通した健康作りの講話などを提供した。	6月22日～2月22日	8	296
こんにちは！　市民センターです。	連合町内会を対象に、世代間交流や地域活性化を目的としたボッチャ体験会の実施、また地域からの要望により防災意識の向上を図るための災害VRの疑似体験をいずれも出前講座で行った。	12月4日 3月8日	2	36
わかちゅう音楽会	地域住民誰もが気軽に参加し地域交流の場となるよう、ダンス・童謡・吹奏楽・弦楽など、さまざまなジャンルで5回にわたってフェスティバルやコンサートなどを若林区文化センターとの共催事業として行った。	7月23日～1月21日	5	779
若林区中央市民センター学習発表フェスタ	地域住民が気軽に集い交流する場の提供のため、中学校の吹奏楽演奏を含むステージ発表、小学校の絵画を含む展示発表、おもちゃ修理、絵本読み聞かせ、ボッチャ体験を行った。	9月30日 10月1日	2	509
若林区中央市民センター事業懇話会	地域町内会や管内小・中学校、諸団体を対象に、事業計画や実施済みの事業報告を行い、地域ニーズの把握やセンター事業への理解を深め、良好な関係を構築する足がかりとした。	7月15日 2月10日	2	26
ボッチャゲームスタッフフォローアップ講座	地域からのゲーム運営の要請に応えるスタッフ「ボッチャまざらいん」のフォローアップ講座を行った。ジュニアリーダー等を対象にした模擬体験会や学習発表フェスタのイベント等の実践を経て、地域の町内会行事や小学校授業に出向き体験会の運営をした。	5月22日～3月18日	15	35
市民企画会議「子どもイベントを考えよう」	子ども達の健全育成に繋がる、地域に根差したイベントの企画・運営をするための企画会議を行い、企画講座「雑がみ飛行機を飛ばそう」を開催した。	6月18日～11月26日	6	19

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ボッチャゲームスタッフフォローアップ講座の受講生による出前講座での活躍

複数年事業として取り組んできたボランティア養成事業の仕上げである「ボッチャゲームスタッフフォローアップ講座」の受講生が、サークル「ボッチャまざらいん」として活動を始めた。コロナ禍で「ボッチャまざらいん」の活動機会が少ない中、市民センターが「ボッチャまざらいん」を講師としてコーディネートする形で、大和小学校3年生3クラスへのゲームボッチャ体験の出前講座を実施することになった。市民センターでは、事前にまちづくり推進部若林区中央市民センターの社会教育主事より小学生に対応するためのアドバイスをもらう機会を設けたり、担当教諭との打ち合わせを一緒に重ねたりしながら、出前講座の中で「ボッチャまざらいん」がスムーズに活躍できるよう、さまざまな支援を行った。

また、大和地区町内会連合会と連携した「ゲームボッチャ体験会」においても講師として活躍する機会を提供し、「ボッチャまざらいん」が経験を積み重ねることで自信をつけるとともに、活動意欲を向上させることにも繋がった。

七郷市民センター

〔沿　革〕

七郷市民センターは、地元住民の要望により「七郷公民館」として昭和 58 年 4 月に保健センター・コミュニティ防災センターとの複合施設として開館し、平成元年には「七郷公民館・市民センター」となり、若林区の拠点館となった。平成 2 年には「七郷市民センター」と改称。平成 5 年 9 月には若林区中央市民センター開館に伴い、拠点館機能を移行した。平成 14 年 4 月児童館を併設、さらに平成 22 年 2 月に大規模改修工事を終え、七郷証明発行センターも併設された。

近年、七郷地区は、復興公営住宅や防災集団移転を含め土地区画整理事業が進展し、地下鉄東西線開業も相まって新しいまち並みが形成されており、今後のまちづくりに向けた市民センターが果たす役割は大きくなっている。区役所はじめ諸機関、地域団体との連携を深め、新旧住民がつながりを築き共に支え合うまちづくり、文化づくりを推進できるよう、組織的に事業を推進している。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	「なないろ NewSchool」		
参加者	若林区内の小学校高学年～高校生	**延参加者**	19 人
開催日	全 6 回　　令和 4 年 9 月 17 日（土）～令和 4 年 12 月 3 日（土）		
協力者・協力団体	－		
ねらい	小学校高学年から中高生を対象に、自己表現力や創造性の向上を目的とした体験活動を実施し、参加者が自分のあるべき姿や未来像を叶えるための活力を得るとともに、参加者間の交流を通してコミュニケーション力を養い他者理解を深める機会とする。		
概要・成果	市民センターでは、高齢者や子育て世代に比べ、中高生を対象とした講座の開催は少ないが、本講座はティーンエイジャーを対象に、表現力を磨く手段としてＫ－ＰＯＰダンス、ボイストレーニングといった興味を持つ内容を体験できる貴重な機会の提供を目的に実施した。お互いに「好きなこと」を共有することができる熱意のある受講生が集まり、真摯に取り組む姿が見られた。また、少人数だからこそ講師の指導が行き届き、受講生との信頼関係の構築へと繋がった。個人の上達だけでなく、チームダンス、合唱に挑戦したことで、異なる学校の生徒が互いに教え合うといった交流もできた。令和 5 年度は、継続でＫ－ＰＯＰダンス、ボイストレーニングの講座を開催するとともに、新規でイラストの講座を開催する予定である。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●子育てはっぴぃタイム	乳幼児の保護者へ、子育てに関する情報や子育て中の仲間と交流する場を提供することを目的として、「地域の子育て支援の話と子育てミニ相談会」「手形を使った七夕工作」「保護者向けのバレトン体操」等を実施した。	6 月 30 日 7 月 7 日 9 月 29 日 10 月 6 日	4	33
七郷こどもクラブ	小学生および小学生親子を対象に、好奇心を育み視野を広げることを目的として、木のミニスツール作り、エネルギーサイエンスショー、草木染め等の体験学習を行った。	7 月 23 日～ 12 月 10 日	6	95
インリーダー研修会	子ども会活動に必要な知識、技能などを身につけることを目的に、児童は子ども会行事のプログラム作り、世話人は子ども会と世話人の役割についてを学び、実際に全員でレクリエーションゲームを行った。	2 月 23 日	1	51

防災・減災のシッカリさん	近年増加する自然災害による被害を未然に防ぎ、最小限にとどめることを目的として、「自宅での防災・減災」「外出先での防災・減災」をテーマに講話を行った。	6月17日 7月15日	2	31
七郷老壮大学　総合コース	高齢者が健康で心豊かな生活をおくることを目的として、七郷地域の歴史、健康体操、脳トレマジック、馬頭琴コンサート等の講話と実技を行った。	5月11日～ 2月8日	6	174
七郷老壮大学　健康コース	高齢者が心身ともに健康的な生活を送ることを目的として、「ウォーキング」「日本舞踊を使った健康体操」「腸活による免疫アップ」等の健康に特化したテーマで講話と実技を行った。	5月11日～ 3月8日	6	155
【中止】七郷市民まつり	七郷市民まつり実行委員会役員と協議し、多くの来場者が予想されることと新型コロナウィルス感染状況をふまえ、参加者の安全性等を考慮した上で中止を決定した。	【中止】 11月19日	―	―
七郷ハートフル発表会	3年続けて中止となった『市民まつり』の代わりとして、市民センター利用サークルや七郷中学校吹奏楽部、老壮大学クラブ、児童館すずめ踊りクラブ等のステージ発表、七郷中学校創作部や校内フォトコンテスト作品の展示等を行う学習発表会を実施した。	11月18日 11月19日	2	374
七郷地域懇話会	七郷児童館と共催で密を避け2部制で開催した。地域情報の共有の他、空き巣の増加や独居孤独死等の地域課題が提起され、令和５年度の事業はそれらの課題に取り組む講座を予定している。	10月16日	2	18
市民企画講座「七郷ウォークラリー」	企画会議を経て、「七郷ウォークラリーマップtekuteku」を活用したまち巡りを3コース（それぞれ1回）開催した。その後、もう少し詳しく地域を知りたいと意見が出て、歴史講話を開催した。	10月8日 10月29日 11月12日 2月12日	4	105
市民企画会議「まちの魅力を考えよう！」	地域課題等について情報交換をし、課題に取り組むための講座の企画や運営会議を行った。企画講座「七郷ウォークラリー」の開催前には、ウォークラリーのための下見を実施した。	4月16日～ 3月18日	10	36

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

七郷語り継ぎボランティア「未来へ―郷浜（さとはま）」の活動支援

七郷語り継ぎボランティア「未来へ―郷浜」は、平成25年度から3年に渡り実施した事業「未来への伝言―七郷を語り継ぐ」の参加者により平成27年12月に結成された。活動は8年目を迎え、七郷の歴史や伝統・風土、東日本大震災の記憶を後世に語り継ぐボランティアとして、全国各地から荒浜を訪れる方々に震災のことを伝えたり、七郷の見どころを案内したりする活動を行っている。

令和4年度も宮城県内外の学校・団体等のボランティア派遣要請があった。市民センターでは、この要請の仲介を通して、語り継ぎボランティアとせんだい 3.11 メモリアル交流館や震災遺構荒浜小学校とのつながりをコーディネートし、ボランティア活動がスムーズに行えるよう支援した。高齢化に伴い後継者不足の課題があったが、ボランティア募集情報を発信した結果、関係団体の協力もあり新規にメンバーが加わり徐々に課題が解消されつつある。

荒町市民センター

〔沿　革〕

荒町市民センターは、昭和 47 年に旧斎藤記念館を全面改築し、「荒町市民福祉会館」として昭和 48 年 5 月に開館した。昭和 58 年 4 月「荒町市民センター」と名称変更した。施設は、老朽化と機能拡充の必要性から現在地に建物を改築し、平成 22 年 2 月 2 日に開館した。

当市民センターが所在する荒町地区は、仙台市のほぼ中心部、昔からの商店街である荒町商店街の一角に位置しており、仙台藩の名残を今尚残している地域である。

地下鉄五橋駅から徒歩 5 分、JR 仙台駅から徒歩 20 分と交通の便に恵まれ地域の方をはじめ市内全域から多くの市民に利用されている当市民センターは、日中はもとより、夜間も仕事帰りの活動の場として、幅広い年齢層に活用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業 ◎地域力創造支援事業］

〔特色ある事業〕

事業名	荒町四季暦		
参加者	どなたでも・小学生	延参加者	174 人
開催日	全 7 回　　令和 4 年 5 月 14 日（土）～令和 5 年 1 月 15 日（日）		
協力者・協力団体	第一学院高等学校、荒町商店街振興組合、連坊商興会、荒町公園愛護協力会		
ねらい	近年、荒町地域は多様な商店や他地域から訪れる人も多く賑わっているが、これまで積み上げてきた豊かなコミュニティの減少等が危惧されてきている。そこで、歴史ある商店街や自然豊かな公園、神社仏閣などの地域資源を掘り起こしながら、地域住民の交流を促すとともに、地域に愛着を持ってもらうことをめざす。		
概要・成果	連坊商興会と共催での街歩きや公園愛護協力会の協力を得て荒町公園であじさい剪定会や落ち葉清掃、第一学院高校との共催での小学生対象のバルーンフェスタ、荒町商店街振興組合と共催のイルミネーション等、地域の魅力を再発見できるような四季折々の講座を開催した。それぞれ、地域の活動団体との連携で行ったため、参加者が地域活動を知る機会ともなり、地域交流を図ることができた。参加者はもちろん、センターの HP やポスターで講座の様子を広報するなどして、地域住民にとっても地域情報を共有する機会になった。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会のリーダーと世話人を対象に活動の活性化と充実のためにリーダーや世話人の役割についての講話やゲームなどの実技を行った	2 月 4 日	1	49
発見！街の魅力	地域の姿を改めて見ることで､街の魅力を再発見し発信する機会を提供することを目的に開催した｡仙台を舞台にした映画作品の話を聞き、まちを歩き､交流を図りながら､自分たちで撮った｢魅力ある仙台｣の写真をセンターの HP で紹介した。	6 月 4 日 6 月 11 日 6 月 25 日	3	23
癒しのスペース「荒町ほっと＆すまいる」	新しく何かを始めたい方を対象に､地域への関心を深めいやしや心豊かに生きがいを持って生活できるように折り紙や回文うちわ作り、ヨガ、とんぼ玉作りをしながら学びをとおして仲間づくりや交流を図った。	6 月 9 日 6 月 23 日 9 月 1 日 9 月 16 日	4	38

手抜きメシ ～お惣菜に○○を加えて～	食事面で気を付けたいと思っている方を対象に、手軽に入手できる食材を使い、ひと手間を加え簡単に健康バランスの良い食事にするためのアレンジを学び、アレンジレシピの考案・発信を行った。	12 月 3 日 12 月 17 日	2	10
あらまち町民大學シルバーセミナー	60 歳以上の高齢者を対象に、新しい知識や受講生同士の交流を通し、生きがいをもって心豊かに生活を送るために講話やコンサート、軽体操などを年 10 回行った。	5 月 18 日～ 3 月 1 日	10	69
伝統の仙台七夕飾りをつくろう	伝統の仙台七夕飾りづくりを地域講師のもと、手話付で開催した。制作した飾りで商店街の七夕祭りに参加した。新旧住民、障害のある方が協力し大作を完成させた。	6 月 30 日～ 8 月 6 日	6	76
地域向け防犯教室 「犯罪に負けない地域を地域のみんなで作ろう！」	地域住民を対象に犯罪を「心理的観点」からの視点で学習した。学習を踏まえてグループワークをし、情報交換・共有をした。	10 月 22 日	1	16
地域みんなで災害に備えよう	防災資機材倉庫の大鍋を使って、実際に非常食を調理し、災害時用の道具を事前に使うことで災害に備えることを学んだ。又、小学生対象に異常気象の話や防災ランタンづくりを行った。	11 月 6 日 12 月 17 日	2	25
荒町市民センター・児童館フェスティバル	地域住民および荒町市民センター・児童館を拠点に活動しているサークル団体が、学習の成果を動画、展示で発表した。地域住民・異世代の交流とコミュニティづくりを促進した。	10 月 1 日	1	430
荒町市民センター地域懇談会	フェスティバルの役員会や東北学院大学の意見交換会で、センターの役割や事業等の説明をして関心を喚起し協力関係を維持するとともに、地域に対する様々な意見を聞いて運営の参考にした。	5 月 21 日 11 月 3 日	2	49
気軽に荒町の魅力を発信しよう！ ～初めての動画制作講座～	荒町エリアの魅力を伝える動画を作る上で必要な技術を学び、地域住民自らが荒町エリアを発信し地域活性化に繋げられるように手助けする講座を開催した。受講生が講座終了後、自主的な勉強会立上げを支援した。	8 月 7 日	1	8
荒町市民企画会議	6 回の企画会議を開催し、市民企画講座「気軽に荒町の魅力を発信しよう！～初めての動画制作講座～」を開催することができた。	4 月 27 日～ 8 月 10 日	6	18

〔令和4年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

荒町子まもりプロジェクトの活動支援

荒町では荒町商店街振興組合、荒町児童館、荒町市民センターが中心となり、警備会社や学校、近隣の事業所等が連携協力し、子どもの防犯の取り組みを行って 2 年目である。令和 4 年度もそれぞれの防犯事業、ポスターや標語のコンクール、子まもりハロウィンを行い、地域での「ながら見守り」の意識が高まってきた。また、この活動は防犯だけでなく、地域の諸課題に対しても有効であるという認識も広がってきている。市民センターはその調整や運営の支援を行い、地域課題に対して協力して取り組むことができたという達成感と顔の見える地域づくりへの更なる一歩という成果を共有できた。様々な団体との連携もでき、市民センターへの相談や依頼が増えてきている。

六郷市民センター

〔沿　革〕

昭和 56 年、地域住民の福祉増進を目的に保健センターとの複合施設「六郷市民福祉会館」が開館し、昭和 58 年に「六郷市民センター」と名称を改め、地域の社会教育活動の場として定着した。平成元年には公民館としての機能が加わり、平成 2 年には「六郷児童館」を併設、さらに平成 22 年 12 月に大規模改修工事を終えて再開し、生涯学習の拠点として現在に至っている。

六郷地域は名取川と広瀬川の合流点を有し、美しい干潟や貞山堀運河、屋敷林の居久根など自然環境や歴史的遺産等に恵まれていた。しかし、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により、沿岸の六郷東部地区は住宅・学校・農地・事業所といった生活基盤のほとんどが壊滅的かつ甚大な被害を受け、地域が一変した。また平成 29 年 3 月末には東六郷小学校が六郷小学校と統合し閉校となった。

現在、六郷地区の再スタートということで、地域住民・町内会・各団体と連携を保ち、情報を共有しながら、地域を支えられる人材育成の推進と新たな地域の活性化に努めている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	● 六郷地域防災事業		
参加者	地域住民	延参加者	223 人
開催日	全 7 回　　令和 4 年 5 月 26 日（木）～令和 4 年 8 月 31 日（水）		
協力者・協力団体	六郷地域防災対策推進委員会　　若林区区民生活課　　若林区保護課		
ねらい	六郷地区は大雨による冠水という自然災害にたびたび遭ってきた。津波の被害も甚大であった。この歴史を風化させることなく、地域の安全は地域で守ることができるよう住民全体の委員会を中心に学校、団体、行政等と連携して、毎年、防災事業（総合訓練・研修）に取り組んでいる。当センターでは、地域住民や諸団体が主体となって活動できるように図り、地域防災力の一層の向上に資していきたい。		
概要・成果	住民主体の委員会を中心に、学校・団体・行政が連携して円滑に活動し、地域の安全は地域で守ることができるよう、準備会・実行委員会・運営委員会・防災訓練・研修会を行った。 5 月に広瀬川・名取川の治水対策事業に関しての研修会を開催し、7 月にはコロナ禍に対応した避難受入れ訓練を開催した。訓練は大雨洪水の中、指定避難所となっている小学校に学校職員が不在という状況を想定し、地域住民だけで避難所を運営する能力を高めることを目標として開催した。訓練の前には、担当者事前学習会を開催することで訓練に対する意識が高まった。訓練当日は各町内会の住民に加え中学生 19 名も自主的に参加し、緊急時に即応できる幅広い年代の人材育成を図ることができた。訓練内容は仙台市危機管理室からも高い評価を受けた。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
六郷子育てサロン	乳幼児親子を対象に、親子ビクスやヨガで体を動かす講座や、音やリズムを学ぶ講座、成長記録が残せる作品作りの講座を企画し実施した。	6 月 30 日 9 月 21 日 12 月 8 日 1 月 26 日	4	67
楽しく体験！六郷クラブ	小学生（または小学生親子）を対象に、「スポーツチャンバラを楽しもう」、「バルーンアート体験会」、「ベガ号による天体観望会」、「英語で楽しむ！クリスマス」を実施した。	6 月 18 日 8 月 5 日 10 月 21 日 12 月 24 日	4	60
インリーダー研修会	子ども会のリーダーとなる児童と世話人を対象に、子ども会活動の意義や役割を学び、レクリエーションゲーム等の技術を習得する機会を提供することで、子ども会活動の円滑な運営と活動の充実を図った。	2 月 23 日	1	36

めざせ YouTuber ～六郷のよさ発見隊 ～	自分が住む地域を中心に、歴史・文化・まちづくり等について取材したり調べたりしたことを動画にして発表するとともに YouTube で発信した。	6 月 25 日～ 3 月 21 日	15	61
六郷あすなろ大学	高齢者が生きがいのある豊かな生活を送れるように、歴史・文学・芸術・教養・国際理解・健康講座など、気軽に参加できる学習の場を提供した。運営委員会の要望や自主企画も取り入れた講座を実施し、受講生の交流を深めた。	5 月 19 日～ 3 月 2 日	10	541
六郷お月見会	豊かな自然が残る六郷において「お月見」という伝統行事を体験することで日本の文化･風習に興味関心を持つ機会とし、前半の「虫の声を聞く」、後半の「お月見」と「工作」の 2 部制で実施した。	6 月 24 日 8 月 26 日 9 月 10 日 10 月 21 日	4	65
★市民企画講座 「東六郷コミュニティ広場　オープニングミニステージ」 「ふるさとにつどう第 8 回　鎮魂の花火」	東日本大震災の被災地である六郷東部に関わる人々の交流や、地域のにぎわい再生につながる事業を企画し、ふるさとへの想いを振り返り、未来への希望をつなぐイベントを開催した。	8 月 21 日 1 月 28 日	2	650
ここ・そこ・どこでも六郷ふるさと音頭	六郷ふるさと音頭普及委員会の拡大を図り、練習会や出前講座を行うとともに、作成した YouTube 動画を活用し普及委員会の指導を補完した。	4 月 6 日～ 10 月 4 日	6	367
●令和 4 年度　六郷市民まつり	サークルや団体の学習成果を発表する場として、ステージ発表、展示、出店、児童館コーナー、保健センターコーナー等を行った。	11 月 12 日 11 月 13 日	1	1,253
●市民センター懇談会	地域住民や諸団体、ボランティア、各種サークル等、地域を支える方々に事業や施設運営について意見や要望を伺い、よりよい館運営を目指した。	5 月 21 日 10 月 13 日	2	44
★くろしお太鼓応援隊養成講座	閉校した東六郷小学校から六郷小学校へと引き継がれたくろしお太鼓の活動を地域で支えるための応援隊を結成し、くろしお太鼓の継承を支援する人材育成を推進した。	4 月 17 日～ 3 月 19 日	10	187
★市民企画会「わたしのふるさとプロジェクト」	六郷東部地区の賑わい再生と各地に散ってしまった住民の拠り所となる機会を創出する方法やイベントを考えるための会議を開催し、地域課題解決に取り組むとともに、イベント企画運営にかかわる人材の発掘･育成を目指した。	4 月 13 日～ 3 月 8 日	12	86

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

六郷地域中学校･高等学校の部活動支援

六郷市民センターは、コロナ禍で活動の機会を無くした中学校・高等学校の部活動支援に力を入れている。

仙台東高校マジック部顧問より、部員数の激減により発表の場を失ったとの相談を受け、児童館とコーディネートを行い、子どもたちに向けてイベントを開催した。高校生は子どもたちが喜ぶ姿を間近に見ることで達成感を得ることができ、活動への意欲に繋がった。

その他にも六郷中吹奏楽部や仙台東高校合唱部などに市民センター主催の地域交流事業に参加してもらい、地域の方々に向けて練習の成果を発表する場を提供した。

部活動を支援し、活動の場を提供することで活動が活性化するとともに、地域住民との交流を実現することができた。

令和 5 年度は引き続き部活動の支援を続けると共に、地域で活躍する子どもたちの発掘と育成、支援を行っていく。

若林市民センター

〔沿　革〕

若林市民センターは、平成 3 年 4 月に若林児童館、コミュニティ防災センターを併設して開館した。以来、地域の社会教育活動や福利厚生活動に活用され、親しまれて現在に至っている。令和元年度には大規模修繕を実施し、令和 2 年 4 月に再開した。

管内は藩政時代伊達政宗公ゆかりの史跡や広瀬川舟運、商人の町の歴史ある町名を残すとともに、広大な河川公園などがあり、自然に恵まれている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	若林ウィメンズオープンカフェ　～つなげようみんなの　WA～		
参加者	「若林ウィメンズオープンカフェ」メンバー及び地域住民	延参加者	88 人
開催日	全 6 回　　令和 4 年 6 月 4 日（土）～令和 4 年 12 月 10 日（土）		
協力者・協力団体	若林区中央市民センター		
ねらい	「ウィメンズオープンカフェ」のメンバーが、学んだ経験や知識を生かして地域の方が笑顔になる講座を企画し、地域交流のきっかけ作りをする。 また仲間とともに楽しく学び合うことで、地域と関わりながらさらなる活躍へとつなげていきたい。		
概要・成果	少子高齢化が進む我が国において、高齢期に入る前の段階から地域社会との関わりが重要になっている。一人ひとりが生きがいをもって主体的に生きるとともに、地域における様々な活動において重要な担い手として活躍することができるような人材育成を目指し、複数年事業として取り組んできた。 主体的に講座を企画開催し、興味のある仲間同士が誘い合い、楽しみながらともに学ぶ参加者が増えて地域と交流を図ることができた。 令和 4 年度は、遊び心を大切にしたリース作りを楽しみ、継続的に学びあうことで地域への関心が高まり、活動に対する意欲へとつなげた。 これまでに蓄積させた経験や知識を生かして、メンバーが講座をサポートしたり、仲間と関わり合いながら新たな経験に挑戦したりする姿から、ボランティアなどの様々な社会活動へスキルを活かし、地域に還元することが期待できる。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
親子のすっきりタイム	親子で一緒に楽しみストレス解消と子育てに前向きになる講座を児童館と連携し開催し、人形劇・リトミック体操を実施した。	11 月 17 日 12 月 8 日	2	50
仙台市子ども会インリーダー研修会	各子ども会の世話人と児童が参加し、世話人は子供会の役割について、児童はジュニアリーダーとともにゲーム等を通してインリーダーについて学んだ。	2 月 4 日	1	64
わかばやしチャレンジクラブ	小学生を対象に、学校だけでは出来ない体験や交流を行い、興味関心の幅を広げ学ぶ意欲向上を促すことを目的に、スクイーズ作り、エコをテーマとした宝さがしゲーム、ジュニアリーダーも参加しながらのスポーツ鬼ごっこを実施した。	7 月 23 日 10 月 8 日 10 月 29 日	3	46

若林小学校連携事業「わかばやし歴史探検」	若林小学校5年生を対象に、地理や歴史についてのブックトークを行い、若林城についての講話と、現地を実際に歩くことで、若林地域への理解を深める機会とした。	10月21日 10月28日 11月2日	3	141
古城小学校連携事業「仙台まち再発見」	古城小学校5年生を対象に、教室でのブックトークと講話を行った後、小学校周辺の町歩きを体験する事で、地域の愛着や歴史の関心を高めるきっかけを作った。	11月22日 11月29日 12月2日	3	135
わかばやし出前講座	気軽に参加できる学びの場の提供を目的として、地域の諸団体と一緒に、草花でのリース作り、大人も楽しめる絵本の読み聞かせ、伊達政宗を題材とした若林の歴史講話を開催した。	9月17日 12月1日 12月17日	3	33
知って安心！認知症講座	認知症をテーマに、「認知症についての基礎知識」「医療機関について」「健康体操」「高齢者運転」「当事者からの講話」を各専門の講師より学んだ。	9月29日 10月22日 10月26日 11月16日	4	66
若林老壮大学	高齢者を対象に、朗読会、健康、歴史、ディスコン、片付け、落語、川柳、ヴィーハープ演奏会などを実施し、年間を通して、様々なテーマを学び、受講生同士が交流した。	4月15日～ 3月3日	11	549
防災講座「みんなで守ろう！若林」	大雨洪水等の災害が懸念される本地区において、小学校等と連携し、一人一人の防災・減災意識の高揚を図るとともに、地域における災害対応力の向上を目指し、防災ゲーム「クロスロード」を活用した講座を行った。	10月6日	2	80
若林ふれあいロビー展	「若林ふれあいまつり」代替えイベントとして、展示サークルや、講座参加者の作品展示を気軽に鑑賞できるロビ―で開催し、交流の場を提供した。	11月17日～ 1月14日	4	240
わかばやし気軽にコンサート	地域住民に身近な市民センターを会場に、邦楽、トーンチャイム、オカリナなど様々なジャンルの音楽を楽しむとともに、安らぎの場を提供した。	7月16日 11月26日 2月18日	3	63
地域懇話会	令和4年度における相互の事業内容を紹介するとともに、地域の抱える課題をはじめ、様々な意見や要望を伺い、講座の企画や市民センターの施設運営に生かすことができた。	11月10日 2月11日	2	33
読み聞かせボランティア講座	「おはなしサークルひつじの会」とスキルアップにつながる講座を企画、開催した。さらにメンバーが講師となり、出前講座を企画するなど、学んだ知識を還元する場を提供した。	4月28日～ 12月1日	6	84

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダー「若林にゃくりん」の活動支援

市民センターでは、月１回の定例会開催、要請の受け入れなどの支援を行いジュニアリーダー育成に努めてきた。令和４年度においても、依然として新型コロナウイルス感染症の影響で、行事の中止など活動を制限される場面が多くあったが、そのような状況でも実施できた市民センターの講座やインリーダー研修会などへ積極的に参加することで経験を積むことができた。また、新規メンバーが 1 名入ったことにより、内部での研修もさらに行い、メンバー同士で教え合う環境づくりを図った。

沖野市民センター

〔沿　革〕

沖野市民センターは、平成 3 年 4 月、児童館・老人福祉センター及びデイサービスセンターとの複合施設としてオープンした（デイサービスセンターは令和 4 年 3 月に閉鎖）。東側に田園が広がり、西側はバイパスを境に住宅が密集している。多種の木々と、老人クラブや地域の方々が善意で植えてくださった花壇が、センター前広場に彩りを添えており、こうした花と緑豊かな広場を持つ当市民センターは、地域住民の憩いとふれあいの場所として利用されている。

地域住民の生涯学習活動に対する関心は高く、自主サークル活動も盛んである。また、町内会や老人クラブの結束力が強く、活動も活発で、学校や他の公共施設等とも円滑な関係を保っている。様々な分野の達人も多く、地域人材も豊富な地域である。令和 4 年秋に大規模修繕を完了し、同年 11 月から再開している。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	沖野地区市民活動発表会		
参加者	沖野地域町内会、沖野市民センター利用サークル、地域団体	**延参加者**	987 人
開催日	全 2 回　　令和 4 年 11 月 19 日（土）～11 月 20 日（日）		
協力者・協力団体	沖野地域町内会、沖野市民センター利用サークル、地域団体		
ねらい	地域コミュニティの活動拠点として地域相互の融和・連携を促し、地域活性化を図るとともに、地域で様々な生涯学習活動を実施している人々に発表の場を提供し、更なる活動促進を図る。		
概要･成果	年度当初は「市民活動発表会」にリニューアルコンサートを加えるのみと計画していたが、地域住民の要望によりスタンプラリー、抽選会、記念品等を準備するなどして天候にも恵まれ参加者は大幅に増加し、成功裡に終了することができた。コロナ禍の中でも感染症対策をしっかりした上で開催し、地域住民の期待に充分応えられた。市民まつりの成功は、市民の活動再開と活発化を促し、地域団体間、地域住民間の相互理解と信頼関係構築へとつながった。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
ママのリフレッシュ講座	乳幼児の親子を対象に、「親子ビクス」を通して子どもと一緒にリフレッシュする機会を提供するとともに、母親同士の仲間づくりを支援した。	2 月 21 日	1	11
インリーダー研修会	子ども会のリーダーとなる児童および世話人が、子ども会の運営や活動について学んだ。また、ジュニアリーダーからレクリエーションゲームなどを学び、実践に生かせる学習をした。	2 月 11 日	1	22
集まれ！わんぱくキッズ～お父さん出番です～	沖野地区のおやじの会とともに、コロナ禍中でも実施できる児童向け講座を企画運営し、6 月にスポーツ鬼ごっこ、9 月に天体観望会、11 月の市民活動発表会の子ども向けコーナーでスポーツチャンバラ体験会、1 月にドッヂビー大会を行った。	6 月 25 日 9 月 16 日 11 月 20 日 1 月 29 日	4	138
お仕事探検隊 ～未来の自分を見つけよう～	小・中学生を対象に、多様な職種に触れる機会を提供し、普段なかなかできない仕事体験をすることで、将来について考えるきっかけとした。	3 月 16 日 3 月 24 日	2	81

沖野耕友大学	健康講座、芸術講座、防災講座、教養(歴史・文学・科学など）講座、自主企画講座、耕友大学学園祭など、高齢者が生きがいを持って楽しく過ごせるよう、学びの場を提供した。	5 月 26 日～ 3 月 10 日	7	276
みんなの力で地域を守る ーコロナ禍での避難所立ち上げ訓練ー	沖野中学校区災害対策委員会と共催し、コロナ禍の対策を加味しつつ、沖野中学校区総合防災訓練で物資保管場所の確認などを行った。 第2回は町内会による避難所運営の先進である福住町方式の防災・減災訓練の取り組みについて具体的に学んだ。	10 月 22 日 3 月 24 日	2	415
沖野の歴史を学びゆっくり歩こう！	「仙台東部の地形と沖野の歴史」について地域講師による講話を実施した。資料が充実しており、現地での学習を望む声も出て、地域住民の学習意欲の喚起につながった。	3 月 29 日	1	21
リニューアルコンサート	大規模修繕後のリニューアルオープン記念のコンサートとして、沖野地区市民活動発表会と同時に開催した。木管五重奏の演奏で、コロナ対策をしながらであったが、久しぶりの生演奏のコンサートで多くの地域住民が来場、喜びの声が聞かれた。	11 月 19 日	1	200
沖野地区懇話会	地域関係機関との情報交換・意見交換会。令和5 年度の事業計画について説明し、地域の理解を得た。その他、町内会長から高齢化等にともなう地域の課題についても意見が出た。	3 月 23 日	1	11
折り紙ボランティア養成講座 「ステップアップでボランティア活動！」	大規模修繕で市民センターが休館となるなか、児童館のプレハブ施設への掲示作品提供、沖野東・沖野小両校へ仙台伝統七夕飾りを作成、児童と一緒に飾付をするなど、ボランティア活動へ向けての内容を充実させた。	4 月 14 日～ 3 月 17 日	18	219

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「おやじの会」活動支援

当市民センター管轄地域には、沖野小「親児の会」、沖野東小「沖父ちゃん会」の 2 つのおやじの会があるが、沖野小「親児の会」は会員数・後継者不足が課題となっている。沖野東小「沖父ちゃん会」は現在のところ活動は活発で OB も含め数人が積極的に活動しているが、会の存続のため後継者育成は常に必要なことである。以前は別々に活動していた 2 つの「おやじの会」であるが、沖野地域として両会のコアメンバーが一緒に当市民センターの講座を企画運営することで双方に情報交換や発想、話合いの過程などプラス効果があり、活動支援に繋がっている。

折り紙ボランティア養成講座から自主サークル立ち上げへ

複数年事業として取り組んできた折り紙ボランティア養成講座は、令和 4 年度で最終年の 5 年目となった。市民センターでは、講座にて作成した折り紙作品を大規模修繕工事中の児童館仮事務所へ掲示を行って作品発表の機会としたほか、折り紙ボランティア養成講座終了後の令和 5 年度からのボランティア活動先を探しながらコーディネートを多数行い、モチベーションアップに繋げた。その結果、令和 5 年度からの自主活動サークル立ち上げとなったため、今後のボランティア活動が円滑に進むよう引き続き支援を行っていく。

太白区中央市民センター

〔沿　革〕

太白区中央市民センターは、平成 11 年 6 月長町商店街の中核をなす JR 長町駅前に開館した複合施設内にある。同施設には当市民センターの他、太白区文化センター、太白図書館、長町児童館及び太白区情報センターも設置されている。JR やバス、地下鉄などの公共交通機関の利便性に優れた立地のため、近隣の広い地域の生涯学習活動や交流の拠点として、多くの市民が利用している。

当市民センターの周辺は、昔から仙台市南部地域における商業の中心として活況を呈してきた歴史のある地域であるが、近年は地下鉄沿線・あすと長町地区での大規模小売店の進出やマンション建設等が進み、人口の増加が著しく、さらに復興公営住宅の完成や仙台市立病院の移転開院等、これまでにも増して多くの滞在人口がのぞめる地域となってきている。当市民センターではこうした状況を踏まえて、地域コミュニティの活性化にも積極的に取り組んでいる。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	みんなの元気講座		
参加者	成人	**延参加者**	114 人
開催日	全 5 回　　令和 4 年 9 月 14 日（水）～10 月 28 日（金）		
協力者・協力団体	仙台青葉学院短期大学 リハビリテーション学科		
ねらい	新型コロナウイルス感染症が長期化する状況下、日々の生活でストレスを感じたり、体調管理に不安を感じている人は多い。 そこで、感染症などに負けない体力づくりや免疫力向上のために、心と身体の調和を目指した健康管理方法や運動実践方法を学び、日頃から積極的に健康づくりについて考え、行動するきっかけづくりとする。		
概要・成果	前半の 2 回は「With コロナ時代の健康づくり」というテーマで体力測定を実施し、各自が現在の身体の状態を把握し、その結果に基づいた自分に合ったトレーニング方法を学んだ。後半の 3 回はストレスへの対処方法として、「ゆったりヨガで身体と心をリラックス」というテーマで呼吸法を中心としたヨガを体験した。 2 年半にわたる自粛生活を送る中、受講者は自分の身体の状況を認識し、健康づくりに関して前向きな気持ちで取り組むことができた。また受講者同士の交流を通して、QOL の向上にもつながった。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育て　MY　STYLE	母親向けの生活に直結した講座や父親も含めた親子で参加できる講座を実施し、子育て中の若い世代が気軽に集い、交流する機会を提供した。	7 月 13 日 9 月 2 日 11 月 19 日	3	39
ながまちキッズくらぶ	夏休みと秋休みに「モルック体験」「地下鉄探検」等の講座を開催し、長期休みの子ども達の居場所作りの一助とした。また長町児童館等と連携して講座を開催したことで、円滑な運営と充実した内容に繋がった。	8 月 3 日 8 月 23 日 10 月 12 日	3	58
インリーダー研修会	子ども会活動の充実を図るため、子ども会のリーダーとして活動する児童及び世話人が、子ども会活動の意義や役割を学び、レクリエーションの進め方等を習得する機会を提供した。	2 月 5 日	1	43

ながまち老壮大学 健康教養コース	「健康・教養」をテーマとし、「いきいき健康体操」等高齢者の生活の質向上につながる様々な講話や実技を実施、バランスのとれた講座を受講者に提供することができた。	5 月 13 日～ 2 月 10 日	9	329
ながまち老壮大学 文化教養コース	高齢者を対象に、歴史、食文化、音楽鑑賞、健康等の講座を開催した。多種多様な学習機会を提供することで、興味が広がり、生活を豊かにする一助となった。	5 月 19 日～ 2 月 16 日	9	389
★わがまち防災・減災実践講座	大震災の振り返りの講話やパネル展を行い、親子講座では、防災クイズやサバ飯作り等を行った。毎回テーマを設け開催しており、防災意識の向上に繋がる場を提供した。	7 月 9 日 11 月 26 日	2	42
太中ふれあいサロン	「折り紙体験」「ポップアップカード作り」「蜜蝋のハンドクリーム作り」「ミニトレー作り」などの体験型学習と茶話会を組み合わせて実施し、誰もが気軽に参加できる交流の場を提供した。	6 月 30 日～ 2 月 3 日	5	74
ながまち交流フェスタ 2022	舞台発表や作品展示・出店等を開催した。地域団体やボランティアグループによる、体験コーナーのブース等もあり、多くの来場者で賑わった。長町地域の地域活性化に繋がった。	10 月 22 日	1	1,150
太白区中央市民センター地域懇話会	館の運営や事業についての意見や地域情報も発言され、貴重な情報交換の場となった。地域町内会や学校関係・商店街関係者間では、「出来る範囲で連携して活動したい」との認識が確認できた。	7 月 14 日 11 月 30 日	2	24
市民企画会議「きらりん長町」	希薄になりがちな地域内交流を図り、地域を知ることを目的に、地域の魅力を再発見できるようなテーマを企画し、これを発信することで、地域の活性化を目指した。	6 月 21 日～ 1 月 7 日	5	3
【中止】市民企画会議「きらりん長町」を経て企画する講座	新型コロナウイルス感染症の影響で、全体での会議が持てず講座企画まで進まなかったため中止とした。	【中止】	－	－

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

仙台青葉学院体育大学との協力･連携について

地域にある仙台青葉学院短期大学には理学療法士を目指す学生が多く通学しており、地域貢献活動として地域高齢者の健康増進につながる介護予防教室や体力測定を行うことで、修得した知識を実践する研修の機会をさがしていた。そこで、主催事業「みんなの元気講座」がよい実践の機会になると考え、講座の中で健康チェックと体力測定を実技研修としてタイアップ開催した。学生もはじめは緊張した面持ちに見受けられたが、実際に受講生と会話や交流をし、受講生からの声がけや笑顔を見ることで、将来にも役立つ有意義な講座となった。

また、3 年ぶりの通常開催となった市民センターまつり「ながまち交流フェスタ」でも、仙台青葉学院短期大学生が「みんなの元気講座」と同様の健康に関するコーナーを地域の方々を対象に実施し、日頃の学びの実践の場とするとともに世代間交流の機会となった。さらに、当市民センターでの経験を経て、他市民センターでの参加等、活動の場を広げることに繋がった。

コロナ禍で人と直接関わることが難しかった学生にとって、市民センターの講座での相互交流が地域への関心や地域活動の契機となり、市民センターとも他の講座への関わりをみせるなど良い関係づくりにつながった。

生出市民センター

〔沿　革〕

生出市民センターは、昭和 24 年 4 月生出村公民館として発足し、生出小学校の一隅で公民館活動を行なってきた。昭和 31 年には仙台市との合併により「仙台市公民館生出分館」と改称された。地域住民の強い要望から昭和 42 年 4 月、地域社会教育の拠点として、現在地に「生出公民館」が建設された。

その後昭和 55 年 5 月には、地域住民から自由に利用できる体育館を併設した公民館の新設が要望され、公民館・診療所・保健センターが一体となった複合施設として開館した。後に、敷地内に調剤薬局・証明発行センターが開設され、同年の 10 月に第 1 回生出コミュニティまつりが開催され今日に至っている。平成 2 年には「仙台市生出市民センター」に改称され、市民相互の交流と地域活動振興の拠点、また地域づくりの拠点として利用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	みんなで守ろうホタルの里		
参加者	地域住民	延参加者	214 人
開催日	全 6 回　　令和 4 年 4 月 25 日（土）～令和 5 年 3 月 15 日(水)		
協力者・協力団体	ふる里坪沼実行委員会・ホタル部会		
ねらい	坪沼地区には蛍の飛翔地があり、かつては蛍が乱舞していたが、近年その数が激減している。その地域課題に取り組むため、「ふる里坪沼実行委員会ホタル部会」と共催で実施している講座である。 蛍を守る活動を通して地域活動の担い手となる人材の育成を支援しながら、部会の取り組みについて地域内外にも発信することで、地域活性化を促すことを目的とする。また、生出小学校と連携し、実行委員と子ども達とが協働して、蛍とカワニナが生息しやすい環境作りを考え、世代間交流を図りながら環境保全の意識を次世代に継承していく。		
概要・成果	6 月上旬に実施した蛍の観察路の整備、蛍の幼虫のためのカワニナ採集等の部会の活動が新聞社・テレビ局に取り上げられ、「ホタルの里坪沼」を地域内外に広く PR することができた。また反響も大きく、地域活性化の一助ともなった。 生出小学校の 1 年生～4 年生を対象に実施した蛍の勉強会では、生出の地域資源である蛍の生態や蛍が育つ環境について学習するとともに、ホタル部会の取り組みについて紹介した。3 月には生出小学校 4 年生とともに蛍の幼虫の放流会を実施し、蛍の幼虫が成長するために不可欠なカワニナを増やすため「カワニナ飼育員」を募集したところ、生出小学校の児童 5 人の応募があり、ホタルを守る取り組みを次世代へ繋ぐ足がかりとすることができた。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
●おいで親子タイム	乳幼児親子を対象として、アロマクラフト&おしゃべり会、七夕飾りづくり、親子ストレッチ、クリスマス音楽会を実施した。	5 月 18 日 6 月 29 日 10 月 5 日 12 月 21 日	4	43
おいでわんぱく広場	近隣の小・中学生を対象として、生きもの観察会、バドミントン&卓球教室、モザイクタイルを使っての制作、陶芸体験、JL と一緒に遊ぶ講座を実施した。	6 月 4 日～ 1 月 9 日	5	69
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会活動の充実と活性化を図るため、子ども会のリーダーとして活躍する児童及び世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーション等を学習する機会を提供した。	1 月 22 日	1	13

「冬のほっこり・わくわくふれあいパーティー」	市民企画会議において企画された、スポーツ・ゲーム大会、炭火焼体験、花火大会を実施した。	11 月 26 日	1	43
おいで地域学のススメ	成人を対象に、茂庭地区のまち歩き、太白山での自然観察、日本茶の楽しみ方を学んだ。	5 月 25 日 11 月 9 日 2 月 8 日	3	25
仙台市史講座	仙台市史の生出村史編纂に携わった研究者から、主に近代以降、日本三大模範村の一つとして知られるまでの地域の歩みについて学習した。	10 月 21 日	1	31
生出朗壮大学	高齢者に適した課題を選定し、音楽鑑賞会、介護予防、ものづくり体験、観劇等の講座を開催。参加者からの要望が高かったスマホ講座を番外編として実施した。	5 月 20 日～ 2 月 17 日	8	166
市民企画会議「おいでわいわいサミット」	地域の小中学生有志の会議と、大人たちの会議を交互に開催。可能な限り小中学生の意見を取り入れ、地域のみんなで楽しめるイベントとして「冬のほっこり・わくわくふれあいパーティー」を企画・実施した。	7 月 1 日～ 3 月 3 日	7	61
生出地区防災講座	「大規模地震に備えよう！」というテーマで講座を実施。災害 VR を用いて大地震の揺れの疑似体験や、揺れの被害から身を守るための家具の転倒対策や備蓄の方法等について学んだ。	12 月 22 日	1	25
第 18 回　生出かかしまつり	交通安全祈願祭や地域の小中学生が制作したポスター・標語の展示、かかし作品の人気投票、産直野菜販売を実施した。	9 月 22 日 9 月 24 日 9 月 25 日	3	141
第 32 回「蛍と平家琵琶の夕べ」	新型コロナウイルス感染対策として、規模を縮小し、100 人定員を設け事前受付制での開催とした。平家琵琶の演奏、蛍観察会、模擬店では子ども向けのくじびき、地場野菜の販売を行った。	6 月 25 日	1	214
第 41 回　生出コミュニティまつり	新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、ステージ発表、作品展示、模擬店のほか、地域団体の活動紹介やものづくり体験を行った。	10 月 30 日	1	1,800
生出市民センター運営懇話会	地域団体や小中学校の代表者、町内会長と意見交換を行い、地域課題の共有を図るとともに、センターの地域での役割や事業を知っていただき、支援と協力を求めた。	9 月 20 日 3 月 15 日	2	32
生出 花と緑のコミュニティガーデンづくり	園芸の基礎を学び、生出小の花壇で、花やハーブ植え付け、植物の手入れの実習を行った。また、育てたハーブを使用したラベンダースティックづくりを行った。	5 月 12 日～ 7 月 14 日	5	36

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「ジュニアリーダーおいでもん」の活動支援

4 月時点で『ジュニアリーダーおいでもん』に登録したのは 1 名のみだったが、意欲が途切れないよう定例会を重ね、他のジュニアリーダーサークルの定例会に参加できるよう交渉したり、仙台市からの参加要請を連絡・調整したりするなど、1 人でも地道に活動を続けるジュニアリーダーの支援を行った。

定例会や研修等のスキルアップに繋がる機会の提供や、市民センターの子ども対象講座でのサポートを依頼するなど、学業に影響が出ないよう配慮しながら幅広く経験が積めるようジュニアリーダー活動を支援した結果、令和 3 年度に活動していた 2 名が『ジュニアリーダーおいでもん』に追加登録し、3 名体制となった。

中田市民センター

〔沿　革〕

中田市民センターは、昭和 44 年 10 月、仙台市で 5 番目の公民館「中田公民館」として、中田中学校跡地に同校の旧体育館と旧校舎の一部を改築して開館した。昭和 56 年 3 月に本館を鉄筋コンクリート 2 階建てとして新築し、平成 2 年 4 月には「中田市民センター」と改称。平成 19 年 7 月からの大規模改修工事を経て、平成 20 年 1 月に再開し、現在に至っている。

平成元年度から平成 11 年 6 月まで、太白区内市民センター13 館の拠点館として太白区全体の生涯学習推進を担っていたが、現在は、主として中田中学校区を担当する地区館として事業を展開している。

また、町内会連合会と地域関係団体とで「中田公民館運営協力委員会」が組織されており、「中田まつり」や「篝火コンサート」など、市民センター事業や地域行事に大きな支援を行っている。近年、宅地開発が進み、戸建てやマンション、アパート建設などにより若い世代の転入者が増加している。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	「中田のたからもの　甘藷翁　川村幸八」		
参加者	どなたでも	延参加者	33 人
開催日	全 2 回　　令和 4 年 6 月 25 日（土）、7 月 23 日（土）		
協力者・協力団体	―		
ねらい	複数年事業「中田の魅力伝えたい養成講座」では、これまでの冊子や地域マップを活用したまち歩き講座や出前講座を開催してきた。令和 2 年度に地域の偉人をテーマにした冊子『甘藷翁　川村幸八さんものがたり』を作成し、続けて、令和 3 年度はその時代背景や偉業について学びを深めてきた。 令和 4 年度は、その学びの集大成として、中田の魅力を発信する講座を開催する。		
概要・成果	地域の偉人の講話、冊子の読み聞かせ、「中田街道」「中田村」など昔の歌の再現、「中田の郷土かるた」の説明（オリジナル絵札も制作）など多様な内容で中田の歴史講座を開催した。(①甘藷伝来から幸八翁の偉業まで～400 年間を辿る　②幸八翁と中田の歴史をかるたで辿る) 参加者からは、地域の偉人や歴史について初めて知ったという声も多く聞かれ、地域の歴史について新たな魅力を再発見する機会となった。また、養成講座の企画員たちは、新たな地域人材として活躍した。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
●みんなで一緒にハッピー子育てタイム	近隣の子育て支援施設と連携の情報交換会や親子で楽しむ講座として、フワフワマラカスボール工作、親子体操タイム、リコーダーコンサートを実施した。家族ぐるみで参加できるよう、主として土曜日に開催した。	7 月 2 日 7 月 12 日 7 月 30 日 12 月 3 日	4	43
親子でわくわく体験クラブ	地域の自然や人材を活かし、親子で参加する体験型講座として、「名取川の野鳥観察会」「みんなで楽しむモルック」「ボーイスカウトさんに学ぼう！プチキャンプ」を実施した。	11 月 26 日 12 月 10 日 2 月 23 日	3	35
インリーダー研修会	3 年ぶりの対面開催で、次年度の子ども会世話人とリーダーとなる児童がそれぞれ、「世話人、インリーダーの役割と重要性」について学んだ。また、ジュニアリーダーの指導のもと、レクリエーションゲームを体験した。	1 月 29 日	1	27

ジュニアリーダーとあそぼう 2022	中田児童館にて、ジュニアリーダーと児童クラブの子どもたちがレクリエーションゲームや工作で交流する出前講座を実施した。また、中田まつりにてジュニアリーダーがあそびコーナーを実施し、小学生や異世代間交流を深める場を提供した。	8 月 20 日 10 月 30 日 12 月 17 日	3	128
中学生企画「中田地域を考える絆」講座	中田中学校の生徒たちが地域のために何ができるかを話合い、地域の主要施設に飾る七夕制作や挨拶運動・地域清掃活動を行った。	6 月 22 日～ 10 月 28 日	5	146
●中田老壮大学	高齢者が心身豊かな生活を送れるよう主体的に学ぶ機会を提供するため、「見直そう！水分補給」「ラジオ体操」「健康講話」「落語」「音楽療法」「戸籍のはなし」「伊達政宗公と仙台」を実施した。	5 月 19 日～ 2 月 16 日	9	605
和みさろん「なか＊とも」	気軽に集える交流の場として、「Tanabata コンサート」（オカリナ演奏）を開催した。出前講座も予定していたが、感染症拡大懸念のため、中止した。	7 月 7 日	1	14
認知症を学ぶカフェ「なかだにこにこカフェ」	地域団体や専門機関と連携して、認知症の病気を学ぶ講座を実施した。9 月に、当事者の講話や中学校吹奏楽部演奏などが参加した大きな交流と、毎月 1 回の自由参加の広場と併せて、「認知症にやさしいまちづくり」に取り組んだ。	6 月 24 日 ～3 月 24 日	9	145
地域で取り組む中田の防災	地域団体と連携して、地域の防災知識向上のため、①コロナ禍での避難所運営対応　②親子防災ウオークラリーを実施した。	9 月 25 日 11 月 19 日	2	114
地域で作ろう！伝えよう！中田の七夕	地域住民、小学生、中学生が七夕制作を通して、中田の七夕の歴史を学び、地域への理解や愛着を深めた。作品は、ロビーや中田まつりで展示した。	6 月 7 日～ 7 月 20 日	10	694
なかだ篝火コンサート	コロナ禍前は中田神社境内で行っていたが、観客数を制限するなどの感染防止対策を十分に講じた上で、中田市民センターの体育館を会場に、多くの地域団体が連携して、中田地域の歴史あるコンサートを開催し、住民が交流した。	9 月 3 日	1	150
中田まつり	地域のおまつりとして 3 年ぶりに開催した。サークル団体ステージ・作品展示、小中学校作品展示、出店、「篝火コンサート」DVD 上映、子どもあそびコーナー、杜の都のおトク体操など多様な内容で、多世代が楽しんだ。	10 月 30 日	1	1,000
中田市民センター「懇話会」	センター運営に活かすため、地域団体・近隣施設、利用サークルから意見要望や課題を伺い、情報共有した。	6 月 2 日 2 月 2 日	2	19
複数年事業「中田の魅力伝えたい」養成講座	複数年の集大成として、これまでの成果物や資料を活用し、中田の魅力を発信する講座「中田のたからもの　甘藷翁　川村幸八」を企画運営した。	4 月 16 日～ 1 月 21 日	7	17

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「中田の魅力伝え隊」の活動支援

地域の魅力を発信するボランティア養成講座の受講生が、「中田の魅力伝え隊」として活躍した。平成 30 年度から様々な学びを深めてきたなか、その集大成として 6 月と 7 月に『中田のたからもの 甘藷翁　川村幸八』を企画運営した。

文献に記されている「中田村」「中田街道」ほかの歌の再現や、読み札文に合わせてオリジナルの絵札を手描きした「中田郷土かるた」紹介など、充実した内容の講座を行った。市民センターでは、保管してある資料の閲覧・情報提供、講座進行等の支援を行った。

また、地域団体のイベントで地域の歴史講話をする機会もあり、市民センターも運営に協力した。小学校での朝の読み聞かせ活動では、子どもたちに地域の伝説について読み聞かせをすることもあり、市民センターが学校との連絡・日程調整等の支援も行い、多様なボランティア活動が拡がった。

西多賀市民センター

〔沿　革〕

西多賀地区は、桜で有名な三神峯公園や富沢遺跡があり、仙台でも暖かく環境に恵まれた、住みやすい土地である。昭和 50 年代、福祉に対する住民の要望が多様化し、自らが福祉活動に参加する傾向が現れてきた。そのため、活動拠点となる地域の施設を求める要望が高まったことから、昭和 53 年、仙台市として 5 番目の福祉会館として本施設が開設された。昭和 58 年、地域住民のより幅の広い利用を可能にするため、名称を市民センターと改めた。平成元年、政令指定都市移行に伴い地域の社会教育の充実のために公民館機能が組み込まれ、生涯学習の拠点として活用されている。

平成 3 年に児童館が併設され、平成 30 年 11 月には新館が開館した。現在は、子どもから高齢者まで誰でも気軽に利用できる市民センターとして親しまれている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	手をつないで考えよう防災・減災		
参加者	地域の方	**延参加者**	122 人
開催日	全 3 回　　令和 4 年 8 月 3 日（水）、9 月 2 日（金）、10 月 6 日（木）		
協力者・協力団体	西多賀連合 SBL 会、西多賀地区町内会連合会、西多賀児童館		
ねらい	西多賀連合 SBL 会と共催で、世代に合わせた防災・減災についての講座を開催する。自分自身を守ることから、周囲を気遣うことまで、それぞれの立場でできる防災行動を学び・考えることを目的とする。		
概要・成果	対象年齢ごとに防災の講座を行うことで、あらゆる世代が防災に対する「備え」の大切さを考える機会となった。いざという時に小学生が家庭でできること、乳幼児のいるお母さんが準備しておくとよいこと、地域住民が生活する地域の地形を知り、災害時の避難方法を決めておくことなど、減災の意識を高めるきっかけとなった。地域住民が講座に参加することで防災や地域への関心がより高まり、実際に地形を見て確認する「防災まち歩き」を要望する声が多く聞かれた。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
子育て講座「これから私ができること」	子育てに関わる方を対象に子育てに活かせる知識やスキルを共に学ぶことを目的にして、ネット・SNS、コミュニケーション、ライフプランとお金の話など様々なテーマを取り上げ課題解決の場を提供した。	6 月 4 日～2 月 25 日	5	44
インリーダー研修会	次のリーダーとして活動する児童と世話人を対象に、子ども会活動の目的や意義を学んだ。また、ジュニアリーダーと一緒にレクリエーションゲームを行う等、実践的な研修も行った。	2 月 5 日	1	60
西多賀今昔かるた大会	「西多賀今昔かるた」を題材に、西多賀検定委員が講師となり、西多賀小学校で、絵札の解説、質問回答、かるた大会を行った。また、児童館でもかるた大会を行った。	9 月 29 日 11 月 15 日 12 月 15 日 1 月 6 日	4	312
ジュニアリーダーとあそぼう！	西多賀児童館と共催し小学生を対象に、ジュニアリーダーが企画・実施した。夏休みはゲームと工作を、10 月には児童館まつりを、冬休みはゲームとドッジボールを行った。	8 月 10 日～12 月 27 日	5	224

にしたがキッズ情報局 2022	地域の小学 5・6 年生を対象に、地域の魅力を多くの方に伝えるため、取材し情報発信をした。「三神峯公園の遺跡」をテーマに取材し、小学校の先生へのインタビューも合わせて、30 分のラジオ番組を作り放送した。	7 月 30 日～ 10 月 12 日	6	41
西多賀今昔まち歩き	地域の方を対象に、1 回目は講話「東街道を探る－地図・伝承などをもとに」で学び、2 回目は講話に基づき、西多賀市民センターから縄文の森広場までの史跡を辿るまち歩きを実施した。	9 月 11 日 9 月 18 日	2	30
西多賀寿大学	地域の高齢者を対象に歴史講話、コンサート、防犯講話、軽体操など幅広い分野の講話や実技を行った。また、運営委員の活動も再開させ自主企画講座も行った。	5 月 18 日～ 2 月 15 日	9	393
再発見！西多賀の歴史と自然	地域の大人から子どもまで、西多賀の地域資源を学び訪れる機会を設け、地域の持つ魅力を再認識するために史跡巡りや自然観察会を行った。	6 月 25 日～ 11 月 23 日	5	69
広げよう福祉の輪	地域の方々を対象に、西多賀地区で行われている福祉活動を周知し、積極的な参加を呼びかけるために、ボランティア講座と福祉をテーマにした交流会「福祉のつどい in 西多賀」を開催した。	7 月 16 日 11 月 12 日 2 月 4 日	3	276
西多賀ふれあいまつり	ステージ発表、作品展示、地域団体活動紹介、小学校児童作品展示等、感染症対策をして 3 年ぶりに開催した。活動成果の発表や世代間交流ができ、地域コミュニティづくりに役立った。	10 月 23 日	1	656
西多賀地域懇談会	町内会、各学校、民生委員児童委員協議会や地区社会福祉協議会等の参加により、生涯学習事業の企画に反映すべく地域の学習・地域課題について意見・情報交換ができた。	6 月 16 日 3 月 1 日	2	42
おはなしボランティア養成講座	現在おはなしボランティアの活動をしている方のスキルアップと交流、新しく活動を始めようとしている方のきっかけとなるよう基礎から学ぶ講座を開催した。新規ボランティアの獲得につながった。	6 月 1 日 6 月 22 日 7 月 6 日 7 月 27 日	4	59

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダーサークル「にしたがっつまん」の活動支援

「にしたがっつまん」は、コロナ禍で活動が制限される中でも主体的に活動し、それが新メンバーの参加にもつながり、令和 4 年度は 22 人での活動となった。市民センターは、「ジュニアリーダーとあそぼう！」をはじめとする企画・イベントをジュニアリーダー自身が実現できるように、助言と計画の確認をした。また、「技術を磨きたい」というジュニアリーダーの要望に応え、バルーンアート講師を招き研修を行った。「にしたがっつまん」のそれぞれのメンバーは、コロナ禍で中止していた「児童館まつり」や、高校 3 年生を送る「三送会」などの西多賀市民センターでの活動だけでなく、太白区内の市民センター・子ども会のイベントや、仙台市全体の行事にも積極的に参加し、各自が活躍の場を見つけて、交流を図る機会を設けることができた。

八本松市民センター

〔沿　革〕

八本松市民センターは、八本松地区の国有地を取得し、昭和 60 年 5 月に、コミュニティ防災センターを併設した複合施設として開館した。さらに平成 20 年 4 月には、八本松児童館が新たに併設された。平成 26 年度に大規模修繕を実施し、平成 27 年 4 月に再開した。

近辺には広瀬川が流れ豊かな自然環境に恵まれ、史跡として国指定を受けた郡山遺跡、北目城跡がある。長町副都心長町駅東再開発が行われ、歴史的情緒を持ち合わせつつ、近代的な街並みを呈した地域である。

建物は八本松公園と隣接しており、町内会の集会や文化活動、レクリエーション、スポーツにと、子供から高齢者まで誰もが気軽に利用できる市民センターとして、地域住民に親しまれている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	うぶすなスクールコネクト		
参加者	郡山中学校 1 年生	**延参加者**	220 人
開催日	全 3 回　　令和 4 年 8 月 2 日（火）、9 月 22 日（木）、9 月 29 日（木）		
協力者・協力団体	八本松・郡山地域研究会、仙台市立郡山中学校		
ねらい	八本松・郡山地区は国指定の史跡である郡山遺跡が有り、郡山中学校の 1 階には遺跡の展示施設が有る。また、JR 長町駅東側は再開発により大きく街の様子が変貌した地域であるが、自分の住む地域の歴史について学ぶ機会の少ない中学生が多くなっている。また、この地域は転入者も多く地域について全く知らない中学生もいる。そこで、地域を知り愛着が生まれるように育むための特別授業を行う。		
概要・成果	地域の歴史等を研究してコミュニティ FM で放送し、放送内容をまとめた冊子を作成した「八本松・郡山歴史研究会」が講師となり、授業の内容や資料、メンバーの分担などについて 2 回の話し合いを持ち、郡山中学校の新 1 年生を対象とした出前講座を中学校で実施した。生徒はあらためて自分たちが暮らし通学している地域の歴史や魅力を知り、誇りに思うと共に、さらに深く知りたいと感じていたようだ。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
八本松子育てサロンおやこのまったりひろば	子育て世代が顔見知りを増やし孤立しないために、社会福祉協議会や民生員児童委員協議会と共催して地域ぐるみで子育てができる環境を作り、親子で楽しめるおはなし会や運動あそび、救急救命訓練などをおこなった。	5 月 12 日 6 月 16 日 12 月 15 日 1 月 19 日	4	33
親子のわくわくぼうけんタイム	学校では出来ない体験を親子で一緒に行う場を提供した。博物館と共催で伊達家の家紋や昔遊びを、天文台と共催で星空観察を行った。また、地底の森の古代米の稲わらで正月飾りを作成し伝統行事について学んだ。	6 月 25 日 12 月 17 日 1 月 13 日	3	63
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会活動の充実を図るため、リーダーとして活動する児童及び世話人が、活動の意義や役割を学んだ。ゲームの進め方を学んだり、情報交換の場を提供して会の活動の活性化に役立ててもらった。	2 月 12 日	1	58

八本松寿大学	地域の高齢者が社会参加を進めながら心身共に健やかに過ごせるよう、また、新たな知識の習得や普段の生活に張り合いと生きがいを持っていけるよう、様々なジャンルにわたっての学びを支援した。	5月26日～ 1月26日	8	260
八本松市民センター 出前講座	交通事情等で市民センター講座に参加困難な住民の要望を受け、コミュニティセンター市民委員会と連携し講座を企画開催した。脳トレ・防災・音楽とバラエティーに富んだ内容で開催し地域の活性化に寄与した。	6月3日 7月23日 9月17日 11月19日	4	52
八本松スマイルコンサート	住民同士が交流を図りながら気軽に参加できるコンサートを開催した。1回目は地域の児童館、保育園と共催し高校の吹奏楽部コンサートを行い、2回目はジャズバンドのコンサートを行った。	7月30日 12月3日	2	92
八本松市民センターまつり 第26回うぶすなフェスティバル	コロナ禍の中『無理せず・できる範囲で・シンプルに』の考えの下、3年ぶりに“地域のまつり”として開催することにより、日頃の学習成果発表の場と交流の機会を提供でき、地域の活性化を図ることができた。	11月6日	1	700
八本松市民センター 懇話会	地域利用団体、町内会、地域団体、学校、児童館、保育園を対象に情報収集と意見交換を行い、地域課題や市民センターへの要望を把握した。	9月21日 12月7日 2月8日	3	31
複数年事業 震災10年目からの AK2H地域防災講座	地域の仙台市地域防災リーダーの協力を得ながら「防災」「減災」に対する意識の向上を図ることを目的として開催した。1回目は地域の洪水被害について、2回目はダンボールトイレの使い方など地域の防災意識の向上に繋がった。	5月13日～ 12月9日	9	83
市民企画講座 『ふるさと今昔物語』	地域に長く居住している方はもちろん、新しくこの地域に住み始めた方々が交流しながら、この地域の魅力を再発見・再認識し自分のふるさとに愛着が持てるような講座を座学と外歩きで実施した。	1月22日 2月18日 3月25日	3	26
市民企画会議 AK2H魅力再発見！	地域に長く居住している人や新しくこの地域に住み始めた方々向けに、地域の魅力の再発見につながる講座を、2回の座学と昨年度作成した地域のさんぽマップを活用する外歩きの内容で企画した。	6月25日～ 3月25日	8	13

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「八本松地域合同防災会議」への活動支援

八本松地区では町内会や小学校が毎年行う合同防災訓練のため、月に一回「八本松地域合同防災会議」を開催し八本松市民センターは事務局として参加している。令和4年度になり管内の中学校の父母教師会から、父母教師会の運営の変更について八本松地区の町内会長に説明できる機会はないかとの相談があり、先ず事前に行う役員会に来ていただき、連合町内会の役員と相談したうえで、定例の会議の際にすべての町内会長に連絡文書を配布していただいた。また、仙台市環境局からも町内会へのお知らせについて相談があった際、合同防災会議の場を活用した。

八木山市民センター

〔沿　革〕

八木山市民センターは、仙台市南西部に位置し昭和 30 年代後半～40 年代中頃にかけて整備・開発された、豊かな自然が残る調和の取れた住宅地である八木山地区に、昭和 62 年 4 月 6 日開館した。平成 20 年 11 月には新しい体育館を増設、平成 25 年度から 26 年度にかけては大規模修繕を実施し、平成 27 年 4 月に再開した。

当市民センター周辺は、八木山動物公園や八木山ベニーランドなどのレクリエーション施設をはじめ、大学、放送局、総合病院など学術・文化・医療の施設等が揃い、地域住民ばかりでなく広く仙台市民に親しまれている地域である。また、センター隣接地が平成 27 年 12 月に開業した地下鉄東西線の西の起点駅（八木山動物公園駅）となり、交通利便性向上となったことから、新たに住民も増加し地域全体でも人口増となり、新しい街づくりが進んでいる。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	さあ、挑戦！～65 歳からの大人の学び		
参加者	八木山地域住民	延参加者	69 人
開催日	全 5 回　　令和 4 年 6 月 29 日（水）～11 月 9 日（水）		
協力者・協力団体	東北工業大学非常勤講師、東北工業大学地域のくらし共創デザイン研究所、東北工業大学（学生）、仙台城南高等学校（生徒）、八木山地域包括支援センター		
ねらい	人生 100 年時代と言われる中、老後をいかに過ごすかは、重要なテーマとなっており、いきいきとした人生を送るためには、人と交わり、共に活性化され、更には色々な学びを通じ、自らが社会の中の一員として、元気に過ごしていくことが必要となる。そこで、高齢者自らが自ら社会との接点を繋ぎ、また情報を得られ、色々な場面で交流できるツールとしての「スマートフォン」操作のスキル習得を図り、自らが社会との接点を構築できるようにする。		
概要・成果	学びながら交流を広げられるよう、スマートフォン講座とフレイル予防の健康体操講座を開催した。スマートフォン講座では、基本操作からメール送信、アプリで防犯、防災情報の収集等を学習し、スマートフォンが欠かせない社会において高齢者の関心の高さが伺えた。会場では、城南高等学校や東北工業大学の全面協力のもと、参加者 1 人 1 人に学生サポートが入り、コミュニケーションをとりながら安心して学べる環境を提供することができた。 フレイル予防の健康体操では、城南高校のダンス部のパフォーマンスを見た後、ディスコの曲で高校生と一緒に運動を行った。これにより、普段、なかなか触れ合う機会のない学生と祖父母世代の地域の高齢者の方達との異世代交流の場とすることができた。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
広げよう八木山防災の輪	八木山中学校体育館にて 1 年生を対象に、地域の防災団体が活動内容・中学生に期待している事等の発表を行った。	6 月 24 日	1	150
地域の絆プロジェクト「動物公園の壁に絵を描こう」	コロナ禍のため R4 年度も午前･午後 2 回に分け開催し、八木山動物公園の壁に地元の小学生が動物の絵を描画した。	9 月 17 日	2	41
八木山の豊かな自然を散策しよう	八木山を起点とし、要所で歴史や地質に関する講話を聞き散策を行った。1 回目は獅子除け土手、三神峯公園、2 回目は青葉城址、西公園 SL 広場を散策した。第 2 回目は、「青葉山・八木山フットパスの会」の協力により動画撮影を行い、YouTube で発信した。	5 月 28 日 12 月 3 日	2	23

在仙外国人向け日本語講座「日本語ティールーム」	ボランティアによる日本語指導の講座として、合同ミーティング、各種行事等、R4 年度の新たな試みとして運動会を開催した。託児は感染状況を鑑み、6 月からの実施とした。	4 月 8 日～ 3 月 15 日	12	152
里山の素材で作る「日本のお正月」	地域にもある自然素材を利用し、竹の洗浄・切断から始め、複数の工程の一部を参加同士で協力しながら、交流しつつ門松を作成した。	12 月 18 日	1	20
やぎやまシニア大学	コロナ禍のため､定員 50 名の 2 コースを各 5 回で開催した。言語、文学、歴史の講話、館外学習などを実施。地域の講師を活用による人財の地域還元も行った。	5 月 12 日～ 2 月 9 日	10	－
地域防災シンポジウム in 八木山	八木山地域の小・中、高、大学生、地域住民が地震発生後の初期動作、備え等についてディスカッションを行った。コロナ禍の為、会場分け、各会場を Zoom で繋ぎ発表をした。	11 月 26 日	1	70
金剛沢ウォークラリー	金剛沢緑地南部にて、クイズを解きながらゴールの八木山テラスまで散策するウォークラリーと、自然素材を利用したアート作品作りを開催した。作成したアート作品は後日センターに掲示した。	11 月 13 日	1	41
第 34 回八木山市民センターまつり	話し合いを重ねてきたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、実行委員会と協議の上、中止とした。	10 月 8 日 10 月 9 日	2	0
秋の八木山フェスタ	センターは事務局として、実行委員会開催に向けての連絡・調整、各賞品・賞状やりとり等を行った。ポスターコンクールは 9 月の審査会を経て、11 月 3 日のフェスタ当日に表彰式を開催した。	7 月～8 月 11 月 3 日	2	12,685
八木山気軽に懇話会	センター利用サークルと地域学校・地域団体関係者を対象とした各 1 回、全 2 回の開催。センター運営に対する意見・改善要望、地域課題の提言・共有を行った。	3 月 2 日 3 月 7 日	2	23
市民企画会議「おやじ達の企画会」	1 月に八木山・八木山南・向山・芦口・金剛沢の 5 おやじの会の会長との顔合わせを開催し､3 月には各おやじの会主要メンバーと企画会を実施した。企画された事業を令和 5 年度事業として実施予定。	1 月 17 日 3 月 7 日	2	15

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

八木山まちづくりプロジェクトの活動支援

八木山まちづくりプロジェクトは、八木山地区社会福祉協議会、八木山地区民生委員児童委員協議会、八木山地域包括支援センター、東北工業大学地域の暮らし共創デザイン研究所および八木山連合町内会、他地域団体と連携し各種事業を行っている。そのプロジェクトの一つとして「八木山みんなのカフェ」の企画・運営を市民センターが各団体のコーディネートを図り開催している。

「八木山みんなのカフェ」は、参加しやすいテーマのもと、八木山地域の多世代の方々が楽しみや興味のあることを見つけ、交流しながら、参加者同士が繋がるきっかけとなるような場所を目指して、令和元年からスタートした。その後コロナ禍により 3 年間活動を休止していたが、ようやく令和 5 年 1 月より活動を再開したところである。

市民センターでは連携団体と調整を図り、令和 4 年度には、「八木山みんなのカフェ～スマホを友に！」を地域の東北工業大学学生のサポートも受けて 1 月および 3 月に開催した。「さあ、挑戦！～65 歳からの大人の学び」の講座にて、応募者多数のため参加できなかった方にもカフェの案内を行うことで、参加者のニーズを満たしつつ、交流促進実現を図った。

令和 5 年度は、上記の枠組みで、地域への出前カフェも含めて、年間 8 回の開催を予定している。

山田市民センター

〔沿　革〕

山田市民センターは、昭和 62 年 4 月 17 日、旧笹谷街道沿いに戦後住宅街として開発され発展してきた山田地区に、コミュニティ防災センターを併設して開館した。平成 29 年度には大規模修繕を実施し、平成 30 年 4 月に再開した。

当市民センターは縄文遺跡や鹿除土手、太白山自然観察の森などの歴史遺産や昔ながらの自然を残す恵まれた環境の中にあり、太白消防署、鈎取郵便局、鈎取球場、縄文の森広場などの公所・施設や小中学校、大学などの教育機関も多く立地している。また、国道 286 号線沿いには大型商業施設が立ち並び、高い集客力を有している。こうした環境の中、当市民センターは地域の生涯学習や地域コミュニティづくり、交流の場として地域住民に広く活用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	山田出前講座		
参加者	各町内会の方	延参加者	109 人
開催日	全 3 回　　令和 4 年 9 月 23 日（金）、令和 5 年 1 月 21 日（土）、2 月 22 日（水）		
協力者・協力団体	山田鈎取地域町内会連合会・太白地域町内会連合会・人来田学区連合町内会		
ねらい	山田市民センター管区には、3 つの連合町内会があり、防災訓練などで連携することもあるが、センターの立地上、遠くにある太白地域、人来田地域の住民は市民センターへ足を運ぶ機会が少ない。そこで、市民センターが地域へ出向き講座を開催することで、各連合町内会とのつながりを深め、地域の課題を聞き取り、また地域住民に広く市民センターを知ってもらい、足を運んでもらうきっかけづくりをする。		
概要･成果	9 月に人来田地区にて「太白山麓を散策しながら昆虫や植物を見つけよう」、1 月に太白地区にて「2023 ニューイヤーコンサート～楽しいクラシック」、2 月に山田上野山地区にて「モザイクタイルの春色コースターづくり」の出前講座を開催した。各回とも講座終了後に「お茶っこサロン」も併せて開催し、出前講座や市民センターについてのご意見も伺うことが出来た。市民センターに足を運びにくい地域への出前講座の開催は、初めての試みであったが、人来田・太白・上野山それぞれの地域で町内会の皆さんの協力を得ることができた。地域の皆さんからは、市民センターの出前講座に今後も期待していることや市民センターを身近に感じてもらえる機会となった。それぞれの地域で市民センターとの関りが深まっただけでなく、コロナ禍で疎遠になっていた地域住民同士の交流も実現することができた。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
サマースクール山田	主に夏休み中に、地域の小学生を対象に実施し、住んでいる地域が違う小学生同士、また中学生や高校生とも交流できる場を設けるなど様々な体験活動を行った。	7 月 29 日～10 月 8 日	5	87
インリーダー研修会	児童向けの研修では理想のリーダー像やプログラムの立て方、世話人向けの研修では他地域の方との交流・情報交換を行った。	2 月 19 日	1	55
山田豊齢大学	高齢者を対象に開催し、地元である太白山の自然、大相撲について、介護予防月間講座、博物館の収蔵品についての講話やコンサートなど様々なテーマについて学んだ。	5 月 12 日～3 月 9 日	6	263

山田・鈎取まち巡り	まち巡りや講演会を実施し、地域内外に山田・鈎取地域の魅力を発信した。運営委員が上野山小学校 3 年生の校外学習でまち巡りの講師をしたり、地域の魅力をまとめた動画作成なども行った。	4 月 28 日～ 2 月 18 日	17	270
山田かがやき隊	小学生、高齢者、乳幼児親子が一緒に学び、交流することを目指し、七夕飾り作り、クリスマスリース作り、ニュースポーツ体験とビックリカード作りを開催した。	5 月 20 日～ 2 月 25 日	9	159
●山田鈎取地域防災訓練	事務局として関連団体との連絡・調整を行ったり、事前打ち合わせ会を実施。各団体間、また市民センターと関係機関との連携を深め、今後の展望や意思統一の場を作った。計画をしていた地域住民を対象の防災学習等は、コロナ禍により実施を見送った。	6 月 8 日 8 月 24 日 8 月 25 日	3	75
第 24 回山田ふれあいまつり	地域住民の交流とコミュニティづくりの推進や生涯学習の振興を図るため、地域の諸団体・学校・サークルの学習成果等を展示・舞台・イベントの各ブースで発表した。	10 月 29 日 10 月 30 日	2	1,200
地域懇話会	地域の団体や教育関係者等と意見交換をし、地域課題やニーズの共有化を図るとともに、センターへの要望等についてうかがった。4 月は新型コロナウイルス感染拡大のため紙面開催し、2 月は対面で開催した。	4 月 26 日 （紙面開催） 2 月 28 日	2	17
市民企画講座 「山田スマイル講座」	企画会議の中で出た「高齢者の引きこもり」「地域の人の交流機会の減少」という課題に対して、子どもから大人が体験を通して交流できるよう、マジック体験講座やステンド風ぬり絵講座を企画し実施した。	12 月 3 日 3 月 12 日	2	56
「楽元の森プロジェクト」	地域資源である「楽元の森」の利用や活動を知ってもらうため、野鳥の講話、音楽会、ピカボードの作成と点灯式、清掃活動と竹遊びを行った。	8 月 27 日～ 3 月 4 日	5	376
市民企画会議 「山田スマイル企画会」	住民が気軽に参加できるような催しを住民自身が企画するべく、会議を行った。企画会を重ねる中で地域の課題を見つけ出し、企画委員自身が地域に目を向けるきっかけとなった。12 月と 3 月に企画講座「山田スマイル講座」を実施した。	7 月 7 日～ 3 月 12 日	6	33
市民参画型事業 「楽元の森プロジェクト」企画委員会	地域資源である『楽元の森』を活用した講座の企画・運営の話し合いを行った。	4 月 16 日～ 3 月 11 日	9	88

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

山田市民センター管内 3 連合町内会への活動支援･コーディネート

当市民センターには、山田鈎取地域町内会連合会・太白地域町内会連合会・人来田学区連合町内会の計 3 連合町内会があるが、これまで 3 つの連合町内会長が一堂に会して話し合う機会があまりなかった。そこで、市民センターから呼び掛け、市民センターの事務室に集まってもらいざっくばらんに話し合う機会を設けた。初めのうちは緊張感こそあったが次第に打ち解けた雰囲気となり、3 連合町内会のつながりをつくることができた。また、それ以降は、それぞれの連合町内会長が気軽に山田市民センター事務室に立ち寄るようになっている。そのことが、管内 3 連合町内会同日開催で行う「地域総合防災訓練」にも良い影響を与えている。コロナ感染拡大防止のためいずれの連合町内会でも訓練は中止となったが、事前打合せ会ではコロナ禍での訓練の実施方法についての情報共有や、コロナ後を見据えた開催の方向性についての意思統一までつなげることができた。

茂庭台市民センター

〔沿　革〕

茂庭台地区は仙台市西部に位置し、市内中心部から車で約 20 分の距離にあり、古くからの梨野地区と住宅が多く建ち並ぶ茂庭台地区からなっており、豊かな自然環境に恵まれている。

茂庭台市民センターは、昭和 63 年 4 月にコミュニティ防災センターを併設して開館し、平成元年 4 月から地域社会教育の拠点として公民館事業を開始した。平成 2 年には児童館が併設された。平成 30 年度には大規模修繕を実施し、平成 31 年 4 月に再開した。

近隣には市営住宅や多くの福祉施設があり、高齢者、子ども、福祉施設の方々や外国人居住者の利用も多く、当市民センターは地域コミュニティの交流の場となっている。また、コミュニティ活性化に向けて連合町内会による地域活動が積極的に進められている。地域ニーズ、課題解決を図るため「市民本位の生涯学習拠点」「市民が主役の交流拠点」「市民参画による地域づくりの拠点」として、より多くの利用者に気軽に足を運んでもらえる様な事業を実施するとともに、地域課題解決のもとに集まれるネットワーク拠点としての機能が持てるようなセンター運営を行っている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	住民参画型事業・複数年事業「みんなの広場」プロジェクト		
参加者	地域住民	延参加者	59 人
開催日	全 9 回　　令和 4 年 5 月 14 日（土）～令和 5 年 3 月 4 日（土）		
協力者・協力団体	まちづくり推進部太白区中央市民センター		
ねらい	広場を活用した地域コミュニティ活性化に向け、地域人材の発掘・育成、地域情報の共有、地域資源の有効活用、事業の企画・実施、地域活性化の理念共有を基に複数年事業として企画する。加えて、地域住民同士の「顔の見える関係づくり」強化を目指す。		
概要・成果	茂庭台地区の活性化を目指して、地域資源である市民センター前広場を活用した講座を市民企画員が中心になって企画し、令和４年度は「盆踊り練習会」「音楽と灯りのもにわだいフェス」「天空の広場凧あげ大会」を実施した。 企画にあたっては、継続して実施しているイベントが多いため、年々ブラッシュアップしながら、より多くの住民が広場に集えるよう検討を重ねた。令和 4 年度は 10 代の企画員が参加し、地域課題に対して若者の意見を反映させることができるようになった。 複数年に渡りこのプロジェクトを継続してきた結果、地域住民による交流の活性化に加え、人材発掘・人材活用に繋がってきた。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
もにママサロン	茂庭台児童館と共催し、子育て世代の親子が孤立せず、安心して子育てができる地域コミュニティの発展に繋がる楽しく交流できる場を提供した。	7 月 8 日 12 月 9 日 2 月 3 日	3	55
もに輪っ子体験クラブ	小学生を対象に、人とのつながりを大切にする心情など、子どもの健全な育成を目的として、スポーツ、工作、英語に親しむ体験学習の場を設け、異学年の子どもの交流を図った。	5 月 21 日 8 月 3 日 8 月 27 日 10 月 12 日	4	57
インリーダー研修会	子ども会のリーダーとなる児童と世話人を対象に子ども会への理解や活動の活性化を図る為、子ども会活動の知識や技術について研修を行った。	1 月 22 日	1	28
茂庭台をもっと元気にし隊	小中学生の隊員 3 名が、地域活性化や地域の再発見をする「クイズ・ウォーク・アドベンチャー」と「わたしのすきな茂庭台展」を企画・実施した。	6 月 25 日～ 3 月 25 日	16	78

ジュニアリーダーとあそぼう	小学生と中高生の交流が少ないため、異年齢間交流を促進する講座を実施。小学生とジュニアリーダーが工作や遊びを通じて楽しく交流した。	8月6日 8月20日 10月2日	3	63
大人な休日倶楽部	日本の伝統工芸を体験しながら、自作の晩酌セットを作る講座を実施。「湯呑み」「箸」「ランチョンマット」を作った。	9月24日 10月22日 11月26日	3	25
剪定を学ぼう	自宅で樹木や盆栽、家庭菜園などを楽しむ方、より良く育成するための知識として剪定を学んだ。また、受講生同士の交流も図られた。	6月11日 7月9日 9月10日	3	22
茂庭台健康講座	「夏バテ予防」、「ウォーキング」、「認知症」の３講座を開催した。受講者から質疑応答が飛び交い、健康に関心を持つ機会となった。	7月15日 10月14日 9月16日	3	39
茂庭台大学	介護予防講座・健康教室・音楽鑑賞など、地域の高齢者が健康で生きがいのある社会生活が送れるよう講座を実施。受講生は意欲的に学習していた。	5月20日～ 2月17日	7	173
地域懇談会	地域の町内会、学校、施設、団体向けに令和４年度の事業・運営の説明と実績報告、令和５年度計画の説明し、意見交換を行った。利用団体向けには、利用について説明し、ご意見を伺った。	6月8日 6月10日 2月22日	3	51
地域防災講座	市危機管理局から講師を招いて「マイタイムライン講座」を実施。「サバ飯講座」では、お湯とビニル袋で調理、非常時の食事確保を体験した。	1月14日 2月23日	2	17
もにわだいを知って楽しく歩こう	今年度から新たな取り組みとして、座学講座も行った。座学講座とまち歩きを両方実施することで、自分の住んでいる地域に興味関心を持つきっかけや学ぶ機会を提供することができた。	4月16日～ 10月29日	5	52
茂庭台地区市民文化祭	生演奏と録画上映の併用によるステージ発表、飲食スペースの設置と飲食物の提供等、令和3年度より一歩先に進んだ形での文化祭を実施。感染対策としてマスク・消毒の徹底を行った。	10月1日 10月2日	2	650
出前講座　茂庭台市民センターがおじゃまします	市民センターから離れた町内会の方などを対象に気軽に参加でき、交流を促す目的として、認知症についての講話、コンサートを開催した。	12月17日 1月28日	2	25
茂庭台レコードカフェ	毎回レコード音楽のテーマ、ジャンルを替えて参加者を募り、リクエストに応じた音楽鑑賞を行った。高齢者の居場所、交流の場づくりに繋がった。	6月4日～ 2月25日	8	95
天空の広場盛り上げ隊	「みんなの広場」プロジェクトの市民企画員を中心に企画した、盆踊りの練習会、コンサートと広場のライトアップ、凧あげ大会を実施。地域の中心にある広場に集い、交流することで顔のみえる関係作りを進める一助となった。	7月16日 7月23日 11月19日 2月11日	4	75

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

水道山整備ボランティアの活動支援

団地内にある茂庭台緑地は地域住民から「水道山」と呼ばれている。以前は草木が生い茂り、倒木が多い危険な場所とされていた。植生が豊かだった頃の姿に戻したいとの声が市民センターに寄せられ、水道山整備に取り組むために集まった企画員6名が中心となり、水道山整備ボランティアを結成。平成23年度から自主的に活動し、平成29年度には太白区まちづくり活動賞を受賞した。

令和4年度は遊歩道の整備、枯損木の伐採の他、地域資源の保全活動の一環として地域住民の憩いの場所となる休憩スペースの整備にも取り組んだ。その他、整備活動に必要な各種手続きや活動記録作成、ボランティアからの相談受付や情報提供等、新たなボランティア募集などのサポートを行った。

東中田市民センター

〔沿　革〕

東中田市民センターは、平成元年 4 月に児童館、保健センター、コミュニティ防災センターを含む複合施設として開館した。令和 2 年 12 月から大規模修繕工事を実施し、令和 4 年 2 月に再開した。

当市民センターが位置する東中田地区は、仙台市太白区の東南端・名取川下流域にあり、名取川と広瀬川の合流点にも近く、素晴らしい自然環境に恵まれ、古墳や寺社仏閣などの歴史的資産を有している。

農村であったこの地域に、近年は高層の市営住宅や高齢者福祉関連施設、ミニ開発による一戸建て住宅が次々に建設され、商業の発展も著しい。新旧住民が混在し、急速に発展している地域環境に対応した地域コミュニティの確立が望まれている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	まちのトレジャー・レポーター		
参加者	小中学生・地域住民	**延参加者**	157 人
開催日	全 12 回　　令和 4 年 7 月 16 日（土）～2 月 18 日（土）		
協力者・協力団体	袋原中学校・四郎丸小学校・東四郎丸小学校・袋原小学校・東中田町内会連合会・中田中部町内会連合会・東中田児童館		
ねらい	伝承が難しくなっている名所・旧跡、人物などを伝えていくために、小・中学生による地域紹介動画を作成する。複数年事業として取組み、作品の学校や地域での活用を目指す。		
概要･成果	小中学生 13 名と大人スタッフが集まり、地域にある落合観音堂の「カニと絵馬」、「カニ伝説」を紹介する動画を作成した。また、10 月に開催された「東中田市民まつり」では参加者である小中学生がステージ上で発表を行い、「まちのトレジャー・レポーター」講座を広く地域にアピールした。 作成した動画は DVD に収録し地域の学校や諸団体に配付したほか、YouTube でも公開している。会議の際に DVD を上映した町内会もあり、気軽に東中田地域を知ることのできるツールとして活用されている。 また、制作を通して小中学生が大人スタッフや DVD 出演者と世代を超えて交流し、連帯感と絆が生まれたほか、自分たちが住んでいる地域への理解と愛着心を深める機会となった。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
東中田キッズ広場	小学生全学年を対象に講師である大人との異世代交流や学年が異なる参加者同士の異年齢交流を目的として、モノづくりやスポーツ等の学習を行った。	5 月 25 日～1 月 14 日	10	142
インリーダー研修会	子ども会のリーダーとなる児童及び世話人を対象に子ども会活動の充実と活性化を目的として、子ども会活動に必要な知識やスキルについて学んだ。	1 月 29 日	1	24
東中田いきいきタイム	コロナ禍で外出する機会が減少している地域住民に、ハーブや園芸、小物づくり、健康教室やじぞうもじなど気軽に参加できる学びの機会を提供した。	6 月 16 日～12 月 16 日	6	97

東中田老壮大学	高齢者を対象に、様々な学習の提供と仲間づくりや社会への参加を促すことを目的として、健康・音楽・文学・現代的課題を学ぶ講座や文化祭を開催した。	5 月 18 日～ 2 月 15 日	9	407
防災･減災学びの学校	東中田地域は、地域に川が流れ海に近く低地にあるという特性から、地域住民が水害等の災害について学習し、防災に対する意識をより高めるための講座を実施した。	8 月 20 日	1	85
東中田まちめぐり	昨今の自然災害等への備えに対応するため、地域の施設等を見学し、防災への関心を高めるとともに、普段入ることのない施設を見学することで地域へのさらなる理解を深め、地域交流の一助とした。	8 月 20 日 2 月 17 日 3 月 10 日	3	104
東中田市民まつり	地域住民の交流を目的として、舞台発表・展示発表・出店・フリーマーケット・保健センターコーナー・じどうかんコーナーを、来館者の手指消毒・連絡先の把握など新型コロナ対策をとりながら実施した。	10 月 2 日	1	1,800
みんなのコンサート	町内会や学校、地域団体、地域サークル、地域内各施設等と連携し、各活動団体の学習成果発表と地域住民に交流の場を提供した。併せてまつりを通して地域の活性化を図った。	5 月 22 日 2 月 11 日	2	124
東中田地域コミュニティ懇話会	管内の町内会や地域の団体、小中学校等から関係者を招き、それぞれの状況や情報を収集し、課題や地域の特性を把握することを目的に実施した。また、児童館と市民センターへの理解を深めていただく場とした。	6 月 16 日 2 月 3 日	2	29
名取川の自然観察会	地域を流れる名取川に生息する生物等の観察学習を通じて、名取川の素晴しさや自然環境から学ぶ恵みと癒しを知り、地域への愛着を持つきっかけとした。さらにそれを継承できる新たな人材育成を目指して実施した。	10 月 22 日 1 月 21 日	2	23

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ほっこりサロンボランティア「ほっこりの会」の活動支援

平成 26 年度の市民センター事業から立ち上がったほっこりサロンボランティア「ほっこりの会」は、現在 7 人のメンバーで構成され、誰もがほっとできる地域住民の交流の場づくりに取り組んでいる。未だ終息の兆しが見えない新型コロナウイルス感染症の影響で、人と人が触れ合う「タッピングタッチ」「ハンドマッサージ」「お茶とおしゃべり」などの基本ツールが使えなかったが、新たに「セルフタッピングタッチ」「指ヨガ」に加え「ハンドベル」「トーンチャイム」「家庭でできる自然療法」などを学ぶ機会を提供しメンバーのモチベーションアップを支援してきた。

市民センターだよりやホームページにて活動の様子を掲載するなどの広報に力を入れたほか、老壮大学をはじめとして当センターの講座開催時にサロンの情報を提供したことで、新たなサロン参加者の増加につながり、ほっこりの会メンバーにとって活動の確かな手応えとなっている。令和 4 年度は、東中田市民まつりや地域の子育て支援イベントへの参加はできなかったが、新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら、メンバーに活動の場を提供し、新たなボランティア養成に力を注いでいく。

柳生市民センター

〔沿　革〕

柳生市民センターは、平成９年４月に、市内 52 番目の市民センターとして児童館・コミュニティ防災センターを併設して開設された。

当市民センターが位置する柳生地区は仙台市最南端に位置し、住宅地・商業地として発展している。また自然環境に恵まれ、柳生和紙など伝統工芸も残されている。マンション等の建設に伴い、他地域からの転入者も多く、若年層の世帯が比較的多い地域である。

このような地域特性と地域資源を活かし、多様化する住民の要望等に対応しながら生涯学習の拠点として各種事業を展開し、地域コミュニティの形成・住民の自主的活動の場としての役割を担っている。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	みんなでボッチャ		
参加者	どなたでも	**延参加者**	165 人
開催日	全９回　　令和４年５月 13 日（金）～令和５年２月 18 日（土）		
協力者・協力団体	西中田地域包括支援センター、中田西部地区社会福祉協議会、柳生・西中田地区体育振興会		
ねらい	従来進めてきた合唱とボッチャを主体とした講座を、地域住民の要望に応じ「ボッチャ」に特化して令和３年度新規に立ち上げた事業である。この事業を実施するにあたっては、令和２年度にゲームの進行や審判、その準備等を行うことができる人材「ボッチャサポーター」を育成するために研修会を開催した。 この事業は、地域住民がだれでも気軽にできるパラスポーツを広めながらゲームをコーディネートできる人材を養成し、地域の体育振興会や地域包括支援センターなどと連携して、住民同士の交流を図りながら、地域の健康増進に寄与することを目的とする。		
概要・成果	令和４年度は、ボッチャサポーターが中心となって運営を行った体験会を８回、ボッチャ交流大会を１回行った。 体験会は、ルールを覚えた参加者がボッチャのコートを作成したり、ゲームの審判を行うなど、積極的に運営に携わる場面が見られるようになった。また、講座の認知度が上がることにより、柳生・西中田地域はもとより、地域外からも参加者が増えることで、ボッチャを通して様々な人が集い交流する場となっている。 ボッチャ交流大会は、平日では参加が難しい子どもやその保護者などにも参加してもらえるよう土曜日の開催とし、ボッチャを通して子どもから高齢者まで、同じ条件で楽しみながら交流を行うことができた。 さらに、市民センターでボッチャを学んだ方たちが、町内会や地域の体育振興会のボッチャ行事に参加し運営をサポートすることで、柳生・西中田地域にボッチャを根付かせる一助となっている。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
柳生子育てサロン	乳幼児親子を対象に子育て支援を目的として、講話や季節の行事体験や親子体操を通し、親子のふれあいや参加者同士の交流の場を提供した。	９月 16 日～ 12 月 16 日	5	80
柳生キッズあそび隊	小中学生を対象に、ノート作り体験、プログラミング、e スポーツ体験を実施。小中学校と連携することで、地域で子どもを見守る環境づくりの一助とした。	７月 30 日 11 月 19 日 12 月 3 日	3	28
見つけよう！わたしの夢	小学生を対象に、パイロット、客室乗務員、落語家、楽天イーグルスジュニアコーチから仕事についての話を聞く講座を開催し、子どもたちが将来の夢を考えるきっかけとした。	10 月 12 日 10 月 15 日 12 月 10 日	3	112

≪太白区≫

市民企画講座-防災クロスロード	小学生とその保護者を対象に、防災について学ぶ機会として、「おやじの作戦会議」で「クロスロード（災害対応カードゲーム)」を企画・実施した。当日は、中学生の協力も得て、若い世代の防災への関心を喚起するとともに、世代間交流も図った。	2月11日	1	7
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども達は講師の指導の下、子ども会の行事プログラムを作成し、世話人は子ども会活動の現状に関して活発な意見交換を行った。	1月22日	1	27
柳生シニアスクール	睡眠・食育、スポーツ、地域の歴史、落語会、コンサート等様々な分野を学習・体験する講座を実施した。また、運営委員会の自主企画を実施した。	5月25日～ 2月22日	10	517
フレイル予防で100まで元気！	高齢者を対象に、フレイルついて学ぶ講座を開催し、講話後に身体機能等の測定をしてもらうことで、身体について考える良いきっかけとなった。	7月21日 8月25日	2	26
柳生地域防災講座	災害への対応と心構えを万全にするため、救急救命訓練の体験や小学生を対象とした防災教育を実施し、地域住民の防災・減災への意識を高める一助とした。	7月20日 2月11日	2	12
柳生季節のコンサート	ゲーム音楽、ケルト音楽、トロンボーンアンサンブル、邦楽コンサートを実施し、市民センターに足を運ぶきっかけをつくることができた。	6月18日 11月12日 12月17日 1月28日	4	190
第18回柳生市民センター・児童館まつり	市民センター利用サークル・管内小中学校の学習成果発表、地域団体の活動報告等を通じて地域住民の生きがいづくりや交流の促進を目的に開催した。	9月24日	1	658
柳生・西中田地域懇話会	町内会等の地域諸団体に市民センター・児童館事業への理解促進と事業参加を促すため、事業計画や活動内容を説明する懇話会を開催し、地域課題や要望等を収集し、今後の事業や運営に反映させ、地域にフィードバックする一助とした。	6月17日 11月17日	2	38
おやじの作戦会議	おやじの会と連携して企画会議し、小学生保護者世代の意見やニーズを踏まえた講座企画につなげるため、既存のおやじの会の活動事例を紹介し、企画会議を重ねた。2月に企画講座「防災クロスロード」を実施した。	6月25日～ 2月4日	5	31

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「中田西部地区の未来を育むプロジェクト」への支援

町内会や学校支援地域本部など地域の諸団体で構成される「中田西部地区の未来を育むプロジェクト」(「柳生・西中田キャンドルナイト 2022」）は、将来の柳生・西中田地域を担う子ども達の健やかな育ちを支えるため、また、多世代の交流により魅力ある地域コミュニティの構築を目指している事業であり、地域の恒例行事として定着してきている。

5年目となった「柳生・西中田キャンドルナイト2022」は、恒例のキャンドルアート、空撮、参加団体による演奏会に加え、5 周記念として地元の若いプロのロックバンドをゲストに迎えてステージライブで盛り上がった。

当市民センターでは、運営助言や区役所との事務手続き、活動の場の提供、広報、団体間の連絡調整等の支援を行い、その成果として、諸団体の連携が図られ、地域の活性化につながった。

富沢市民センター

〔沿　革〕

富沢市民センターは、平成 13 年 11 月、地下鉄南北線富沢駅近くにコミュニティ防災センターを併設して開館した。

当市民センターの位置する富沢地区は、一級河川名取川・ＪＲ東北本線・国道 286 号に囲まれた地域で、中央部を笊川が流れ、かつては富沢・大野田遺跡のある田園地帯であった。地下鉄南北線開業以来、交通の利便性から宅地化が急速に進み、高層マンションと戸建住宅が混在する地域に変貌した。当地区は、転入してきた若い世帯が多く、子どもの多い地域である。

当市民センターは、市民が気軽に利用できる共有スペースとして親子室・娯楽室・図書室やラウンジを有し、年間を通し多くの地域住民が来館し、憩いの場や生涯学習の拠点として活用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	●つながる地域の子育て応援隊		
参加者	①地域の子育て支援団体　②乳幼児親子	延参加者	231 人
開催日	全 10 回　　令和 4 年 4 月 22 日（金）～令和 5 年 1 月 27 日（金）		
協力者・協力団体	・太白区役所家庭健康課・富沢地区民生委員児童委員協議会・富沢地区社会福祉協議会 ・富沢児童館・大野田児童館・児童発達支援センター・仙台市大野田たんぽぽホーム ・太白区育児サークル応援隊「たい子さん」　・子育てふれあいプラザ長町南「のびすく長町南」		
ねらい	地域の子育て支援団体が連携して企画会議を行い、乳幼児親子を対象に子育て情報を発信し、親子で楽しめるイベントの企画・運営を行う。 これにより、乳幼児親子が必要とする情報の提供や支援の活用を推進するとともに、地域の子育て支援団体の連携強化を図る。		
概要・成果	地域の子育て支援団体が集い企画会を開催し、乳幼児親子向けのイベントを年 2 回開催した。今回のイベントは、コロナ禍による乳幼児親子の孤立化を防ぐことを目的として、7 月 14 日に「ママのしゃべりタイム」と 12 月 1 日に交流イベント「つながる子育て ホッと in とみざわ」を開催した。 イベント開催に向けた企画会では、協議や情報交換を通して、地域の子育て支援団体同士の顔が見える、相談しやすい関係づくりを推進することができた。また、令和 4 年度版「つながる地域の子育て応援隊ポケットブック」を作成し、コロナ禍でも可能な情報発信に取り組んだ。 ポケットブックは、太白区家庭健康課や児童館など地域の各子育て支援団体窓口に配布したほか、当センターの主催事業「おはなしの部屋」の参加者にも配布し、より多くの乳幼児親子へ、地域の子育て支援の情報提供及び活用につなげることができた。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
おはなしの部屋	読み聞かせや紙芝居、手遊びなどを行う「おはなし会」を開催することにより、孤立しがちな乳幼児の親同士の交流の場や乳幼児の情操を育む場を定期的に提供した。	5 月 11 日～ 3 月 8 日	15	256
とみざわ子どもの広場	小学生親子を対象とした笊川の生態系を学ぶ観察会を初夏・秋の 2 回と、仙台市博物館と共催でのからくり玩具を作成する親子工作教室、仙台市天文台と共催での移動天文車ベガ号による星空観望会を開催した。	6 月 4 日 8 月 6 日 9 月 3 日 11 月 18 日	4	133
富沢小学校連携事業	富沢の未来を創る子どもたちが、地元への理解と愛着を深めることができるよう、地域の自然や歴史、生活を学ぶ機会を提供した。また、講師は地域人材を中心に選定し、対象となる小学 3 年生との交流を深めることができた。	6 月 3 日 6 月 28 日 12 月 6 日 12 月 22 日	4	620

インリーダー研修会	子ども会活動の活性化を図るため、小学校５年生と子ども会の世話人を対象として、子ども会活動について、知識と活動に必要な技術を習得する研修会を開催した。	2 月 19 日	1	41
わがまち防災・減災	地震発生時、適切に命を守る行動をとるために必要な知識と技能を身に付けることをねらいとし、開催した。受講者が自分と家族のいのちを守るための意識を高めるとともに、地域の防災力の向上の一助となった。	6 月 18 日 12 月 3 日	2	47
富沢シニアクラブ	シニア世代が心身ともに健康で生きがいのある豊かな生活を送ることができるように、「映像と音で昭和を振り返る講話」、「鶴の掛け軸を作るおりがみ教室」、「食に関する健康セミナー」「自宅でも簡単にできる軽運動」をテーマとした講座を開催した。	5 月 19 日～ 2 月 16 日	8	130
パワフルとみざわネットワーク	各小中学校で活躍している若い子育て世代と役員の高齢化が進む町内会とが、協働してイベントを開催することにより、若い力を地域へ還元し、これからの地域を担うリーダーを育成することをねらいとした。また、地域団体の発表の場を提供するとともに連携団体間の相互理解と交流促進を図った。	5 月 21 日～ 2 月 18 日	9	2,529
富沢市民センター懇話会	各町内会や子ども会などの地域団体、および市民センター利用サークルの代表者を招き、懇談を行った。地域ニーズや課題等を共有するとともに市民センター事業や施設運営に反映させることをねらいとした。	7 月 23 日 2 月 10 日	2	22
富沢ふれあいまつり 2022	まつり実行委員会を中心に、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、新旧住民の交流とコミュニティづくりの促進に資するイベントを検討、実施した。また、日頃の学習成果の発表の場を提供することで、参加者の生涯学習への意欲向上を図った。	10 月 2 日	1	1,875
おりがみボランティア 養成講座	地域づくりにつながる人づくりを目標として、地域で活躍できる「おりがみボランティア」を養成する講座を開催した。仙台伝統の七夕飾りや、まつり展示作品の制作、ボランティア活動などを行い、おりがみボランティアサークルが学びの成果を地域に還元した。	5 月 13 日～ 3 月 10 日	8	89

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「富沢市民センター図書ボランティアの会」の活動支援

当市民センターを拠点とする図書ボランティアの会のメンバーは、図書貸出の対応や古本バザーの開催など活発に活動している。令和４年度は更なる活動の充実を図るため、市民センターでは、①「図書ボランティア説明会」の開催、②図書ボランティア掲示コーナーの充実、③図書室愛称の公募・決定という取組の提案や支援を行った。

図書ボランティア説明会の開催にあたっては、図書ボランティアのメンバーが講師役を務めたほか、事前に図書ボランティアメンバー自らが作成した活動紹介動画を上映した。説明会の後には、新たに３人がボランティアに加入することとなった。

図書ボランティア定例会において、ボランティアメンバーから地域の方に広く図書室をアピールしたいとの要望を受け、屋外の掲示板や図書室前の壁面に、図書ボランティア用の掲示スペースを確保した。図書ボランティアにより文学賞受賞作の魅力や、テーマに沿ったおすすめ本、図書室からのお知らせなどが季節の彩りも添えて紹介され、図書室利用者の目を楽しませている。

また、地域の方がより親しみを感じる図書室を目指して、図書室の愛称の募集を行った。地域の方々から 12 件の応募があり、図書ボランティアと協議して「とみほん」という愛称に決定した。今後も図書ボランティアと協力し、愛称の活用などについて話し合っていく。

秋保市民センター・馬場市民センター・湯元市民センター

〔沿　革〕

秋保市民センターは、昭和 26 年 4 月「秋保村公民館」が設置されたのが始まりで、昭和 42 年 4 月町制施行に伴い「秋保町公民館」、昭和 63 年 3 月仙台市と秋保町の合併により「秋保公民館」、平成元年 4 月には「秋保市民センター」と改称された。平成 25 年 5 月には移転改築の上、現在の施設がオープンした。

馬場市民センターは、昭和 52 年 3 月、旧秋保町時代に開設され昭和 63 年 3 月仙台市と秋保町の合併により「馬場公民館」、平成元年 4 月に「馬場市民センター」と改称された。平成 29 年度には大規模修繕を実施し、平成 30 年 4 月に再開した。

湯元市民センターは、昭和 53 年 3 月、旧秋保町時代に開設され、昭和 63 年 3 月仙台市と秋保町の合併により「湯元公民館」、平成元年 4 月に「湯元市民センター」と改称され現在に至っている。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	あきうサマースクール		
参加者	馬場小学校・秋保小学校・湯元小学校 児童	延参加者	128 人
開催日	全 5 回　令和 4 年 8 月 25 日(木)、8 月 26 日(金)、8 月 31 日(水)		
協力者・協力団体	馬場小学校、秋保小学校、湯元小学校		
ねらい	東西に広い秋保地域には秋保小、馬場小、湯元小３つの小学校がある。各小学校と秋保市民センターは地理的に離れており、特に馬場地区や湯元地区からは小学生が市民センターを会場とした講座に気軽に参加することが難しい状況である。そこで、小学校を会場として通常の授業とは一味違う内容の講座を実施することで、児童への新たな発見を得る喜びや楽しさ、生涯学習に対する興味関心を高める学習の機会を提供することを目的とする。		
概要・成果	「歌って踊ってボンクラーズショー」(8/25 秋保小 1～3 学年)、「あきうで、にちぎんを知ろう！」(8/25 秋保小 4～6 学年)、「おてだまのじかん　ジャグリングワークショップ」(8/26 馬場小 1～6 学年)、「楽しいお天気教室」(8/31 湯元小 1～3 学年)、「防災エンスショー」(8/31 湯元小 4～6 学年) を実施した。 各小学校を会場に多様な講師を招いて、普段の学校の授業とは違った特別授業を実施することができ、子どもたちが楽しみながらも学びの要素が多い内容に興味を喚起する様子が見られた。小学校へ出向いて講座を実施することが秋保地域の子どもたちへの生涯学習機会の提供になっている。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
あきう子育て広場	湯元児童館と協力し「手づくり講座・ミニハーバリウムづくり（託児付)」と「3B 体操」を行った。親のリフレッシュの場、親同士の仲間づくりの機会を提供した。	6 月 23 日 10 月 27 日	2	17
秋保自然紀行　里山トレッキング	戸神山、二口遊歩道、野尻・鷹ノ巣山、長袋三山でのトレッキングを実施した。春秋を通して様々な植物に触れ、里山の豊かな自然について知ることができた。	5 月 17 日 6 月 1 日 10 月 25 日 11 月 9 日	4	62
秋保手づくり倶楽部	モザイクタイルアート、カゴ編み、リース作りを実施した。秋保地域にとって身近な「ものづくり」による学びの機会を設け、外出の機会を提供し、生涯学習への意欲を高めた。	7 月 8 日 9 月 9 日 12 月 9 日	3	37

あきう熟年のひろば	毎月第3木曜日（8月は休講）に高齢者を対象にした健康、運動、文化、芸術など様々な分野の内容で講話や実技、コンサートを実施した。	5月19日～ 2月16日	9	223
秋保郷土かるた大会	新型コロナ感染症拡大防止のため中止とした「秋保郷土かるた大会」の代替案として、秋保および「秋保郷土かるた」について知ってもらうため、Youtubeに動画 計4本を掲載した。	3月14日	1	6
秋保地域出前講座	地域団体や町内会と連携し、交流の場の提供や、生涯学習の機会を提供するため、講話、演芸、健康体操、もの作り、コンサートなどを実施した。	9月21日 12月11日 12月22日 3月12日	4	81
●秋保くらしの保健室	市民センター、保健福祉課、地域包括支援センターが共催して地域の方に必要な情報を届けるため、健康や食などに関する相談や地域住民の交流の機会を設けた。	7月8日～ 2月16日	8	136
地域防災力の向上	秋保中学校地域防災訓練、馬場小学校区合同防災訓練、普通救命講習を実施した。また生徒と地域の方が合同でゲーム「クロスロード」、合同研修「楽しく学ぼう！防災減災！」を実施した。	6月26日 7月2日 12月16日	3	155
秋保ふるさと文化祭	秋保地域を中心に活動している各団体、個人で文化祭実行委員会を組織し、日頃の学習成果の発表と地域住民の交流の場として、舞台発表・展示発表・出店等を実施した。	9月24日 9月25日	2	385
ニュースポーツで遊んでみよう！	ボッチャの体験会を実施し、簡単なゲーム形式でボールに慣れてから、チームに分かれて試合形式で対戦し、競技に対して理解を深めた。	10月29日	1	3
地域懇話会	町内会会長、学校、地域団体の方々を対象に地域懇話会を実施した。市民センターの役割や業務内容について理解を深めていただき、事業や地域の課題について意見を交換した。	6月21日 11月6日	2	28
市民企画講座「秋保学-自然編-」	市民企画員と一緒に、一般の方を対象にして「秋保の大地の成り立ちと地質の特性について」、「秋保二口の自然と山 -その特質と魅力-」という内容で2回の講話を実施した。	11月26日 12月4日	2	47
あきう市民企画会議	地域の資源や人材を活かし、地域ニーズに合った講座を市民企画員が企画・実施することを目的に企画会議を行い、市民企画講座「秋保学-自然編-」を実施した。	5月21日～ 12月4日	7	24

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

いってみっぺ秋保（地域資源活用委員会）の活動支援

「いってみっぺ秋保」は、秋保の魅力を発信する活動に積極的に取り組んでいる。令和4年度においては、新たに5編のパンフレット（「二口自然歩道を歩く」「道ばたの神々Ⅴ」「磊々峡めぐり」「二口街道さくら巡り」「気になる木めぐり」）を加え、45種類の地域資源をテーマごとにまとめたパンフレットが完成している。このパンフレットは地域情報を発信する媒体として広く浸透している。

市民センターでは、定例会の準備やパンフレット作成のための支援を行った。また、作成したパンフレットを配架し秋保市民センターを訪れる人に秋保の情報や魅力を伝えることに役立てている。

泉区中央市民センター

〔沿　革〕

泉区中央市民センターは、昭和 22 年 9 月、七北田中学校内に七北田公民館として開設された。昭和 43 年 7 月に市名坂字東裏の現在地に移転。平成 16 年 1 月には、施設の老朽化と機能拡充の必要性から改築され新館として開館した。今日まで泉区の生涯学習の拠点として、その役割を担ってきている。

本地域は従来の歴史的・文化的要素が残されている七北田地区と市名坂地区、急速に発展した泉中央地区を包含し、住民を取り巻く社会環境は大きく変化しつつある。このような状況の中、現代社会に対応した生涯学習事業の展開を図っている。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある（地区館）事業〕

事業名	「いずみ探訪」－　地域案内人養成講座　地域いきいきプロジェクト		
参加者	成人	延参加者	74 人
開催日	全 12 回　　令和 4 年 5 月 13 日（金）～令和 5 年 3 月 15 日（水）		
協力者・協力団体	まちづくり推進部泉区中央市民センター		
ねらい	泉区中央市民センター管内は、多くの貴重な歴史的史跡が点在している。また地域の住民は転出入が多いため、地元の史実が風化していく懸念や「自分たちの居住する地域の歴史を学び伝えたい」と次世代への伝承意欲も聞かれる。そこで史跡を活かした地域づくり、地域の歴史や文化を紹介するための案内人を、実践に向けて活動できるよう育成することをねらいとする。		
概要・成果	1 回目は座学にて七北田を案内するための要点を学び、2 回目には実際にまち歩きをする中で模擬案内を行った。その後の回でも七北田・市名坂地区を中心にまち歩きや取材を行ったり、文化財課の職員から地域の歴史についての講話をいただいたりし、案内する際のポイントや地域の歴史について令和 3 年度よりもさらに深く学んだ。また、これまでに学習してきた内容をまとめて、実際にガイドする際に活用できるマップを作成した。受講生同士で、参考文献を紹介し合う姿や質問し合う姿が見受けられ、史跡等の地域資源を通じて、学習意欲の刺激を受けながら交流することができた。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
泉中央ルンルン子育て	乳幼児親子を対象とし、子育てを支援し仲間づくりを促進するため、親子遊び、ベビーマッサージ、お父さんと遊ぼうといった親子で交流できる内容で開催した。	6 月 16 日 10 月 10 日 11 月 26 日	3	53
元気な泉中央キッズ	小学生を対象とし、地域で健やかな成長を支え、学年を超えた交流を図るため、はしごくだり作り、お天気科学実験&ランタンづくり、ジュニアリーダーと遊ぼうを開催した。	7 月 23 日 12 月 3 日 1 月 28 日	3	52
泉中央みんなの交流広場	成人の方を対象とし、幅広い年齢の方々の交流の場をつくるため、フラワーアレンジメント体験や、折り紙での正月飾り作りを開催した。	9 月 29 日 11 月 10 日 11 月 17 日	3	30
老壮大学「泉シニア塾 A コース・B コース」	65 歳以上の高齢者に心身ともに豊かな生活を送れるよう軽体操、遺言書保管制度・文学などの座学、コンサート、館外学習など同一内容で 2 コース開講した。12 月の歴史講座は講師体調不良のため中止。	5 月 11 日～ 11 月 16 日	10	283

泉中央減災講座	1回目は市名坂児童館と2回目は七北田児童センターと共催で子育て中の親を対象として、講話「子どもを守るお家防災」と題し、災害時に子どもを守る視点や防災アイディアについて学んだ。	2月15日 3月10日	2	17
いずちゅうコンサート	主に地域住民を対象として、乳幼児親子向け参加型コンサート、クラッシックコンサートを実施し、音楽を楽しみ心の豊かさをはぐくむとともに、参加者同士の交流をはかった。	9月22日 11月5日	2	64
まつりだよ！泉区中央！	感染対策を取りながらステージ発表、作品展示、地域の歴史案内、ジュニアリーダーの工作ブース等、3年ぶりに開催した。	10月16日	1	500
泉区中央市民センター地域懇話会	第1回は地域の団体や町内会、学校に事業説明をし、市民センターへの要望や地域情報を収集した。第2回はサークルの代表者からの意見収集を実施した。	6月23日 11月12日	2	33
いずちゅう出前サロン	高齢者を対象に交流し、楽しみながら身体も動かせるよう無理のない踊りも取り入れて、地域の集会場で沖縄の自然文化の紹介と三線の演奏会を開催した。	10月9日 1月8日	2	62
市民企画講座「おうち時間を楽しむ　手仕事でこころ豊かに」	主に成人を対象に参加者同士の交流を図るため、地域人材を活用した気軽に集えるハンドメイドの講座として、パッチワークでのコースターづくりとこぎん刺しのストラップづくりを行った。	9月24日 10月1日 12月10日	3	27
市民企画会議「おうち時間を楽しむ」	地域の方や日頃からセンターを利用されている方々と企画会議に取り組んだ。講座のテーマ決めから反省会の話合いや事前練習会を行い、講座（「おうち時間を楽しむ 手仕事でこころ豊かに」）当日には受講生のサポート等を行った。	7月9日～ 1月14日	5	20

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「七北田ジュニアリーダーサークルありす」の活動支援

中学生・高校生のボランティアサークル「七北田ジュニアリーダーサークルありす」は毎月1回定例研修会を開催し、地域団体や子ども会からの要請や連絡事項の確認のほか、自主的にメンバーの技術向上を図っている。市民センターでは、地域団体等からの依頼や問合せ等をジュニアリーダーにつなぎ、習得した技術を実践で活用できる場を提供することでジュニアリーダーの活動を支援している。令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響でこれまで要請を経験したことがなかったメンバーも活動することができ、要請を通して状況に合わせた対応力や先輩から後輩への技術伝承が進んだ。また、既存メンバーの声がけ等により新規メンバー9 人が加入し、要請を想定した研修に加え、スポーツ交流会や調理などを通してサークルメンバーの交流を図ることができた。

根白石市民センター

〔沿　革〕

根白石市民センターは、昭和21年11月、根白石小学校内に設置され、昭和23年役場の移転に伴い独立した施設としての活動が始まった。旧泉市で昭和28年に公民館新築促進が決議されてから10年の経過を経て、昭和38年7月、待望の公民館が移転新築された。以来20年余、根白石唯一の社会教育施設として活動を続けてきたが、老朽化により昭和63年4月、根白石字杉下前に新築移転し開館した。館の特色として、299席の移動式観覧席を備えた多目的ホールを有している。

当市民センターは泉区西部に位置し泉ヶ岳を背景にした豊かな自然環境に恵まれている。周辺は田園地帯と近年の開発による住宅地からなり、多様な住民構成の生涯学習の場として、また、スポーツ、コミュニティ、自主学習の場として広く利用されている。

平成28年度に大規模修繕工事を行い、建物の耐久性の向上とともに内外装の一新、各部屋の照明LED化や空調機の更新による省エネ化、トイレの洋式化や外靴のままで入館できるようになった等、利便性が向上した。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	●市民企画会議「かむりの里いきいきプロジェクト」を経て企画する事業		
参加者	地域住民、地域団体	延参加者	51人
開催日	全2回　　令和4年9月18日（日）～令和5年2月5日（日）		
協力者・協力団体	泉西部地区連合町内会、泉かむりの里観光協会、根白石商店会、管内小・中学校とPTA、子ども会育成会、児童館、児童センター、根白石温水プール、ふる里塾まざらいん、まちづくり推進部泉区中央市民センター		
ねらい	昔から地域に受け継がれてきた風習、食文化、伝統行事などにスポットをあて、「地域資源の蓄積力」「地域への関心力」を高めていく取り組みとして、若い世代にも興味を持ってもらえるような事業を企画・実施する。また、高齢化が顕著な地域において、地域の良さを再認識し、その良さを発信できる若い人材の育成を目的とする。		
概要・成果	泉区西部地区に在住またはゆかりのある市民が企画員となり、地域活性化や地域住民の交流を主たる目的に取り組むプロジェクトとして、令和4年度は、「お寺で禅クラフト～心と器と箸をつくる～」と「節分だよ！KAMURI豆つかみ王決定戦～カスタマイズした箸でチャレンジ～」を企画・実施した。 9月に実施した『お寺で禅クラフト～心と器と箸をつくる～」では、お寺と竹という地域資源の活用と、コロナ禍で家族間の会話が減少している昨今、地域住民の交流や親子が触れ合う機会の提供などを目的に開催した。参加者は使い慣れない鉈やクラフトナイフの扱い方を企画員より手解きを受けながら工作を進め、思い思いに器や箸を完成させることで達成感を得ることができた。 2月に実施した「節分だよ！KAMURI豆つかみ王決定戦～カスタマイズした箸でチャレンジ～」では、前半は竹の箸づくりを行い、後半で「豆つかみ王決定戦」を開催して、親子での交流を図った。豆つかみ競技後は、企画員が鬼に扮して登場し、豆まき大会を行い、会場は大盛り上がりとなった。 2つの事業とも、地域活性化につながるイベントとして成功裏に終えることができた。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育て講座	地域の乳幼児親子対象に、親子の触れ合いの時間や遊び場を提供するため、「バルーンアート体験」「親子ヨガ」「フォトスクラップブッキング」「遊びうたコンサート」「子育て講話」の5つの事業を展開した。	9月1日～1月17日	5	115

【中止】２校区合同インリーダー研修会	主に小学 5 年生を対象に、子ども会やグループ活動で主体的に行動できる意識を醸成し、子ども会活動の活性化を図る。また、保護者対象に子どもを取り巻く環境改善のための情報交換を行う。	―	―	―
元気キッズ～かむりっこ広場～	主に小学生を対象に、学校や家庭では体験できない地域の特性を活かした学習の機会を提供するため、「科学実験」「田んぼいきもの調べ」「アイシングクッキーづくり」を実施した。	7 月 30 日 10 月 8 日 12 月 18 日	3	30
ジュニアリーダーとあそぼう	未就学児や小学生を対象に、地域行事「かむりまつり」で当館所属のジュニアリーダーが「バルーンアート体験」「磁石釣り体験」を実施して、交流を促進した。	7 月 24 日	1	193
さわやか大学	主に 50 歳以上の成人を対象とし、学習機会の提供と相互交流を目的とし、9 回にわたって音楽、歴史、文学など様々なジャンルを学習して交流を深めた。	5 月 19 日～ 2 月 16 日	9	371
出前講座	交通手段がなく、来館が困難な地域の高齢者を対象に、生涯学習の機会を提供し、地域住民間の交流を目的として、5 カ所で音楽演奏、軽運動、講話などを実施した。	7 月 27 日～ 2 月 21 日	5	66
根白石の正月行事～いっしょに作ろう「だんござし」～	主に地域住民を対象として、地域に伝わる伝統行事の魅力を知り、街の魅力を再発見してもらうため、だんござし作りを体験してもらった。	1 月 13 日	1	10
防災講座～共助のまち・根白石～	地域住民を対象に、災害時の対応や顔の見える関係構築のため、避難所運営の模擬体験を実施した。また、共助の一環として、救急救命講習を実施し、非常時の対応を学んだ。	12 月 4 日 2 月 8 日	2	26
根白石市民センターまつり	地域で活動しているサークル・団体の成果発表を開催し、交流を促進した。伝承まつり（伝統芸能発表）やおもしろ市（トラック市）と同時開催とし、多数の来場者を得た。	11 月 19 日	1	1,200
地域懇話会	地域の学校、町内会、商店会など地域に関わる団体を対象に、広く意見を交換し、地域課題を共有して、解決の糸口を探った。	5 月 27 日 11 月 2 日	2	24
かむり交流ステーション	主に地域内の高齢者が利用する施設関係者を対象に、地域内の様々な課題を共有し、解決に向けて話し合いの場を設けた。また、施設見学を実施し、地域内の連携についても協議した。	4 月 23 日 6 月 4 日 11 月 5 日	3	20
市民企画会議 かむりの里いきいきプロジェクト	地域の魅力を発見し、それを発信する人材を育成するため、年間を通して企画会議を実施した。本会議をとおして、催しで地域を盛り上げる事の他、地域を担う人材の育成につながった。	4 月 16 日～ 3 月 18 日	12	70

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「根白石ガイドボランティア」の活動支援

根白石ガイドボランティアは、テーマに沿った歴史の勉強会や実地調査等の学習会を定期的に月 2 回継続して実施している。令和 4 年度も前年度に引き続き、学習成果をまとめた小冊子「歴史の宝庫根白石 5」を刊行した。

また、地域内外からの様々な依頼に応じて、地域の魅力発信や紹介･説明のために泉区西部地区のガイドを行った。市民センターではガイドボランティアの活動を記録し、活動に関する様々な情報の提供や相談に応じるなど、積極的にその活動を支援している。

南光台市民センター

〔沿　革〕

南光台市民センターは、昭和 52 年 4 月、「南光台公民館」として開館し、昭和 62 年 8 月に泉図書館南光台分室が併設された。その後、平成 2 年 4 月に「南光台市民センター」と改称され、地域住民の交流の場・生涯学習の場として、その役割を担ってきた。

平成 23 年 3 月の東日本大震災により建物が全壊したが、元の場所に鉄筋コンクリート造 2 階建管理棟及び多目的ホールが新築され、平成 27 年 3 月 28 日に再開館した。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	子ども参画型社会創造支援事業「元気なまちづくり応援団Ⅱ」		
参加者	小学 5 年生～中学 3 年生	**延参加者**	68 名
開催日	全 12 回　　令和 4 年 6 月 25 日（土）～令和 5 年 2 月 7 日（火）		
協力者・協力団体	南光台小学校、南光台中学校、南光台東小学校、南光台児童館 南光台地区体育振興会、南光台おやじの会		
ねらい	地域の児童・生徒の思いや考えを活動で実現し、企画・運営することのやりがい、また、地域で活動することの大切さや喜びを実感させる。本活動を通して、地域への理解を深め参画することへの意義を感じさせ、将来の地域を支える力となる人材の育成につなげる。		
概要・成果	令和 4 年度における「元気なまちづくり応援団Ⅱ」では、2 つの企画員会を実施した。 １つは、学区を問わず地域の小中学生を企画委員として募集し、地域の活性化につながる活動を目標に、概ね月１回の会議で話合いを行った。企画員会では、南光台地域を元気にするために自分たちができることを話合い、「SDGs の『誰一人取り残さない』ことを大切にする」ということを確認し合いながら企画を進め、12 月に子供から高齢者まで楽しみながら交流できるイベントとして、ニュースポーツや自作ゲームを行う「南光台 FUN タイム」を企画・実施した。当日は、子どもや大人、高齢者までの異世代間交流が和やかに図られ、計画・準備・実施と進めてきた企画員にとっては、イベント実施を通して、自分の考えを広げたり、深めたりすることで自身が大きく成長するとともに、やりがい、達成感を得て自尊感情を高めることにつながった。 もう１つとしては、南光台東小学校 5 年生の総合的な学習の時間「南光台東地区を活性化させよう」の授業において、単元構成の計画、実際の授業、イベント準備の会議などを共催する形で実施した。5 年生児童全員を企画員とし、地域の活性化を図ることを考えるために、まずは地域の史跡や商店を巡り、現状を知る地域学習を行った。その後、2 月に「歴史をめぐろうスタンプラリー」を実施し、児童や保護者、地域の大人が約 140 人参加して、交流を深め、地域のことを知る良いきっかけとすることができた。 子どもたち自らが企画したことは、人と人とのつながりの大切さを知り、「元気なまちづくり」に大きく貢献することに繋がった。今後も、こうした取組みをきっかけとして、学校、市民センター、連合町内会、地域の多くの団体が一体となっての地域づくりを図っていく。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
親子ふれあい広場	地域の親子を対象に、人形劇サークル「ぐうちょきぱぁ」の皆さんによる人形劇を開催し、手袋人形のダンス・ペープサート・人形による運動会等多彩な内容を上演した。	10 月 27 日	1	28
こどもチャレンジクラブ	地域の小学生を対象に、音の実験、JL とあそぼう！、親子工作（ストリングアート）、モルック、フラワーアレンジメント制作を実施した。また、児童館と連携し、新聞長ちぎり大会や七夕展示、緑のカーテン育成を実施した。	6 月 25 日～2 月 11 日	8	128

南光台 FUN タイム～ニュースポーツに挑戦、及び歴史をめぐろうスタンプ―	「元気なまちづくり応援団Ⅱ」の中学生 6 人の企画員による「南光台 FUN タイム」は、誰もが取り組めるようニュースポーツやゲームを設定し、子どもから高齢者まで楽しんだ。南光台東小 5 年の「スタンプラリー」は地域を知ること、地域の人々のつながりのきっかけとなるよう実施した。	12 月 3 日 2 月 7 日	2	163
複数年事業 地域いきいきプロジェクト みせましょう！おやじの力	南光台おやじの会が、組織運営を学習することを目的に、小学生や親子を対象としたイベントの企画・運営を実践し、「沢のぼり in 泉ヶ岳」「フットゴルフ大会」「昔あそび体験」講座を開催した。	4 月 16 日～ 3 月 18 日	16	114
みんなの学びカフェ	体験型、参加型の学習として、サツキの植え替え体験・川柳講座・寄席（落語、マジック）・プリザーブドフラワー講座・太極拳の体験講座を実施した。	6 月 19 日～ 1 月 27 日	5	138
南光台学院	地域の 60 歳以上の方を対象に、宮城マスター検定・地域の歴史・食物と運動・秋保と伊達政宗の料理・ギターコンサート・高齢者と薬・地震と津波・新春演芸会・雪山散策など、多分野にわたるテーマの学習を実施した。	5 月 20 日～ 2 月 17 日	9	578
市民センターの出前サロン	市民センターから遠い地域の方も参加しやすいよう、各地の集会所やコミュニティ・センターに出向き、マジック講座、指ヨガ講座、ヴィーハープのコンサートを開催した。	9 月 23 日 11 月 22 日 12 月 18 日	3	47
令和 4 年度 南光台市民センターまつり	学習サークル・地域団体・学校等、地域の方々の発表の場・交流の場として 2 日間開催した。ステージ発表、展示発表、出店の 3 部門で日頃の活動成果の発表をした。	10 月 8 日 10 月 9 日	2	700
★ 南光台地域防災講座	地域の防災力の向上に資することを目的として、一つは、東日本大震災当時を振り返って、今後に生かす内容の講座を実施した。もう一つは災害時に必要となる救命救急法の講習会を実施した。	11 月 12 日 1 月 28 日	2	33
南光台市民センター地域懇談会	市民センターの役割や運営方針の説明と地域の情報交換を目的として、一つは、町内会・小中学校等の組織や団体を中心に集まっていただいた懇談会。もう一つは、常日頃、利用している団体の懇談会を実施した。	6 月 23 日 7 月 6 日	2	43

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

市民センターで活動しているサークルへの活動支援

市民センターで活動しているサークルへ講座（みんなの学びカフェ、南光台学院、こどもチャレンジクラブ）の講師を積極的に依頼することで、講座終了後に参加者がサークルへ入会するなど、活動の活性化につながった。

毎月発行している市民センターだよりの「リレーコラム」欄では、小中学校等の地域団体に加え、市民センターで活動しているサークルへ原稿を依頼して団体の活動紹介を行った。記事を掲載して地域住民へ周知することで、学習相談やサークル活動見学の数が増加し、会員獲得につながった例もあった。また、市民センターのロビーや廊下のスペースを利用して、折り紙や写真サークルの作品を展示することで、それを見た利用者がサークル体験会などの活動へ参加するきっかけとなった。

黒松市民センター

〔沿　革〕

黒松市民センターは、昭和 47 年 4 月に開館した八乙女公民館を前身とし、平成 4 年 10 月に現在地に新築移転され開館した。

当市民センターは、地域における生涯学習及びスポーツやサークル活動などの交流の場として活用されている。また、地下鉄南北線黒松駅に隣接しており、交通の利便性が良いことから、利用者は広域にわたっている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	●サロン de　クロマツ		
参加者	地域住民	延参加者	81 人
開催日	全 5 回　　令和 4 年 5 月 20 日（金）～令和 4 年 12 月 23 日（金）		
協力者・協力団体	「いろどり工房～もの作りボランティア養成講座」の受講者、泉区家庭健康課		
ねらい	黒松市民センターは、利便性がよく駐車場も広いため、地域外からの利用者が多い。そこで地域住民の利用を増やすとともに、地域人材の掘り起こしと活用を目的として、地域の方々が参加しやすく、また市民センターを利用したことの無い方々が、市民センターの生涯学習事業に興味関心を持つよう気軽な内容の講座を開催する。		
概要・成果	多くの方に市民センターの事業に触れていただけるよう当日の参加を可能とし、図書室利用者にも興味を持ってもらえるように、黒松市民センター内にある図書室「黒松分室」の開館時間に合わせて開催した。 1 回目は地域講師指導による「ダーツ体験」、2 回目は「三線コンサート」、3 回目は「フレイル予防」について学んだ。4 回目は「自宅でもできる運動」について学んだ後、連携で開催した泉区家庭健康課の役割等について紹介する時間を設けた。5 回目の「祝い鶴を折りましょう」では、「いろどり工房～もの作りボランティ養成講座」の受講生が講師となり折り方を教えた。 この事業への参加をきっかけに、地域の方から市民センターを身近に感じてもらうよい機会とすることができた。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
わくわく子どもの時間	地域の子どもたちを対象に体験型学習や異学年交流の場を提供することで、協調性やコミュニケーション力を養うとともに、探求心や好奇心を育むことが出来た。	6 月 4 日～2 月 25 日	6	77
AKD チャンピオン決定戦	3 児童館との共催により、学校や学年、地域を越えた小学生児童のスポーツ、ゲーム等を通した交流事業を開催し、子ども達の交流の促進と青少年の育成ネットワークの強化を図った。	11 月 19 日	1	29
黒松寿大学	地域の高齢者が健康でいきいきと暮らすことを目的に、様々な分野の学びを提供した。参加者が学びを通して生きがいを見つけ、共に学びあう仲間づくりの場になるよう運営委員と協議を重ね実施した。	5 月 19 日～2 月 16 日	9	397

元気アップ生活！～健康で元気に暮らすために～	地域の二つの社会福祉協議会及び包括支援センターと共催し、高齢化が進む地域の介護予防を目的とした健康講話や運動などを開催し、地域の高齢者の健康維持と、地域団体と顔の見える関係づくりをした。	7月14日 10月13日 11月10日	3	50
地域防災講座	泉消防署八乙女分署と連携した「救急救命講座」と防災士を講師に招いた科学実験を通した防災講演会形式の講座を開催した。	7月2日 12月17日	2	30
真美沢公園元気プロジェクト	「真美沢公園を美しくする会」と共催して、地域資源である都市公園「真美沢公園」を活用した整備活動や公園のPRイベント事業、自然体験講座等を実施して、自然あふれる公園の理解を広め、利用者を増やすことが出来た。	4月16日～ 3月18日	17	136
市民企画会議「MOTTAINAIを広めて」	毎日の暮らしの中に注目し、日本から世界に広まった「MOTTAINAI」を入口にワークショップや学習会を重ねてSDGsを学んだ。MOTTAINAI行動や、SDGs行動を意識した暮らしを地域に広めるための話合いをした。	9月6日～ 3月14日	7	28
2022年黒松市民センター・黒松児童館まつり	幅広い年齢の方を対象に黒松児童館と共催し、サークルによるステージ発表、作品展示、出展・体験コーナー、あそびの広場などを開催した。	9月24日	1	500
地域懇話会	各町内会代表者や利用サークル代表者、子育て支援団体代表者から、市民センター事業に対するご意見や要望を伺った。さらに地域課題等に対して意見交換や情報交換を行った。	6月10日 7月1日 10月8日 2月9日	4	60
いろどり工房～もの作りボランティア養成講座～	地域住民をメンバーとした「もの作りボランティア」を養成しスキルアップを図るとともに、実際に地域での活動の場を設け、ボランティアとして活躍できる人材の育成を図った。	4月20日～ 12月23日	13	68
サークル体験会	市民センターで活動しているサークルの活動を気軽に見学・体験ができる機会とした。そのことで、参加者が生涯学習に取り組むきっかけとなり、また一方で、サークル活動の活性化を図った。	6月11日～ 7月24日	10	48

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

地域子育て支援団体のコーディネート

令和3年度から「黒松地域子育て支援団体ネットワーク会議」を開催している。「地域の子育て団体がお互いの活動への理解を深め、横のつながりを強くするためにはどうしたらよいか」を黒松児童館と話し合い、地域の子育てに関わる団体（幼稚園、保育園、福祉事業所、運動学習支援団体、子育て支援クラブ等）に呼び掛けて始めたものである。ネットワーク会議でのそれぞれの団体の活動紹介や情報交換を通して、それまで関わりのうすかった団体同士の「顔の見える関係」が出来つつある。

令和4年度は、「コロナ禍での遊び」を紹介し合ったことが、それぞれの活動に活かしたり参考にしたりすることに繋がった。また、様々な悩みを抱えながらの日々の活動について、課題や悩みを話し共有することで、新たな視点や小さなヒントを得たり、参考になることを持ち帰ったりすることが出来ればよいという思いから、今後もこの会が継続できるようコーディネートしていく。

将監市民センター

〔沿　革〕

将監市民センターは、昭和 47 年 11 月、将監団地の開発・発展を背景に地域住民の交流の場として開館した「将監会館」が始まりで、昭和 53 年 4 月、新たに地域生涯学習の拠点施設として名称を「将監公民館」に改め、昭和 54 年 6 月には研修室棟も竣工し施設の拡充が図られた。その後、仙台市との合併に伴い、平成元年 4 月から「将監公民館・将監市民センター」となり、翌年 4 月には「将監市民センター」と改称された。平成 3 年度には、施設の大規模な改築が行われ、平成 4 年 4 月に再開し令和 4 年 3 月まで業務を行った。

令和 4 年 3 月に複合施設（市民センター・児童センター・老人憩の家）として竣工し、同年 5 月から業務を再開した。当市民センターは、公共施設内に地域住民が運営するサロンを包含しており、サロンを含め地域内外の方々に様々な形で利用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	将監「みんなのサロン」コンサート		
参加者	地域住民	延参加者	723 人
開催日	全 11 回　　令和 4 年 5 月 28 日（土）～令和 5 年 3 月 25 日（土）		
協力者・協力団体	将監みんなのサロン　ふれ・ミー運営委員会		
ねらい	令和 4 年 5 月に新しい複合施設が開館し、施設内には地域が独自に運営する新しいタイプの憩いの場「みんなのサロン　ふれ・ミー」が設置された。そこで市民センターは運営委員会と共催により、幅広い世代が気軽に集えるミニコンサートを企画し、住民同士の交流及びコミュニティづくりの促進、並びにみんなのサロン運営委員会の活動の一助とする。		
概要・成果	新しい将監市民センターがオープンした 5 月以降、毎月 1 回を基準に将監市民センターで活動しているサークルや地域で活動している団体・個人等の参加を得て、コンサートを開催した。コンサートは地域の方へも徐々に浸透してきており、サークルにとっては出演することで新たな目標を持つことができた。また、開催のたびに多くの地域住民が来館し、コンサートを通して、また、コンサート終了後も「ふれ・ミー」を利用することにより新たな地域交流の場・機会となった。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子どもチャレンジ	「世界の打楽器演奏」「卵の殻の工作」「速く走るコツを体感」「クリスマスリースづくり」「変わり筆での書道」「バレンタインデコタワー作り」の講座を実施し、家庭や学校では経験できない「体験」や「学び」を通し、人と交わることを大切にする気持ちを学んだ。	6 月 11 日～1 月 28 日	6	108
将監寿大学	地域の高齢者が 1 年を通し様々な分野の学習をすることで学習意欲を高め、生涯学習を通して交流できる場を提供することを目的とし、津軽三味線の演奏、気象、健康体操、地域の歴史、体の免疫、講談を行った。	6 月 10 日～1 月 13 日	7	356
将監地域防災講座　～命を守る～	将監 SBL 会による VR 体験やコロナ禍の避難所対応、災害時における各家庭でのリスクの検証。小学生が身近な素材で工作に取組み、楽しく防災について学習した。	12 月 10 日　2 月 4 日	2	49

≪泉区≫

出前講座「なごみサロン」	将監地区社会福祉協議会や町内会等と連携し、家庭でも継続できる腰痛予防のストレッチとトレーニングを行なった。	11 月 12 日 11 月 18 日 12 月 2 日	3	78
将監ふるさとづくりプロジェクト～50 年を未来へ～	シンボルキャラクターをデータ化し、オープニングセレモニーでの発表、その後の広報や缶バッチにして配布するなど新施設とともに周知した。また、地域の写真展を開催し地域住民の交流を促した。	5 月 7 日～ 1 月 28 日	9	31
居場所サポーターズ ～みんなの居場所をつくろう～	町内会・社会福祉協議会・地域包括支援センターと連携し企画員と共に複合施設の機能を活かした交流の場所づくりを継続させていく事を目的とし、七夕飾り、茶会等地域の交流場作りを行った。	6 月 2 日～ 3 月 2 日	13	187
将監ふれあいコンサート	地域住民が気軽に参加できるコンサートとして、生の演奏にふれる機会を提供し、世代を超えた交流の場を設けた。	9 月 3 日	1	240
将監市民センターまつり	市民センター利用団体、サークル及び地域の諸団体等(個人含む)の日頃の学習(活動)成果を作品展示、舞台発表及び体験を通じて発表する場を提供した。	11 月 9 日～ 11 月 29 日	3	370
将監地域懇談会	将監地区入居 10 年以内の人と地域団体の代表者との懇談、将監地区の小・中学校（教職員除く）関係者の情報交換・課題解決のための懇談を実施した。	11 月 26 日 1 月 21 日	2	14

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「将監みんなのサロンふれ･ミー運営委員会」の活動支援

地域全体の連携や親睦を深めることを目的として将監市民センター市民交流スペース「みんなのサロンふれ・ミー」が設立された。「みんなのサロンふれ・ミー」を円滑に運用し、地域全体の連帯や親睦に寄与できる活動を推進・将監地域の発展に繋げることを目的とし令和 4 年度より「将監みんなのサロンふれ・ミー運営委員会」が活動をしている。

運営委員会の活動の一つとして「ふれ・ミー朝市」が 7 月 18 日、9 月 19 日、11 月 3 日に行われ、市民センターは運営へのアドバイス及び一部備品の貸出、市民センターだよりで開催情報を地域へ広報する等の支援を行った。

「ふれ・ミー朝市」では各回多くの方が訪れ、賑わいを見せており、朝市に訪れた方からはまた開催してほしいとの言葉をいただいた。地域の新しい行事として定着してきている。

加茂市民センター

〔沿　革〕

加茂市民センターは、昭和 58 年 4 月、加茂公民館として開館した後、仙台市と泉市の合併や公民館と市民センターの併設を経て、平成 2 年に現施設名に改称された。平成 10 年には併設されていた加茂体育館が編入され、現在に至っている。開館当時は長命ケ丘・泉中山の区域まで対象としていたが、平成 5 年 4 月の長命ケ丘市民センター開館に伴い、現在は加茂・虹の丘・上谷刈・みずほ台を対象としている。

当市民センター周辺地区は、賀茂神社や古内志摩の墓、中世の館跡である長命館公園などが点在しているほか、七北田川や丸田沢堤・三共堤がある水の森公園などの自然環境にも恵まれている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画講座「地域で楽しく学び愛」		
参加者	地域住民	延参加者	26 人
開催日	全 2 回　　令和 4 年 12 月 9 日（金）　～令和 5 年 3 月 2 日（木）		
協力者・協力団体	―		
ねらい	自然豊かな加茂地域に居住し長年地域福祉活動に勤しむ企画員が、それぞれの地域ネットワークを生かして講師を招き、家に居ることが多い住民が気軽に参加できるものづくりの講座を開催し、住民同士の新たな交流の場を作り地域活性化の一助とする。		
概要･成果	地域福祉活動で市民センターを利用している企画員が、市民企画会議「ゆめづくり市民企画会」の中で会議を重ね、地域住民が気軽に参加できるようなものづくり講座「地域で楽しく学び愛」を企画した。12 月に地域福祉サロンで高齢者にものづくりを指導している企画員が講師となって「干支をつくろう～手作り色紙で卯年を迎えましょう～」を開催し、企画員と顔見知りの住民が多数参加して交流しながら色紙づくりを楽しんだ。3 月は地域在住の森林インストラクターの繋がりで講師を招き、「野鳥のコースター～お気に入りの 1 枚を作りましょう～」を開催した。県民の森の間伐材を使ったコースターに野鳥を描くだけでなく、環境保護活動で培った講師陣の森や野鳥に関する豊富な知識を学び、長命館公園の環境整備活動をしている参加者との交流につなげることができた。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
みんなすくすく子育てひろば	第 1 回は加茂児童センターと共催し、スクラップブッキング作りを実施。第 2 回はみずほ台集会所にてリズムヨガの出前講座を実施した。第 3 回は虹の丘児童センターと共催し、親子リトミックを行った。	7 月 5 日 9 月 27 日 12 月 8 日	3	34
まるごとチャレンジキッズ	近隣児童センターと共催をしながら、小学生を対象に、フラワーアレンジメント体験、クリニカルアート体験、水の森公園を会場としたジュニアリーダーとの交流講座、ジェルキャンドル作り体験講座を実施した。	6 月 11 日 8 月 17 日 10 月 22 日 12 月 17 日	4	61
すこやか UP 塾	自宅でも気軽にできる健康講座を受講生に提供した。「操体法」「ストレッチとセルフマッサージ」「体のしくみを理解して体を動かす」などの各講座を 2 回コースで開催した。	6 月 10 日～ 11 月 18 日	6	86

ワイワイ若がえり塾	A コース・B コースに分けて募集し 5 月～10 月は合同開催で堤焼の歴史や七北田の歴史、音楽療法体験等を実施した。11 月～2 月は A コース館外学習や軽体操等、B コース博物館出前ワークショップや健康講話等を実施した。	5 月 17 日～ 2 月 19 日	13	570
出前講座	虹の丘コミュニティーセンターを会場に、虹の丘推進協議会との連携でアロマワークショップを実施した。予定していた泉中央南町内会との連携講座は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。	1 月 26 日	1	15
誰でもリンク！交流ステーション	加茂地域で活躍している「長命館公園サポーターズクラブ」との共催により、第 1 回はアンサンブルコンサート、第 2 回は近隣地域で活躍する地域団体の協力のもと、泉区の歴史を学ぶ講座を開催した。	7 月 9 日 11 月 26 日	2	54
災害から身を守るために	地域における災害への対応力の向上と共助の意識醸成を図るために、①AED 講習会②東日本大震災から学ぶ講話③補助避難所についての学習会を地域団体と協力して実施した。	6 月 19 日 11 月 19 日 2 月 26 日	3	117
地域懇談会	加茂小学校区と虹の丘小学校区とに分けて、地域活動団体、教育機関等の方を対象に、次年度の市民センターの運営方針の説明と情報交換を目的に懇談会を実施した。	1 月 21 日 2 月 18 日	2	35
加茂市民センターまつり	体育館では市民センターの活動サークル、地域団体による作品展示及び活動報告や映像によるステージ参加団体の演奏発表を開催し、ロビーでは地域内小中高校生による作品展示を行った。	10 月 16 日	1	300
市民企画会議「ゆめづくり市民企画会」	ものづくり講座開催を目的とした情報収集と企画会議を実施した。また、会議を経て企画した「地域で楽しく学び愛」の講座の準備、参加者の募集、講座の運営、及び反省会を実施した。	6 月 18 日～ 3 月 2 日	7	15

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「加茂地域歴史ガイドボランティア」の活動支援

加茂三丁目の北西部に、伊達騒動でただ一人生き残り仙台藩を取り潰しから救ったとされる家臣古内志摩義如の墓がある。近くにお住まいの末裔の方が墓の管理をしているが、現在は市民センターの養成講座から立ち上がった「加茂地域歴史ガイドボランティア」が主催して年 2 回の清掃奉仕活動を行い、毎回多くの地域住民が参加している。

加茂市民センターでは清掃奉仕活動の参加者募集や活動状況を市民センターだより、チラシ、ホームページで広報するなどさまざまな支援を行い、ボランティア活動の活性化を図っている。令和 4 年 6 月には古内志摩義如公の 350 年忌法要が行われ、多くの地域住民が参列した。式典の開催にあたり、事前のセンターだよりでの広報に加え、折に触れて利用者や地域住民への案内を行った。法要を通した参加者との交流の中で、古内志摩の功績を改めて学び直し、地域住民と一緒に加茂地域の歴史的財産を再確認する機会となった。今後も市民センターでは、泉区の歴史的価値のある史跡としての周知活動や地域を超えた歴史サークルの文化交流等、幅広く活動支援を進めたい。

高森市民センター

〔沿　革〕

高森市民センターは、地域住民の生涯学習活動の中心的施設として、平成元年４月「高森公民館」として開館した。その後、機構改革に伴い「高森市民センター」と改称された。

高森地区は、昭和 40 年代後期から、民間企業によって開発された地域で、閑静な住宅地のほか、高森東公園や高森西公園など豊富な緑地が残され、自然と調和した美しい街区が特徴的な地域である。

地域では町内会や地域ボランティア団体が中心となり、四季を通じたイベント等を行い、地域活性化の推進に取り組んでいる。その中で、当市民センターは、地域への愛着心を育む交流の場として、多くの地域住民に利用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	ウェルカム世代間交流～高森東公園　謎解きゲーム		
参加者	地域住民	延参加者	89 人
開催日	全４回　　令和４年６月９日（木）、９月８日（木）、10 月 22 日（土）、11 月 10 日（木）		
協力者・協力団体	高森地区社会福祉協議会、高森東地区社会福祉協議会、結いの会・高森東		
ねらい	市民センターと２つの社会福祉協議会が企画会議を実施し、「新しい生活様式に配慮した」交流会を開催する。お互いの地区を知るきっかけを作り、両地区間の交流を図り、高森地区全体の活性化につなげる。		
概要・成果	地域の２つの社会福祉協議会と地域団体 結いの会・高森東との４者による企画会議を経て、地域資源である高森東公園を利用し、子どもから高齢者までどなたでも気軽に参加できる催し「高森東公園 謎解きゲーム」を企画開催した。 昨年に引き続き「謎解きゲーム」は２回目の開催だったため、募集開始３日目で定員を超える応募となった。申込みは、日頃市民センターを利用する高齢者の年齢層は少なく、小学生を含む親子や、中高生を含む親子、祖父母と孫などの組み合わせがあり、当日は異世代交流の場とすることができた。また、地域ボランティア団体がスタッフとして協力してくれたことやジュニアリーダーの参加により、公園内で迷うことなく安心して参加できる講座開催に繋がった。今回の事業は地域団体同士の繋がりを深めるとともに、高森東公園全体を利用することで、地域資源の活用及び新たな地域の魅力発見に資することができた。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
わくわく親子体験ひろば	小学生親子を対象に親子のコミュニケーションを深めるため、７月は「木のイス作り」を行い、８月は「ダンス」、９月は高森東公園で「虫の声を楽しむ会」を開催した。	７月 18 日 ８月 11 日 ９月３日	3	41
市民企画講座「子育てママ★リフレッシュ講座 ママほっとタイム」	市民企画会議を経て子育て世代を応援する内容を実施。９月ピラティス、10 月コサージュ作り、エッグオーナメントづくりを実施。毎回講座後に交流の機会を設けた。	９月 29 日 10 月６日 10 月 13 日	3	22
高森きっずチャレンジ	地域内の児童同士が様々な体験学習を通して楽しく交流できる場として、「ジュニアとあそぼう」、「夏の映画鑑賞会」を開催した。	７月 27 日 ８月３日	2	25

インリーダー研修会	子ども会のリーダーとなる小学 5 年生児童と保護者（世話人）を対象に、子ども会活動・運営に必要な知識や技能を習得する場を提供した。	10 月 8 日	1	20
伝統行事 仙台七夕もりあげ隊	地域住民を対象に仙台七夕の歴史や習わしを習いながら、センターに飾る大きな七夕飾りを作成しロビーに展示した。講座最終日には、自宅で楽しめるミニ七夕飾りを作成した。	6 月 7 日～ 7 月 12 日	6	53
高森塾（老壮大学）	地域の高齢者が健康で充実した日々を過ごせるよう、歴史、文化、健康などの様々な学びを年間を通して提供した。	5 月 27 日～ 10 月 28 日	6	274
みんなで健康体操	高齢者の介護予防と住み慣れた地域で健康に暮らし続けるため、月 2 回の体操教室を地域団体「結いの会・高森東」と共催で開催した。	6 月 1 日～ 10 月 19 日	10	306
高森絆コンサート	高森は他地域から移り住む人が多いため、顔の見える関係づくりの一助として、市民センターを会場として気軽に集うことのできる「コンサート」を開催した。	6 月 3 日 9 月 30 日	2	115
高森市民センターまつり	地域住民、サークルメンバーで組織する実行委員会を中心に、高森中学校吹奏楽部やサークルによるステージ発表、サークル、団体、個人の展示、授産施設の出店などを行った。	9 月 17 日	1	680
高森東地区防災講座	地区 SBL と連携し地域住民を対象に、連合町内会推奨の在宅避難への理解促進を目的として民間企業の公民館講座を活用、防災講座を実施した。	6 月 2 日 6 月 9 日 6 月 16 日	3	38
高森地域懇談会	地域の教育施設連絡会とセンターまつり実行委員会の参加者を対象に、センター事業や施設運営に対する意見集約を目的とした懇談会を実施した。	6 月 29 日 10 月 1 日	2	18
市民企画会議「子育て応援講座を考えよう」	地域住民を対象に企画委員を募集し、子育て中の方を対象に実施したアンケートをもとに、子育て中の母親が気軽に参加し交流できる講座を企画し、9 月と 10 月に実施した。	5 月 10 日 6 月 29 日 9 月 6 日 10 月 13 日	4	8

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

高森小学校への「読み聞かせボランティアサークル」のコーディネート

令和 4 年 9 月に、高森小学校より児童の「引き渡し訓練」時に、防災についての話と読み聞かせを行いたいので「読み聞かせボランティア」を紹介してほしいと連絡があった。（全学年対象希望）

高森地域の読み聞かせサークルに話をしたが、日程調整と人数の確保が難しいとの回答であったため、市民センターのネットワークを活用し、近隣の地域で活動している読み聞かせサークルに声掛けを行い、寺岡地域で活動している読み聞かせサークルを高森小学校にコーディネートすることができた。このことにより、当市民センターの管轄地域外の団体ではあったが、近隣で活動する読み聞かせボランティアサークルの活動支援に繋げることができた。

松陵市民センター

〔沿　革〕

松陵市民センターは、平成 2 年、泉区の北東に位置する松陵ニュータウンの住宅地に開館した。松陵・永和台・歩坂町・山の寺・向陽台・明石南の 6 つの町を担当エリアとし、県民の森をはじめ、豊かな自然と緑に恵まれた地域に立地している。子どもの減少により、松陵地区では平成 25 年に 2 つの小学校が統合されるなど全般的に少子高齢化が進んでいる地域であるが、当市民センターは地域における生涯学習の拠点として市民に親しまれる事業を展開し、地域コミュニティづくり、交流の場として地域住民に広く活用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	松陵の丘つながるプロジェクト		
参加者	地域活動団体代表の方々	**延参加者**	53 名
開催日	全 5 回　　令和 4 年 4 月 26 日（火）～令和 5 年 3 月 16 日（木）		
協力者・協力団体	まちづくり推進部泉区中央市民センター		
ねらい	サロン運営担当者の情報交換や研修会の機会を継続して提供することにより、担当者の負担軽減や将来地域を担う人材の育成を目指し、市民センター事業として地域住民とともに協働して取り組んでいく。		
概要・成果	令和 3 年度末に完成し、令和 4 年度から地域に配布したサロン紹介パンフレットとその所在を示す「お出かけマップ」はそれぞれの実施場所や地域のクリニック、民生委員・児童委員の方、また地域の高齢者福祉施設等に配置し周知を図った。結果としてそれぞれの「高齢者サロン」の詳細がわかり、利用者が増加したとのお声がサロン運営者から寄せられた。また、パンフレットを作成していない近隣のサロン運営者から次年度から参加したいとの申し出も出てきている。サロン利用者の口コミ等により今回のパンフレット、マップの有効性は確実に上がっている。地域のサロン運営者の情報交換の場として日常の悩みやサロン同士の繋がりとなるために継続してこの事業を行っていく。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
家族で学ぼう	児童が保護者と一緒に体験できる学習機会を提供するため、えっぐクラフト、はしごくだり工作、サイエンスショー、ウィンターコンサートを行った。	7 月 23 日 9 月 3 日 12 月 24 日 1 月 28 日	4	64
子どもゼミナール～教えて高校生～	高校生が講師となり、部活動や普段の生活で得ている経験や知識を小中学生に教えて体験してもらうことで、近未来の高校生活への不安解消の一助とすべく、弓道体験、ダンス体験、科学実験を実施した。	7 月 23 日 10 月 10 日 10 月 15 日	3	19
ゆったり学びカフェ	誰でも気軽に参加できる講座を開催し、地域住民に学びの機会を提供することを目的に、朗読会、オカリナコンサート、操体法、ニュースポーツ体験（カローリング、ペタンク）を実施した。	6 月 18 日 7 月 2 日 9 月 22 日 10 月 8 日	4	103
身近な「県民の森」新たな発見	県民の森を散策しての自然観察会を春と秋に実施した。様々な種の生存方法等、特定の目的に沿って実際の動植物を観察することにより、松陵地区の近隣にある県民の森が有している資源の豊かさを知る機会とした。	5 月 21 日 10 月 27 日	2	22

さくっと！まるごと健康生活	高齢者を対象に、介護予防の観点から軽体操や口腔ケアについての講座を地域包括支援センターと共催で実施した。	6月3日～7月15日	6	61
松陵シニアカレッジ	高齢者を対象に教養、文化、健康など様々なテーマで講座を実施し、受講生の教養を高めるとともに、生きがいづくりや仲間づくりに繋げた。	5月27日～2月17日	9	313
松陵シニアカレッジⅡ	松陵シニアカレッジを受講希望していたが選外となってしまった方を対象に、教養、文化、健康など様々なテーマで講座を実施し、学習していく中で、生きがいづくりや仲間づくりに繋げた。	9月9日～2月10日	6	88
出前講座	向陽台中学校区へ出向き出前講座を行うことで学びの場を広げた。尺八コンサートとコミュニケーションに関する心理学の講話を行った。	10月29日 2月9日	2	58
●みんなの力で地域防災・減災	従来の災害に加え、コロナ禍での避難所運営を主とした講座を企画。専門家であるｿﾅｴ防災研究所に講師を依頼し、行政との連携も進めた。	8月27日	1	16
第31回松陵ふれあいコンサート【WEB】	参加学校、団体同士が演奏や合唱を聴き合い、それぞれの演奏姿や立ち振る舞いなどを間近で見て学びに繋げた。また当日の様子をYouTubeにて公開予定だったが著作権の関係で断念した。	11月19日	1	40
【中止】松陵ふれあい合唱	地域の児童から大人までが高校生と共に合唱練習を行い、松陵ふれあいコンサートで披露することを目的としていたが、市内の感染状況が高止まりしており、実行委員会での話し合いの末、中止を決定した。	―	―	―
第33回松陵市民センターまつり	地域住民や市民センター利用団体の活動成果の発表の場として開催し、それぞれの団体の活動や地域住民の交流の活性化に繋げた。	11月12日 11月13日	2	500
地域懇談会	地域の様々な課題等を共有し、町内会等の団体と情報交換を行うとともに、松陵市民センターの事業や施設運営について理解を深めてもらう機会とした。	5月17日 1月15日	2	49

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダー「みちのく松陵」への活動支援

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響で地域行事が行えず、結果としてJLへの依頼は少なかった。そのような困難な状況下でも「みちのく松陵」と「パズル鶴が丘」との合同定例会の開催を図り、ゲーム研修会などを重ねることによってお互いの親睦を深めるとともにスキルアップに繋げることができた。

また、インリーダー研修会や市民センター主催事業での講座サポートとして入ることで、研修会や事業へジュニアリーダーのスキルを活かすことができた。年度末に実施された定例会では、一人一人が一年間の反省点を述べる等これまでの振り返りを行い、それぞれの経験を共有することができ、個々の成長へとつながった。今後も新型コロナウイルス感染症の影響により、制限がある中での活動になることが多くなると予想されるが、その時々の状況に合わせ満足のいく活動内容となるよう支援を行っていく。

寺岡市民センター

〔沿　革〕

寺岡市民センターは、泉区北西部の大規模団地「泉パークタウン」の西部に位置し、緑豊かな自然が残る寺岡・紫山地区が担当地域である。

寺岡地区は、昭和 53 年より宅地造成され、団地としては成熟しており、高齢化が進んでいる。一方、紫山地区は、平成 6 年より宅地造成され、若い世代を中心に住民も年々増加しており、寺岡地区とは対照的な年齢構成になっている。団地周辺には宮城県図書館をはじめ、宮城大学や仙台白百合学園などの文教施設があるほか、平成 20 年には大型商業施設がオープンし、週末や休日には遠方からも人々が集まり賑わっている。また、第 6 期宅地（朝日地区）の開発が進み住宅地が広がっていることから、今後もますます発展と活性化が期待される地域である。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	寺岡・紫山地域魅力づくりプロジェクト　「めざせ！みんなが楽しい街づくり！2022」		
参加者	地域住民	**延参加者**	332 人
開催日	全 6 回　　令和 4 年 5 月 15 日(日)～12 月 18 日(日)		
協力者・協力団体	寺岡連合町内会、紫山連合町内会、寺岡小学校、寺岡中学校、寺岡小学校子ども会育成会、寺岡小学校学校支援地域本部、寺岡おやじの会		
ねらい	管轄する寺岡・紫山地域は新興開発団地であり、全国各地から移住した住民が多いため、地域内住民の結びつきは必ずしも強いとは言えない。また寺岡地域と紫山地域の開発時期が異なり住民の年代構成も違うため、相互の地域間交流は盛んとは言い難い。 そこで、地域づくりに熱心な地域の人材を活用したり、地域内諸団体と連携したりすることで、すべての地域・すべての世代を巻き込み、住民が楽しく交流し、地域が活性化することを目的とする。		
概要･成果	朝日地区ハイキング、七夕飾りの製作、出前講座、作品展の各講座を実施した。 ハイキングは転入してくる朝日地区の住民と寺岡・紫山地域住民との交流が円滑に進むよう、同地区への理解を深め親近感を得るよう開催し、所期の成果をあげた。大勢の子どもたちの参加により製作した七夕飾りは、地域の夏祭りで飾り、地域住民から好評を得た。出前講座では地域内の 3 つの集会所で脳トレゲームを行い、高齢者から子どもたちまで参加し、異世代で交流する様子が見られた。作品展には地域内のたくさんの方が見学に訪れ、作品への感想などで会話が弾み、作品展をきっかけに知縁が広がった。各講座を通じ、住民同士の活発な交流と地域の活性化が十分に図られた。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
親子の広場	コロナ禍で集まる機会が少なくなった子育て世代の交流を深めてもらうため、寺岡児童センターとともにリトミックやベビーマッサージ、人形劇の講座を開催した。	6 月 23 日 9 月 15 日 12 月 21 日	3	53
子ども体験塾	小学生を対象に、学校だけでは学ぶことのできない科学実験や工作、手話講座を開催した。	8 月 9 日 8 月 20 日 12 月 10 日 2 月 18 日	4	29
伝統行事にふれてみよう！	デジタル化社会の進展によって、昔ながらの伝統行事に参加することが少なくなっている子どもたちに、七夕やひな祭りなどの日本の伝統行事について学習、体験できる講座を開催した。	6 月 25 日 2 月 4 日	2	17

寺岡・紫山元気アップ講座 ～地域の達人から学ぼう～	地域在住の様々な分野について精通している地域人材を活用し、住民同士が交流しながら学習する場を提供することにより、豊かで充実した生活を送るきっかけづくりとなった。	7月13日 7月27日 1月13日 1月27日	4	20
寺岡地域包括支援センター共催事業	住民同士が気軽に情報交換や交流ができるよう、ふるさとをテーマにした出前交流会と懐メロをテーマに YouTube を利用した交流会を寺岡地域包括支援センターと共催で開催した。	10月4日～ 2月10日	5	28
老壮大学「多聞塾」	地域の歴史、沖縄の文化、住いの安全対策、腰痛予防、軽運動と脳トレ、ディスコン体験、フルートコンサート、受講生企画（16㎜フィルム上映会・マジックショー・マンドリンコンサート）を行った。	5月12日～ 12月1日	8	356
★めざせ！安心・安全なまちづくり～防災・防犯力を身につけよう！～	地域住民の防災・防犯意識の高揚を図るため、交通安全、防災・減災、インターネット犯罪被害防止に関する講座を開催した。	7月14日 8月28日 9月17日 11月17日	4	263
寺岡・紫山市民文化祭	市民センター利用団体に成果発表の場を提供すると同時に、住民同士の交流と地域の活性化を目指し、展示発表・ステージ発表・産直品販売を行った。	10月2日	1	600
寺岡・紫山地域懇談会	地域諸団体との意見交換の場として開催し、市民センターに対する意見・要望の収集や地域情報・地域課題を共有した。	6月5日 9月4日 1月22日	3	73
寺岡小学校社会学級共催事業	「寺岡地域の高齢化が進み、健康への関心が高まっている」という声を受け、寺岡小学校社会学級と共催で骨粗鬆症についての講座を企画・実施した。企画講座では骨密度の測定等の体験や健康講話を行い、健康寿命の大切さを知るとともに受講生の学びへの意欲向上にも繋がった。	5月26日～ 11月11日	5	40

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

老壮大学から生まれたサークルの活動支援

令和４年度「老壮大学　多聞塾」の第３回では、ユニバーサルスポーツ「ディスコン」を受講生に体験してもらった。老若男女、障がいのあるなしに関わらず楽しめるスポーツ「ディスコン」の体験は、３人で１組のチーム戦で大変盛り上がり、「1回だけではなく、もっと継続してやってみたい」という声が複数の受講生からあがった。講座終了時のアンケートでも活動の継続を望む声が 20 名ほどあったため、講師に必要事項を確認し、そのままサークル発足の準備に取り掛かった。その後、代表者も世話人もすんなり決まり、すぐにサークル活動の開始となった。

市民センターでは、会場の使用方法や予約、利用者登録、減免登録等について少しずつ説明を重ね、代表者の方との複数回の話し合いを持つなどの活動支援を細やかに行い、現在は、会場の予約からすべて自分たちで行える自主サークルとして、順調に活動している。

たった１回の体験からサークルが誕生した珍しい事例ではあるが、受講生の声をリアルタイムで拾い集め、速やかに次のステップにつなげられたことで、高齢者の新たな生きがいづくりや仲間づくりにつなげることができた。

長命ケ丘市民センター

〔沿　革〕

長命ケ丘市民センターは平成５年４月に泉区10番目の市民センターとして開館し、町内会や地域で活動している団体、地域のサークルを中心に利用していただいている。近年、地域同様センター利用者やサークルメンバーの高齢化等の影響により、利用団体・サークル活動の縮小・組織の解散が散見される。

長命ケ丘市民センターでは、少子高齢化という地域課題に対して幅広い年齢層の支持と参加を得ながら、サークル活動はもとより地域の生涯学習活動の拠点としてその役割と機能を大いに発揮できるように講座や事業内容の改善に努めている。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業　◎地域力創造支援事業］

〔特色ある事業〕

事業名	三館共催子育て支援事業		
参加者	乳幼児と保護者	延参加者	70人
開催日	全3回　　令和4年6月15日（水）、9月29日（木）、11月30日（木）		
協力者・協力団体	長命ケ丘保育所地域子育て支援センター・長命ケ丘児童センター		
ねらい	少子化やコロナ禍による活動制限等により子育て世代の孤立や不安感が懸念されている。子育て講座では、地域内の子育て支援機関である保育所・児童センターと共催することで、それぞれの特徴を生かした講座運営を行い、親子が楽しく安心して参加でき、親子の絆を深めたり、親同士の仲間づくりができたりするように支援する。		
概要・成果	「わくわくあそびのひろば」「ちびっこわくわくタイム～音であそぼう」「わくわく運動あそび～サッカー教室」をそれぞれの機関が特徴を生かして企画し、三館が共同で講座運営にあたった。 参加した子供たちは、家とは違った広い空間にて同年代の子供同士でのびのびと動き回ったり歓声を上げて喜んだりする姿が見られた。また、子育て中の母親同士が情報を交換したり、関係機関職員に子育てについて質問したりする姿も見られ、育児に関する知識を深めることもできた。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
フレンドスクール	異世代や他学年との交流を目的に、ミニ七夕作り、蒔絵体験、土星・木星観察、陶芸を行い、子供たちの健やかな成長と親子参加による絆を深める場をめざした。	8月3日 10月15日 11月19日 1月21日	4	80
インリーダー研修会	子ども会育成会と共催し、充実した研修と顔の見える関係の構築をめざした。自分の考えをまとめて発表したり、指導を通して子供たちと世話人が一緒にゲームで交流を図ったりした。	12月18日	1	31
長命大学	歴史や音楽、健康体操やサイエンスショー等、様々なジャンルの学習を提供し生きがいづくりに繋げた。また、講座受講をきっかけに社会との接点を持ち、地域で楽しく暮らすための支援をめざした。	5月19日～ 12月15日	7	218
長命短期大学	コロナ禍により定員を絞って開催した老壮大学の受講希望者の受け皿として、①開かれた十里平②平家琵琶の雅な世界③英語落語④軽運動⑤お楽しみ会⑥口腔ケアと腹話術ショーの講座を補助的に開催した。	6月2日～ 12月1日	6	103

みんなでアップ！健康寿命	地域包括支援センターと地域にある仙台リハビリテーション専門学校と連携し、介護に関する手続きや介護予防について学び、軽運動や脳トレ等の実践指導を行った。	6月29日～9月21日	5	75
長命ケ丘コンサート	幅広い世代が音楽に親しみ、音楽を通して交流を深められる場を提供するため、①ピアノ、バイオリン、チェロのトリオ演奏②③泉館山高校吹奏楽部によるミニコンサートを児童センターと共催で実施した。	7月2日 11月3日	3	107
ロングライフヒルコミュニティ協議会との企画会	4月から準備を進めてきた7月の「学校に泊まろう」はコロナ禍で中止となった。11月の「餅つき体験会」は実施でき世代間交流やジュニアリーダーの活躍の場となった。	4月2日～1月7日	5	146
目指そう！災害に強い長命ケ丘	子供から大人まで地域ぐるみで防災意識を高め、地域防災に貢献することをめざして、防災会議、小学生の防災エンスショー、防災訓練研修会を実施した。	6月16日～11月29日	5	175
市民企画を経て企画する事業「地域のお宝・劇団愛の鐘、第1回公演を鑑賞しよう！」	企画会議のメンバーが収集した作品の中から劇団愛の鐘の第1回公演を上映した。鑑賞後は当時の苦労話等で盛り上がりつつ、コロナ禍により地域活動が低調になっている現状に対し、「地域に元気を取り戻そう」という地域活性化への思いを新たにする契機となった。	6月18日	1	28
長命ケ丘文化活動発表会（長命ケ丘市民センターまつり）	市民センターで活躍している団体等の活動成果発表および地域住民の交流の場として、令和4年度から「地域文化活動発表会」を開催した。コロナ禍により、展示とビデオ上映会のみを実施した。	10月8日 10月9日	2	168
長命ケ丘市民センター地域懇談会	地域の団体、関係機関、利用サークル、利用者との意見や情報を交換することで市民センターとして取り組むべき課題を把握したり、市民センターへの理解を高めたりした。	6月8日 2月3日	2	52
市民企画会議「長命ケ丘のお宝を発見しよう！」	これまで収集した長命ケ丘に関する動画や画像をもとに企画員が話し合いを重ね、40年間を振り返るビデオを作成、6月に鑑賞会を実施した。鑑賞会実施後は活動の振り返りと作成したビデオの今後の活用方法等について話し合いを行った。	5月21日～2月18日	5	29
サークル体験会	当センターを拠点に活動するサークルは会員数の減少などの課題を抱えている。そのため気軽に参加や見学ができる体験会を開催し、学びの提供と会員数の拡大、活動の活性化をめざした。	7月12日～11月9日	8	8

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダーサークルAMYYの活動支援

長命ケ丘地域では、近年、子ども会を離脱する家庭が増え、子ども会育成会のみでインリーダー研修会を開催することが難しくなっている。一方、令和2年度から長命ケ丘地区にジュニアリーダーサークル AMYY が立ち上がり、長命ケ丘地区全体として子供の活動を活性化させたいという機運が高まってきた。

令和4年度は、コロナ禍を経て各行事が復活し、ジュニアリーダーの要請が増えた。12月に長命ケ丘地区子ども会育成会と共催してインリーダー研修会を開催し、ジュニアリーダーが活躍する場をつくることができた。子供を取り巻く大人と市民センターが、顔の見える関係をつくることで、地域で子供たちが活躍する場面を増やす一助となった。

松森市民センター

〔沿　革〕

松森市民センターは平成 12 年 1 月、鶴が丘中学校区施設として泉かむり訪問看護ステーション（現在は移転）、コミュニティ防災センターと併設し、泉区内 11 番目の市民センターとして開館した。当市民センターは仙台市泉区の北東端に位置し、担当するのは、古くからの松森地区と昭和 40 年代から 50 年代にかけて開発された鶴が丘団地からなる地域である。

施設内は、バリアフリー仕様になっており、広々としたロビーのほか親子室・娯楽室・図書室を有し、市民活動室には印刷機が備えられ地域団体やサークル活動に寄与している。このような特性を生かしながら地域の生涯学習の拠点施設として開かれた親しみのある市民センターを目指している。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	複数年事業　ぶら松森		
参加者	成人	**延参加者**	54 人
開催日	全 4 回　　令和 5 年 2 月 4 日（金）、2 月 11 日（金）、2 月 18 日（金）、2 月 25 日（金）		
協力者・協力団体	―		
ねらい	地域内の豊かな「自然資源」「歴史資源」「文化資源」が意外に地域に暮らす人々に知られていない。これらのことについて学びを深めている「人材資源」を活かして，地域の魅力を発見・再発見する。さらに、地域の魅力の発信方法についても学ぶ。		
概要・成果	「地元学編」として昭和 30 年代の松森地区の暮らしについて、地元で生まれ育った方からお話しを伺った。「情報発信編」では、インスタグラムを使って写真や動画で松森地区の魅力を発信する方法について学んだ。複数年事業２年目である令和４年度は、地域講師を活用して、受講生が地域の魅力発見（または再発見）しただけに留まらず、世代や地域を超えて広く地域の魅力を発信することが可能なツールであるＳＮＳの活用方法についても学ぶことができた。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育てサロン「子どもの杜」	鶴が丘児童センター・鶴が丘保育所子育て支援室と共催し、子どもたちの健やかな育ちと保護者の育児支援を狙いとして「親子でサッカー」「羊毛フェルトで遊ぼう」「運動会ごっこ」を実施した。	6 月 7 日 7 月 12 日 11 月 10 日	3	72
ジュニアちゃれんじ 2022	小学生親子を対象に、鶴が丘児童センターとの共催で、宮城県表具内装業連合会技能士会の職人を講師に迎え、日本の伝統技術である屏風づくりの技術を使った「からくり丁番」を作成した。	1 月 21 日	1	40
地域の達人に学んでみよう！	「着物でつくるチュニック」と「革細工でフリーケースを作ろう」を実施した。地域の「学びたい人」と「教えたい人」をつなぎ、地域講師には学びの発表の場を、受講生には新しい学びや新しい住民同士のつながりを提供することができた。	9 月 21 日～ 11 月 29 日	5	46
市民企画会議	松森界隈は地域資源が豊富で、それに詳しい人材資源にも恵まれながら、地域住民には知られていない。これに問題意識を持つ人材を企画員として、住民の交流や地域への理解と愛着が深まり、地域の活性化に結びつくまち歩きを企画・実施した。	4 月 12 日～ 3 月 9 日	10	64

市民企画まち歩き講座「松森で熊野三山徒歩詣で――世界遺産と同じご利益！？」	氷室跡、薬師神社、大甕神社、斎藤産土美術館、松森城址、熊野神社、松森山清水寺を探訪するまち歩きを実施して、案内人が学びの成果を発表・還元し、受講者が地域への理解と愛着を深め、地域が活性化することを目指した。	11月11日 11月18日	2	30
城前大学	地域の高齢者が学習意欲を高め、交流を図り、健康で生きがいある社会生活を送ることを目的として、講談・落語・コンサート・歴史・認知症・操体法・食文化・栄養の講座を全8回で実施した。	5月19日～ 2月16日	8	354
まつもり健康講座	コロナ禍でのフレイル予防と、高齢化に対応できる地域作りを目的として、「脳トレとリズム体操」「ヨガ・チェアバレトン」「足つぼ健康法」などの実技と、健康知識の座学「口腔ケア・栄養講座」を実施した。	5月26日～ 1月26日	8	92
地域におじゃまします！in鹿島～復活！ワンコインお茶会特別バージョン	松森地域包括支援センター等と共催・連携し、鹿島地域の高齢者の健康と元気を応援する講座を開催して居場所作りを図り、健康寿命の増進を目指し、「足つぼ健康体操」「ヨガ体操」「指ヨガ・目ヨガで健康に」を実施した。	5月18日 7月20日 10月19日 11月16日	4	25
松森市民センターまつり	地域交流の場と地域の活性化につなげる事を目指し、市民センターで活動するサークルの学習発表の場として、舞台発表、展示発表などを実施した。	10月16日	1	400
命をつなぐ防災講座	防災・減災に取り組んでいる専門家を招き講座を実施することで、知識・理解を深めるとともに、いざという時の自分や家族の行動、避難方法などを話し合っておくことで、地域での防災への意識を高める機会とした。	6月17日 6月24日	2	89
松森・鶴が丘地域懇談会	館として、運営や事業企画に反映させるため、交流の場と機会を提供し、地域課題や市民センター活動に対する意見・要望・評価等を住民から収集した。また、施設利用の案内や主催講座の周知等を行い、センターへの理解を深めていただいた。	1月13日 2月16日	2	47
松森ハートフルタイム	交流拠点として誰もが気軽に参加できる講座（講談で知る宮城の人物～鬼小十郎見参～片倉小十郎重綱、素ばなしを楽しむ～大人が楽しむおはなし会、本の譲渡会、PWOクリスマスコンサート、役に立つ暦のはなし）で地域の結びつきを深めた。	6月24日～ 12月21日	5	329
認知症カフェ「ぽっカフェ」	講話や実技（終活～相続・遺言、高齢者施設、人生会議・身元保証、今どきのお葬式、ボッチャ大会、栄養セミナー、福祉用具体験会、認知症サポーター養成講座、認知症当事者講話、フレイル予防運動、介護保険制度）と座談会を開催した。	4月27日～ 3月29日	12	151

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

図書ボランティアへの支援

松森市民センターでは図書ボランティアの毎月の定例会と活動全般を支援している。令和4年度は子育てサロン「子どもの杜」と城前大学の講座開講時に図書室の臨時開室を行い、講座受講者の関心が高そうな本をカートでロビーに持ち出して PR したり、絵本コーナーのレイアウトを検索しやすく変更したりする等の活動を行った。これにより、図書室利用者が増加し、ボランティア活動のさらなる充実に繋がった。

ジュニアリーダー「パズル鶴が丘」への支援

松陵市民センターと合同定例会を開催し、ゲームやダンスやバルーンアートなどの研修を行って、子ども会や児童センターなどからの要請にいつでも対応できるよう支援した。

桂市民センター

〔沿　革〕

桂地区は仙台市の北西部に位置し、緑に囲まれた住宅と高層マンションで構成される新興住宅団地であるが、開発から30年以上経過し、徐々に高齢化が進みつつある。また、将監地区は昭和40年代に開発された歴史の古い団地で年々高齢化が進んでいる。桂市民センターは、この両地区を受け持っている。

当市民センターは児童センターとの併設館であり、利用者の年齢層は乳幼児から高齢者までと幅広い。平成13 年 12 月の開館以来、これらのさまざまな年齢層の地域住民と地域団体を意識した事業を展開し、生涯学習の拠点を目指して取り組んでいる。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	複数年事業　かつら情報局		
参加者	地域の方どなたでも	延参加者	113 人
開催日	全 11 回　　令和 4 年 4 月 23 日（土）～令和 5 年 3 月 5 日（日）		
協力者・協力団体	桂連合町内会、桂小学校 PTA、桂小学校区子ども会育成会、桂地区社会福祉協議会、桂学区民体育振興会、桂と～さんず、桂小学校学校支援地域本部、桂音頭を踊り隊、まちづくり推進部泉区中央市民センター		
ねらい	桂地区では交流機会の減少による地域活動の停滞や、情報伝達等に関する課題が現れている。桂連合町内会を始めとする地域諸団体と連携しながら幅広い世代が地域活動に参加できる取組を行い、地域貢献に関心の高い人材育成を図り、地域住民同士のつながりの促進と地域コミュニティの活性化を目指す。		
概要・成果	企画会では地域諸団体における地域活動と情報伝達の現状と課題の共有を行い、情報講座や地域団体と連携した講座を企画した。 広く地域住民の情報力向上を目指すために、同じ内容を 2 回開催した初心者向けスマホ講座「賢く使おうスマートフォン～買い物編～」と、桂地区社会福祉協議会と連携した講座「アロマテラピーでくらしに香りを　ハンドクリームづくり」を実施した。講座では企画員が講師補助としての役割を担いながら地域住民同士の交流を深め、地域団体間のつながりの強化や地域貢献活動に関心の高い人材育成を図ることができた。 また、市民センターロビーを活用した情報発信「かつら自遊空間」の利用方法について整備し、運用を開始した。地域住民の作品展示の機会となり、地域における活動の促進につながった。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
桂の森のキッズランド	桂児童センター、桂地区子育て支援委員会、幼保連携型認定こども園桂こどもの城と共催して、乳幼児親子等を対象に参加型童謡コンサートを実施した。	9 月 15 日	1	70
桂ジュニアカレッジ	小学生を対象に感性と社会性の育成を目的として、さつまいもの苗の植え付けから収穫及び調理、7 月に水遊び、11 月には焼きいも会、2 月には工作を実施した。	5 月 14 日～2 月 18 日	5	141
桂でチャレンジお正月遊びをたのしもう	市民企画会議で桂地区に住む小学生の企画員が考えた、羽根つき・福笑い・坊主めくりなどの正月遊びを実施した。	1 月 7 日	1	30
桂友くらぶ（老壮大学）	高齢者を対象に、歴史・健康・音楽観賞など様々なジャンルの講話や実技を実施した。	5 月 12 日～2 月 9 日	9	309

≪泉区≫

防災・減災を学ぼう	地域住民を対象に、仙台市防災減災アドバイザーによる講話「備えと避難・在宅避難の判断」、インクルーシブ防災をテーマとして机上検討の防災訓練を実施した。	7 月 9 日 10 月 1 日	2	70
桂音楽会	地域での幅広い世代の交流を目的に「フルートとピアノの調べ」コンサート、ジャズコンサート、ジュニアリーダーの司会進行による児童センターベルクラブとギターサークルのコンサートを実施した。	6 月 18 日 11 月 5 日 3 月 18 日	3	101
桂文化祭	市民センター利用サークルのステージ発表、作品展示、児童センターまつり、桂文化祭へ向けて桂小学校の児童が制作した作品の展示会を実施した。	10 月 15 日 10 月 22 日 10 月 23 日	2	638
桂地域懇談会	懇談会を通して各団体の活動情報や地域課題、住民の状況、地域資源等について意見交換を行い、得られた情報を活用して各団体の連携を深め、市民センターの業務改善に努めた。	6 月 25 日 2 月 18 日	2	22
桂小学校区社会学級連携事業企画会	桂小学校区社会学級と連携した企画会を行い、地域住民が楽しく健康維持を続けられる講座として、身近な食品である「七味」についての講話と製作体験を企画・実施した。	7 月 7 日～ 11 月 16 日	6	32
市民企画会	桂地区に住む小学生の企画員が異年齢交流・地域交流を目的として、子どもたちと地域の方たちが一緒に楽しめるイベントを企画し、1 月にお正月遊びを楽しむ講座を実施した。	6 月 25 日～ 1 月 7 日	10	37

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダー「将監くれよん」の活動支援

ジュニアリーダー「将監くれよん」は、歴史あるサークルであったが登録者が減少し、令和 4 年度当初は実質１名の活動になった。そこで市民センターでは、ジュニアリーダーの自主性や考えを尊重しながらも、近隣のジュニアリーダーとの合同定例会を実施し、ジュニアリーダーの活動が活性化するようにサポートをした。それによりジュニアリーダーとしての技術向上とジュニア同士の交流を図ることが出来た。また、研修や様々な要請にも積極的に参加することで経験を積むことが出来た。2 月には新メンバーが加入し活動が広がりつつある。さらに活性化するように今後も支援して行く。

南中山市民センター

〔沿　革〕

南中山市民センターは、平成 15 年 3 月をもって閉館した「泉中高年齢労働者福祉センター（サンライフ泉）」の建物に改修を行い、平成 15 年 11 月 13 日に開館した。敷地内にはコミュニティ防災センターを併設している。

当市民センターのエリアは、南中山、北中山、西中山の 3 地域であり 2 連合町内会、16 町内会がある。地域の活動拠点として、地域団体やサークルなどに広く活用されている。令和 3 年 11 月から大規模修繕を行い、令和 4 年 12 月に再開した。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	地域いきいき「いずみ中山ふれあいプロジェクト」		
参加者	地域住民	延参加者	80 人
開催日	全 8 回　　令和 4 年 4 月 21 日（木）～2 月 21 日（火）		
協力者・協力団体	南中山地域包括支援センター、泉区中央市民センター、南中山連合町内会、北中山連合町内会、西中山町内会、トト ライティング		
ねらい	コロナ禍でも心身の健康を維持し、住民同士が触れ合える場を作るためにどうしたらよいかをテーマに話し合いを行い、健康づくりに役立つマップの作成を行うことにした。南中山地域包括支援センターと共催し、地域資源や人材情報の収集、マップ作成に関するノウハウなどを学びながら、地域を見つめ直し、新たな人材の発掘と地域の関係機関とのネットワークを構築していく。		
概要・成果	いずみ中山地域は、南中山、北中山、西中山の 3 つに分かれており、マップを作成するうえで地域ごとの特性や資源を知るために各地域のウォーキングを令和 2 年度から行っている。 令和 4 年度は、西中山町内会の役員や民生委員を務めている方に案内をしていただき、西中山地域のウォーキングを行った。また、熊野神社を訪問し、神社の由緒や地域の歴史を学ぶとともに、歴史ボランティアガイドからも地域の歴史を学んだ。 地域の方を講師に迎えたことで、新たな人材発掘に繋げることができた。また、講師を務めた方が、その後もプロジェクトのメンバーとして参加していただいたことで、ネットワークも広がった。 新型コロナウィルス感染症の影響で活動が制限されていた中でも、延べ 80 名の方に参加していただき、年度末に「おさんぽ MAP」を完成させることができた。		

〔令和４年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
おやこほっとタイム	南中山児童センター・北中山児童センターとの共催で子育て中の親子を対象に、楽しみながら子育てができるよう学びの場と支援を提供するためリトミック・おやこヨガを開催した。	6 月 17 日 9 月 16 日	2	29
こどもワンダークラブ	地域児童の健やかな成長を目的として、卵のカラを使った工作や JL と体を動かして遊ぶ等の体験活動を行い、学校や学年の枠を超えて、ともに学び交流した。	1 月 28 日 2 月 18 日	2	26
まなびねっと「いずみ中山」交流事業	まなびねっと「いずみ中山」推進委員会で企画し、いずみ中山地域の親子に、自然活動や伝統行事に触れる体験学習の機会を提供するため､門松作り体験、雪山で遊ぼうを開催した。予定していた川遊び講座は大雨のため中止とした。	5 月 14 日～ 3 月 18 日	8	108

地域防災講座	当地域においての防災意識を高め、防災減災に繋げるため、南中山連合町内会、南中山地区社会福祉協議会と連携し「洪水土砂災害対策」をテーマとした防災講座を開催した。	8 月 27 日	1	15
市民企画講座「行こうよ！南中山市民センター」	休館していた南中山市民センターの再開を、地域の方々に広く知ってもらうとともに、市民センターを身近に感じていただけるよう地域に根差したイベントとして、昔遊び、南中山太鼓、南中山中学校吹奏楽部による演奏等を行うオープニングイベントを開催した。	12 月 10 日	1	106
地域懇談会	「学びを通した人づくり」「地域づくりにつながる人づくり」の観点から事業や地域と学校とのつながりについて意見交換や情報交換をおこなった。	2 月 16 日	1	6
いずみ中山市民企画会議	大規模修繕工事のため休館していた市民センターが 12 月に開館となるため、市民センターが住民同士の交流の場となるようまた、集いの場所として身近に感じられるようオープニングイベントを開くことについて企画会議で話し合った。	5 月 12 日 7 月 7 日 10 月 13 日	3	9

〔令和４年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

図書ボランティア「虹」への活動支援

図書ボランティア「虹」は、平成 30 年度に開催された「図書ボランティア養成講座」から生まれたボランティアサークルであり、現在 8 人が活動している。貸出業務のほか、新たに購入する本の選書やイベント展示、修繕なども行っており、月に 1 回行われる定例会の準備や、活動日の調整、本の購入など活動の支援を行っている。

令和 4 年度は大規模修繕工事による休館のため活動が制限されたが、話し合いや情報交換が続けられるよう、集会所を借りるなどの支援も行った。

工事完了後には、本の整理や図書配置、月ごとのイベント展示など、地域の方に喜ばれるよう利用者の立場にたった図書室の環境づくりに力を入れた。再開した現在では、従来の利用者だけではなく、新規の登録者も増え、地域の方との積極的な交流への後押しができた。

Ⅳ　資　　料

1　市民センターの予算

＜歳　出＞

〔市民センターにかかる経費〕

単位：千円

		令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(決算)	令和4年度(決算)	令和5年度(予算)
地域社会教育事業費(※)		618,941	631,927	615,234	628,739	663,657
市民センター施設費	運営管理	1,408,638	1,467,930	1,437,487	1,476,628	1,637,275
	施設整備・改築等	674,716	108,882	1,571,724	867,607	805,096
合　計		2,702,295	2,208,739	3,624,445	2,972,974	3,106,028

※地域社会教育事業費　内訳

単位：千円

		令和元年度(決算)		令和2年度(決算)		令和3年度(決算)		令和4年度(決算)		令和5年度(予算)	
		拠点館	地区館	拠点館	地区館	拠点館	地区館	拠点館	地区館	拠点館	地区館
各種講座等	家庭教育推進	257	2,696	55	1,577	72	1,926	84	1,934	70	2,574
	青少年健全育成	730	2,318	556	2,132	666	2,505	739	2,487	918	2,298
	成人学習振興	339	3,136	352	2,528	409	3,027	367	3,191	335	3,108
	高齢者学習振興	492	6,187	326	6,547	369	6,464	353	6,460	549	5,754
	地域社会教育推進	2,029	6,768	1,258	4,599	1,376	5,168	1,419	6,070	2,884	6,279
	民間指導者育成		2,414		2,473		1,138		1,311		2,295
	学習情報提供	188	27	339	0	149	0	74	0	154	334
	学びを支える人材育成	1,936		1,663		1,896		2,135		2,789	
	若者社会参画型学習推進	1,412		1,085		1,058		1,342		1,479	
	住民参画・問題解決型学習推進	1,777		1,582		1,720		1,903		2,287	
	学びのまち仙台市民カレッジ	513		307		522		475		888	
	子ども参画型社会創造支援	1,401		1,448		1,324		1,464		1,711	
	障害者学習講座開設	278		116		201		356		425	
	市立高等学校開放講座開設	158		68		199		195		200	
	小　計	11,510	23,546	9,155	19,856	9,961	20,228	10,906	21,453	14,689	22,642
学習情報提供（システム運営管理等）		32,568		17,616		18,183		17,768		17,581	
その他		13,993	537,324	14,846	570,454	14,622	552,240	14,610	564,002	13,651	595,094
合　計		58,071	560,870	41,617	590,310	42,766	572,468	43,284	585,455	45,921	617,736

＜歳　入＞

単位：千円

	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(決算)	令和4年度(決算)	令和5年度(予算)
市民センター使用料	151,018	125,525	123,634	146,991	164,065

２　令和４年度 市民センター職員数

（令和4年4月1日現在）

部分は嘱託職員　　内部で兼務　　外部と兼務

青葉区

		区役所・教育委員会											(公財)仙台ひと・まち交流財団									
	職名 / 館名	センター長	センター次長兼係長	主幹兼係長	係長	主査 社会教育主事	主査 主査	総括主任・主任	主事	正職員以外 専門員	正職員以外 会計年度任用職員	合計	館長（常勤嘱託）	事業職員 係長	事業職員 主任	事業職員 係員	常勤嘱託職員 主任	常勤嘱託職員 係員	非常勤嘱託職員	臨時職員	合計	総計
1	青葉区中央	1		1		3		3		2	1	11	1			3	1	2	1	1	9	20
2	柏　木												1			3		1	2		7	7
3	北　山												1			2		2	3		8	8
4	福　沢												1		1	2		1	1	1	7	7
5	旭ケ丘												1			2	1	1	2		7	7
6	三本松												1			3		1	1		6	6
7	片　平												1		1	2		1		1	6	6
8	水の森												1		1	2		1	1		6	6
9	貝ケ森												1		1	2		1	2		7	7
10	中　山												1			2		1	2	1	7	7
11	折　立												1		1	2		1	1		6	6
12	木町通												1			3		1	2		7	7
13	広　瀬												兼1		1	2		1		1	5	5
14	宮城西												1		1	2		1	1		6	6
15	大　沢												1		1	3			1	1	7	7
16	落　合												1		1	2		1	1		6	6
17	吉　成												1		1	2		1	1		6	6
	小　計	1	0	1	0	3	0	3	0	2	1	11	16	0	10	39	2	18	22	6	113	124

宮城野区

1	生涯学習支援	1	1		1	4		3	2		3	15	1			2		2	1	2	8	23
2	宮城野区中央	1			1	3		1			2	8	兼1	1		3		1			5	13
3	高　砂												1		1	3		1	1		7	7
4	岩　切												1			3		1	1		6	6
5	鶴ケ谷												1			2		2	1		6	6
6	榴ケ岡												1		1	2		1	1	1	7	7
7	東　部												1		1	2		1	1		6	6
8	幸　町												1		1	3			1	1	7	7
9	田　子												1			3		1	1		6	6
10	福　室												1			2		1	1	1	6	6
	小　計	2	1	0	2	7	0	4	2	0	5	23	9	1	4	25	0	11	9	5	64	87

若林区

1	若林区中央	1			1	2	1	1		1		7	兼1	1		2		2			5	12
2	七　郷												1			3		1	1		6	6
3	荒　町												1		1	2		1	1		6	6
4	六　郷												1		1	3			1	1	7	7
5	若　林												1		1	2		1	1		6	6
6	沖　野												1		1	2					4	4
	小　計	1	0	0	1	2	1	1	0	1	0	7	5	1	4	14	0	5	4	1	34	41

太白区

	館名＼職名	区役所・教育委員会											(公財)仙台ひと・まち交流財団									
		センター長	センター次長兼係長	主幹兼係長	係長	主査		総括主任・主任	主事	正職員以外		合計	館長（常勤嘱託）	事業職員			常勤嘱託職員		非常勤嘱託職員	臨時職員	合計	総計
						社会教育主事	主査			専門員	会計年度任用職員			係長	主任	係員	主任	係員				
1	太白区中央	1			1	3		2			1	8	兼1	1		2		2			5	13
2	生出												1			3		1	1		6	6
3	中田												1			2	1	1	1		6	6
4	西多賀												1		1	2		1	1		6	6
5	八本松												1			2		2	1		6	6
6	八木山												1		1	2		1	1		6	6
7	山田												1			3		1		1	6	6
8	茂庭台												1		1	2			1	1	6	6
9	東中田												1		1	2		1	1		6	6
10	柳生												1		1	2			1	1	6	6
11	富沢												1			3		1	1		6	6
12	秋保												1		1	4			1	1	8	8
13	馬場												兼1		兼1	兼4			兼1	兼1	0	0
14	湯元												兼1		兼1	兼4			兼1	兼1	0	0
	小計	1	0	0	1	3	0	2	0	0	1	8	11	1	6	29	1	11	10	4	73	81

泉区

1	泉区中央	1		1		3	1			1	1	8	1			3	1	1	2	1	9	17
2	根白石												1		1	1		2	1		6	6
3	南光台												1		1	2		1	1		6	6
4	黒松												1			2		2	2		7	7
5	将監												1			3		1	1		6	6
6	加茂												1			4				1	6	6
7	高森												1			3		1		2	7	7
8	松陵												1			3		1	1		6	6
9	寺岡												1		1	2		1	1		6	6
10	長命ケ丘												1			3	1	1		1	7	7
11	松森												1			3		1	1		6	6
12	桂												1		1	2		1	1		6	6
13	南中山												1			2					3	3
	小計	1	0	1	0	3	1	0	0	1	1	8	13	0	4	33	2	13	11	5	81	89

総　計

	職名	区役所・教育委員会											(公財)仙台ひと・まち交流財団									
		センター長	センター次長兼係長	主幹兼係長	係長	主査		総括主任・主任	主事	正職員以外		合計	館長（常勤嘱託）	事業職員			常勤嘱託職員		非常勤嘱託職員	臨時職員	合計	総計
						社会教育主事	主査			専門員	会計年度任用職員			係長	主任	係員	主任	係員				
	計	6	1	2	4	18	2	10	2	4	8	57	54	3	28	140	5	58	56	21	365	422

３　令和４年度　主催講座の事業別実施状況

区名		青葉区														
館名 / 事業		青葉区中央	柏木	北山	福沢	旭ケ丘	三本松	片平	水の森	貝ケ森	中山	折立	木町通	広瀬	宮城西	大沢
家庭教育推進事業																
(例) 子育て講座 食育講座 子育てサロン おはなし会	講座数	2	0	1	1	1	0	0	1	3	1	1	1	0	1	0
	回数	5	0	9	4	1	0	0	4	8	3	4	3	0	4	0
	参加者数	188	0	82	52	44	0	0	18	119	21	80	50	0	89	0
青少年健全育成事業																
(例) ジュニアリーダーと遊ぼう インリーダー研修 体験講座	講座数	9	2	1	1	1	1	1	2	2	1	4	2	3	2	1
	回数	16	5	2	6	3	6	4	14	6	11	13	22	15	7	3
	参加者数	2,289	54	124	303	45	108	66	116	567	97	638	350	354	221	104
成人学習振興事業																
(例) 健康講座 市民企画講座	講座数	4	1	2	1	1	2	1	1	3	1	0	2	1	5	3
	回数	5	5	5	6	10	6	11	5	6	3	0	6	4	34	20
	参加者数	5,361	75	40	199	118	79	226	20	67	25	0	43	38	1,653	280
高齢者学習振興事業																
(例) 老壮大学 高齢者の健康講座	講座数	1	1	1	1	1	1	2	1	2	1	1	1	1	1	1
	回数	8	11	9	9	7	10	13	9	12	12	10	16	9	9	8
	参加者数	337	498	220	379	382	294	515	352	264	241	197	678	228	280	322
地域社会教育推進事業																
(例) 市民センターまつり 事業運営懇話会 防犯 防災減災関連事業	講座数	9	6	4	8	5	6	6	4	6	7	5	5	6	3	6
	回数	18	20	20	22	30	21	11	14	16	17	21	26	10	6	17
	参加者数	874	1,605	799	1,983	850	628	771	1,249	1,243	499	3,986	560	1,475	1,470	587
民間指導者育成事業																
(例) ジュニアリーダー育成支援 ボランティア養成	講座数	1	1	1	1	0	1	2	0	0	0	1	0	2	0	1
	回数	5	6	17	7	0	6	8	0	0	0	14	0	11	0	5
	参加者数	12	17	254	35	0	22	50	0	0	0	144	0	33	0	20
合計		26	11	10	13	9	11	12	9	16	11	12	11	13	12	12
		57	47	62	54	51	49	47	46	48	46	62	73	49	60	53
		9,061	2,249	1,519	2,951	1,439	1,131	1,628	1,755	2,260	883	5,045	1,681	2,128	3,713	1,313

			宮城野区											若林区						
落合	吉成	小計	生涯学習支援	宮城野区中央	高砂	岩切	鶴ケ谷	榴ケ岡	東部	幸町	田子	福室	小計	若林区中央	七郷	荒町	六郷	沖野	若林	小計
2	1	16	0	1	0	3	2	0	1	1	1	0	9	1	1	0	1	1	1	5
9	1	55	0	2	0	26	4	0	3	3	4	0	42	1	4	0	4	1	2	12
145	23	911	0	144	0	832	137	0	40	68	43	0	1,264	17	33	0	67	11	50	178
1	1	35	0	4	3	1	3	1	3	1	3	2	21	9	2	0	2	2	3	18
3	5	141	0	30	10	3	25	1	11	7	21	6	114	94	12	0	19	6	9	140
49	94	5,579	0	1,060	422	386	787	30	405	205	737	281	4,313	1,140	114	0	121	219	322	1,916
2	1	31	9	5	1	0	2	0	0	2	1	1	21	3	1	3	0	0	2	9
11	3	140	44	34	7	0	22	0	0	10	4	4	125	80	2	9	0	0	9	100
171	24	8,419	976	691	98	0	243	0	0	145	27	96	2,276	1,745	31	71	0	0	121	1,968
1	1	19	1	2	1	1	1	2	3	2	1	1	15	2	2	1	1	1	2	9
9	8	169	12	19	9	10	8	15	17	10	7	8	115	16	12	10	10	7	15	70
298	426	5,911	5,587	570	466	531	304	464	78	554	158	432	9,144	703	329	69	541	276	615	2,533
5	6	97	1	7	6	6	3	8	4	5	6	6	52	6	4	7	6	5	4	32
13	16	298	0	46	38	22	7	33	10	12	27	16	211	15	8	20	22	7	11	83
1,443	1,198	21,220	0	5,794	1,650	3,037	1,125	1,254	356	376	1,114	820	15,526	1,554	497	778	2,602	1,623	416	7,470
1	2	14	8	2	0	2	1	1	1	2	1	1	19	2	1	1	2	1	1	8
9	13	101	22	14	0	13	3	10	6	14	13	15	110	21	10	6	22	18	6	83
94	123	804	539	120	0	186	41	62	5	98	74	91	1,216	54	36	18	273	219	84	684
12	12	212	19	21	11	13	12	12	12	13	13	11	137	23	11	12	12	10	13	81
54	46	904	78	145	64	74	69	59	47	56	76	49	717	227	48	45	77	39	52	488
2,200	1,888	42,844	7,102	8,379	2,636	4,972	2,637	1,810	884	1,446	2,153	1,720	33,739	5,213	1,040	936	3,604	2,348	1,608	14,749

区名 / 館名 / 事業		太白区												
		太白区中央	生出	中田	西多賀	八本松	八木山	山田	茂庭台	東中田	柳生	富沢	秋保	小計
家庭教育推進事業														
(例) 子育て講座 食育講座 子育てサロン おはなし会	講座数	1	1	1	1	2	0	0	1	0	1	2	1	11
	回数	3	4	4	5	7	0	0	3	0	5	25	2	58
	参加者数	39	43	43	44	96	0	0	55	0	80	487	17	904
青少年健全育成事業														
(例) ジュニアリーダーと遊ぼう インリーダー研修 体験講座	講座数	5	2	3	3	1	2	1	3	1	3	2	1	27
	回数	45	6	11	15	3	3	5	23	10	7	8	5	141
	参加者数	824	112	309	577	220	191	87	198	142	147	753	128	3,688
成人学習振興事業														
(例) 健康講座 市民企画講座	講座数	2	2	0	1	0	3	0	3	1	0	1	2	15
	回数	13	4	0	2	0	15	0	9	6	0	2	7	58
	参加者数	119	56	0	30	0	195	0	86	97	0	47	99	729
高齢者学習振興事業														
(例) 老壮大学 高齢者の健康講座	講座数	2	1	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1	15
	回数	18	8	9	9	8	15	6	7	9	12	8	9	118
	参加者数	718	166	605	393	260	69	263	173	407	543	130	223	3,950
地域社会教育推進事業														
(例) 市民センターまつり 事業運営懇話会 防犯 防災減災関連事業	講座数	8	7	8	5	6	6	8	7	6	5	3	8	77
	回数	46	21	28	14	22	10	43	26	21	18	12	23	284
	参加者数	1,665	2,487	2,169	1,165	984	12,834	2,262	965	2,299	1,062	4,426	841	33,159
民間指導者育成事業														
(例) ジュニアリーダー育成支援 ボランティア養成	講座数	3	1	1	1	1	0	2	1	1	1	1	1	14
	回数	9	5	7	4	8	0	15	9	2	5	8	7	79
	参加者数	64	36	17	59	13	0	121	0	23	31	89	24	477
合計	講座数	21	14	14	12	11	13	12	16	10	12	10	14	159
	回数	134	48	59	49	48	43	69	77	48	47	63	53	738
	参加者数	3,429	2,900	3,143	2,268	1,573	13,289	2,733	1,477	2,968	1,863	5,932	1,332	42,907

泉区														
泉区中央	根白石	南光台	黒松	将監	加茂	高森	松陵	寺岡	長命ケ丘	松森	桂	南中山	小計	総計
3	1	1	0	0	1	2	1	1	1	1	1	1	14	55
3	5	1	0	0	3	6	4	3	3	3	1	2	34	201
53	115	28	0	0	34	63	64	53	70	72	70	29	651	3,908
3	2	3	2	1	1	1	1	2	1	1	2	2	22	123
20	4	20	7	6	4	2	3	6	4	1	6	10	93	629
580	223	419	106	108	61	25	19	46	80	40	171	134	2,012	17,508
3	0	2	0	0	2	1	2	2	0	4	0	0	16	92
25	0	21	0	0	8	6	6	9	0	21	0	0	96	519
134	0	252	0	0	112	53	125	48	0	194	0	0	918	14,310
1	2	1	2	1	1	1	3	1	3	3	1	0	20	78
10	14	9	12	7	13	6	21	8	18	20	9	0	147	619
283	437	578	447	356	570	274	462	356	396	471	309	0	4,939	26,477
14	6	4	7	8	5	6	6	5	7	5	6	4	83	341
549	11	9	46	43	9	22	8	19	26	22	26	11	801	1,677
1,171	1,331	823	883	1,692	521	1,246	663	1,308	684	1,016	976	207	12,521	89,896
4	1	0	1	0	1	1	1	0	1	0	1	1	12	67
34	12	0	13	0	7	4	5	0	5	0	10	3	93	466
305	70	0	68	0	15	8	53	0	29	0	37	9	594	3,775
28	12	11	12	10	11	12	14	11	13	14	11	8	167	756
641	46	60	78	56	44	46	47	45	56	67	52	26	1,264	4,111
2,526	2,176	2,100	1,504	2,156	1,313	1,669	1,386	1,811	1,259	1,793	1,563	379	21,635	155,874

4　主催事業参加者数推移

青　葉　区　　（単位：人）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	
青葉区中央	13,643	16,663	17,153	6,893	5,854	9,061	
柏木	3,154	2,768	2,458	682	843	2,249	
北山	2,397	1,814	1,685	737	1,080	1,519	
福沢	4,565	3,451	3,628	1,389	1,670	2,951	
旭ケ丘	6,137	5,417	4,297	444	1,066	1,439	
三本松	2,722	3,022	1,880	916	1,009	1,131	
片平	3,249	3,477	3,198	867	995	1,628	
水の森	2,575	2,660	2,496	371	257	1,755	令和2年11月1日～令和3年11月27日 大規模修繕工事のため休館
貝ケ森	4,494	1,809	3,630	1,329	2,327	2,260	
中山	2,096	1,982	2,180	383	311	883	
折立	3,421	3,454	3,898	1,341	2,628	5,045	
木町通	2,862	2,069	2,415	808	1,211	1,681	
広瀬	6,702	5,891	6,919	850	950	2,128	
宮城西	5,037	5,059	7,183	1,231	948	3,713	
大沢	3,759	1,349	3,133	995	1,369	1,313	平成30年7月18日～平成31年4月19日 大規模修繕工事のため休館
落合	3,886	5,603	2,638	530	820	2,200	
吉成	3,061	3,176	2,919	477	470	1,888	
計	73,760	69,664	71,710	20,243	23,808	42,844	

宮　城　野　区　　（単位：人）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	
生涯学習支援	17,390	17,028	15,250	4,986	8,017	7,102	
宮城野区中央	8,050	8,072	7,344	5,601	6,084	8,379	
高砂	12,683	9,840	7,159	1,045	1,604	2,636	
岩切	4,671	5,323	2,608	1,519	1,670	4,972	
鶴ケ谷	3,657	3,769	3,819	1,527	1,453	2,637	
榴ケ岡	2,882	2,766	2,249	529	958	1,810	
東部	3,744	3,744	2,690	426	793	884	
幸町	4,131	4,380	482	601	925	1,446	令和元年8月1日～令和2年4月17日 大規模修繕工事のため休館
田子	7,093	7,156	6,254	1,479	561	2,153	
福室	6,229	5,096	4,290	1,262	1,278	1,720	
計	70,530	67,174	52,145	18,975	23,343	33,739	

若　林　区

（単位：人）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	
若林区中央	9,734	7,252	6,681	1,612	4,295	5,213	
七　　郷	14,270	15,573	14,670	732	794	1,040	
荒　　町	6,321	6,064	6,011	837	1,039	936	
六　　郷	7,243	9,445	12,589	1,110	2,019	3,604	
沖　　野	12,002	10,289	8,706	1,599	1,763	2,348	令和3年11月1日～令和4年10月22日 大規模修繕工事のため休館
若　　林	3,486	2,988	1,086	969	1,263	1,608	令和元年7月9日～令和2年4月17日 大規模修繕工事のため休館
計	53,056	51,611	49,743	6,859	11,173	14,749	

太　白　区

（単位：人）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	
太白区中央	24,998	23,404	32,765	3,965	4,590	3,429	
生　　出	5,970	5,256	4,429	548	772	2,900	
中　　田	5,442	5,468	16,379	1,587	1,476	3,143	
西　多　賀	1,847	2,432	3,749	732	861	2,268	
八　本　松	4,990	3,187	2,768	512	907	1,573	
八　木　山	31,533	26,246	20,959	1,400	834	13,289	
山　　田	3,349	6,133	4,510	420	2,597	2,733	平成29年8月1日～平成30年4月13日 大規模修繕工事のため休館
茂　庭　台	4,747	810	2,288	508	922	1,477	平成30年7月18日～平成31年4月19日 大規模修繕工事のため休館
東　中　田	6,252	4,984	4,612	414	420	2,968	令和2年12月14日～令和4年2月19日 大規模修繕工事のため休館
柳　　生	4,728	3,449	2,517	686	1,209	1,863	
富　　沢	5,661	7,477	7,475	925	2,461	5,932	
秋　　保	2,644	2,701	2,071	447	493	1,332	
計	102,161	91,547	104,522	12,144	17,542	42,907	

泉　　区

（単位：人）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	
泉区中央	6,144	5,801	4,918	1,182	1,278	2,526	
根　白　石	2,539	2,794	3,052	773	946	2,176	平成28年8月1日～平成29年4月14日 大規模修繕工事のため休館
南　光　台	5,108	5,482	3,622	1,716	955	2,100	
黒　　松	6,226	5,238	2,927	267	746	1,504	
将　　監	5,123	4,764	4,441	391	1,038	2,156	
加　　茂	3,014	2,631	2,497	567	742	1,313	
高　　森	4,359	4,748	4,641	767	955	1,669	
松　　陵	4,654	3,732	3,650	706	1,347	1,386	
寺　　岡	3,648	2,610	2,275	682	675	1,811	
長命ケ丘	7,237	6,420	3,752	546	823	1,259	
松　　森	3,366	3,073	1,568	643	1,138	1,793	
桂	3,276	2,123	2,167	497	566	1,563	
南　中　山	2,411	2,104	1,916	405	343	379	令和3年11月1日～令和4年12月2日 大規模修繕工事のため休館
計	57,105	51,520	41,426	9,142	11,552	21,635	

（単位：人）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	
合　　計	356,612	331,516	319,546	67,363	87,418	155,874	

5　市民センター利用者数

青　葉　区　　（単位：人）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
青葉区中央	90,977	92,239	71,794	40,529	41,843	62,856
柏木	30,070	30,665	25,360	15,105	13,363	14,928
北山	33,388	30,297	26,187	11,619	11,302	16,144
福沢	46,908	48,137	41,638	22,965	25,015	33,762
旭ケ丘	85,147	81,099	71,346	36,882	27,419	39,134
三本松	24,619	24,281	23,392	14,393	15,079	15,932
片平	74,704	96,460	90,962	65,253	69,588	86,921
水の森	73,445	74,125	69,569	30,527	16,808	77,266
貝ケ森	58,832	58,272	49,116	31,842	32,441	40,453
中山	65,557	62,680	57,393	35,044	39,951	49,713
折立	47,898	50,766	49,404	28,228	28,112	30,522
木町通	82,107	93,409	92,797	62,629	72,816	63,936
広瀬	29,157	33,657	29,337	12,600	15,752	19,660
宮城西	19,283	17,790	16,075	9,670	6,447	8,065
大沢	29,493	8,107	23,704	21,002	24,733	28,536
落合	33,415	31,700	29,658	15,814	15,748	19,441
吉成	51,303	52,157	46,328	26,800	28,619	36,541
計	876,303	885,841	814,060	480,902	485,036	643,810

宮城野区　　（単位：人）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
生涯学習支援	102,367	103,223	87,652	46,133	47,872	64,675
宮城野区中央	76,606	70,328	70,617	37,009	33,684	49,368
高砂	77,273	77,067	64,054	35,623	31,838	43,510
岩切	32,730	31,387	30,166	18,359	16,273	20,683
鶴ケ谷	38,895	39,760	38,420	23,522	24,573	30,999
榴ケ岡	34,110	32,784	31,301	17,807	17,327	27,598
東部	46,171	41,012	42,459	29,502	34,821	38,083
幸町	65,887	58,019	16,420	34,952	36,899	45,085
田子	79,924	80,837	67,951	53,413	53,424	62,125
福室	100,779	100,485	99,232	68,990	68,185	64,719
計	654,742	634,902	548,272	365,310	364,896	446,845

若　林　区　　（単位：人）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
若林区中央	67,196	64,898	56,962	35,555	29,385	42,415
七郷	74,493	74,708	69,186	45,534	36,506	45,674
荒町	52,358	53,827	49,743	30,033	31,238	43,624
六郷	58,400	58,306	58,105	37,625	34,511	42,847
沖野	62,502	63,044	59,469	38,332	25,456	21,026
若林	50,413	48,681	15,057	23,682	30,122	44,804
計	365,362	363,464	308,522	210,761	187,218	240,390

太　白　区

（単位：人）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
太白区中央	85,521	80,179	72,957	37,627	28,800	43,343
生出	17,989	17,763	15,050	10,347	8,394	11,554
中田	51,061	46,706	41,644	26,748	19,333	24,931
西多賀	48,029	37,993	31,555	21,809	24,972	31,425
八本松	45,857	41,171	40,708	24,534	25,895	33,714
八木山	58,394	57,663	52,834	27,165	23,088	32,911
山田	12,569	31,937	32,873	18,359	18,745	27,695
茂庭台	55,693	16,022	37,765	24,664	26,212	35,317
東中田	64,662	59,494	53,059	27,729	4,177	54,756
柳生	92,656	95,305	67,251	59,116	54,722	60,873
富沢	61,284	60,543	45,174	22,109	23,878	33,481
秋保	11,576	12,615	11,418	8,729	10,098	11,674
馬場	1,332	4,752	5,916	2,958	4,996	5,322
湯元	5,874	5,191	5,282	2,060	3,344	4,208
計	612,497	567,334	513,486	313,954	276,654	411,204

泉　　区

（単位：人）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
泉区中央	46,115	44,554	41,016	27,536	24,428	34,399
根白石	19,979	23,930	22,339	14,744	15,908	20,165
南光台	41,213	40,695	40,777	23,662	23,427	33,696
黒松	49,203	46,651	42,635	28,332	29,608	37,931
将監	33,167	35,188	29,466	18,155	18,188	30,556
加茂	52,471	49,055	45,268	27,334	27,993	35,345
高森	35,918	33,253	31,591	22,710	17,568	12,278
松陵	27,725	28,198	24,289	17,299	16,181	22,693
寺岡	34,994	32,993	31,105	22,434	23,647	30,718
長命ケ丘	38,950	38,381	36,202	23,104	23,394	30,224
松森	30,162	30,656	27,329	15,483	16,028	23,480
桂	50,819	53,760	49,162	31,610	32,228	42,203
南中山	38,865	41,381	34,623	23,598	14,518	7,499
計	499,581	498,695	455,802	296,001	283,116	361,187

（単位：人）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
合計	3,008,485	2,950,236	2,640,142	1,666,928	1,596,920	2,103,436

◆利用者数には、不特定多数の人が来館する催事の参加者は含まない。
◆新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、次の期間は全館とも利用自粛を要請した。
　令和2年4月11日から5月31日まで、令和3年3月27日から5月11日まで

６　仙台市市民センター条例・施行規則

仙台市市民センター条例

平成二年三月一六日

仙台市条例第八号

（設置）

第一条　市民相互の交流と地域活動の振興に資するとともに、市民の文化の向上及び福祉の増進に寄与するため、社会教育法（昭和二十四年法律第二百七号）第二十四条の規定に基づき、市民センター（以下「センター」という。）を設置する。

２　センターの種類は、次のとおりとする。

一　生涯学習支援センター（本市の全域を主たる対象区域としてその事業を行うとともに、他の全てのセンターを統括するセンターをいう。）

二　区中央市民センター（その所在する区の区域内を主たる対象区域としてその事業を行うとともに、当該区域内に所在する地区市民センターを支援するセンターをいう。）

三　地区市民センター（前二号に掲げるセンター以外のセンターをいう。）

（名称及び位置）

第二条　センターの名称及び位置は、次のとおりとする。

一　生涯学習支援センター

名称	位置
仙台市生涯学習支援センター	仙台市宮城野区榴岡四丁目1番8号

二　区中央市民センター

名称	位置
仙台市青葉区中央市民センター	仙台市青葉区一番町二丁目1番4号
仙台市宮城野区中央市民センター	仙台市宮城野区五輪二丁目12番70号
仙台市若林区中央市民センター	仙台市若林区南小泉一丁目1番1号、保春院前丁3番地の1
仙台市太白区中央市民センター	仙台市太白区長町五丁目3番2号
仙台市泉区中央市民センター	仙台市泉区市名坂字東裏53番地の1

三　地区市民センター

名称	位置
仙台市柏木市民センター	仙台市青葉区柏木三丁目3番1号
仙台市北山市民センター	仙台市青葉区新坂町8番4号
仙台市福沢市民センター	仙台市青葉区福沢町9番9号
仙台市旭ケ丘市民センター	仙台市青葉区旭ケ丘三丁目25番15号
仙台市三本松市民センター	仙台市青葉区堤町三丁目23番1号
仙台市片平市民センター	仙台市青葉区米ケ袋一丁目1番35号
仙台市水の森市民センター	仙台市青葉区水の森四丁目1番1号
仙台市貝ケ森市民センター	仙台市青葉区貝ケ森一丁目4番6号
仙台市中山市民センター	仙台市青葉区中山三丁目13番1号
仙台市折立市民センター	仙台市青葉区折立三丁目20番1号
仙台市木町通市民センター	仙台市青葉区木町通一丁目7番36号
仙台市広瀬市民センター	仙台市青葉区下愛子字観音堂5番地
仙台市宮城西市民センター	仙台市青葉区熊ケ根字石積47番地
仙台市大沢市民センター	仙台市青葉区芋沢字要害65番地
仙台市落合市民センター	仙台市青葉区落合二丁目15番15号
仙台市吉成市民センター	仙台市青葉区国見ケ丘二丁目2番地の1
仙台市高砂市民センター	仙台市宮城野区高砂一丁目24番地の9
仙台市岩切市民センター	仙台市宮城野区岩切字三所南88番地の2
仙台市鶴ケ谷市民センター	仙台市宮城野区鶴ケ谷二丁目1番地の７
仙台市榴ケ岡市民センター	仙台市宮城野区五輪一丁目3番1号
仙台市東部市民センター	仙台市宮城野区平成一丁目3番27号
仙台市幸町市民センター	仙台市宮城野区幸町三丁目13番13号
仙台市田子市民センター	仙台市宮城野区田子二丁目4番25号
仙台市福室市民センター	仙台市宮城野区福室五丁目9番36号
仙台市七郷市民センター	仙台市若林区荒井三丁目7番地の2
仙台市荒町市民センター	仙台市若林区荒町86番地の2
仙台市六郷市民センター	仙台市若林区今泉一丁目3番19号
仙台市若林市民センター	仙台市若林区若林三丁目15番20号
仙台市沖野市民センター	仙台市若林区沖野七丁目34番43号
仙台市生出市民センター	仙台市太白区茂庭二丁目8番地の1
仙台市中田市民センター	仙台市太白区中田四丁目1番5号
仙台市西多賀市民センター	仙台市太白区西多賀三丁目6番8号
仙台市八本松市民センター	仙台市太白区八本松二丁目4番20号
仙台市八木山市民センター	仙台市太白区八木山本町一丁目43番地
仙台市山田市民センター	仙台市太白区山田北前町13番1号
仙台市茂庭台市民センター	仙台市太白区茂庭台四丁目1番10号
仙台市東中田市民センター	仙台市太白区四郎丸字吹上51番地
仙台市柳生市民センター	仙台市太白区柳生七丁目20番地の7
仙台市富沢市民センター	仙台市太白区富沢南一丁目18番地の10
仙台市秋保市民センター	仙台市太白区秋保町長袋字大原44番地の1
仙台市馬場市民センター	仙台市太白区秋保町馬場字竹林45番地の1
仙台市湯元市民センター	仙台市太白区秋保町湯向2番地の20
仙台市根白石市民センター	仙台市泉区根白石字杉下前24番地
仙台市南光台市民センター	仙台市泉区南光台七丁目1番30号
仙台市黒松市民センター	仙台市泉区黒松一丁目33番40号
仙台市将監市民センター	仙台市泉区将監八丁目1番18号
仙台市加茂市民センター	仙台市泉区加茂四丁目2番地
仙台市高森市民センター	仙台市泉区高森六丁目1番地の2
仙台市松陵市民センター	仙台市泉区松陵五丁目20番地の2
仙台市寺岡市民センター	仙台市泉区寺岡二丁目14番地の4
仙台市長命ケ丘市民センター	仙台市泉区長命ケ丘二丁目14番地の15
仙台市松森市民センター	仙台市泉区松森字城前9番地の2
仙台市桂市民センター	仙台市泉区桂三丁目19番地の1
仙台市南中山市民センター	仙台市泉区南中山二丁目24番地の12

（使用の許可）

第三条　センターを使用しようとする者は、あらかじめ教育委員会の許可を受けなければならない。

２　教育委員会は、次の各号のいずれかに該当するときは、前項の許可をしないことができる。

一　公の秩序を乱すおそれがあるとき

二　センターの管理上支障を及ぼすおそれがあるとき

三　前二号に掲げるもののほか、教育委員会が不適当と認めるとき

（使用料）

第四条　センターの使用料は、別表に定めるとおりとする。

２　使用料は、前条第一項の許可の際、納入しなければならない。ただし、市長が必要と認めるときは、使用料を別に定める納期限までに納入させることができる。

（使用料の額の特例）

第四条の二　市長は、前条第二項ただし書の規定により使用料を別に定める納期限までに納入させる場合において、当該納期限の日以前に、第三条第一項の許可を受けた者（以下「使用者」という。）につき次の各号のいずれかに該当すると認めるとき（使用料が既納の場合を除く。）は、前条第一項の規定にかかわらず、同項に規定する使用料の額の範囲内で使用料の額を定めることができる。

一　天災その他自己の責めによらない事由によりセンターを使用できないとき

二　市長が別に定める期間内にセンターの使用の取りやめを申し出たとき

（使用料の返還）

第五条　既納の使用料は、返還しない。ただし、使用者につき前条各号のいずれかに該当すると市長が認めるときは、その全部又は一部を返還することができる。

（使用料の減免）

第六条　市長は、特別の事由があると認めるときは、使用料を減免することができる。

（目的外使用の禁止）

第七条　使用者は、許可を受けた目的以外にセンターを使用してはならない。

（使用権の譲渡等の禁止）

第八条　使用者は、使用の権利を譲渡し、又は転貸してはならない。

（使用許可の取消し等）

第九条　教育委員会は、次の各号のいずれかに該当するときは、第三条第一項の許可を取り消し、又はセンターの使用を制限し、若しくは停止することができる。

一　使用者がこの条例又は使用の許可の際に付された条件に違反したとき

二　第三条第二項各号のいずれかに該当することとなったとき

（指定管理者）

第十条　教育委員会は、センターの管理運営上必要と認めるときは、地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）第二百四十四条の二第三項に規定する指定管理者（以下「指定管理者」という。）にセンターの管理を行わせることができる。

（指定管理者が行う業務の範囲）

第十一条　前条の規定により指定管理者にセンターの管理を行わせる場合に当該指定管理者が行う業務は、次に掲げる業務とする。

一　第三条第一項の許可に関する業務

二　センターの事業として教育委員会がセンターごとに定める事業に関する業務

三　センターの維持管理に関する業務

四　前三号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める業務

２　前項の場合における第三条及び第九条の規定の適用については、これらの規定中「教育委員会」とあるのは、「指定管理者」とする。

（指定管理者が行う管理の基準）

第十二条　指定管理者は、この条例及びこの条例に基づく規則

の定めるところに従い、適正にセンターの管理を行わなければならない。

（審議会）

第十三条　社会教育法第二十九条第一項の規定に基づき、本市が設置する全ての市民センターに共通の公民館運営審議会として、仙台市公民館運営審議会（以下「審議会」という。）を設置する。

2　審議会の委員の委嘱の基準は、社会教育委員及び公民館運営審議会の委員の委嘱の基準を条例で定めるに当たって参酌すべき基準を定める省令（平成二十三年文部科学省令第四十二号）第二条に規定する基準とする。

3　審議会の委員の定数は、十七人以内とする。

4　審議会の委員の任期は、二年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5　前三項に定めるもののほか、審議会に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

（委任）

第十四条　この条例の施行に関し必要な事項は、市長又は教育委員会が定める。

附則省略

別表（第四条関係）

一　専用使用する場合

使用区分		金額	
仙台市生涯学習支援センター	会議室	一時間につき	620円
	第1セミナー室(A)	一時間につき	620円
	第1セミナー室(B)	一時間につき	620円
	第1セミナー室(C)	一時間につき	620円
	第2セミナー室	一時間につき	930円
	ミーティング室	一時間につき	390円
	和室	一時間につき	790円
	第1音楽室	一時間につき	1,000円
	第2音楽室	一時間につき	1,000円
	創作室(1)	一時間につき	790円
	創作室(2)	一時間につき	790円
	トレーニング室	一時間につき	790円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市青葉区中央市民センター	第1会議室	一時間につき	790円
	第2会議室	一時間につき	790円
	第3会議室	一時間につき	620円
	第4会議室	一時間につき	790円
	第5会議室	一時間につき	620円
	和室	一時間につき	790円
	調理実習室	一時間につき	930円
	音楽室	一時間につき	930円
	小ホール(1)	一時間につき	930円
	小ホール(2)	一時間につき	790円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市宮城野区中央市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	620円
	第3会議室	一時間につき	930円
	第4会議室	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	音楽室	一時間につき	930円
	創作室	一時間につき	930円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

仙台市若林区中央市民センター	第1会議室	一時間につき	620円
	第2会議室	一時間につき	620円
	第3会議室	一時間につき	930円
	第4会議室	一時間につき	390円
	セミナー室(A)	一時間につき	620円
	セミナー室(B)	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	390円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	390円
	和室(4)	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	930円
	創作室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市太白区中央市民センター	大会議室	一時間につき	930円
	中会議室	一時間につき	790円
	第1小会議室	一時間につき	620円
	第2小会議室	一時間につき	620円
	第3小会議室	一時間につき	620円
	和室（大）	一時間につき	930円
	和室（小）	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	音楽室	一時間につき	930円
	創作室	一時間につき	790円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市泉区中央市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	390円
	第3会議室	一時間につき	390円
	研修室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	790円
	和室(2)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	音楽室	一時間につき	730円
	創作室	一時間につき	790円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市柏木市民センター	会議室	一時間につき	930円
	和室(1)	一時間につき	390円
	和室(2)	一時間につき	390円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

仙台市北山市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	390円
	第3会議室	一時間につき	930円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	620円
	和室(4)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	730円
	トレーニング室	一時間につき	730円
仙台市福沢市民センター	第1会議室	一時間につき	620円
	第2会議室	一時間につき	930円
	第3会議室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	390円
	視聴覚室	一時間につき	730円
	調理実習室	一時間につき	730円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市旭ケ丘市民センター	第1会議室	一時間につき	1000円
	第2会議室	一時間につき	790円
	第3会議室	一時間につき	790円
	展示ホール(1)	一時間につき	930円
	展示ホール(2)	一時間につき	730円
	小ホール	一時間につき	790円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市三本松市民センター	会議室	一時間につき	620円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	930円
	和室(1)	一時間につき	620円
	和室(2)	一時間につき	620円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市片平市民センター	第1会議室	一時間につき	790円
	第2会議室	一時間につき	620円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	790円
	和室(2)	一時間につき	620円
	和室(3)	一時間につき	620円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市水の森市民センター	会議室	一時間につき	790円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	790円
	和室(2)	一時間につき	620円
	和室(3)	一時間につき	620円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

仙台市貝ケ森市民センター	会議室	一時間につき	930円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市中山市民センター	会議室	一時間につき	790円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市折立市民センター	会議室	一時間につき	930円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	390円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市木町通市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	390円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	1000円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市広瀬市民センター	会議室	一時間につき	620円
	セミナー室(A)	一時間につき	620円
	セミナー室(B)	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	620円
	和室(2)	一時間につき	390円
	創作室	一時間につき	620円
仙台市宮城西市民センター	第1会議室	一時間につき	620円
	第2会議室	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	620円
	和室(2)	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	730円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市大沢市民センター	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	790円
	和室(2)	一時間につき	390円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

仙台市落合市民センター	会議室兼調理実習室	一時間につき	930円
	和室(1)	一時間につき	620円
	和室(2)	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市宮成市民センター	会議室	一時間につき	930円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	620円
	和室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市高砂市民センター	第1会議室	一時間につき	620円
	第2会議室	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	790円
	和室(2)	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	930円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市荷物市民センター	講義室	一時間につき	390円
	第1研修室	一時間につき	790円
	第2研修室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	620円
	和室(2)	一時間につき	620円
	視聴覚室	一時間につき	730円
	調理実習室	一時間につき	930円
	創作室	一時間につき	390円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市鶴ケ谷市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	620円
	第3会議室	一時間につき	620円
	和室	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市燧ケ岡市民センター	ミーティングルーム(1)	一時間につき	930円
	ミーティングルーム(2)	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	390円
	和室(2)	一時間につき	390円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

仙台市東部市民センター	会議室	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	390円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	790円
	調理実習室	一時間につき	730円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市幸町市民センター	会議室	一時間につき	790円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市田子市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	390円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	1000円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市福室市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市七郷市民センター	会議室	一時間につき	390円
	第1研修室	一時間につき	790円
	第2研修室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	390円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	390円
	視聴覚室	一時間につき	930円
	調理実習室	一時間につき	930円
	創作室	一時間につき	620円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市荒町市民センター	第1会議室	一時間につき	390円
	第2会議室	一時間につき	390円
	第3会議室	一時間につき	930円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	730円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

仙台市六郷市民センター	第1会議室	一時間につき	620円
	第2会議室	一時間につき	390円
	第3会議室	一時間につき	390円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	730円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市若林市民センター	会議室	一時間につき	930円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市沖野市民センター	会議室	一時間につき	790円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	390円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市生出市民センター	第1講義室	一時間につき	620円
	第2講義室	一時間につき	390円
	和室	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	730円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市中里市民センター	講義室	一時間につき	620円
	第1研修室	一時間につき	790円
	第2研修室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	620円
	和室(2)	一時間につき	620円
	視聴覚室	一時間につき	730円
	調理実習室	一時間につき	930円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市西多賀市民センター	第1会議室	一時間につき	390円
	第2会議室	一時間につき	390円
	第3会議室	一時間につき	790円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室	一時間につき	390円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

仙台市八本松市民センター	会議室	一時間につき	390円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	930円
	和室(1)	一時間につき	620円
	和室(2)	一時間につき	930円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市八木山市民センター	会議室	一時間につき	620円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	930円
	第1研修室	一時間につき	620円
	第2研修室	一時間につき	790円
	第3研修室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市山田市民センター	会議室	一時間につき	620円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市茂庭台市民センター	会議室	一時間につき	620円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市東中田市民センター	会議室	一時間につき	930円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	620円
	和室(2)	一時間につき	930円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市柳生市民センター	会議室	一時間につき	930円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	390円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

仙台市富沢市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市秋保市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	620円
	研修室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	620円
	和室(2)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市鹿場市民センター	会議室	一時間につき	790円
	調理実習室	一時間につき	480円
	体育館	午前	2000円
		午後	2400円
		夜間	2,500円
仙台市湯元市民センター	会議室	一時間につき	390円
	講義室	一時間につき	390円
	和室	一時間につき	620円
	視聴覚室	一時間につき	480円
	調理実習室	一時間につき	480円
	集会室	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市根白石市民センター	大会議室	一時間につき	930円
	小会議室	一時間につき	620円
	和室	一時間につき	790円
	調理実習室	一時間につき	930円
	工作室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市南光台市民センター	第1会議室	一時間につき	620円
	第2会議室	一時間につき	620円
	第3会議室	一時間につき	620円
	第4会議室	一時間につき	930円
	和室	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	930円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

仙台市黒松市民センター	第1研修室	一時間につき	620円
	第2研修室	一時間につき	790円
	和室	一時間につき	790円
	多目的室	一時間につき	790円
	調理実習室	一時間につき	730円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市将監市民センター	第1研修室	一時間につき	620円
	第2研修室	一時間につき	790円
	第3研修室	一時間につき	790円
	和室	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	930円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市加茂市民センター	会議室	一時間につき	390円
	第1研修室	一時間につき	930円
	第2研修室	一時間につき	620円
	和室	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市高森市民センター	第1研修室	一時間につき	930円
	第2研修室	一時間につき	620円
	第3研修室	一時間につき	620円
	和室	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	音楽室	一時間につき	730円
	工作室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市松陵市民センター	第1研修室	一時間につき	790円
	第2研修室	一時間につき	620円
	第3研修室	一時間につき	620円
	和室	一時間につき	790円
	調理実習室	一時間につき	730円
	工作室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市寺岡市民センター	第1研修室	一時間につき	620円
	第2研修室	一時間につき	620円
	第3研修室	一時間につき	620円
	和室	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	730円
	トレーニング室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市長命ケ丘市民センター	会議室	一時間につき	930円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	620円
	和室(2)	一時間につき	930円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市松森市民センター	会議室	一時間につき	930円
	和室（大）	一時間につき	930円
	和室（小）	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	工作室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市桂市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	390円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	創作室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市南中山市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	620円
	研修室	一時間につき	930円
	和室(1)	一時間につき	390円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	730円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

備考

一　使用時間は、午前九時から午後九時までとする。

二　「午前」とは午前九時から正午までを、「午後」とは午後一時から午後四時三十分までを、「夜間」とは午後五時三十分から午後九時までをいう。

三　その使用に係る時間に一時間に満たない端数があるときは、これを一時間に切り上げる。

四　一時間ごとの使用料を定めた使用区分において、第一号の使用時間以外の時間に使用する場合における使用料は、この表

に定める額とする。

五　前号の使用区分以外の使用区分において、次のイからハまでに掲げる使用時間に係る使用料は、それぞれイからハまでに掲げる額とする。

イ　午前九時から午後四時三十分まで　午前の項及び午後の項に定める額の合計額

ロ　午後一時から午後九時まで　午後の項及び夜間の項に定める額の合計額

ハ　午前九時から午後九時まで　午前の項、午後の項及び夜間の項に定める額の合計額

六　前号の使用区分において、第一号に定める使用時間以外の時間に使用する場合（前号の場合を除く。）における使用料は、午後の項に定める額を時間割りして計算した額（十円未満の端数が生じたときは、これを十円に切り上げる。）とする。

七　使用者が対価の支払を受けて展示会その他の催しを行う場合その他これに類する場合の使用料は、この表に定める額の三倍以内において市長が定める。

八　会議室兼調理実習室を会議のために区分して使用する場合の使用料は、この表に定める額に〇・七を乗じて得た額（十円未満の端数が生じたときは、これを十円に切り上げる。）とする。

二　個人使用する場合

使用区分		金額	
体育館・ホール・仙台市生涯学習支援センター及び仙台市北山市民センターのトレーニング室	一般	一回につき	240円
	小学生・中学生	一回につき	120円
仙台市寺岡市民センターのトレーニング室		一回につき	240円

仙台市市民センター条例施行規則

平成二年三月二九日

仙台市教育委員会規則第五号

（趣旨）

第一条　この規則は、仙台市市民センター条例（平成二年仙台市条例第八号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

（使用時間）

第二条　市民センター（以下「センター」という。）の施設の使用時間は、午前九時から午後九時までとする。

２　前項の規定にかかわらず、教育委員会が必要と認めるときは、同項に規定するセンターの施設の使用時間を変更することができる。

（休館日）

第三条　センターの休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要と認めるときは、これを変更し、又は休館することができる。

一　月曜日（国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第百七十八号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たる日を除く。）

二　休日の翌日（土曜日、日曜日又は休日に当たる日を除く。）

三　十二月二十八日から翌年の一月四日までの日（前二号に掲げる日を除く。）

（使用許可の手続）

第四条　条例第三条第一項の許可（以下「使用許可」という。）を受けようとする者は、使用申込書及び教育委員会が必要と認める書類（次項において「使用申込書等」という。）を教育委員会に提出しなければならない。

２　前項の規定による使用申込書等の提出は、次に定めるところにより行わなければならない。ただし、教育委員会が特に必要と認める場合は、この限りでない。

一　センターの施設を専用使用しようとする場合には、使用しようとする日（以下「使用日」という。）の属する月の二月前の月の十日から使用日までの期間内に行うこと

二　センターの施設を個人使用しようとする場合には、使用日に行うこと

３　教育委員会は、使用許可をしたときは、使用承認書を交付するものとする。

４　センターの施設の使用許可に係る手続（センターの施設を個人使用しようとする場合及び次条第二項に規定する場合の使用許可に係る手続を除く。）については、前三項の規定にかかわらず、市民利用施設予約システム（仙台市民利用施設予約システムの運用及び利用者登録等に関する規則（平成十五年仙台市規則第八十七号）第二条第二号に規定するものをいう。）を利用する方法により行うことができる。

第四条の二　条例第三条第二項第三号に規定する教育委員会が不適当と認めるときは、次の各号に掲げる場合とする。

一　センターの施設において物品又は権利の販売又は宣伝（次項において「物品販売等」という。）を行おうとする場合

二　その他センターの設置目的に照らして教育委員会が不適当と認める場合

２　教育委員会は、前項第一号の規定にかかわらず、センターの設置目的に照らして適当と認める場合は、センターの施設において物品販売等を行おうとする者に対し、使用許可をすることができる。この場合において、物品販売等を行おうとする者は、教育委員会が必要と認める書類を教育委員会に提出しなければならない。

（市長が必要と認めるときの使用料の納期限）

第五条　条例第四条第二項ただし書に規定する市長が必要と認めるときは、次の各号に掲げる場合とし、同項ただし書に規定する別に定める納期限は、当該各号に掲げる場合の区分に応じ、それぞれ当該各号に定める日とする。

一　使用料を口座振替の方法により納入する場合　使用許可を受けた日の属する月の翌月末日

二　区長が特別な事由があると認める場合　区長が定める日

（市長が必要と認めるときの使用料の額の特例）

第六条　使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）が条例第四条の二第一号に該当する場合において、同条の規定により市長が定める使用料の額は、零とする。

2　条例第四条の二第二号に規定する市長が別に定める期間は、次の各号に掲げる期間とし、同条の規定により市長が定める使用料の額は、前項の規定にかかわらず、次の各号に掲げる期間の区分に応じ、それぞれ当該各号に定める額とする。

一　使用許可を受けた日から使用日の七日前の日までの期間　零

二　使用日の七日前の日の翌日から使用日までの期間　条例第四条第一項の規定による使用料（条例第六条の規定により使用料を減免した場合にあっては、当該減免後の使用料）の額

3　使用者が前条の納期限までに使用料を納入せず、かつ、センターの施設を使用する意思があると認められないときは、当該納期限の日において使用の取りやめの申出がなされたものとみなし、前項の規定を準用する。

（使用料の返還）

第七条　使用者が条例第四条の二第一号に該当すると区長が認める場合において、条例第五条ただし書の規定により既納の使用料を返還する場合の返還額は、既納の使用料の全額とする。

2　使用者が条例第四条の二第二号に該当すると区長が認める場合において、条例第五条ただし書の規定により既納の使用料を返還する場合の返還額は、前条第二項第一号に掲げる期間においては、既納の使用料の全額とする。

3　使用料の返還を受けようとする者は、還付請求書を区長に提出しなければならない。ただし、区長が特別の事由があると認めるときは、この限りでない。

（指定管理者に管理を行わせる場合における規定の適用）

第八条　条例第十条の規定により指定管理者（地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）第二百四十四条の二第三項に規定する指定管理者をいう。以下同じ。）にセンターの管理を行わせる場合における第四条の規定の適用については、同条中「教育委員会」とあるのは、「指定管理者」とする。

（審議会）

第九条　仙台市公民館運営審議会（以下「審議会」という。）は、次に掲げる事務を所掌する。

一　生涯学習支援センター長から諮問のあったことについて、審議すること

二　センターにおける各種の事業について、調査研究すること

三　センターにおける各種の事業について、評価すること

四　その他審議会が必要と認める事項について、審議等を行うこと

2　審議会に会長及び副会長一人を置く。

3　会長及び副会長は、それぞれ委員が互選する。

4　会長は、審議会を代表し、会務を総理する。

5　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代行する。

第十条　会長は、審議会の会議を招集し、その議長となる。

2　審議会の会議は、二月ごとに一回開くものとする。ただし、会長が必要と認めたときは、臨時に開くことができる。

3　審議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

4　審議会の会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第十一条　審議会の庶務は、生涯学習支援センターにおいて処理する。

第十二条　前三条に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

（実施細目）

第十三条　この規則の実施細目は、教育長が定める。

附則省略

令和４年度
仙台市市民センター事業概要

令和５年９月　発行

編集・発行　仙台市教育局生涯学習支援センター
〒983-0852
仙台市宮城野区榴岡四丁目１番８号
（パルシティ仙台ビル内）
電話　022（292）4875
FAX　022（295）0810